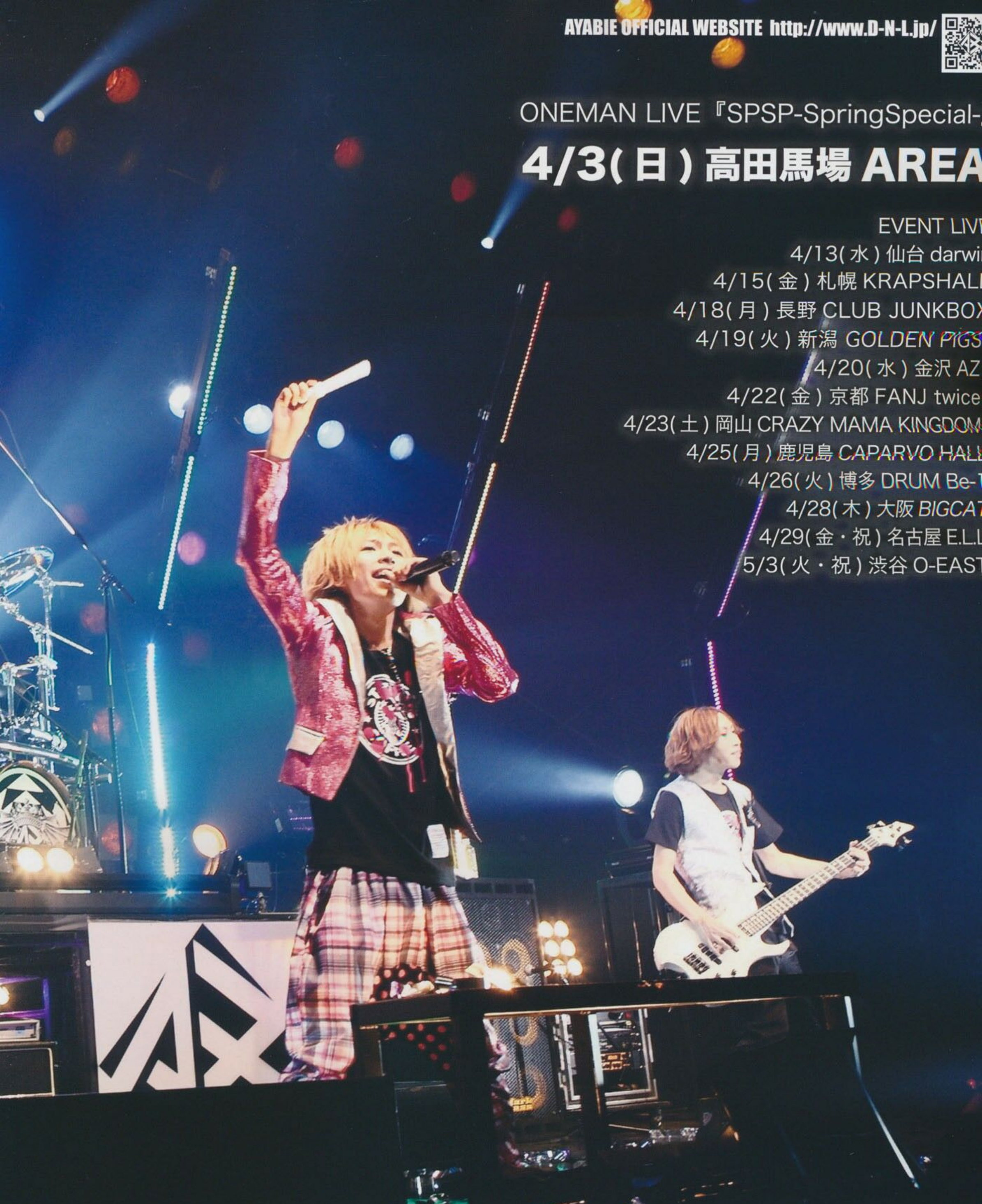
astic Tree the GazettE YOMI&Ni~ya (ナイトメア) ムック LM.C 武瑠 (SuG) 怜我 (ViViD)
平成9年12月5日第三郵便物認可平成23年5月1日発行第219号（毎月1回1日発行）
SHOXX
5月号 Vol.219
2011 月刊 1200YEN
2大特典
#001 特別付録：6パターン特大ポスター
Plastic Tree（2種）
YOMI＆Ni~ya（ナイトメア）
LM.C／武瑠(SuG)／怜我(ViViD)
#002 応募者全員サービス
ご希望のフォトカードをサービス!!
the GazettE
10 Pages
Plastic Tree
Special Front 12 Pages Edition
OMI & Ni~ya (ナイトメア)
ック
M.C
瑠 (SuG)
我 (ViViD)
agrra,
ra
adie
ersailles
PENICILLIN
BREAKERZ



AYABIE OFFICIAL WEBSITE http://www.D-N-L.jp/

ONEMAN LIVE『SPSP-SpringSpecial-

4/3(日)高田馬場 AREA

EVENT LIVE

4/13(水)仙台 darwi
4/15(金)札幌 KRAPSHAL
4/18(月)長野 CLUB JUNKBOX
4/19(火)新潟 GOLDEN PIGS
4/20(水)金沢 AZ
4/22(金)京都 FANJ twice
4/23(土)岡山 CRAZY MAMA KINGDOM
4/25(月)鹿児島 CAPARVO HAL
4/26(火)博多 DRUM Be-
4/28(木)大阪 BIGCAT
4/29(金・祝)名古屋 E.L.L
5/3(火・祝)渋谷 O-EAST

盤
7 ¥1,260(税込)

■限定盤Type-A
HMCH-1028 ¥1,890(税込)

■限定盤Type-B
HMCH-1029 ¥1,890(税込)

四つの季節が歩き出す…AYABIE待望のニューシングル好評発売中！

『Melody』

Type-A：Melody オリジナル PV＋
PV メイキング Type-A 収録
Type-B：Melody 映画「縁 -enishi-」ヴァージョン PV＋
PV メイキング Type-B 収録

2011年 GW公開 AYABIE出演映画「縁-enishi-」テーマ曲

「縁 -enishi-」

谷山紀章 / 浪川大輔 / 宮地真緒　他と共演。AYABIE全員が出演！
http://www.dmm.com/enishi/

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Mix Speakers,Inc.

Mix Land 2011 Summer Tour
[XI Attractions]

7月 2日（土）HEAVEN'S ROCKさいたま新都心
OPEN/START 17:00/17:30 DISK GARAGE 03-5436-9600

7月10日（日）横浜BAYSIS
OPEN/START 17:00/17:30 DISK GARAGE03-5436-9600

7月15日（金）金沢van van V4
OPEN/START 18:30/19:00 キョードー北陸チケットセンター 025-245-5100

7月16日（土）滋賀ユーストン
OPEN/START 17:00/17:30 キョードーインフォメーション 06-7732-8888

7月18日（月,祝）博多Be-1
OPEN/START 17:00/17:30 キョードー西日本 092-714-0159

7月19日（火）姫路Beta
OPEN/START 18:30/19:00 DISK GARAGE 03-5436-9600

7月23日（土）盛岡 CLUB CHANGE WAVE
OPEN/START 17:00/17:30 キョードー東北 022-217-7788

7月24日（日）仙台darwin
OPEN/START 17:00/17:30 キョードー東北 022-217-7788

7月30日（土）名古屋ELL
OPEN/START 17:00/17:30 サンデーフォークプロモーション 052-320-9100

7月31日（日）大阪MUSE
OPEN/START 17:00/17:30 キョードーインフォメーション 06-7732-8888

8月 7日（日）LIQUIDROOM
OPEN/START 17:15/18:00 DISK GARAGE 03-5436-9600

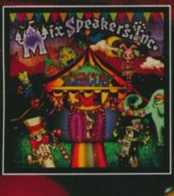
一般発売日 2011年 5月22日（日）
チケット料金　前売　¥3,800-（消費税込/ドリンク代別）

一年半振りとなる待望のNEW ALBUM発売決定 !!!

2011.06.22（水）Drop Out

「It's a Dream World」

SINGLE【HAPPyyy!!LAND,シンデレラ,Midnight Queen,CIRCUS】を含む全14曲入り
★限定盤（CD+DVD）HMCH-1037 ¥4,200(tax in) ★通常盤（CD）HMCH-1036 ¥3,360(tax in)　発売元: 株式会社ハピネット　販売元: 株式会社ハピネット



「CIRCUS」

HMCH-1030 / ¥1,260(tax in) / 2tracks
1.CIRCUS　2.MY CIRCUS
now on sale

Happinet　（株）Mix Speaker's,Inc.　〒154-0001　東京都世田谷区池尻 3-19-24ヴィラ池尻 201

蝴蝶网
hudie.com
Mix Speaker's, Inc.
Mix Speaker's,Inc. HP http://www.mixspeakersinc.com/

少女-ロリヰタ-23区
lolita 23q
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

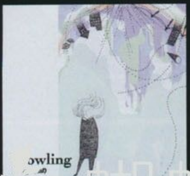
蝴蝶网
hudie.com

シングル2ヶ月連続リリース！

第1弾!!

Howling

NOW ON SALE



【収録曲】
01.Howling
02.コケイン
03.DECOY

HVP-016 ¥1,575 (tax in)

第2弾!!

monopolize

2011.4.20 RELEASE

【収録曲】01.monopolize 02.倒錯の傘 03.DECOY#2
HVP-017 ¥1,575 (tax in)

発売元：HEAVEL PLOT　販売元：FWD Inc.

ワンマンライブ

鼓膜 ジ・エンド

5/6(金) 渋谷WWW

OPEN 18:00 / START 18:30　ADV ¥3,500 / DAY ¥4,000 (tax in/D別)

3/26(土)から下記プレイガイドにて一般発売開始
- チケットぴあ　0570-02-9999 (Pコード:133-691)
- ローソンチケット　0570-084-003 (Lコード:75867)
- イープラス　http://eplus.jp
- FLIPSIDE ONLINE TICKET　http://flipside.co.jp

(問)FLIP SIDE 03-3466-1100

【boogieman ONLINE】

boogieman の最新情報を無料で配信中 !!
有料会員登録後は、アーティストメッセージ・ファンメール・スタッフメッセージや、ここでしか手に入れることの出来ない、待受・Flash・着メロ等の様々なダウンロードコンテンツをお楽しみいただけます。
着うた®/着うたフル®/メロディコール・待ちうたも好評配信中！

HEAVEL PLOT
OFFICIAL WEB SITE
http://www.boogieman.jp

蝴蝶网

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

V-Love★Live

2011.6.18.sat

新木場 STUDIO COAST

http://v-love.info/

CONTENTS

蝴蝶网
hudie.com

082 **HERO**
ヒーロー

084 **DOG inThe パラレルワールドオーケストラ**
ドッグ・インザパラレルワールドオーケストラ

086 **ν[NEU]**
ニュー

088 **TOON-FACTORY**
トゥーンファクトリー

100 **DuelJewel**
デュエルジュエル

102 **PENICILLIN**
ペニシリン

104 **BugLug**
バグラグ

108 **Dolly**
ドリィー

110 **BREAKERZ**
ブレイカーズ

112 **R指定**
アールシテイ

114 **ADAPTER。**
アダプター

152 **Sadie**
サディ

156 **SCREW**
スクリュー

118 **SHOCK WAVE アポロ**

122 **SHOXX MODE**
厳選してお届けする最新情報!!
xTRiPx
トリップ
東京ミカエル。
トウキョウミカエル。
Dali
ダリ
Administrator
アドミニストレーター
FEST VAINQUEUR
フェスト・ヴァンクール

129 **EXPECT RUSH** 連載
V-last.
ブラスト
yuina
ユイナ
レクレンズ
Ru:natic
ルナティック
NEOPHILIA
ネオフィリア

135 **ARTIST'S BOX**

140 **一筆入魂!!ザ・ミッション**

142 **プレコン WORLD**

144 **大島暁美のロックンロール日記**

145 **編集後記 & 次号予告**

027 **応募者全員プレゼント**

>> マークの説明 <<

●マークがついているアーティストは
携帯サイト「音楽せんか?」とリンクしています。

■アクセス方法
>>i-mode「メニューリスト」→「音楽/映画/芸能」→「音楽情報」→「音楽せんか?」
>>EZweb「トップメニュー」→「カテゴリーで探す」→「エンターテイメント」→「音楽」→「音楽せんか?」
>>vodafone「メニューリスト」→「芸能・映画・音楽」→「映画・音楽」→「音楽」→「音楽せんか?」

Editorial in chief／Yoshio Suzuki
Editors／Misako Shida, Junko Arasawa,
Atsushi Takami
Art Director／Asaka Yamamoto(glitter glow)
Design Stuff／Yoichirou Fujii,
Maki Yoshikawa, Hitomi Ikeuchi(Bakery37.1),
Nakane(amulet label),
Yukako Takayama, Noriaki Ishimatsu,
Youki Maenohama,
T.O.MAMMOTH graphics,
Kyoko Yasunaga(zoisite)

VISUAL & HARD SHOCK MAGAZINE
Vol.220は2011年4月21日(木)発売
http://www.ongakusenkasha.co.jp
発行所／株式会社音楽専科社
104-8228 東京都中央区銀座6-2-3Daiwa銀座アネックス5F
TEL／03-3574-0201(代表)
発行人／荒井 敏行
編集人／鈴木佳男
製版・印刷／株式会社プロスト/凸版印刷株式会社
発行日／2011年5月1日
特別定価／1,200円 本体1,143円

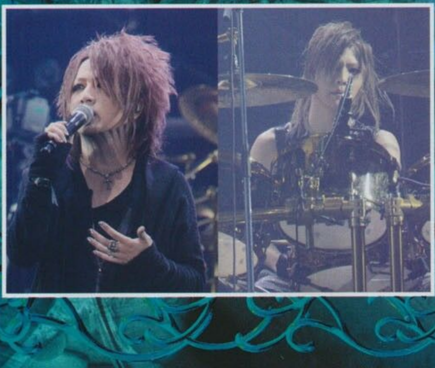
SHOXX

2011
5月号
May Vol.219
Cover Model : Plastic Tree
Photo : Susumu Miyawaki(PROGRESS-M)
Design : AsakaYamamoto(glitter glow)

014 **Plastic Tree**
プラスティックトゥリー
Part 1：色とりどりのフォト・セッション
Part 2：最新アルバム『アンモナイト』ロング・インタビュー

030 **the GazettE**
ガゼット
ツアー初日のRUKIと戒をキャッチ！最新インタビュー

040 **YOMI & Ni～ya(ナイトメア)**
ヨミ&ニーヤ
遠いようで、一番近い(!?)二人の関係性



046 **LM.C**
エルエムシー
"宇宙"からの脱出!?『SDG』インタビュ

147 **ムック**

050 **武瑠(SuG)**
タケル(サグ)
本誌初パーソナル～ココガ,僕ノ居場

056 **怜我(ViViD)**
リョウガ(ヴィヴィット)
パーソナル企画スタート!!「もしも
アーティストになっていなかったら

061 **Kagrra,**
カグラ
桜舞い散る中で…5人の言葉と共に辿る3月3

064 **葵**
アオイ

066 **Kra**
ケラ

068 **ドレミ團**
ドレミダン

070 **Dacco**
ダッコ

072 **Versailles**
ヴェルサイユ

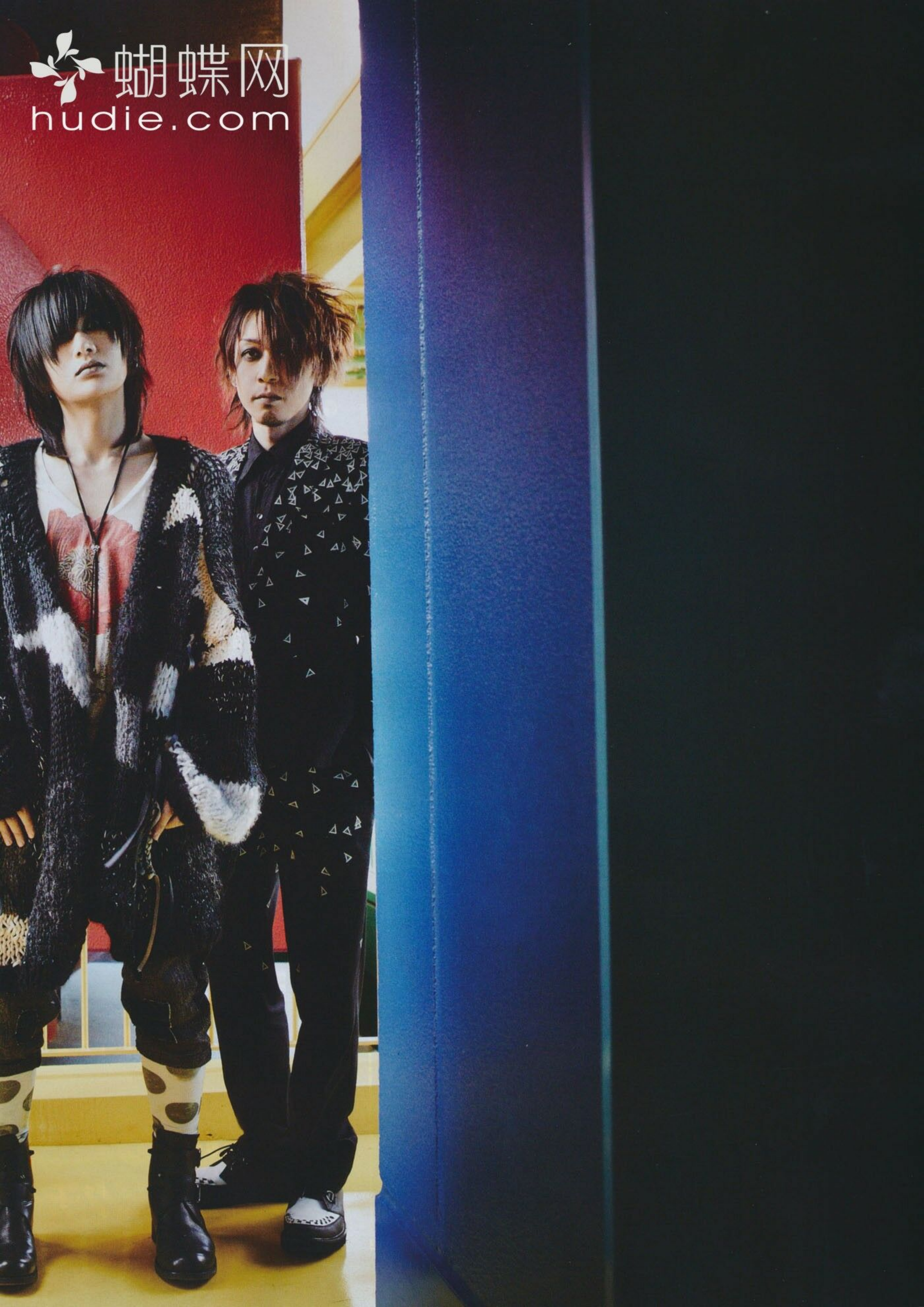
074 **D**
ディー

076 **NoGoD**
ノーゴッド

078 **ケミカルピクチャー**

080 **凛**
リン

hurdie.com


蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Plastic Tree

色とりどりのココロ、
とじ込めた『アンモナイト』

Photography: SUSUMU MIYAWAKI (PROGRESS-M)
Art Direction & Design: ASAKA YAMAMOTO (glitter glow)
Hair & Make-up: KAOLU ASANUMA (Deep-End Co.,Ltd.)
Styling: MASATO HISHINUMA (Deep-End Co.,Ltd.)
Interview: YUKI SUGIE
Location thanks: 三鷹天命反転住宅 In Memory of Helen Keller

蝴蝶网
hudie.com

Tadashi Hasegawa

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Plastic Tree

色とりどりのココロ、
とじ込めた『アンモナイト』

ぐるぐると思念うず巻く中で――

もの思う夜、アンモナイトは深い水底で幾つもの美しい夢をみる。竜太朗が待望の完全復帰を果たし、既に春のライヴハウス・ツアー［アンモナイト（小）］をスタートさせているPlastic Treeが、来る4月6日には11thアルバム『アンモナイト』を発表することになった。ついに4人全員が作詞・作曲を手掛けるまでになった今作において、彼ら深き思念の塊を生み出したのである。

蝴蝶网
hudie.com

―さすがです。やはり、Plastic Treeは今回も我々の期待を裏切りませんでした。11thアルバム『アンモナイト』は、様々な新しい要素を含みながらも、このバンドの持つ真髄の部分も感じさせてくれている仕上がりです。

長谷川正：たぶん、このアルバムは聴いていくといろんな想いや、いろんな世界に出会えるんじゃないかと思いますよ。

―それではまず、1曲目の「Thirteenth Friday」についてのお話から伺っていきましょう。こちらは今思うと、昨夏の武道館公演［テント②］で、オープニングSEとして流されていた曲ですよね。

有村竜太朗：ですね。ただ、この曲は元々あの武道館のためだけに作ったっていうだけじゃなくて、次に出すアルバムに入れる曲のひとつとして作りました。

―サウンド的には、いわゆるシューゲイザー的な匂いが濃厚な楽曲でもありますけれど、音を重ねていく際に重視していたのはどんなことだったでしょう。

ナカヤマアキラ：そうねぇ、〝そっちの方向で行きましょう〟っていう認識は一応ありましたよ。基本的に、歌を主軸としてるJ-POPとは全く違う発想で作ってる音だし、この曲の中に流れてる時間そのものを楽しむとか、この何とも言えない浮遊感のある雰囲気を楽しむとか、そういうのを良しとする回路で作ってたわけです。このユルユルとしたループ感が妙に気持ち良いんだよ、みたいな。うん、なんか説明しようと思えば思うほど、葉巻とはいかにして嗜むものか、的な話をオッサンが人に解説してるみたいになっちゃうのは何でだろ？（笑）

―ある意味、かなり分かりやすい表現だと思いますよ（笑）。この音が持つ趣深さは、葉巻よろしく〝ちょっと上級者向け〟な質感ですもの。

正：そのへんは、この曲の長さもまたちょうど良いんでしょうね。音がループしてるだけに、聴いていると自然に陶酔できると思います。

佐藤ケンケン：こういう風にずーっとおんなじフレーズを曲の中で繰り返すっていうのは、アレンジとして凄く贅沢なもんですよね。余計なものを入れずに、ここまでシンプルな要素だけで完結するなんて。そこがホント面白かったし、凄い曲だなって思いながら叩いてました。

―この音からは、Plastic Treeというバンドが決して忘れることのない、〝三つ子の魂〟も色濃く感じられます。

竜太朗：ライヴのオープニングSEでずーっと使ってるのもマイブラ（マイブラッディヴァレンタイン）だし、元来このバンドが持ってる根っこの部分には、どうやっても〝こういう部分〟が刷り込まれてるんですよね。自分たちの中に流れてる血の色をここまで色濃く出した曲も今までなかったし、今回は曲順的にもこれがまずは最初だろうなっていう感じは作った当初からありました。

正：プラならではの黄金律、みたいなものがこの曲には詰まってるよね。

―その反面で、『アンモナイト』には新機軸的要素もしっかりと入っています。中でも、ケンケンくんが作曲や作詞に参加しているという点は、今作を語る上での重要トピックスですよね。

ケンケン：それが、実を言うと前の『ドナドナ』（2009年12月発売）を作ってた時から、作曲は密かにチャレンジはしていたんですよ。まぁ、その頃はあくまで個人的にだったたんでみんなには見せてなかったですけど、今度こそ！と思って今回は出してみました。

―見事なまでの積極性です。しかも、初採用された作曲楽曲「ブルーバック」が、結果的には今作の最後を締め括っているのですから、やりますよね。メンバーのみなさんは、ケンケンくんの曲に対して当初どんな印象を受けられました？

正：やっぱり、真新しさは感じましたねぇ。これまでの作曲陣が持っているものとはまた違う、新鮮なテイストを持ってる曲だなぁと思いました。

―では、その新鮮な素材をバンドとしてはどうやって料理していくことに？

アキラ：いや、これが特別深いことは何にも考えてないのよ。そこにちょっとした新しさこそあれど、ごく普通に〝よし、曲が来たな。じゃあ、やるか！〟って感じで、今までにない違和感とか〝これはどうしたもんか〟みたいなのは皆無だった。個人的には、〝ひとり作曲者が増えたってコトは、これからちょっとラクだぞ〟って思ったくらい？（笑）

―つまり、この曲はアレンジで二転三転することなく、原形からそのまま素直に育ったわけですね。

ケンケン：はい、ほとんど元のイメージのまんまです。歌に関しては、最初メロディが全くついてない曲だったんですけど、竜太朗さんにお願いして歌メロを作ってもらって、その後に詞もついてこのかたちになりました。

―竜太朗くん。この「ブルーバック」の歌詞については、どのようにまとめていったのですか。

竜太朗：曲を聴いて、曲が呼んでる言葉たちを書いてまとめただけですね。ナカちゃん（アキラ）も言ってたみたいに、普通にいつも通りプラの曲を作ってる感覚でやってましたよ。

―いつにも増して心象風景の描写が多く含まれるこの詞には、「おかえりなさい。」という一節が出て来ます。これは、誰からの誰に対する言葉なのだろう？ということが少し気になりました。

竜太朗：この詞は、年が明けてから制作期間の最後のほうに書いてたんですよ。いろんな気持ちが溢れ出るまま、敢えて整理しないで書いてるんですけど、その部分に関しては…きっと俺に対しての言葉でしょうね。誰からのっていうわけでもなくて、相手はもしかしたら人ではないような気もするし。なんて言ったらいいんだろう？　なんか、自分の中にあるものを何でも映せるなぁって思った気持ちが、この〝ブルーバック〟っていう言葉に象徴されているのかもしれないです。

―詞も音も噛みしめ甲斐のある内容ですので、この曲についてはそのあたりの解釈も含めて、みなさんにもとくと聴き込んでいただきたいものですよね。

正：アタマの「Thirteenth Friday」とはまた違った意味で、聴いていると酩酊感を得られるような曲になってますからね。

―この曲を聴いて、今さらながらに思いました。〝この人には、これだけ繊細な感性が備わっていたのか。どうりで、このバンドのドラマーとしてしっくりハマっているわけだ〟と。そういう意味でも、今回この曲がアルバムにエントリーされたことは実に喜ばしいです。

正：あぁ、なるほど。そういう聴き方も出来ますねぇ。

ケンケン：僕からすると、とにかく自分がやりたい曲を作っただけなんですよ。あとはもう、メンバーそれぞれの持ってる特色とか個性を、存分に活かしてもらっただけです。

―そんなケンケンくんは、今回「雪月花」で作詞家としても鮮烈なデビューを飾っています。なんでも、自分から志願されたそうですね。

ケンケン：詞も、前からいつか書いてみたいなと密かに思ってはいたんですよ。それで、今回は自分から〝詞にも挑戦してみたいです！〟って話をしたら、この曲を書くことになりました。

―先ほども申し上げた通り、ケンケンくんについては作曲者としての持ち味にも大変興味深いものを感じたのですが、この詞のテイストにも正直言って驚きましたね。普段のトークをしている時のキャラとは、全く別物のトーンがここにはあるなと感じました。

ケンケン：あぁ、それは敢えて、いくらか硬めな感じで書いてるからだと思います。

―いえいえ。単に文体としての硬軟という次元ではなく、これまた〝感性〟の部分がとても洗練されている印象なのですよ。なんだか、書き慣れているようにさえ感じるといいますか。

ケンケン：えっ、全然そんなことないですよ。詞はホント今回が初めてです（笑）。

―「雪月花」の作曲者である竜太朗くんからすると、ケンケンくんの書いてきた詞に対してはどう感じました？

竜太朗：僕も今回、初めてケンちゃんの書いた詞を見たんで、〝へー、こんな風に書くんだ〟とは思いました。でも、〝らしいな〟とも思ったかな。詞って、やっぱり人柄とか性格がよく出るもんですよね。面白い。

―人柄と性格がよく出ているという点では、アキラくんの作詞作曲による「デュエット」も、かなり個性の強いも

のに仕上がっているように感じました。シュールにしてカオスで、なんとも一筋縄ではいかない展開がオツですね。
アキラ：あれっ、そう!? まぁ、曲によっては意図して難解に作ったものなんかも過去にはあったけど、これなんかは俺からしたらずいぶんキレイにするっとまとめたつもりなのに（苦笑）。
――そこは同意しかねます。むしろ、この曲の中に漂う絶妙なネジれ感こそが、重要なスパイスになっているのでは??
正：あぁ、言うなればプログレッシヴな要素は多々入ってますね。ナカちゃんのやりたいことが、高密度に詰め込んである曲なんだと思いますよ。
――実際、場面展開も多いですしね。
ケンケン：僕、最初にこの曲を聴いた時はちょっとびっくりしましたもん。〝叩くの、難しそう〟って思って。でも逆にちゃんと覚えてからやったら、叩くのが凄い楽しくなっちゃいました（笑）。
――分かるような気がしますよ。曲のエンディングにかけては音が楽器陣のみになるくだりもあって、圧倒的な高揚感が充満していく様は秀逸です。
アキラ：あそこは、単に楽器隊だけで盛り上がるシーンっていうよりも、〝Plastic Tree全員で〟高揚していくシーンなんですよ。幸い、ウチのバンドは竜太朗も含めてみんな楽器持ってるんでね。じゃないと、こういうことやっても曲の途中でいきなり1人だけヒマになっちゃうでしょ（笑）。
竜太朗：うん。ライヴでポツー[illegible]て置いてけぼりになっちゃうのは[illegible]（笑）。
アキラ：だから、これはウチだから[illegible]の展開になってる曲なんじゃないか[illegible]
――前作『ドナドナ』に収録され[illegible]た「――――暗転。」での試みが、[illegible]なかたちで楽曲に活かされたよう[illegible]
アキラ：歌が入った時の説得力も[illegible]だし、それもこのバンドの強みではある[illegible]けど、それとはまた別に全員でイン[illegible]をやった時の良さがあるんだった[illegible]回もそこは心置きなく出してこう[illegible]思ったわけです。
正：この曲は、ライヴでやったら楽しいだろうねぇ。

複雑ではありません?
竜太朗：いやもう、僕はこのナカちゃんこだわりのメロディとか、いかにもナカちゃんっぽいグルーヴをどれだけ表現出来るかっていうので、この曲に関しては一生懸命頑張りました。とにかく難しかったけど、気分的には〝中山隊長に着いて行きます!〟っていう一心でしたね。これは歌もライヴで早口をちゃんと言えるようにしとかなきゃなー（笑）。
――ちなみに、この「デュエット」の歌詞からはある種のシュールレアリスムが感じられました。相変わらずのシニカルなアキラ節は、今回も顕在ですね。
アキラ：あれ、そう? 別に、そんな難しいもんじゃなんいだよ。実はすげぇ簡単なことを書いてんだけど、あまりにもそのまんまに書いちゃうとさすがにどうかな?っていうのがあるから、こうやって書いてるだけ。だから、詞についてはあんまり深く詮索されると困る（笑）。
――なお、アキラくんは今回ほかにも「退屈マシーン」、さらに「アリア」という楽曲たちも手掛けています。まず、前者についてはちょうど既発シングル曲である「ムーンライト――――。」と「みらいいろ」にはさまれるかたちで、十八番のギターロック然とした音をガツン!と聴かせる曲になっておりますね。
アキラ：そだね。このアルバムにおけるギターロックゾーンを飾る1曲として楽しんでいただけたら、ワタクシとしても幸いですよ（笑）。っていうか、これは[illegible]の構想も持たずに楽器持って曲を作り出した曲だったなぁ。
――歌詞からは、厭世的で斜に構えた部分と、それとは裏腹に実はピュアな一面というのが見え隠れしているように感じました。この一癖ある作風も、まさにアキラくんならではのものですね。
アキラ：そっか。本人は全くそんなつもりなく作ってるんだけど、こうやって[illegible]手に対して提示した時に、仮にクレジットがなくても誰が作ってるかっていうくらいの色は伝わったほうがいいと思うから、そうやって〝ならでは〟とか言われるのは良いことなんだろうな。
――その一方で、「アリア」についてはこれまでアキラくんが作ってきた曲たち

蝴蝶网
hudie.com

じました。**機微のある独特なポップセンスが端々に練り込まれていて、とても味わい深い曲ですよね。**
アキラ：この曲を作ってる時、何をいちばんに考えてたかっていうと、それはPlastic Treeのことだったからね。とにかく、Plastic Treeらしい曲を!っていう姿勢のもと、曲作りをしていきましたよ。
正：メロディの質感とか、曲の運び具合に、そのへんはよく出てるよね。最初に曲をもらった時から、この4人でやってる図がすんなり湧いた記憶があります。
ケンケン：メロディは綺麗なんですけど、部分的にはヘヴィなとこもあったりして、そういうところも僕はPlastic Treeっぽいなって感じました。
――ドラムの音を少し重めにしてあるのは、そこを際立たせるためですか?
ケンケン：はい、そうです。フレーズを考える時にも、曲の中にある綺麗なところと重いところのギャップが上手く出せるようにしてましたね。
アキラ：これ作ってる時にふと思い出したんだけど、〝音はヘヴィロックなんだけど実はフォークって、カッコ良いよね!〟っていう話は、ウチらもう何回話して来たか分かんないっていうくらい、ずーっとして来てるわけ（笑）。そのへんの〝根っこ〟が、この曲にはネタとして組み込まれてるんですよ。
――それでいて、単なるヘヴィネスとフォークの融合形には終始していないものですね。この曲は、竜太朗くんというヴォーカリストの持っている〝華〟の部分を、巧妙に抽出した楽曲に仕上がっているのではないかと思います。
竜太朗：この春、色鮮やかなパンジーをアキラくんに咲かせていただいてありがとう（笑）。
アキラ：何だソレ（笑）。
――あはは（笑）。
竜太朗：いやホントに、凄く良いメロディの曲なんですよ。その分、キーの幅はちょっと広めになってる曲でもあるんですけど、そこはヴォーカリストとしてちゃんと表現しきれるように丁寧に歌っていきました。正くんの書いてくれた詞も、歌い手としてはポンと乗っかりやす

――この「アリア」という曲タイトルといい、並んでいる言葉たちの選択といい、全編を通して柔らかで美しい世界が完成されている様は見事です。
正：いやいや、僕からしてもこの曲の詞は書きやすかったんですよ。内容的には決して明るくてポジティヴっていうわけではないんですけど、ちょっとやりきれねぇなっていう感情も、こういう音にのせることで救われるような気がして、そのイメージで書いていったんです。
――テイストはちょっと違いますが、竜太朗くん作曲の「アイラヴュー・ソー」も、詞は相当〝やりきれなさ〟が満載のような気がします。音的には、非常にライヴ映えしそうな1曲ですけれどね。
竜太朗：これはギターをジャカジャカやりながら、バンドでこんな感じのロックンロールな曲が出来たら良いなって思いながら、適当…じゃなくって（笑）、肩の力を抜いて作った曲でした。弾きっぱなし、歌いっぱなし、に出来る曲が欲しかったんです。
――そのせいか、各パートの音もずいぶんはっちゃけていますよね。ベースも良い意味で音がエグいです。
正：曲が曲なんで、音もザラザラした感じに歪ませてみました。行けるとこまで行っちゃえ!っていう感じでしたね（笑）。
ケンケン：僕も、これは理屈で考えずにやっていった曲でした。この曲だけ音的には変化が欲しかったからキットを変えて録ってみたんですけど、アレンジに対しての迷いは一切なかったです。
アキラ：結局、こういう曲なんでワタシもギターは思いっきり雑な気分で録ってますよ（笑）。ただ、録る直前までは細か～く些細なことまで調整して、環境はガッチガチに固めてるわけ。その上で、いざ弾く時には雑にっていうのが、この曲のポイントだったと思うよ。
竜太朗：緻密さとルーズさをこれほど両極端なかたちで混在させるって、実は難しいんだよね。でも、それをちゃんと出来たんでこの音には凄い満足してます。
――では、「アイラヴュー・ソー」の詞を作っていく上で、重視したのはどんなことでしたか。聴いていては、音と語感

竜太朗：あ、これは確かに音先行でひらめいた言葉を並べてった歌詞でした。とはいえ、実は書いて行く時には裏テーマっていうのもあったんですよ。このアルバムを作ってる途中で、正くんからこの作品全体を象徴する言葉として〝夜〟っていうキーワードが出て来たんで、それを意識してたとこもありました。

——誘蛾灯、ネオン等の言葉がちりばめられているのはそのためでしたか。

竜太朗：東京に来てずいぶん経ちますけど、基本的に起きてる時間は夜のほうが長いせいか、東京って僕の中では夜のイメージが強いんですよ。夜を描こうってなると、自然とこうなっちゃいますね。

——夜の空気感を描いてあるという点では、今回「さびしんぼう」もそれにあたる曲となっていますよね。

竜太朗：う〜ん、シチュエーション的には夜なんですけどね。でも、これはまた別枠かな。詞を最後の最後に書いてる曲だし、内容もパーソナルな要素がかなり強いので、他の曲とはちょっと違うというか。その時期だったからこそ書いた詞だったんじゃないかな、と思います。ひいては、今回何でアンモナイトっていう言葉が出て来たのかっていうところとも、この詞は繋がってるんですよ。

——それは興味深い。この曲とアンモナイトという言葉の相関関係について、もう少しお話をしていただけると嬉しいです。

竜太朗：何となく、自分の中で回路が繋がったんですよ。アンモナイトって、今は生きてないけど化石として今もずっとカタチが残っていて。そのことと、この曲の詞の中で歌ってる〈〜こゝろの形は残って欲しい〉っていう部分が、これってきっと一緒だなって重なったんです。

——かくして、この「さびしんぼう」の後には、音響コラージュのようなSE「〜作品「amminite」〜」が挟まれ、さらにそこから先ほども話題にのぼった「ブルーバック」へと展開していき、初回限定盤に関してはここでアルバムが終わります。この流れからは、深い水底へと意識が静かに沈み込んでいくような感覚を得ることが出来ました。

竜太朗：「〜作品「amminite」〜」の中に、水の音が入ってるからそう感じるのかもしれないですね。

——過去には、アルバム『ウツセミ』にも効果音を主体としたSEがいくつか入っていたことがありましたけれど、この「〜作品「amminite」〜」は、今回どのように作っていったのでしょう。

竜太朗：曲とはまた別の観点で、みんなで音をあれこれ重ねながら作っていったんです。このバンドは、そうやって音で遊ぶのが好きなんでしょうね（笑）。

——ファジーな水音と、無機的なパルス音が重なっている様からは、連想ゲーム的に生命反応を示すように感じるところもありました。何だか、いろいろと想像が掻き立てられる〝作品〟です。

竜太朗：今回は、ちょうどアルバムを作ってる途中で病気になったりもしたから、入院中ヒマな時にぼーっと思い描いてたり、感じたことの一端がここにも出てるのかなぁ。でも、全ては結果として符合した感じなんですよね。水の音を入れるのも、こういうタイトルにするのも、もっと前から決まってたことだし。いろんなタイミングと、いろんな要素と、いろんな思念が混じりあって、こういう作品になりましたっていうのが本当のところです。あとは、単なる効果音にはしたくなかったから最後には正くんにベースの音も入れてもらったし、面白い実験が出来て良かったなと思います。

ケンケン：この「〜作品「amminite」〜」って、ぐるぐる廻るようなイメージもある音ですよね。

正：そこはたぶん、アンモナイトの絵的なイメージも影響してたと思うよ。

——渦巻き形状の貝殻のことですね。

正：そうそう。奇しくも、そこに入ってる音がベースであるっていうのがまた面白いとこで、一緒に入ってるチェロの音と共に低いとこで唸ってるようなあの音の感じも、不思議とアンモナイトっぽさを醸し出してるような気がします。

——このアルバムそのものを表すタイトルとしても、今回は『アンモナイト』という言葉が冠せられていますが、それはどんな経緯で決まったものでしたか。

竜太朗：最初は、冗談半分なとこもあったんですよ。今回テーマが夜だし、アンモ〝ナイト〟でどう？とか（笑）。

——まさかのダジャレですか!?

竜太朗：でも、イメージとしては遠くないんですよ。さっき正くんが言ってたけど、アンモナイトの形っていうのが実は大きなポイントなんです。夜って、考え事とか始めるとついぐるぐるしちゃうじゃないですか。

——そうですね、逡巡しがちです。

竜太朗：だから、意味的にも僕の中では符合したんですよ。あとは、円形だし、渦巻いてるし…っていうことを考えると、そういうのって俺らの世代からするとレコードみたいにも見えるしね。自分たちの作ったものが、化石になるくらい後々まで残ってってほしいっていう意味での『アンモナイト』でもあるんです。

——通常盤のみの収録となっている「spooky」だけは深いほどのアグレッシヴ・チューンですが、それを除くと今作はどれも切なかったり、叙情的だったりする曲がほとんどです。よって、爽快感のある娯楽大作の類いを求める方にはきっと向かないアルバムですよね。

竜太朗：でしょうね（苦笑）。

アキラ：もっとも、それは今に始まったことじゃないけど（笑）。

——でも、そのかわりに奥行きある音像や、含みのある歌詞を噛みしめながら、聴き手側の意識もそこに重ねていくことが出来るという点では、これほどうってつけなアルバムもないかと思います。

正：自分たちの作品を聴いて、そうやっていろいろともの思ってもらえるというのは、作り手冥利に尽きますよ。

——もの思うだけでは満足できない、という方は前述の「spooky」で発散して頂くことも出来ますしね。

正：『アンモナイト』は、「ブルーバック」までがひとつのまとまりなんですよ。建物でいうなら、『アンモナイト』ビルは「ブルーバック」までの12階建てで、「spooky」は屋上、みたいな（笑）。通常盤は、そんな感覚で聴いてもらうと良いんじゃないかと思います。

——分かりました。それにしても、Plastic Treeって凄いですね。ここに来て、ついに4人全員が作詞・作曲をするバンドになってしまったとは。『アンモナイト』がこれだけ重厚感のあ

きく作用していますよね？

正：バンドとしては、より可能性が拡がりますからね。自分のバンドのことながら、素晴らしいなと思います（笑）。

ケンケン：これからも、また詞も曲もどんどん作っていきたいと思います。気持ち的には、もう早く次の作品に取り掛かりたいくらいです（笑）。

——でも、その前に今春はライヴハウス・ツアー「アンモナイト（小）」がありますので、まずはそれに専念していただかないと。今作の楽曲たちは、ライヴの場で煮詰めていくことによって、より深みを増していきそうなものが多そうですよね。

ケンケン：今回のツアーは、敢えて音源通りにはやらない方向になってくと思います。レコーディングを通して、プラモデルの組み立てをやって来たんだとしたら、ツアーではライヴの度に塗装を増やしていくような感じで、もっともっと曲をカッコ良くしていきたいです。ただ、今もう準備はしてるんですけど、なかなか大変ですね。手強いです。

アキラ：毎度のことではあるんだけど、また今回も〝やっちゃった〟からねー。アルバムの完成度が上がれば上がるほど、後々になって自分たちの首が絞まるっていう（苦笑）。とにかく、頑張って来るよ。俺、ホント頑張る（笑）。

正：今回は、初めて行くとこなんかもあるしね。日々ライヴをやってく中で、自分たち自身でも、〝こういう感覚って、あんまり味わったことないぞ〟っていう瞬間がいっぱいあると良いなぁ。

竜太朗：アンモナイトの成長には、ここからきっと時間がかかると思います。でも、その分だけ先は未知数です。それに、俺にとってはここまでライヴの間隔が空いたっていうこともなかったんで、今はツアーに出られるっていうことがまず純粋に嬉しいんですよ。いろんなことがあったから、多少の不安もないわけじゃないけど、ここからはみんなと一緒に曲たちを育てていけたら嬉しいですね。突き詰めると、さっきナカちゃんが言った通り、頑張るしかないです（笑）。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Plastic Tree ammonite

蝴蝶网
hudie.com

Plastic Tree 11th ALBUM "アンモナイト" 2011.4.6 ON SALE

初回限定盤（CD＋DVD） TKCA-73630 ¥3,675（tax incl）

CD 01.Thirteenth Friday 02.ムーンライト―――。（アンモナイト版） 03.退屈マシン 04.みらいいろ（アンモナイト版） 05.雪月花 06.アイラヴュー・ソー 07.アリア 08.デュエット 09.バンビ（アンモナイト版） 10.さびしんぼう 11.～作品「ammonite」～ 12.ブルーバック

DVD 01.Thirteenth Friday Music Clip 02.「月世界旅行～アジア編～」オフショット映像

通常盤 TKCA-73635 ¥3,150（tax incl）

CD 01.Thirteenth Friday 02.ムーンライト―――。（アンモナイト版） 03.退屈マシン 04.みらいいろ（アンモナイト版） 05.雪月花 06.アイラヴュー・ソー 07.アリア 08.デュエット 09.バンビ（アンモナイト版） 10.さびしんぼう 11.～作品「ammonite」～ 12.ブルーバック 13. spooky

"アンモナイト"スペシャル応募特典アリ!! 詳しくは商品封入の告知文とオフィシャルページで後日発表!!

Plastic Tree ライブハウスツアー 2011 "アンモナイト（小）"

・3.14（月）赤坂 SOLD OUT ・3.20（日）清水 JA SOLD OUT AM ・3.21（月/祝）名古屋 DIAMONDHALL ・3.23（水）長野 CLUB JUNK BOX ・3.26（土）郡山 SOLD OUT ot ・3.27（日）盛岡 Change Wave
・3.29（火）水戸 L SOLD OUT HOUSE ・4.1（金）埼玉 HEAV SOLD OUT ROCK さいたま新都心 VJ-3 ・4.3（日）新潟 GOLDEN SOLD OUT RED STAGE ・4.6（水）札幌 ペニーレーン24
・4.8（金）広島 CLUB QUATTRO ・4.9（土）米子 Aztic Laughs ・4.13（水）京都 KY SOLD OUT USE ・4.14（木）大阪 SOLD OUT ・4.16（土）高松 DIME ・4.17（日）神戸 WYNTER LAND SOLD OUT
・4.19（火）奈良 NE SOLD OUT AND ・4.23（土）大分 DRUM Be-0 ・4.24（日）福岡 DRUM LOGOS ・4.29（金/祝）仙台 JU SOLD OUT X ・5.7（土）Z SOLD OUT kyo

昨年末中止となった「ゆくプラ くるプラ」の振替公演が決定！！
6/22（水）TOKYO DOME CITY HALL（現JCBHALL）

Plastic Tree Official site http://www.plastic-tree.com/pc/ 徳間ジャパンコミュニケーションズ http://www.tkma.co.jp/

蝴蝶図
hudie.com

SHOXXスペシャル企画

オリジナル・フォトカード応募者全員サービス!!

ご希望のフォトカードを1枚、
応募者全員にサービスしちゃいます。
全部で18パターン。
応募券1枚でご希望のフォトカードを
1枚あなたのお手元に!!

Plastic Tree

A-1:有村竜太朗

A-2:長谷川正

A-3:佐藤ケンケン

A-4:ナカヤマアキラ

LM.C

B-1:maya

B-2:Aiji

武瑠(SuG)

C

怜我(ViViD)

D

ムック

E-1

E-2

BugLug

F-1:一聖

F-2:一樹

F-3:優

F-4:燕

Dolly

G-1:蜜

G-2:聖

G-3:はち

G-4:亜樹

●応募に必要なもの(応募方法が少し変わりました。よく読んでご応募願います。)

- 80円切手2枚(お客様が編集部に送信する封筒に貼るもの&返信用)
- 定形封筒2枚
- 応募券(このページの左下にあり)

【応募方法】

①フォトカード(9cm×13cm)が入る大きさの定形封筒(定形外の大きな封筒での応募は無効になります。ご注意下さい)2通と、80円切手を2枚用意します。

②1通の封筒に80円切手を貼り、表にあなたの住所、氏名を記入。封筒の裏には希望のフォトカードのナンバー(例えばPlastic Treeの有村竜太朗であればA-1)のいずれか1つを大きく書いてください。この封筒は、編集部から応募者に写真をお送りする返信用封筒になります。

③②の返信用封筒をもう一通の封筒に入れ、あて先のヨコに応募券がはがれないようにしっかり貼って、右記の住所まで送ってください。

【あて先】

〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3 Daiwa銀座アネックス5F 株式会社 音楽専科社 SHOXX編集部 卯月のフォトコーナー●係(●の中には返信用封筒に書いた希望写真フォトカードナンバーを必ず書いてください。例えばPlastic Treeの有村竜太朗であればA-1)。

【締め切り】

2011年4月21日(当日消印有効)

【発送】

2011年6月下旬からになります。7月10日になっても届かない場合は7月31日までにご連絡ください。※7月31日以降のお問い合わせは、対応できない場合があります。
(03-3574-0205／月~金　11:00~18:00)。

【お願い】

- 希望のフォトカードナンバーが未記入の場合はこちらで選んだパターンを送らせていただきます。
- 応募券のコピーは不可です。コピーの場合は無効になります。
- 応募券1枚につき一通のご応募でお願いします。複数お申し込みのお客様はその数分の応募でお願いします。
- 発送は日本国内のみになります。海外への発送は出来ません。
- We do not ship outside of Japan.

SHOXX glipo【グリポ】

TER MAGAZINE

版　定価 1,500 円（税込）

ポスターを10枚パッケージした
ター・マガジン"が装いも新たに登場!!
書店にて発売中!!

巻頭特集 12P

SuG

特集 6P **L.M.C**

アーティスト★
・HERO・R指定・己龍・ZUCK・レミング

ない場合はインターネット及び携帯サイトからもご注文、ご購入いただけます。

p://www.ongakusenkasha.co.jp

ポスター 10枚!!
- 武瑠 (SuG)
- masato(SuG)
- yuji(SuG)
- Chiyu(SuG)
- shinpei(SuG)
- L.M.C
- ダウト
- HERO
- 己龍
- レミング

HOXX FiLE Plastic Tree #2

2006-2008

在庫僅少!!
手に入れてない方はお早めに!!

オールカラー240ページ
A4ワイド版(228×297mm)
定価:5,000円(税込/送料1冊につき600円)

し込み方法】

振替でのお申し込み
郵便局に備え付けの郵便振替用紙に必要事項を記入の上、
送料を加えた代金
(定価5,000円＋送料600円＝5,600円)をお振込み下さい。

口座番号:00130-0-481019
:㈱音楽専科社
「Plastic Tree FiLE #2」
所氏名:あなたの住所
ン/アパート名、部屋番号を正確に)、
番号を忘れずにご記入下さい。

振込取扱票

口座番号	00130-0-481019
金額	5600
加入者名	㈱音楽専科社
通信欄	Plastic Tree FiLE #2　1部
ご依頼人	あなたの住所、氏名、電話番号

からのお申し込み
科社オフィシャルHP
/www.ongakusenkasha.co.jp/

電話からのお申し込み
ドレス
www.ongakusenkasha.co.jp/shoxx/plastic/index_mob.html

:㈱音楽専科社 TEL 03-3574-0201 FAX:03-3574-8548 http://www.ongakusenkasha.co.jp

nudie.com

蝴蝶网
hudie.com

SPEED DISK PRESENTS
SHINRABANSHOW

Another Story

6月10日(金)名古屋E.
Cast:Mo
Guest:amber gris/アヲイ/-O
9GOATS BLACK O
highfashionparaly

6月11日(土)大阪FAN J-tw
Cast:Mo
Guest:amber gris/-O
9GOATS BLACK O
highfashionparaly

http://xxxrecords.jp/spee

the GazettE

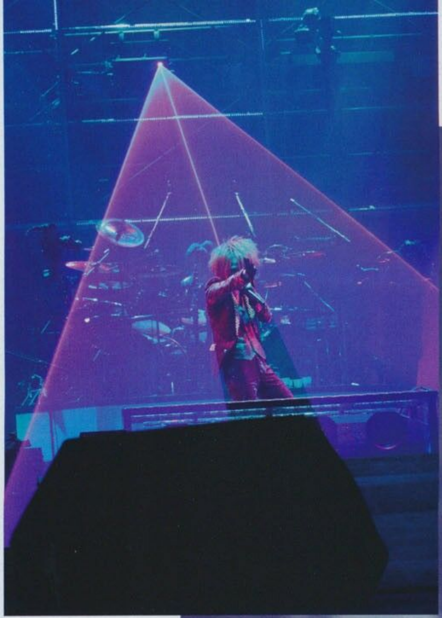
BEST ALBUM
TRACES
BEST OF 2005-2009
LIVE DVD
THE
NAMELESS LIBERTY
AT
10.12.26
TOKYO DOME
同時リリース!!

ファンクラブ・ツアー初日のRUKIと戒をキャッチ!!
2011年の展望を語る最新ソロ・インタビュー

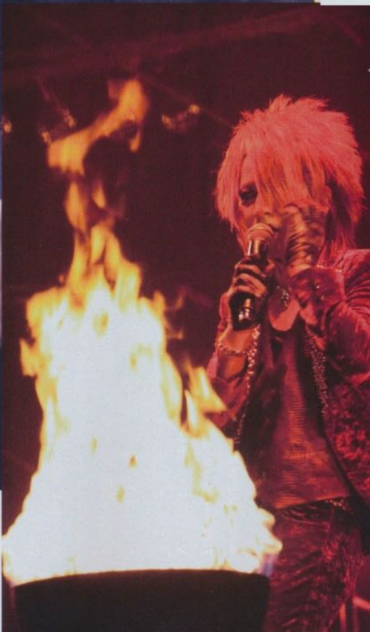
BEST ALBUM『TRACES BEST OF 2005-2009』、昨年12月26日に行われた東京ドーム公演を収録したLIVE DVD『THE NAMELESS LIBERTY AT 10.12.26 TOKYO DOME』を3月23日に同時リリースするthe GazettE。ファンクラブ・ツアー[TWO CONCEPT EIGHT NIGHTS ABYSS / LUCY ～異なる二つの顔　退廃と本能　両極の二夜～]の初日、RUKIと戒にリリース、そして結成10周年へと向かう2011年の展望について訊いた。

Photography: SHINJI TANAKA (Live 2010.12.26 @ TOKYO DOME)
Text: ATSUSHI TAKAMI (SHOXX)
Interview: LIMO HATANO

hudie.com



蝴蝶网
hudie.com



RUKI

the GazettE

BEST ALBUM
『TRACES BEST OF 2005-2009』
LIVE DVD
『THE NAMELESS LIBERTY AT 10.12.26 TOKYO DOME』

——3月23日にリリースされるベスト・アルバム『TRACES BEST OF 2005-2009』についてなのですが、シングル曲以外の曲も収録されていますよね？　このセレクトの理由は？

「いくらベスト盤とは言え、ただ単にシングル曲だけじゃなく、この3曲は各アルバムのメイン曲なので、これは入れようかってことになって、この3曲を入れた感じですかね」

——ベスト盤というと、シングルばかりが入っているのが当たり前ですけど、逆にこの3曲が入っているから個人的には嬉しいですね。

「もう、みんな持っていると思うけど、一応リマスタリングしているので、音が太くなっている気がします！　いや、なっているはずです！　ここがこのベスト盤のセールス・ポイントです！（笑）」

——なっているはず！なんですね（笑）。

「はい（笑）」

——同時に初・東京ドームでの『THE NAMELESS LIBERTY AT 10.12.26 TOKYO DOME』のDVDもリリースされますが、RUKIくんからの見所ポイントなどあれば教えて頂きたいなと。

「そうですね……ドームのライヴそのものをパッケージしたつもりなので、それが伝わればいいなと」

——また、ドームのライヴを見直してみて感じたことってあります？

「冷静になって観ると、逆にもう少しこうしたら良かったなとか、ああしたら良かったなって、いろいろ考えちゃいましたね（笑）。ただ、いつも言っていることなんですが、〝東京ドームだから〟っていうのもないし、ひとつの新しいライヴをしたっていう――それが東京ドームであって、そのドームのライヴがDVDになったっていう。ただ、やっぱりDVDじゃ伝わらないところはあったりするので、結構ライヴに関してはちゃんと伝わるように、コマとかすごく細かくチェックしたり、ライティングもより近

ンの見え方だったりとか、掛け合いだったりとかは、本当に慎重にチェックしましたね」

——初回限定盤には、この日のライヴのメイキング映像（密着）なんかも付いていますが、あの日をより近づけるように編集したと。

「そうですね。ただのライヴDVDではなく、俺たちがどんな様子だったかを観てもらいつつ、またこの日のライヴを観てもらうと」

——私も観させて頂きましたが、何度観てもグッとくるものがありますね。

「去年は【東京ドーム】という、ひとつのことに向かって突っ走った一年だったんですけど、今年は去年できなかったことも含めて、いろんなことにチャレンジしていきたいなと思っていて。なので、今回のこのファンクラブ・ツアーもそうなんですけど、もう少し、バンドを楽しみたいなっていう。上に上がって行きたいっていう気持ちも大事だし、あるんですけど、今年はもうちょっとバンド本来の楽しみ方をしていけたらいいなと。イベントなんかにも出たいし、曲作りに関してもそうなんですが、今年は苦しまず、面白くやろうよって思っていて。メンバーとも〝今年は楽しくやろうよ〟って話しているので」

——去年は年末のドームに向けて、相当忙しかったですものね。

「あれはあれで良かったんですけどね。あそこからの今であって、あそこで加速がついたものを今楽しむことでもっとスタッフさんにも楽しんでもらいたいし。あと自分的には、バンド全体を開拓というか、もっと固めたいっていうのがいろいろありますね。メンバーそれぞれも、結構細かいところまでつめたりしてますしね。学んだことが多かったですからね」

——例えば、春に出るシングルはどんな感じの音ですか？　話せる範囲内でいいのでお願いします（笑）。

「そうですね、ヘヴィな感じです。ライ

RUKI

今年はもうちょっとバンド本来の楽しみ方をしていきたい

音、ヴィジュアル、演出――the GazettEの根幹を築きあげるキーマン、RUKI。超多忙を極めるビッグ・バンドのフロントマンは、「去年できなかったことを含め、いろいろなことにチャレンジしたい」と飽くなき探究心を口にした。ドームという大きな目標を掲げた激動の2010年から、結成10周年を迎える2012年へと向かう今年2011年を、どう見据えているのだろうか。

か（笑）。『SHIVER』『Red』『PLEDGE』と出してきて、今まさに、メンバーみんながやりたいことが爆発しているような感じですね」

——なるほど。それは聴く前からすごく楽しみです！　あとは、私もファンも一番聞きたいところなのですが、ニュー・アルバムの予定は？

「うーん、まだなんとも言えないですね。各自で曲作りはしているんですが、現時点ではまだ、制作までたどり着いてないですね」

——春に出すシングルや、次回のアルバム内の楽曲制作にしても、東京ドームでのライヴが何かしら、影響を受けていると思いますか？

「なんか、ドームやってすごく良かったんですけど、俺らって元々ドームでやろう！と決心したのって、ドームでライヴをやってステイタスを感じるバンド、いわゆる〈ドーム・バンド〉になりたくてライヴをやったわけじゃなく、逆にそういったところを壊してやろうと思って望んだことだったので、〝東京ドームでやったぜ、俺たち！〟って満足して終わるんじゃなくて、逆にもっともっとやってやろうぜ！って気持ちになったし。そういう意味では、最初にも言いましたけど俺も含め、メンバーそれぞれ学んだことは本当にたくさんあったと思うけど、それがどう次のアルバムで影響するかは正直、まだわからないですね。でもライヴも含め、やりたいことをやるっていうのが一番だなって改めて思ったので、そういうのは反映するでしょうね」

——今からすごく楽しみです！　ところで、今、行われているファンクラブ・ツアー【ABYSS】と【LUCY】なのですが、theGazettEにとっては、1日目と2日目とコンセプトの違うライヴをするのは初めてですよね？　こういった形でライヴをしようと思ったキッカケは？

「去年、このファンクラブ・ツアーの話が出たときから、来年は楽しみたいって

できないことをやろう！っていうのがあって、なので、1日目はアッパーな曲はやらずにバラードのみで、2日目は逆にアッパーな曲ばっかりやるっていうツアーを廻りたいなと。イベントでは何かしら似たようなことをやったりしたんですけど、今回は地方とか行って、ツアーとして魅せたいなと。地を固めたいっていうか、theGazettEには〈静〉と〈動〉があって、それをもっと色濃く魅せたくて」

——実際、やってみてどうでした？

「自分的には楽しめましたけど、まだまだ直すところ、学ぶところはありましたね。今回みたいなことって今まで[illegible]ことだったので、リハでも感覚が[illegible]なくって。でもその分、本番のライヴで[illegible]やったときの良さはあったし、妙に緊張[illegible]しましたね」

——そうなんですね。あと3月10日[illegible]る9周年ライヴでは、かなりな[illegible]ズがあるとか。

「はい（笑）。間違いなくファンは[illegible]思います！　絶対にやるはずがない曲、要は封印していた曲をやるんですよ」

——封印していた曲??

「そう。でもそれをやろうと思える[illegible]いうのは大人になったのかなと（笑）。そういった柔軟性って大事だなと。やっぱり、決まった形のライヴをやるより、自分たちも面白いし、ファンも喜んでくれますからね。まぁファンクラブ・ライヴなのでみんな理解してくれているというか、そう思っているんですけどね（笑）。最終的に言えば、ファンの期待を裏切らないことをしたいっていうのもあって、こういった形のツアーが実現したと」

——そういった事も含め、今年はファンにとっても、theGazettEにとっても楽しめる一年になりそうですね！

「そうですね、みんなが予想できないことはやるつもりです。常に新しいことへのチャレンジを怠らないのがtheG

蝴蝶网
hudie.com

麗

the GazettE

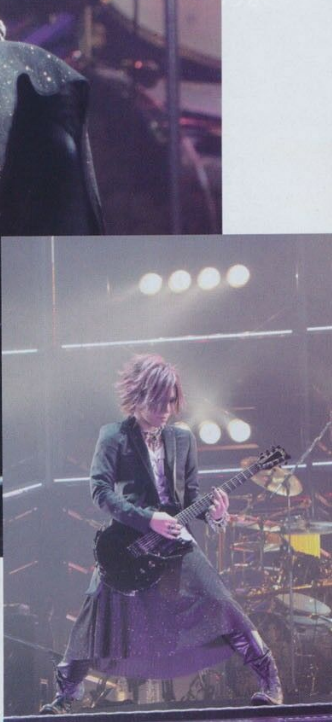
BEST ALBUM
『TRACES BEST OF 2005-2009』
LIVE DVD
『THE NAMELESS LIBERTY AT 10.12.26 TOKYO DOME』

蝴蝶网
hudie.com

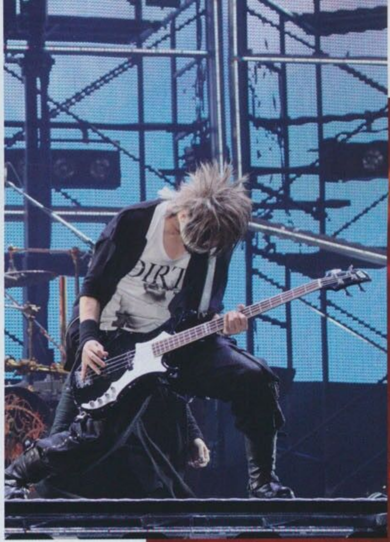
葵

the GazettE

BEST ALBUM
『TRACES BEST OF 2005-2009』
LIVE DVD
『THE NAMELESS LIBERTY AT 10.12.26 TOKYO DOME』



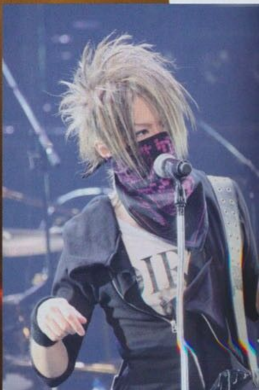
hudie.com



れいた

the GazettE

BEST ALBUM
『TRACES BEST OF 2005-2009』
LIVE DVD
『THE NAMELESS LIBERTY AT 10.12.26 TOKYO DOME



hudie.com

戒

the GazettE

BEST ALBUM
『TRACES BEST OF 2005-2009』
LIVE DVD
『THE NAMELESS LIBERTY AT 10.12.26 TOKYO DOME』

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

――3月23日にリリースされるベスト・アルバム『TRACES BEST OF 2005-2009』ですが、シングル曲以外に、『SHADOW VI II』『BURIAL APPLICANT』『THE INVISIBLE WALL』の3曲を収録した理由は何かあるのでしょうか?

「特にこの3曲は各アルバムを代表する1曲ということで必然的に収録された感じですね。アルバムにも一応、リード曲があって、作品のひとつとして入れた方がいいんじゃないかっていう話の元、収録することになって……。ま、自然な流れですね」

――なるほど。同時に年末に行われたthe GazettE初・東京ドームでのツアー・ファイナルのDVD『THE NAMELESS LIBERTY AT 10.12.26 TOKYO DOME』もリリースされますが、見所などあったら教えて欲しいのですが。

「そうですねぇ、やっぱり、後にも先にも初の東京ドームはこれしかないので、だから今まで、the GazettEを応援してきてくれたファンにとっては、ある意味、【暗黙の目指す場所】だったので、まぁ、初の東京ドームの初々しさだったり、あとは、やっぱりどんな場所でも、東京ドームという場所でも、ハチャメチャなthe GazettEのライヴをやれたという一つの作品だと思うので、まぁ、証明というか。今までずっと俺たちが言ってきた、どこの場所でも、〝俺たちらしいライヴ〟が出来たもののひとつとして証明できたのかなって思いますね。だから今後、どんな会場でやっても、たぶん揺るがないものがあると思うので、その辺を観てもらえればいいなと。〝やっぱり、the GazettEってこういうバンドだよね!〟って思ってくれると思うので」

――初回盤の特典映像として、ドーム密着映像もついているんですよね?

「あの12月26日の一日密着とリハーサルを含めたもので、あの日のドームの裏側が見れます!」

――それはファンにとっては、かなり貴重な映像ですよね。

「なんかね、俺らでもこの映像を見直すと、あの日の緊張感っていうのが蘇ってきて、そういうのを密着だから俺たちと一緒に、感じ取ってもらって観てもらうときっといろんな意味で、すごく楽しいと思う」

――そうですよね、メンバーの緊張感とか裏側を知ってから、ドームの映像を観ると、また違った感情で観れるかもしれませんよね。

「なんか、ファンの子たちも俺たちのライヴ前に〝今日のライヴ緊張します!〟っていう子たちが多くて、でもそれってすごくいいことだと思うんですよね。〝ファン〟と〈バンド〉ではなくて、ファンの子たちもメンバーの一部なんだって思ってくれている証拠だから、すごく嬉しいことですよね。だからこれを観て、またその緊張感を、みんなはみんなで思い出してもらって」

――そう言ってくれるファンが多いってすごく嬉しいですよね。確かに毎回、the GazettEのライヴを観ると、ファンと一緒にあの素晴らしい時間を創っているんだなって感じます。

「まぁ、裏側――密着とはいっても、普段と変らない俺たちの姿なんですけどね(笑)。でも、だからこそ見せなきゃなみたいなところもあるかな」

――そういうことを聞くと今からすごく楽しみですよ! ところで、春には待望のニュー・シングルがリリースされる予定なんですよね?

「はい。一応もう録り終わったんですけど……」

――詳細は……?

「詳細は……(笑)、まだちょっと言えないんですが、楽しみに待っていてください!」

――そこをなんとか少しでもお聞きしたいなと(笑)。

「(笑)。そうですね、バラードではありません! 普通にノれる曲になっております!」

――新曲は、初ドームを終えてからの制作だったわけですよね? 何かしら、影響を与えた内容だったりするのですか?

「うーん、それはあんまり関係ないかな。今年はニュー・アルバムを出す予定だし、だからそこに入る曲と考えて、今まで『SHIVER』『Red』『PLEDGE』とリリースしてきたものとは違うものを見据えて、ルキが作ってきたと思うので。まぁ聴いたら〝ああ、なるほどね!〟と思うと思うし、またいつもとは違った激しさがあると思います。これ以上は…言えません!!(笑)」

戒

その時が来れば"なるほどね!"って思ってくれると思うな

結成10周年へと向かう今年2011年。リーダー・戒は、まだ発表できないことも多いなか、the GazettEの今後の活動展開の輪郭を話してくれた。春にリリースされるという最新シングルのレコーディングを終えたばかりのthe GazettEは、夏の展開、そして既にその先のアルバム・リリースに向けて、構想を練り始めているという。「楽しみにしていてください」という力のこもった言葉に期待は膨らむ。

――ありがとうございます! 新曲、ニュー・アルバムも含め、来年10周年を迎える前の年としてどんな一年にしていきたいですか?

「今年はいろんなことにチャレンジする年にしたいなと。と、今ここでこんな話しても、みんなにはただ、漠然としか伝わらないだろうけど、その時が来れば〝なるほどね!〟って思ってくれると思うな」

――〝あの時言っていたチャレンジって、このことだったのか!〟みたいな?

「うん。今年の夏はいつもとはちょっと違ったアプローチで攻めていきたいなと。だから、詳細が出るまで楽しみに待ってもらえたらなと」

――なんだかワクワクしちゃいますね! 先程すこし出たニュー・アルバムについては?

「こちらもまだ具体的なことは言えないんですが、リリースに向けて各自で制作中な感じです。今年の上半期にあるツアーは、ファンクラブ限定のツアーのみだし、なのでもうただひたすら制作ですね」

――じゃ、春にシングルがリリースされる頃には……。

「何かしら動きがあるかもしれませんね、なのでthe GazettEのサイトを日々チェックしてください!!(笑)」

――ハハハハ! では、夏以降から秋に、今話していたthe GazettEとしてのチャレンジが、わかる感じなんですね?

「はい! まぁでも、あくまで未だ予定なんで。俺たちってほら、コロコロ変っていっちゃうんで(笑)。なので今、俺が言ったことが実行されなくて〝嘘じゃないか!〟って言われても責任は一切持ちませんので宜しくお願いします!(笑)」

――(爆笑)。

「でもやっぱり嘘つき呼ばわりはされたくないので頑張りますけどね。俺自身もアルバム制作が楽しみでしょうがないというか」

――もう既に、少しでも制作に入っているんですか?

「いや、まだ全然(笑)。各自で曲作ったりしている段階なんだけど、なんか今回のアルバムはいつも以上に楽しみなんですよ」

――以前お話しを聞いた時に感じたのは、今回のドームを終えて各メンバーがいろんな意味で刺激を受けているなって。なので、次回のアルバムは本当に楽しみなんですよね。

「なんだろ、根拠は何もないんですけど(笑)、まだ全然、方向性も見えてないのに、〝なんかすっごいアルバム出来ちゃった〟みたいな。そんなすごいアルバムが出来そうな予感というか、自信というか、それがあるんですよね。たぶんものすごくバラエティに富んだアルバムが出来るんじゃないかなと」

――それは本当に私だけじゃなく、ファンも首を長くして待っているのでよろしくお願いします!(笑)。ところで、今回のファンクラブ・ツアーなのですが、1日目と2日目が、全く異なったコンセプトを持ってのツアーはthe GazettEにとって初めてだと聞いたのですが、今回はどういったキッカケでこのようなライヴ・スタイルにしたのですか?

「この案はRUKIが出したんですが、ただ単に懐かしい曲ばかりをファンクラブ・ライヴでやるよりは、ファンクラブだからこそ、もっと深いところを魅せられるんじゃないかっていうところから、ひとつコンセプトを付けたライヴをやってみてもいいんじゃないかって。今だから出来る激しさだけの一日と、曲や詩を含めてもっと深いところだけを魅せる一日。こういうやり方って、たぶん普通のツアーじゃ魅せられないと思うんですよ。ファンクラブ限定だからこそ魅せられるっていう。そこは面白いなって思いますね」

――シングル、アルバム・リリースや、新しいことにチャレンジをし、そして来年10周年を迎えるという。

「いい形で、その10周年を迎えられるような一年にしたいなと思います」

蝴蝶

hudie.com

PHOTO GALLERY

録曲の発売時に撮り下ろした写真を一挙公開!!

ssis (SHOXX Vol.155)

reila (SHOXX Vol.146)

Hyena (SHOXX Vol.169)

STRESS AND COMA (SHOXX Vol.194)

LEECH (SHOCK WAVE No.14)

SHOXX ARCHIVE

BEST ALBUM『TRACES BEST OF 2005-2009』

REGRET/Filth in the beauty (SHOXX bis No.11)

SHADOW VI II I (SHOXX Vol.157)

紅蓮 (SHOXX Vol.181)

BURIAL APPLICANT (SHOXX Vol.174

BEFORE I DECAY (SHOXX Vol.202)

THE INVISIBLE WALL (SHOXX Vol.19

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

可能性はいくらだってある

3月11日に新木場COASTにて行われた【Nightmare unepected LIVE『publish』】にて、
5月18日にレコード会社移籍第一弾シングル「VERMILION.」がリリースされる事を発表したナイトメア。
昨年の6月にリリースされたシングル「a:FANTASIA」から、
実に1年弱ぶりのニュー・シングル・リリースの知らせに胸が躍る。
さて、今回はそんな嬉しいニュースを届けてくれた5人の中から、Vo.YOMIとBa.Ni~yaに登場して貰った。
ありそうで中々ないというこの組み合わせ。どんな話が飛び出すのでしょう…。

IPhotography: SUSUMU MIYAWAKI(PROGRESS-M)
Interview:YUKA SUGIE
Hair&Make-up:MOTOKI IMOTA
Styling:MASATO HISHINUMA(Deep-End co.,Ltd)
Costume:Acycle SHIPS JET BLUE(03-5785-3795)
Brodiaea by goldblood(☎03-3477-8174)

Nightmare YOMI×Ni~ya

People who are alike

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

YOMI × Ni~ya

Nightmare

People who are alike

蝴蝶网
hudie.com

Ni～ya：俺とゾジーってさ、珍しい組み合わせじゃない？
YOMI：言われてみれば…そうかもね。
——実際、2人はどういう仲なんですか。
Ni～ya：最近はしてないけど…前はよく、俺の家で鍋してたね。
YOMI：そうそう。一緒に呑みに行く率も、結構多いと思うし。
Ni～ya：でも、こうやって2人で撮影したり、インタビュー受けるのは…変な感じ（笑）。
YOMI：大丈夫、癒し系になる予感。
Ni～ya：ホントかよ！
——ともあれ、10周年というバンドとしての節目を迎えた昨年、お互いにどう見えていたかということから、お聞きしてみようかなと。
YOMI：これはずっと前から思っていたことでもあるけど…Ni～yaの一番好きなところは、〝ベーシストっぽいところ〟なんだよね。それは、再確認したかな。
Ni～ya：ゾジーは…いろいろ我慢しているのかなって思った。
YOMI：あ、食欲？
Ni～ya：うん。酒も、メシも。俺から見てると、スゲェ大変だろうなって思った。
YOMI：ナイトメアを組んだ最初のころとか、みんなが機材買ったりして大変だなと思う反面、ヴォーカリストってラクだなって思っていたけど…実は、一番キツいかもしれない。
Ni～ya：いや、キツいでしょ。
YOMI：正直、失敗したって思ったもん（笑）。
Ni～ya：言うなって、それを！（笑）。
——そうやってYOMIさんがツラそうなとき、Ni～yaさんが励ますこともあったりして？
YOMI：お酒を呑んでるとき、Ni～yaに相談して泣いたこともあるからね。あのときは、すごく助けられた（笑）。
Ni～ya：あったな、そういえば。
——呑みの場でも、真剣に受け止めてくれるわけですか。
Ni～ya：うん、俺はちゃんと受け止めるし、返すよ。
YOMI：この2人って、意外と真面目に話すんだよね。そう見えないかもしれないけど。

Ni～ya：確かに。バンドのこととか、曲のこととかね。
YOMI：自然にそうなっちゃうよね。むしろ、呑みに行ってるときのほうが、真剣な話をするかもしれない。
——だとすると、バンドとしてどう歩んでいくべきかを語ったりもすると思うんですが…2人の価値観は、近いところにあるんでしょうか。
YOMI：どうだろうね。でも、〝俺もそう思ってた〟っていうこともあるし、〝そういう考え方もあるんだ〟って思うときもあるよね。
Ni～ya：うん、そのへんは、いろいろかもしれない。
——でも、どういうパターンでもお互いの意見を開けるということは…根本的には、考え方なり、感じ方なり、共有率は高いんですかね。
YOMI：あ、よく〝似てる〟とは言われるよね。
Ni～ya：さすがA型同士だよね。いやでも、近くはない!!
YOMI：いやいや、方向は近いでしょ。違う類かもしれないけど、かなり近いところにいるって。真逆ではない（笑）。
Ni～ya：ま、俺から見てゾジーとRUKAさんは真逆だけど、その2人の中間より…ゾジー寄りではある（笑）。
——じゃあ、やっぱり居心地はいいハズですね。
YOMI：うん。他のメンバーも〝Ni～yaといると居心地がいい〟って言うけど、その気持ちがすごくわかるもん。
Ni～ya：へぇ…って感じだけどね、俺は。
——意識していないからこそ、なんでしょうね。では、昨年のお互いを振り返って、相手のもっともホメてあげたい部分を挙げるとしたら？
YOMI：Ni～yaは、去年から（選曲会に）毎回曲を出してくれるのが嬉しいんだよね。デモの段階のクオリティも、どんどん成長していると思うし。それがスゴイなって思う。
Ni～ya：最近、曲作るのが楽しくて。そりゃしんどいときもあるけど、できたときの喜びってハンパないし。それがあるから、次はこういう曲を作りたいと

蝴蝶网 hudie.com

かっていう、新しい目標が見えてくるからね。そうなると、つい頑張っちゃう。

——そしてそれは、10年歩んできてもなお、まだまだ可能性があるという象徴でもありますしね。

Ni~ya：可能性はいくらでもあるんだって、自分でも思うからね。やってないことだってたくさんあるし。

——そういう意欲がある限り、歴史は途切れないです。

Ni~ya：うん。意欲があるから、ここまで続いたしね。ゾジーはね、昔よりは遅刻が減った。

YOMI：今も、5分、10分は平気で遅刻するけどね。でも、迷惑かけないために、マネージャーに拾ってもらいやすいところに引っ越したから…頑張る。

Ni~ya：あとね、ヴォーカリストとして見れば、去年後半の〝Historical〟ツアーでは、歌だけじゃなくてMCも一生懸命考えていたし。たまにわけわかんないときもあるけど（笑）、意識が変わったなって思った。

YOMI：特に去年は、先輩方からいろいろ勉強させてもらったからね。もっとナイトメアがカッコよくいるためには、曲だけじゃなくてそういう部分も大事なのかなって。

——そう考えると、曲作りなり、MCなり、新たな試みに前向きに挑んでいける者同士でもありますね。

Ni~ya：ま、それが普通なんだけどね。同じ場所に居座りたくないしさ。

YOMI：それをみんなが自然とできているんだったら、いいよね。まだまだ、ナイトメアの伸びしろがある気がする。

Ni~ya：そっちのほうが、楽しいしね。満足したら、きっとバンドをやめるもん。やりがいがないからね。

——妥協せず、惰性にならない、その原動力は何なんでしょう。

YOMI：良い曲ができたり、良いライヴをできたりしたときの気持ちかな。

Ni~ya：嬉しいもんな、やっぱり。

YOMI：うん。何かしら結果を残せたとき、もっと頑張ろうと思えるから。実際、最近は小さい子とか、逆に30代、40代の方も、ナイトメアのライヴを観に来てくれたりとかして。方向性は間違っていないんじゃないかなって思う。

Ni~ya：俺たち自身は特定の年代に向けて音楽をやっていないからね。幅広い層に観てもらえるっていうのは、嬉しいことだよ。

YOMI：だからさ、やれるかどうかはわからないけど、一度、オールジャンルのイベントに出てみたい。

Ni~ya：うん、玉砕してもいいからやってみたいね。

——となると、ますます貪欲な11年目、ナイトメアがどう動き出しているのか、気になるわけです。

Ni~ya：まず言っておくべきことは、エイベックスに移籍したことだね。ただ、どのレーベルだろうと、良い曲を作って良いライヴをする、俺たちのやるべきことはそれだけなんで。

YOMI：そうだね。今、新曲を作っているんだけど、これまでのナイトメアの雰囲気もありつつ、新しいテイストのものも生まれつつあるかな。自分たちがどれだけチャンスを掴めるかはわからないけど、まだまだ上を目指しているからさ。

Ni~ya：ま、自分たちがやりたいことをやり続けていくだけだよ。それをカッコイイって言ってもらえたら最[illegible]だよね。

YOMI：そうそう。理想は、有線とかでナイトメアの曲がかかったときに、ヴィジュアル系だとかっていう先入観なしに、カッコイイ曲だと思っても[illegible]となんで。

——ちなみに、2011年、お互い[illegible]うあってほしいな〟と思う理想が[illegible]したら？

YOMI：Ni~yaには、もっと男[illegible]さくなってほしい。それこそ、ライヴ衣装はGパンにタンクのみとか。とことん男っぽさに磨きをかけてほしい。

Ni~ya：ゾジーは…ヴォーカリストとしても作詞者としても、さらに腕を磨いてほしい。それはメンバーみんなに言えるけど、ファンを驚かせる前に、メンバーを驚かせてほしいし。あ、プライベートな面での驚きはいらないからっ。

YOMI：あ、そう？

Ni~ya：いや、なくなったらなくなったで、面白くないか（笑）。

YOMI：でしょ？ ま、ファンのことは良い意味で驚かせたいよね。まさにSHOXX！ ショックを与え続けます!!

YOMI × Ni~ya
Nightmare
People who are alike

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

LM.C

――この号が出る頃にはすでに終盤を迎えていると思いますが、この取材時点ではちょうど『～Go To The 5th Anniversary～ LM.C LIVE TOUR 2011』が始まったばかりなのですよね。

Aiji：名古屋、大阪、京都って3本やって来ましたよ。なんか、凄くイイ感じだよね。ツアーっていうもの自体、何だかんだで1年ぶりだし、やっぱりすげー楽しいなぁって実感してます。

maya：うん、最高っす！

――ちなみに、今度のシングル『SUPER DUPER GALAXY』は、ツアー終了直後の3月30日に発売ですよね。となると、注目の新曲たちは今回のツアーでもやっているのですか？

Aiji：やってますよ、タイトル曲のみだけど。ここんとこは発表前の新曲を先にライヴでやるっていうパターンもあんまなかったんで、こっちとしては初めての曲を聴くみんなのリアクションが面白いんですよ。今回のツアーは、そこもひとつの楽しみになってますね。

maya：意外にみんな、適応能力高いんですよ。反応良くてビシバシ来てます（笑）。

――さて。そんな「SUPER DUPER GALAXY」なのですが、まずは何よりもこのタイトルがとても気になります。ここ足掛け2年くらい、ことあるごとに〝宇宙を感じる〟と言い続けてきたmayaくんの想いが、ついにこういうかたちで具現化することになったのですね。

maya：いや、別にそんな〝ついに〟とか、このへんで宇宙の話にはそろそろ決着つけとこうとか（笑）、そんなたいそうなことではないんですよ。ただ、去年この2011年に向けて曲作りをしてこうってなった時に、〝GALAXY〟っていう言葉が曲のテーマになるものとして自分の中から出て来たから、今回はそこに沿って曲を仕上げてっただけの話なので。言わば、必然？

――だとすると、〝GALAXY〟という言葉に則った上で、この曲に入れていきたいと思っていた音楽的要素とは、具体的に言うとどんなものたちでした？

maya：明確にあったのは、ライヴで

BEYOND THE GALAXY!!

蝴蝶网
hudie.com

作ってくような曲にはしたくなかったんです。ひらめきとか、インスピレーションとか、意味のない連鎖の中から生まれてくるものたちのほうを大事にしたかったんですよ。で、ふと気が付いたら何かピコピコしてたなぁ、っていう（笑）。

――そうでしたか。てっきり、ピコピコしようと思ってピコピコしたのかとばかり思っていましたよ。

maya：そういう意味じゃ、今回は今まで以上に後付け度が凄いです。だから、インタビューで答えるのも難しいんですよ。結局のとこは、〝意味なんてないんですよ。全ては直感で出来てます〟っていうとこにしか行き着かないから。あ、でも長めの曲にしたいなっていうのはあったか。

――これ、そんなに長い曲でしたっけ？

Aiji：LM.Cとしては若干長いほうですかね。ウチの場合は3分台も多いし、5分超えることってほとんどないから。

maya：もっとも、長さを感じさせたかったわけではないんですよ？

Aiji：そりゃそうだよ。〝この曲、なげーな〟って思ったら、それ退屈してるってことじゃん。アウトでしょ（笑）。

――ただ、こういうダンサブルなファクターが入った楽曲に限っては、長めの尺をとるのも重要なことですよね。心地よくノっているのに、あまりコンパクトに終わられてしまうと興醒めしてしまう可能性もあるわけで。

Aiji：うん、まさにそれはそうなんですよ。

maya：要は、長めのものを長く感じさせないだけの飽きさせない曲にしたかった、っていうことですよね。つまり、〝そんなに長い曲でしたっけ？〟っていう言葉は、我々からするとホメ言葉になります（笑）。

――mayaくんが常に直感を大事にしていた一方、Aijiくんが今回特に追求していたことは何でしたか。

Aiji：みんなが一緒に歌って踊れる曲にしたいっていう点では、やっぱリズム感やビート感は細かく作っていきましたね。でも、それ以上に大事だったのは全体の空気感と雰囲気かな。こういうシ

ンセの音が多い曲なんで、打ち込み関係は凄い時間かけてやりました。

——21世紀に入って早11年。このようなご時世ですから、今や世界的にもデジタルサウンド自体はあちこちに溢れています。その中にあって、LM.Cは「SUPER DUPER GALAXY」で独自性の強いアプローチを成功させているように感じますが、勝因は何だと思います？

Aiji：そこも実は、自分ら流にするにはどうすればいいかってあんま考えてなかったんすよ。結果的に、ひとつの呼び水になったのはイントロに入ってる、mayaの作ってきたリードのシーケンスで、そこから膨らませて行く感じでした。mayaがずーっと“宇宙っぽくしたい”って言ってたんで、そこを自分なりにイメージしながら、段階的に作っては聴かせて、作っては聴かせての連続でしたね。

——その過程でのやりとりは、お互いの中で逐一しっくり来ていたのですか？

maya：そこは、時に来たり来なかったり（笑）。でも、それでいいんですよ。原形の中にある自分の宇宙から外へ出るには、自分以外の観点が加わることも重要ですからね。自分の中だけで完結しちゃったらつまんないんで、今回アレンジやミックスは先輩やエンジニアの人に託してたとこもありました。

Aiji：昔はもっと、それぞれ自分の曲は自分の曲っていうかたちで完結してたことを思うと、そこは変わってきたとこかもね。今のほうが、LM.Cとして一緒にやってる感は増してる[illegible]

——5th Anniversaryを前に[illegible]のような傾向はなかなか素敵だ[illegible]思います。なお、ギタリストとしてのA[illegible]んについても言及するならば[illegible]DUPER GALAXY」では中[illegible]てくる、あの小気味よいカッティングのパートが粋ですね。

Aiji：あれはmayaに[illegible]その場で弾いたフレーズです[illegible]

maya：そこも、ひらめきが[illegible]されているんですよ。当初もっと、ハーモ[illegible]ザーを使ったエフェクティヴな[illegible]入れようとしてたんですけど、どうもピ[illegible]来ないなって考えてるうちに、そう[illegible]「BAD FEELING」（BOØWYの名曲）だ！っ

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

LM.C

この曲を録った時の“宇宙”にはすでにいないんです。

小さな宇宙から、もっと大きな宇宙へ――。

今秋結成5周年を迎えるLM.Cが3月30日に発表するのは、その名も『SUPER DUPER GALAXY』という、新しい試みの詰まった大胆不敵なシングルだ。4月2日の日比谷野音公演[～Go to the 5th Anniversary～ LM.C LIVE 2011 YAON de FEVER FEVER!!]でも、彼らの生み出す宇宙的な波動は我々を異次元へと誘ってくれるに違いない。

Photography:SHIGERU TOYAMA(starmine)
Hair & Make-up:CHINATSU TABATA(Deep-End co.,Ltd.)
Interview:YUKI SUGIE

こしてくれました。

――デジ色の強い中、肉感的なニュアンスを持ったギター・フレーズは貴重です。

Aiji：あそこだけ、一瞬ファンクみたいになるのが面白いっすよね。カッティングってすげー奥が深いし、自分だけの考えでいったらこのBPM（＝テンポ）の中で16（ブ）で刻むなんて絶対やらなかったですけど、mayaのひらめきとムチャ振りのおかげで（笑）、自分的にもバンド的にも新しいことが出来ました。

maya：興味本位も、やりようによっては面白い結果を生むわけです（笑）。

――ただし、この曲はヴォーカル・トラックについても、半ばムチャ振り要素があれこれ含まれていませんか。ラップ的なくだりもありますし、これってかなりの難易度ですよね??

maya：自分で作ってるものですけど、確かにこれはそうですね。これに限らず、だいたいがLM.Cの曲っていうのは歌うの難しいんですよ。でも、それに輪をかけてこれは来てます。全然、歌い手に優しくない（苦笑）。

――おそらく、クリエイター・mayaは〝S〟で、歌い手・mayaは〝M〟なんでしょうねぇ。

maya：その2人が、どうも相容れてくれないんですよ。前の『LET ME CRAZY!!』を作ったあたりから、いよいよシンガーソングライターとしての意識も出て来てるのは確かで、自分でもそれは認めざるを得ないものとしてあるにはあるんですけど、その〝2人〟の間の整合性を取るには、もうちょっと時間がかかるかもしれないです。

――それだけ、成長の余地がまだあるということですよね。

maya：そうなんですよ。だから、厳密に言うと今これをツアーで歌っているっていう時点で、僕はこの曲を録った時の宇宙にはすでにいないんです。

――出ましたね、宇宙のキメ台詞が。ただですよ。この「SUPER DUPER GALAXY」はタイトルからしてダイナミックで、音も至って近未来的センスフルで、詞も断片的に見ればクールな言葉が並んでいるにも関わらず、実を言うとやや残念な点がひとつだけあるんです。

maya：何なんすか（笑）。言いたいことがあるんなら、ここはぶっちゃけて言ってくださいよ。

まとめてしまうと、意外にも宇宙がどうしたというのはあまり関係がなくて、〝未練たらしい情けない男の話〟というところに着地してしまいませんか??

maya：そうなんですよ（笑）。実はそこ、けっこう大事なんです。今までもLM.Cでは星の話とか、宇宙＝空をモチーフにした曲は「88」とか「Meteorion」とかいろいろあったと思うんですけど、そこには基本的に目に見えない未知なるパワーに対する憧れ、みたいなものがあったんですね。だけど、今回〝GALAXY〟っていう言葉を使いたいなと思った時には、詞の面でも今までの宇宙からは外に出たいと思ったんです。それでまぁ、そこから飛んでみてこれかな?って思ったところが、この〝がっかりJ-POP〟っていう領域でした（笑）。

――うわ。〝がっかりJ-POP〟って、やたらと強烈なキーワードですねぇ（笑）。先輩、これで大丈夫なんですか!?

Aiji：大丈夫だと思いますよ。だってこれ、良い意味での〝がっかりJ-POP〟なんでしょ? なんなら、アタマに入ってるシンセのメイン・フレーズだって、アレかなり〝がっかり感〟あるしね（笑）。

maya：そうそう。分かってもらえますかね、この愛さずにいられない〝がっかりJ-POP〟ならではの雰囲気を。

Aiji：そこは俺、言葉で説明されなくてもよく分かるわ。何だろう? 普通にカッコ良いだけじゃイヤ!的な感覚なんですよね。

maya：うん、ちょっとした違和感が凄い大事なんです。やっぱり、5周年に向けてすでに動き出してるっていう現実を考えたら、歌詞も今まで通りのmayaセオリーを使わないで、どこまで出来るかをやってみる必要があったんですよ。

――LM.Cはこのシングルをもって、太陽系を飛び出して外宇宙へと進路をとったわけですね。

maya：そうですね。飛び出すための勇気をくれたのが『LET ME CRAZY!!』で、ようやく『SUPER DUPER GALAXY』で外に出られた気がします。

――カップリングの「BAD SPIDER」も、これはこれでまた別の意味で新境地とい

Aiji：音としてはロックバンド然とした音で、表題曲とは全くの逆方向ですけど、気分としてはこれもライヴでみんなで盛り上がりたいなっていうところで作ってましたね。

maya：詞は、そういう意味では逆だったかな。表題曲のほうで新しいことをやってるんで、こっちはわりと今までの経験を活かしながら書きました。タイトルも、お馴染の生きもののシリーズのひとつになってるし。

――mayaくん、でもそこは少し詳しく説明しないとマズいですよ。〝今までの経験を活かしながら〟という言葉をちょっとでも違う意味で取られると、ここは大変なことになりますよ!?

maya：あ、この内容自体が自分の経験を活かしたものだって思われたらヤバいってこと? いや、そっちの経験ではないです（笑）。あくまで、詞の手法を過去に倣いましたっていうだけの話。これは、とある事件を起こした某有名人をモデルとした詞ですね。噂では、その人が入ってた暴走族の名前が〝なんとかSPIDER〟だったらしいですよ。本当かどうかは謎ですが。

Aiji：詳しいよねぇ（苦笑）

maya：書くとなったら、出来る限り調べますもん（笑）。とはいえ、表現したかったのはその事件そのものじゃなくって、最終的には〝人間とは?〟っていうとこなんですよ。

――いやはや。この「BAD SPIDER」含めて、今回のシングル『SUPER DUPER GALAXY』は非常にインパクトの強い作品に仕上がりましたね。PVや写真にしても、パンチが効いていてびっくりですよ。ついに2人に耳まで生えてしまうとは（笑）。

Aiji：こういうヘルメットあったらカッコ良くね?って、今回は曲を作り出す前から、コッチにまず取りかかってたもんね（笑）。

――4月2日の日比谷野音公演［LM.C LIVE 2011 YAON de FEVER FEVER!!］では、もしやこの姿が生で観られるのでしょうか??

maya：それはどうかなぁ。実際来たら分かりますよ（笑）。

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

TAKERU SuG

武瑠 from SuG

インタビューが終わった瞬間に、"もっと深く、彼の頭の中(考え)を知りたい"そう思った。奇想天外なアイディアで、次々と私たちを驚かせ、楽しませてくれるSuG。そんなSuGのアート・ディレクターでもある武瑠。今回、本誌初のパーソナルを試みて、より武瑠という存在に興味が湧いた。"器用だと思われると、困る"インタビューの中でそう語った彼。果たして、その真意とは――?

ココガ、僕ノ居場所

Photography:HIROE YAMAUCHI(PROGRESS-M)
Interview: YUKA SUGIE
Hair&Make-up:KAOLU ASANUMA(Deep-End co.,Ltd.)
Styling:TAKASHI AOKI
Costume:MACARONIC/STOF/TATARImokke(☎03-5466-2295)

──『見世物小屋』をテーマに、斬新なフォトセッションになりましたね。
「せっかく個人で撮影をさせてもらえる機会なので、印象に残る写真にしたかったし、そうしないともったいないなと思って。キャッチーな音楽は大好きだし、そういう音楽をやる時に不自然だから、最近はメインでは濃いメイクはしないけど、今回みたいに自分なりのアートを表現できる場があるのであれば、濃厚な世界観は見せていきたいなって。そういう落差が、楽しいんですよ」
──しかも、道化と悪徳元締めの1人2役ですからね。脳内が面白いと、アウトプットされる世界観も一筋縄ではいかないのだと思わされました。
「違うキャラを両方見せるっていうのが、ベーシックになりつつあるから。アルバム『Thrill Ride Pirates』だったら、詩的なキャラが足りないから、「口約束」を後から足したりして」
──なくても成り立つのに、どこか物足りなくなってしまうと。そういう別人格同居の源はどこにあるんでしょう。
「高校生のときに読んでいたのが、ヴィレッジヴァンガード（サブカルの殿堂でもある複合型書店）にあるすごく暗い本だったりしたんですよ。だから、根底にゴシックとか吸血鬼とかがあって、ティム・バートンさん（ゴシック・ホラー・ファンタジーを基調とした独自の世界観を持つ映画監督）の世界観も混ざりつつ、ヴィジュアル系もヒップホップも聴きつつなんで…自分でもまとめられなくて。一番影響を受けた人って誰だろうって考えても、結局浮かばないし。最近、余計わからなくなってきた（笑）」
──ただ、幼少期はまっさらな状態でしょうから、そこからダーク嗜好の高校生に育つまでに、家庭環境なり、何らかの影響があったと思うんです。
「母親は孤児院から養子にもらわれて、一生懸命勉強して看護師になった人なんですけど…どこか心に翳（かげ）がある人で。きっと、自分が生きたいように生きられなかったからなんでしょうね。そんな母親の影響もあってか、

たんじゃないかな…。人間の儚さとか切なさは、母親を見て学んだ部分があるし。あとは、父親の影響も強く受けたと思う。もともとは文学に興味のある人だけど、代々続く眼科を継ぐために医学部に入った人で。父親の勧めてくるマンガは、ハズれがなかったですからね（笑）。そういう中で、手塚治虫さんのマンガに出会って。あの人も、結構暗いじゃないですか」
──確かに、人の業や死生観を描いていますからね。
「そういう暗い中にも、愛があるし。でも、両親がちょうどいいバランスで良かったなって思う。高校生ぐらいまでは、幸せじゃない家庭に育ったって思っていたけど、今となっては感謝していますよ」
──大人になって、初めて親を理解できたり、感謝できますからね。
「うんうん。その後、小学生のときに桜井亜美さんの小説を読むようになって。物語の中に、音楽やヴィヴィアン（・ウエストウッド）の服が出てきたり、当時まだそんなに有名ではなかった蜷川実花さんの写真が表紙だったりしたんですよ。そのときから、蜷川実花さんも好きでしたね。あと、矢沢あいさん、安野モヨコさん、村上龍さん、大槻ケンヂさんとか」
──奇才ばかり、ですね。
「確かに。中でも、奇才っぽさを混ぜつつ、一番ポップなことをやっている大塚愛さんは大好き。精神的にはパンクが好きで、清春さんを知って、そこからヴィジュアル系に辿り着いた。自由にやっていいんだったら、ELLEGARDENさんみたいに、切ないパンクの要素を入れられたらいいなって。あとは、UVERworldさんやORANGE RANGEさんっぽい色を混ぜようとか。今は、当時やりたかったことの中心地点にいるような感覚はある」
──そして、それがいまやSuGっぽさになっているということですね。
「混ぜすぎて、オリジナルって言われているんだろうなとは思うけど（笑）。歌い方も、ちょっとずついろんな人を

そういう過去も、できない自分も、否定はしたくない

プを入れたかったけど、バンド仲間に〝ラップはウケないよ〟って言われたりとかもして。最初は、SuGのメンバーでさえ、ラップには抵抗感がありましたからね。SuGの最初の衣装はつなぎで、頭はコーンロウにしたかったのに、みんなに大反対されて。結果、つなぎはなくなって、コーンロウも4分の1に妥協して（笑）。自分の意見50%、メンバーの意見50%で決めようっていうのは最初からメンバーみんなで話していたけど、今にして思えば、それで良かったんだけど」
──そのへんは、お互いが信頼し合っているからこそ、なんでしょうけど。
「最近は、みんなが良い曲を作るから、俺は曲を全然作ってないですからね。そのぶん、他のことを頑張ろうって」
──量産型、しかもひとつひとつのクオリティが高いyujiさんに触発されて、みんなが意欲的ですもんね。
「そうそう。実際、作ってくる曲のクオリティが高すぎるし、カップリングにもタイトル曲になれる曲が入ってくるから。yujiなんか、俺よりもっと幅広く、音楽を聴いているし。最初は、全然曲を作る気がなかったし、コードも知らないし、ノリでギターを弾いているだけでしたけど（笑）。でも、話していて音楽のセンスが良かったから、たぶん良い曲を作るんだろうなとは、なんとなく思っていたけど」
──潜在能力を見抜いていたと。
「うん。聴いている音楽のバランスが、今とこれからに合うなと思ったし。ただ…みんな、当初は相当レベルが低かったですけどね。よく音楽をやろうと思ったな、っていうぐらい（苦笑）。頭が良かったら早々に諦めていたんだろうけど、無鉄砲でしたよ。今も、わかっていないからこそ強気な部分はあるんだろうけど」
──賢くなると、冒険ができないですからね。怖いもの知らずは武器ですよ。
「うん。最初から完璧に作れる人なんていないし。そういう過去も、できない自分も、否定はしたくないなって。ま、昔の曲が好きだっていう人もいるかもしれないけど、自信を持って今の

──常にそうであれば、ライヴの最後にやる〝定番曲〟を、SuGの場合は変えていけますもんね。
「そうそう、今の時点でも変わっちゃっているし。俺たちはバンドを組むのが早すぎたかもしれないけど、いきなり売れちゃってたら、後ろの小道具を自分たちで作ろうっていう発想にはならなかっただろうし。きっと、ブランドとかもやっていないだろうから」
──ただ、なかなか結果を出せなかった時期、危機感に押しつぶされそうになることはなかったんですか？
「いや、ありましたよ。その危機感は、今でもあるし。でも、潰されそうだから頑張るっていうか。安心したら終わりだなと思うし、安心できるわけないですね。よく〝悩みすぎだ〟って言わるし。でも、悩みながらも、ブランドをやったり、映像監督をやったり、小説を書くことで、〝居場所〟を奪われないようにしたいっていうか」
──よくMCでも口にされますけど、居場所を絶対に失いたくないと、そこまで必死に思うのはなぜなんでしょう。
「死にたくない、っていう感覚に近いかな。どうやってもサラリーマンとかできないし（笑）、なんとかしてこれで生きていきたい、って思うし」
──そして、それはSuGでなければいけないわけですよね。
「スタイル的には、絶対にSuGのやり方じゃないとイヤだとは思う。単発だったらいいけど、自分が書いていない歌詞をずっと歌っていくのはイヤだし。コラボだったらいいけど、どんなに尊敬している人でも、その人のアートディレクションでずっとやっていくのはイヤだし。そう考えると、好きな人はいても、誰かに対しての憧れはないのかもしれない。1人の監督の作品を5本観るより、俺は5人の監督の代表作を観たいし。だから、自分がアルバムを作るときは、いつもベスト盤的感覚で作りたいなと思っているし」
──そういう意味では、『Thrill Ride Pirates』は、まさにベスト盤的アルバムだと思います。
「そう言ってもらえるなら、良かった。

もなるし。ま、次のアルバムに向けて、『Thrill Ride Pirates』を上回る良い曲ができているんですけどね」
──え、もう次のアルバムの話[illegible]
「はは、そう。次のテーマもすごく面白くて。他ではやっていないことじゃないかな、たぶん。今やってい[illegible]とこれからやることが混ざらな[illegible]にするのは大変なんだけど（苦笑）」
──そのための秘策は？
「ないから、頑張るしかな[illegible]（笑）。あ[illegible]趣味がないからできるかな。他の[illegible]がゲームやったり、呑みに行く時間を、俺の場合は音楽とかブランドに費やしているだけなんで」
──仕事とプライベートを切り離したくなったりしませんか？
「そこを切り離すと、作品のクオリティが落ちて、結果、自分のストレスになるってわかっているから。実際、初期のPVに関しては悔いが残ったから、同じことを繰り返しちゃいけないって」
──その想いが、原動力でもあると。
「そうそう。あと、メンバーが作った良い曲を、アートディレクターとしてより活かすものにしなきゃダメだし」
──つくづく、生粋のクリエイターなんですね、武瑠さんは。
「それは、自分でも思う。だからこそ、バンドマン的な闘争心をもっと持たないといけないのかな、っていう悩みもあるけど。男脳でバンドのフロントマンとしてチームを支えて、女脳でアートディレクションをして…かなり行ったり来たりしてる」
──人間の脳は実はわずかしか使われていないと言いますけど、武瑠さんはかなり有効活用しています、きっと。
「いや、もっと使えるようになりたい。考えて考えてこれだから、器用だって思われるとホント困るし（苦笑）。そういう意味では、中高生のときに溜めたものって大きいし、普段からいろんなものを見て、ストックしておくことが大事なのかなって」
──それでこそ閃き力が活かされると。
「うん。そうやって生み出したものが、誰かの生きる力になっていったらいい

S COMPANY 〒168-0064 東京都杉並区永福4-19-17-1F
3-5305-3813(平日12:00〜18:00)http://www.pscompany.co.jp/sug/

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

怜我 from ViViD

Presonal Series Part.1
If I do not become a musician...

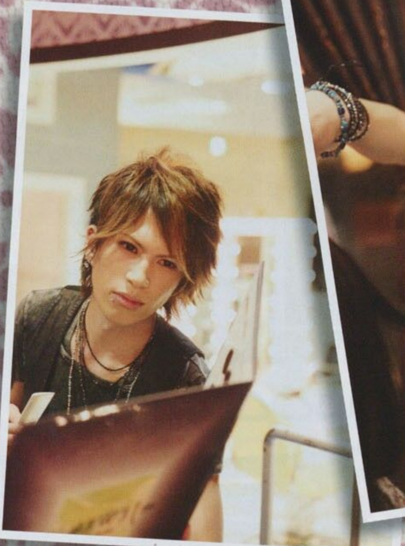
LET IT BE～なすがまま、ありのままに

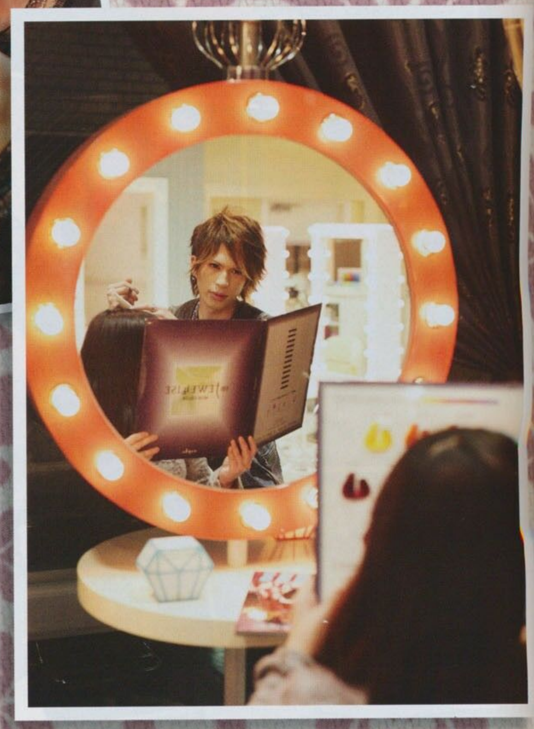
お待たせしました!!　遂に、ViViDパーソナル企画がスタートします。今回は、『もし、ミュージシャンになっていなかったら…』をテーマに、メンバーそれぞれがミュージシャンになっていなかったら就きたかった職業を体験――。トップバッターは…Gt.怜我。彼がなりたかった職業は美容師。オシャレに対して、人一倍こだわりがある怜我故、納得の選択かも。

hotography:HIROE YAMAUCHI（PROGRESS-M）
terview:YUKA SUGIE
air&Make-up:JUNKO SUGITA（FatsBerry）
tyling:KAZUYOSHI YAMAZAKI
ostume:FUGA（☎03-5786-2211）/5th（☎03-6233-9437）
ocation:FatsBerry FUBER店

蝴蝶网
hudie.com

counseling





——美容師になりたいと思っていたのは、いくつぐらいのときなんですか？

「高1とか高2ぐらいですね。兄と姉が服飾系の道に進んだこともあって、俺もそっちを目指そうかなと思って。小学生のときから、自分で髪をイジるのが好きだったんですよ。ワックスをつけて学校に行ったりして」

——それは、誰かに憧れて？

「オダギリジョーさんですね。学生のときに、こういう人になりたいなって。あと、ちょっと襟足を伸ばしたり、ベッカムヘアにしたり…すげぇミーハーでしたね（笑）」

——常に流行に敏感だと、クラスの中でも〝オシャレな人〟っていう立ち位置だったんじゃないですか？

「そう言われたい願望は、常にありましたね。中学のとき、お年玉をもらったら友達はゲームを買っていたけど、俺はシルバーアクセを買ったりして。兄と姉がとにかくオシャレだったし、兄と一緒に遊んでもバカにされないような格好をしたくて」

——ただ…同級生の中にいると、きっと浮いたでしょうね。

「みんなにツッコまれるし、めっちゃ浮いてましたよ（笑）。中学生ぐらいまでは、みんな親に買ってきてもらった服を着てたけど、俺は絶対一緒に行って自分で選んでいたし。小4のときにL'Arc～en～cielさんを好きになったんですけど、音楽だけじゃなくて、ファッション的にも影響されたと思います」

——中でも、一番シブいkenさんフリークだったんですよね。

「そうそう。すごいカッコイイと思ったし、今でも思っています」

——なぜそういう大人びた子どもだったのか、お兄様お姉様の影響以外に思い当たる節はあります？

「あぁ…昔から、同級生と同じ目線でいるのがイヤだって、すげぇ思ってたんですよね。常に自分が先に行っていたいっていうか。当時、くるぶしソックスとかも全然流行ってなかったけど、いち早く履いて行ったりしたし（笑）。それは、先輩たちとよく遊んでいた影響もあるのかもしれないですけど」

——上の世代と一緒にいるほうが、しっくりくるような感覚もあったとか。

「そうなんですよね。今もそうですけど、地元の友達でも同業の人でも、年上の人といるほうが落ち着くっていうか。あ、メンバーは別ですよ。メンバーの中で、一番大人なのは零乃なんで。俺は、喋らないときはとことん喋らないし、喋るときはバカみたいに喋るし、極端ですからね。眠いと一言も喋らないですもん。1日8時間は寝ないと、人格が壊れていくっていうか（笑）。最近は特に忙しかったりするので、玄関とかで寝ちゃったりして。ホントは、良いこととか嬉しいこととか、1日をちゃんと振り返る時間が欲しいんですけど」

——そうしないと、時間はただ過ぎ去っていってしまいますもんね。

「そうなんですよ。だから、ブログを書いていたりもするんですけどね。ただ、本当は思っていることを伝えるブログにしたいんですけど、考える時間がないと、どうしてもライフスタイルを伝える感じになってきちゃって」

——ブログに書けないとしても、自分のノートみたいなものに思ったことを書き留めていたりはしないんですか？

「あ、以前使っていた携帯に記録してました。最近携帯を換えてからは、メモ帳機能まで辿り着けなくて記録できていないんですけど（苦笑）」

——でも、そうやって記録しておけば、歌詞も書けそうですよね。

「そう思ってシンに相談したら、〝アルバムだったらいいんじゃないかな〟って言ってくれたんで。でも、いろんな立場、目線で共感できるシンの歌詞と違って、俺は自分の言いたいことを第一に考えるんで、偏っちゃう気はするんですけど…いつか挑戦したいなって」

——歌詞について、怜我さんからシンさんに提案することもあるんですか？

「たまに言いますね。〝2サビの歌詞は違ってもいいんじゃない？〟とか」

——シンさんはシンさんで、そういう意見を受け止められる人なわけですか。

「もちろん。シンは柔軟な考えを持っていますからね。それはメンバーみんなに言えるし、それが良い方向に作用していると思いますよ」

——ちなみに、これまでの人生で強く心に残っている歌詞ってありますか？

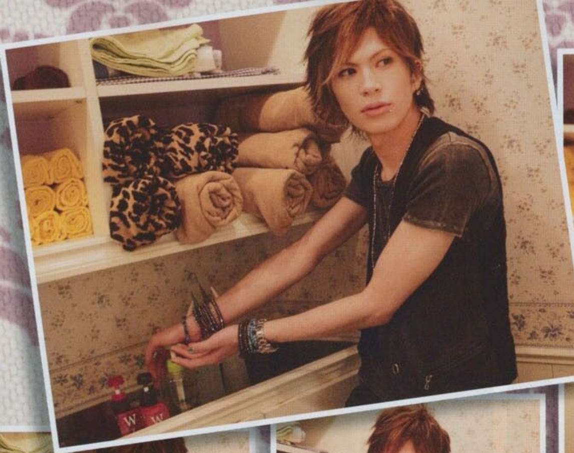
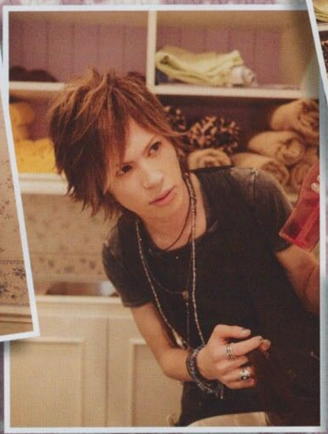
「特にこの曲っていうよりは、VERBALさん（m-flo）が好きですね。それが意味がある言葉ばかりだし、それがメロディに乗ると気持ちいいなって。かなりポジティヴなんですよ」

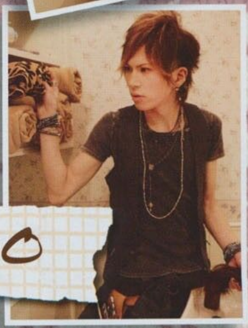
——ファッションアイコンとしてではなく、本質的な部分が好きなんですね。

「完全にそうですね。メロディとか歌詞とかのセンスが良すぎるんですよ。すげぇリスペクトしてますもん。ちなみに、今はR&Bのオムニバスを片っ端から聴いていったりして、ギター以外のツールで、こんなことを表現できるんだって感動しています」

——怜我さんの音楽的嗜好、メンバーの中でも異色なんじゃないですか？

「そうだと思います。やっぱ、ミーハーなんですよ。DJ KAORIさんのリミックスとか、全部押さえてますもん。いわばトレンドだし、そこでKARAとか少女時代とか知って。良いものは良いですからね」



shampoo

cut

——クリエイターとして、その柔軟性とか貪欲さは、きっと大事です。

「でも、そこだけだと自分がなくなるので、自分という軸はしっかり持っていないといけないんですけど」

——その点、怜我さんの絶妙なバランス感覚がバンドに良い影響をもたらしているという、自負心もあるのでは？

「あります。たとえば、ありきたりのスクラッチだったり、ありきたりなサウンドを入れても、もうダサいんです。でも、今流行ってる音がわかっていると、そう思えるし、そういう意見を言えるし」

——結果、〝ミクスチャーロック〟と括られる中でも、一際存在感を放てるでしょうし。

「そこは、常に抜きん出ていたいんで」

——幼いころも今も、〝一歩先に行っていたい〟という精神は、変わっていないんでしょうね。

「あ、そうなんでしょうね。ファッションとか髪型とか、自分の好きなものって絶対あるじゃないですか。それがいつか遅れをとってしまうとしても、流行りを取り入れることで、結果的には自分の色にもなると思うし。俺、夏でもエンジニアブーツは外さないですからね。今の時期、カーゴパンツが流行っているならスニーカーを履けばいいってわかっているのに、そこは譲れないですもん。頭の横も、ただ刈ったら普通なんで、トライバルをすげぇ入れたりとかして（笑）」

——表面は柔らかいのに、芯は太くて硬い、そんな印象です。

「芯はめちゃめちゃあるんですけど、その周りの部分は浮ついているみたいな。そういうとこ、あります（笑）。あと、この2、3年で力を抜く事が出来るようになったんですよ。特にここ1年は、さらにそれが顕著になったし。そっちのほうが楽しいし、大事なところさえ押さえておけば、普段はラフでいいなって」

——もしかして…きっちりしている自分に、疲れたのかも!?

「正直、疲れたんでしょうね。色んなことを受け止めすぎたり考え過ぎたりして、一人でずっと落ち込んでて。でも、応援してくれるファンの子のことを考えたら、だらけてなんかいられないし。それを原動力に、頑張れますからね」

——ポジティヴ変換できていると。

「ずっと、ステージ上では自分がどういなきゃいけないとか、すごく考えていたんですけど、今年に入ってからは自然とパフォーマンスできているのか、〝動くようになった〟って言われたりもするし。ホント、〝LET IT BE〟ですよね。なすがままに生きていくことで、新しい自分、いろんな自分を見せられるようになったので[illegible]ライヴも、より楽しくなりました[illegible]

——そういう怜我さんだったら、今後どういうことができそうですかね。

「いろんなことに挑戦したいと思うようになって、スノーボードの準備もしましたからね。あと、サーフィン、テニス…いろいろできたらカッコイイじゃないですか。アーティスト的[illegible]最近作っている曲が、ドラム[illegible]なくて打ち込み想定だったりして。それが認められれば、今までにないようなノ[illegible]

©PS COMPANY 〒16[illegible]-0064 東京都杉並区永福4-19-[illegible]
TEL:03-5305-381[illegible]【平日12:00-18:00】 http://www.pscompany.co.jp/vivid/

蝴蝶园
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

HERO
蝴蝶网
hudie.com
連続シングルリリース第一弾!
2011.5.18「ソプラノ」
ONEMAN TOUR FINAL「K.O」
2011.4.29 赤坂BLITZ
(問)ディスクガレージ/TEL:03-5436-9600
Information 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目7番9号 株式会社 PCI MUSIC内 HERO係
STAR FIELD
Knowledge Alliance
PCI MUSIC INC.
http://hero-izm.com/

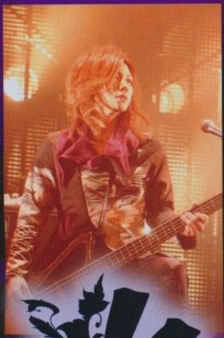
終焉～桜舞い散るあの丘で～

2011.3.3 SHIBUYA C.C.Lemon Hall

儚くも気高いその散り際には、Kagrra,のKagrra,たる美意識が色濃く滲んでいたような気がする。職人気質で、実力のあるバンドがシーンを去ってしまうことは、音楽を愛する者としては慚愧に堪えない。しかし、これもまた彼らが選んだ途なのだ。3月3日に行なわれた[終焉～桜舞い散るあの丘で～]をもって、彼らは紆余曲折を経ての輝かしき11年を自ら締めくくったのである。

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI (SHOXX)
Report & Interview:YUKI SUGIE

蝴蝶网
hudie.com



10th Anniversary Kagrra,

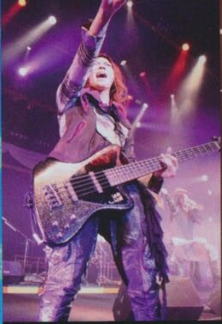
という大樹はこぼれんばかりの花々をつけ、爛漫と咲き誇り、そして綺麗なままで儚くもはらはらと舞い散っていったのだった。

2000年6月3日にKagrra,としての活動を開始して以来、〝和〟の精神に基づく音世界を構築してきた彼らが、今春3月3日の渋谷C.C.Lemonホール公演「終焉～桜舞い散るあの丘で～」をもって〝終焉〟を迎えると発表したのは、昨年11月のこと。その後、バンドはラスト・アルバムとなった『百鬼絢爛』を提示した上で、これまた最後の全国ツアーとなる「行脚 百鬼夜行～陽～」で各地を廻り、ついにこの終焉の日へと辿り着くに至った（ここは、至ってしまったという表現のほうが正しいのかもしれないが）。

当日の午後、本番を前にした丁寧なリハーサルを終えたところで、今回は各メンバーからコメントをもらうことが出来たので、まずはそれをここで紹介しておこうと思う。

『その日そこにしか来られない人たちもたくさんいるんで、今回のツアーではいつも以上に精一杯歌って来ました。結果的には、凄く実のあるツアーになりましたし、Kagrra,としては最後になりましたけど、いちアーティストとしては次に繋がる部分も見出せたなって思います。ただ、もっとやりたかったっていうのも正直な気持ちとしてありますね。今日これからのライヴに関しては、まさに戦国武将の気分で臨むことになると思いますよ。彼らも、きっと出陣する前はこんなだったんでしょうね。前に進むために、死を覚悟してでも戦に臨むというか。腹を括った上で、精一杯の気持ちをみんなに伝えたいと思います』（一志）

『あっという間に終わっちゃった反面、今回は凄く密度の濃いツアーでもありました。今日、アルバムの曲たちをやれないのが残念なくらいです。今日のライヴに対しては、今まで感じたことがないくらい不安でいっぱいですねぇ。ツアーとは全く違う流れのセットリストだから、ツアー初日みたいな感覚なんですよ（苦笑）。心配すぎて、今日は会場に来てからもずーっとギター弾いてます。リハも



蝴蝶网
hudie.com

夢イズル地で、また逢いましょう

みっちりやったんで、今日は俺もう既にライヴ5〜6回分はやっちゃってる感じです。今日のライヴが終わった時、どんな気持ちになるかは全く予測不能なんですよ。何せ、こういうことにかけては初心者なので（笑）。なんか、まだホントに終わるっていう実感がして来てないのも事実なんですけど、ここまでの10年で得てきたものを、今日は全部ぶつけたいと思います』（楓弥）

『今回は、オーディエンスに支えられたツアーだったと思います。ホント、各地で感動的な素晴らしい経験が出来ました。みんなには感謝してます。今日のライヴに関しては、妙に不安でしょうがないんですよ。Kagrra,の歴史を凝縮してあるセットリストだけに、箏もあって、アコギもあって、コーラスもあって、ワウかける曲もあって、ってやることがいっぱいだから、ちゃんと考えながらやらないとてんやわんやになりそうで（苦笑）。でも、いざ始まってしまったらあとはシナリオがあるものでもないんで、やれることをやりきるだけです。悔いのない、良いライヴにしたいですね』（真）

『今回のツアーは最初かなり複雑な気持ちで始まって、途中までは半分くらいしか実感がなかったんですよ。でも、札幌でやった時に、〝ホントにこれで終わるんだな〟って思ったら、そこからはちょっとツラかったです。後半は、ほぼ毎回泣いてました（苦笑）。だけど、このツアーはやって良かったなって思ってます。こんなに多くの人がKagrra,を愛してくれてたんだって、実感できたんですよ。幸せなことですよね。今は、何だか不思議な気持ちです。味わったことのない感覚なんですよ。確かに今日で終わりなんですけど、さっきリハやってて楽しかったんですよね。今回はオープニングの映像も作らせてもらったし、いろんな気持ちはあるけど、とにかく全てを出し切って、自分たちらしく凛として終わりたいです』（白水）

『俺は、やっとここまで来て肩の荷が降りたかな？っていう感じがしてます。去年、終焉の件を発表して以降は…ずっと苦しかったですからね。今回のツアーにと思いつつもアルバム（『百鬼絢爛』）の曲たちを生でちゃんと演奏できて良かったなと思うんですけど、正直言えばこれまでと全てが同じっていうわけではなかったし、やっぱり何かにつけ〝これで最後なんだな〟っていう気持ちになってしまってたんですよ。寂しいし、やるせないし…みたいな。でも、そういう部分でもようやくツアーが終わって自分の中では気持ちの整理がつきました。今日のライヴはもう、ホントに最後の最後だし、あとは思いっきりやるだけです。ファンの子たちの中には、まだまだ気持ち的に後ろ向きな人たちがいっぱいいるんですよね。もちろん、そういう気持ちは分かるんです。だけど、みんなも俺たちも〝ここ〟を乗り越えた上でちゃんと前に進んでかないと。そのためにも、今日一日は最高のライヴにしたいっすね』（女雅）

5人それぞれが万感の思いを秘めていたであろうこの夜、Kagrra,としてのラスト・ステージはアルバム『百鬼絢爛』収録の「百鬼跳梁」をバックに、白水が制作したというオープニング映像からスタート。それに続けて演奏されだしたのは、もう何度ライヴで聴いたか分からないほどの定番曲「恋綴魂」だ。角をつけた赤目の鬼・一志が扇子を優雅に翻すと、それに呼応するかたちで聴衆の方も扇子をひらひらと舞わせるという図は、結成当初からKagrra,のライヴ・スタイルのひとつとして長く定着して来たものでもある。

これ以降、インディーズ時代の名曲や、メジャー進出してからのシングル・チューン、ライヴで愛されてきた楽曲など、まさにKagrra,の真髄を感じさせる曲たちが、あれもこれもと演奏されていった中、本編後半に入りかけたところで〝あぁ、やはり今日は終焉の日なのだ〟と再確認させられてしまったのが、「沙羅双樹の子護唄」が深遠なる響きをもって我々に供された場面だ。

元々、一志の個人的な死生観を反映して作られたというこの唄は、もしや当初からこの日のために用意されていたのではないか？と思うほど、切に聴き手の胸へと響いて来た。天寿を全うしようとす

蝴蝶网
hudie.com

【set list】
OPENING VTR
1.恋綴魂
2.あまふらせ たんまいな
3.幻影の貌
4.白い魔手
5.凛
6.皐月
7.憶
8.雪恋詩
9.忘却の果ての凍えた孤独
10.渦
11.雫
12.沙羅双樹の子護唄
13.徒然なるままに
14.戀
15.はらいぞ
16.賽
17.神謌
18.愁

<encore>
19.うたかた
20.刹なる言葉
21.魔笛
22.桜花爛漫
23.桜舞い散るあの丘で

たのだ。

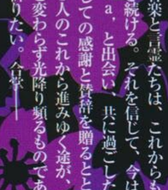
しかし、だからといってこの夜のライヴが終始しめやかであったわけではない。本編終わりにかけては、「ぱらいぞ」や「賽」にていつも通りにメンバー、オーディエンスともども盛り上がるくだりもちゃんとあり、その瞬間には誰もが笑顔をたたえていた。さらに、本編ラストの「愁」では一志とファンの間で見事な輪唱も展開され、その結束力からは強い絆を感じた次第である。

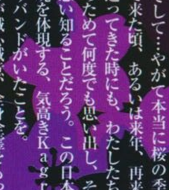
『今日どうしてもみんなに聴いてほしい曲があります』と一言添えられた上で演奏された「うたかた」でつい涙腺を刺激されたり、「刹なる言葉」でフロント陣が揃いのステップを踏んでいるのを見て今さらながらに微笑ましく思ったり、「桜花爛漫」で彼らがメジャー進出した前後のことを思い出して懐かしくなったりした目まぐるしい展開のアンコールにて、最後の最後に聴けたのは言うまでもなく「桜舞い散るあの丘で」だ。

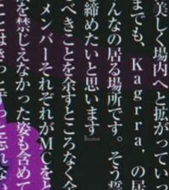
観客たちの絶唱とも言うべき渾身の歌声と、感極まった嗚咽が入り交じる中、Ｋａｇｒｒａ，がＫａｇｒｒａ，として今わの際に聴かせてくれたこの歌は、高らかに美しく場内へと拡がっていった。『いつまでも、Ｋａｇｒｒａ，の居る場所がみんなの居る場所です。そう誓って、今日も締めたいと思います』

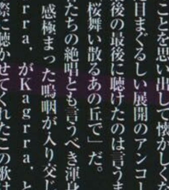
やるべきことを余すところなく全うした後、メンバーそれぞれがMCをとりながら涙を禁じえなかった姿も含めて、この夜のことはきっとずっと忘れないと思う。そして…やがて本当に桜の季節がやって来た頃、あるいは来年、再来年に春が巡ってきた時にも、わたしたちはまたあらためて何度でも思い出し、そして深く思い知ることだろう。この日本には和の魂を体現する、気高きＫａｇｒｒａ，というバンドがいたことを。

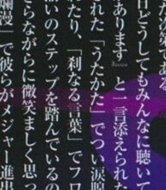
彼らが誠心誠意、全身全霊をもって遺した音楽と言霊たちは、これからも永遠に響き続ける。それを信じて、今はＫａｇｒｒａ，と出会い、共に過ごした日々に対しての感謝と賛辞を贈るとともに、彼ら5人のこれから進みゆく途が、これまでと変わらず光降り頻るものであることを祈りたい。合掌――











Bofore the Stage

蝴蝶网
hudie.com

夢に向って…

葵、2011年初のシングルは、Jリーグ・モンテディオ山形の、チーム初の年間公式テーマソングだ。「夢の彼方へ」というタイトルどおり、夢へと向かう前向きな想いが綴られた歌詞と、青空が広がるイメージの爽快感溢れる楽曲は、今までの葵のイメージとは少し異なると感じる人も少なくないかもしれない。これまでにもCMソングや主題歌などを手掛けてきた葵だが、今回はここに、どんな想いを託したのだろう？

夢の彼方へ

葵 Aoi

――今回の「夢の彼方へ」は、Jリーグ・モンテディオ山形の、チーム初の年間公式テーマソングだそうだけど。まず、どうして山形のチームのテーマソングを葵くんが手掛けることに？

「日々、いろんな人との出逢いって不思議だなって思ってるんですが、今回もそんなひとつの出逢いがきっかけだったんです。まず、自分の中で2011年は、初心に戻ってみようという考えもあり、自分で何か出来ることを1から探してみようと思ったんです。そんなとき、今回の出逢いがあったんです。個人的に山形って、前々からすごく惹かれる場所でもあって、行ってみたかったんです。ツアーでは北の方もよく行ってたんですけど、山形と秋田だけは行ったことなかったんですよ、いつも通るだけで。いつかゆっくり行きたいなぁって思ってたら、事務所の社長が山形出身で、1月に連れてってもらえることになって。そしたら、けっこう感動したんですよね、山形のいろいろなところに。食べ物だったり景色だったり。人も温かかったし。そのときはまだ、今回のお話はなかったんですけど、その後、また別の機会にモンテディオ山形の関係者の方と一緒に食事する機会があって、僕も高校の頃サッカーやってたので興味を持って聞いてたら、チームのことを詳しくお話してくれたんです。モンテディオ山形のチームのコンセプトは、地域密着型というか、地域全体でチームを盛り上げていこうということらしく、選手とサポーターみんなでゴミ拾いとかもしているらしいんです。そこにすごく共感したんです。僕ももともとはインディーズシーンで、応援してくれるファンのみんなと一緒にバンドを盛り上げようと、コツコツ一緒に作り上げてきた仲間だったんで、すごく共感出来たんですよね。僕は今、ミュージシャンだけど、その立場で何か出来ることはないかっていう話になったとき、僕の音源を聴いて気に入って下さって、じゃぁ、公式テーマソングを作ってみてくれないかって話になったんです。なので、僕の出来る応援の形として、CDの売り上げを、モンテディオ山形の強化資金に使っていただくことにしたんです」

――それで「夢の彼方へ」を作ったの

「はい。でも、作ることが決まって、モンテディオ山形サポーターのみなさんにもそれが伝わって、サポーター方も気になってくれたみたいで、僕のことを調べてくれたらしくて。で、そのことをブログなどに書いてくれてたんですけど、たまたま観てくれたのが「君の声と約束」のPVだったみたいで（笑）」

――あらま。あのPVはたしか、監督さんがヴイジュアル系に対する固定概念があった人だったから、随分と濃い感じのシチュエーションになったって話してたPVじゃなかったっけ？

「そうなんですよ、そうなんですよ！　教会ちっくなセットの中で羽が振ってて（笑）。まさしくそのPVです（笑）。サポーターの方がそれを見ちゃったから、"こういうアーティストさんみたいです。どうなるのかなぁ？"みたいな、ちょっと不安なコメントが上がっていて（笑）。きっと、グラウンドに血の雨が降ったらどうしよう……って思ったんだろうなって（笑）。いやいや、ご心配なさらずに……って感じだったんです（笑）」

――あははは。でも、「夢の彼方へ」は爽快感ある応援ソングになったよね。

「はい。安心してくれる楽曲に仕上がったんじゃないかと思いますね（笑）。今回楽曲は作家さんにテーマを投げて書いて頂いたんです。そこで上がってきた曲を、僕とモンテディオ山形の関係者の方とスタッフとで選んでいったんです。それでこの楽曲に決まり、そこに僕が歌詞を乗せていったという流れでした。モンテディオ山形のチームカラーがブルーということろや、2011年のクラブスローガンが【粘強-NEZZUGU-】であるということも頭の中に入れて、それを上手く曲の中に入れていけたらいいなと思ったんです。そこに葵というアーティストの個性も加えていけたらいいなと。歌詞的には、絆とか友っていうワードを元に書き上げていきましたね。なので、サッカーに限らず、入学や卒業で出逢いと別れを経験する時期でもあるので、そんな人たちにも共感してもらえる1曲になったんじゃないかなと思います。友を思い浮かべてくれるのもいいし、家族や自分の大切な仲間を思いながら一緒に歌ってもらえたら嬉しいですね」

――葵くんはこれまでにもCMソングや主題歌を歌ってきてるけど、今回はまたそことは違う感覚だったりしたの？

「ですね。少し違いを感じました。やっぱりテーマが違うとそれだけで大きく違うというか。また少し違った感覚でしたね。今回はみんなで歌ってくれるような景色をイメージして歌いましたね。みんなで歌うときに歌いやすいように、解りやすくて歌いやすい歌詞にしたんです」

――なるほど。ずっと走り続けているような打込みのドラムとバンドサウンドとの相性がいいよね。

「はい。そうですね。グランドにこの曲が響きわたってくれるのが今から楽しみですね。実は、今度2万人の観戦者を前に歌うんですよ！」※このインタビューが行われたのは、2月末です。

――始球式的なイベント？

「そうですそうです。すごく楽しみなんです。次は、チームが優勝したときに歌えたらいいなぁと思いますね」

――2曲目の「涙リフレイン」は？

「この曲は、以前、化粧品ブランドとコラボしたときに購入者にプレゼントした楽曲なんです。ライヴではテッパン曲でもあって、ファンの人からの人気も高いんです。それもあって、じゃあ、せっかくだから今回音源にしてみようかってことになって、カップリングにしてみたんです」

――これはまた、男の子の切ない心情を歌った曲だよね。

「そうなんです（笑）。男はこんな想いでいるんだよっていう歌詞です。っていうか、今気付いたんですけど、「夢の彼方へ～涙リフレイン」って繋げて読むと、結構悲しい意味に受け取れますね……」

――無理に繋げる必要なくない（笑）？

「そうですね（笑）。繋げるとしたら、「涙リフレイン～夢の彼方へ」かな。そっちだったら希望がありますもんね！」

――どうしても繋げたいんだ……（笑）。

「みたいですね（笑）。でも、実際はまっ

Interview:NAOKO TAKEICHI
（問）http://aoism.com/

たく繋がってませんので！「涙リフレイン」は僕らしさがすごく出た1曲になっているんじゃないかなと思いますね。この情けない心情を曝け出すっていう、ヴィジュアル界の槇原敬之を目指してますから（笑）。ヴィジュアル系ってあんまりそういう男の弱い部分を歌った歌ってないですよね？」

――そうだね、そういうときはみんな女性目線の歌詞を書いたりするよね。

「たしかに。そうですね。男は女の気持ちをなかなか理解してあげられなかったりしますけど、それは逆もありで、本当は強がってても、こんなに切ない想いをしているんだよ…っていうところを知ってもらえたらいいなと思いますね」

――でもね、〝君はすぐに僕を忘れ、他の誰かと共に生きてく〟っていう歌詞には、〝女子だってすぐには忘れられません！〟っていう言葉が返ってきそうだけど。

「あ。女心わかってねぇな的な（笑）。すいません（笑）。でも、絶対に女子の方が振り切ったら振り返らないんじゃないかなと思うんですが、違いますか（笑）？なかなか男という生き物は立ち直れない生き物で、結構引きずったりするんですよ（笑）。だから、女子は強いんです！っていう曲でもありますね（笑）。これは、「MI DA RA」とか「Surrender Love」みたいな作り込んだ僕じゃなく、それ以前に書いたごくごく自然体な1曲でもあるので、素顔に近い僕を感じてもらえるんじゃないかなと思います。「MI DA RA」みたいな曲もみんな好きでいてくれるんですけど、何を誤解されてるんだか、〝もう「MI DA RA」みたいに脱がないで下さいね！〟っていうお手紙貰ったりするんですよ（笑）。いやいや、脱いだ覚えはないんだけど……みたいな（笑）。まぁ、ちょっと「MI DA RA」のときは女子との絡みもありましたからね、それが嫌だったのかなと（笑）。でも、ここではっきり言っておきます。脱いでません！」

――あははは。でも、自分がすごく素直に向き合った曲をファンの人が愛してくれてるってのは嬉しいよね。

「そうなんです。アルバム『ONE』の中で1番人気が、母に書いた「あなたへ」だったんです。それもすごく嬉しくて。これからもみんなに愛してもらえる曲を歌っていけたらいいなと思います」

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

ロポックル限定LIVE

『PIXY8～こーすけが生まれた日～』

2011.2.26　SHIBUYA O-WEST

Kra

になったKraが再び動き始めた。まずは2月26日、渋谷O-WESTでファンクラブ限定ライヴを敢行。これは、景夕の誕生日を祝う、毎年恒例のライヴだ。ポート・ギターにタイゾ(ex.ゾロ)を迎え、ファンクラブ限定ならではの和気藹々とした雰囲気たっぷりの時間を会場全員で楽しんだ。今年は結成10年にあたる彼らだが、一からやり直すような気持ちで、変わらず前へ突き進むとか。その姿をしっかり追いかけたい。

Photography:REISHII EGUMA　Report:MIYUKI MURAYAMA

開演前から、ファンクラブ会員のワクワクする熱い想いが、会場いっぱいに広がっているようだった。そんな期待感に応えるように、おなじみのSEと共に幕が開くと、そこにいたのは本日の主役、景夕。大歓声が響きわたるフロアへ、景夕が靖乃の真似をして、くわえていたバラを放り投げた。思わず漏れる笑い。そして笑顔。そこで、3人になったKraに対するわずかな不安など、一気にどこかへ飛び去ってしまったように思う。ファン想いの、そしていつもユニークな彼ららしいオープニングになった。

結良、靖乃、そしてこの日サポートを務めたタイゾがステージに揃い、1曲目は「LOST NUMBER」。いきなりウネるようなサウンドが襲いかかってくる。さすがに若干の緊張はあったかもしれないが、それをも吹き飛ばすように「ヱン」が続く。久々のステージの感触を楽しむように、結良はいつも以上にイキイキとリズムを刻み、靖乃はもちろん笑顔全開だ。「赤い靴の少女と玩具の機関銃」で、景夕がタイゾと目を合わせ、4人でしっかりとステージを作り上げていく。

わずか3曲ですっかり熱くなったところで、最初のMCが始まった。が、このMCが長かった…こんなに喋り続けていいのかと、見ている側が心配になるくらい、長かった（笑）。思い切りリラックスした様子で、景夕を中心に結良も靖乃も自由に喋り、そこへファンもテンポよく掛け合う。ファンクラブ会員ならではのノリのよさだ。タイゾがついて来られているのか!?という心配をよそに、彼は無言のままサムアップ。しっかり楽しんでいる様子だ。

すっかりくつろぎきった空気の中、どうやって曲に戻るかと思ったが、そこは強引に（笑）、「ツバメ」へ。景夕が全身を使って振り絞るように歌い上げる。MCでも冴えわたっていた靖乃だが、プレイでも瑞々しいようなリズムを叩き出した。「会いたい理由」からは、「上海遊戯」と、ムーディな世界を繰り広げ、タイゾもギター・ソロで魅せる。サポートをすることが決定したのがかなりギリギリになったとのことだが、全員で安定感のある演奏を聴かせ、曲の世界を作り上げた。

と控えめになったものの、それでも自由奔放さは変わらない。特にお立ち台の上で、例えではなく実際に地団駄を踏む景夕の姿は、誕生日を迎え●歳になったと思えないほど、愛らしいキャラクターのように見えた。

DVDの発売やツアーなど、嬉しいお知らせの後には、〝Kraファンの頭のおかしさを（タイゾに）見せつけたい〟と、終盤へ向けて盛り上げていく。「闇夜のgene」でガラッと世界を切り替えたかと思うと、「愛舞屋」では歌詞を忘れるというハプニングも飛び出したが、〝モンスター！〟の呼びかけに〝ハンター！！〟と応え、「MH」が始まると、会場中が熱気を帯び始める。地を這うようなベースを黙々と刻む結良に対し、タイゾも頭を振って激しくプレイ。靖乃のドラムは、突き進むようなサウンドを後ろから力強く支える。そして景夕の荒々しい声、ファンのかけ声が響いた。全員で「artman」を歌った後は「明日屋」。〝何も変わってないところを見せてくれ！〟という景夕の言葉に、ぎゅうぎゅう詰めのファンが揺れ動く。何も変わっていないのはメンバーも同じ。本編最後を「ショータイム」で締め括ると、熱気でいっぱいになったステージをメンバーは後にした。

そしてサプライズはアンコールで待っていた。なんと言ってもこの日の主役は景夕。と言うことで、バースデーケーキをかたどった帽子をかぶった景夕に、ケーキを運んできたのは、なんとなんと景夕のご両親。それも着ぐるみを着ての登場だ。これには思わず景夕も絶句（笑）。その姿にファンは大喜び。

アンコールの最後には、「A bientot」が演奏され、〝また近いうちに会いましょう〟と約束し合った。さらに曲が始まる前には、〝舞っちょと約束したようにKraをもっと上に上げていく信念は変わらない〟と、真面目な声も聞くことが出来た。これから変わっていくことがあったとしても、KraはKraらしくあり続ける、それを信じていこう。

そんな熱い想いで会場がひとつになったところで、曲が終わると恒例の顔面パイ投げ。景夕の顔面にクリームたっぷりのパイが投げつけられる。笑いと笑顔の

list】

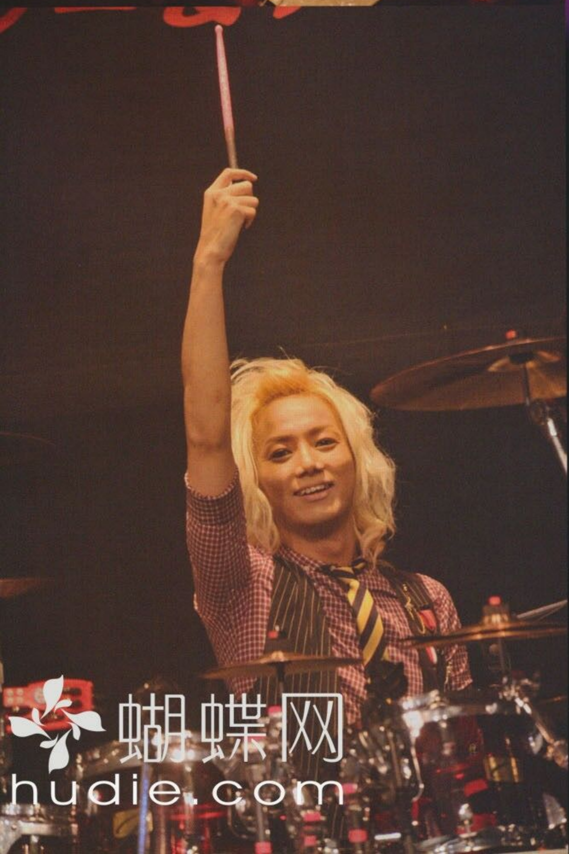
OST NUMBER
ン
い靴の少女と玩具の機関銃
バメ
いたい理由
海遊戯
ノクローム
夜のgene
舞屋

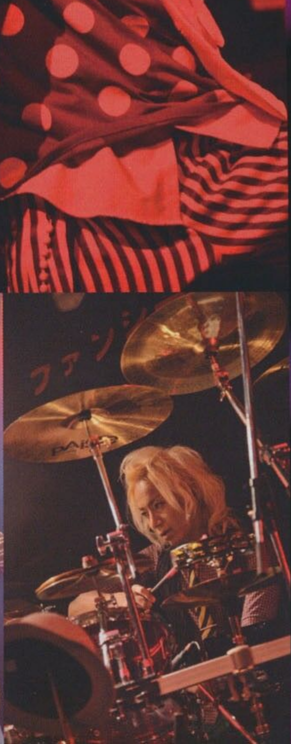
10.MH
11.artman
12.明日屋
13.ショータイム

<encore>
14.五月雨
15.無垢と無択と

16.A bientot

恒例のライヴ、新たなKraが始まった日。





蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

ドレミ團

Don't Let Me Down

FIRST CONCERT IN TAIWAN

Live at The WALL TAIPEI 2011.2.20

2002年に、結成されたドレミ團。ドレミ團としては結成丸9年。現メンバーでの活動は、2010年の1月23日のユウの正式加入からとあり、やっと1年が経ったというところである。そんな彼らが、結成9年目にして初の海外ワンマンライヴを行なったと言う。今回は、2011年2月20日に、『ドレミ團 FIRST CONCERT IN TAIWAN』と題されて行なわれた初の海外ワンマンについてじっくりと訊いた。

Interview:NAOKO TAKEICHI

──そもそも今回の台湾ライヴはどういう経緯で決まったの?

マコト:いや、結構前から来ないかって誘ってもらってたんですよ。自分たち的にも行きたいっていう思いはあったんで、ずっとタイミングだけの問題やったんです。対バンで行くか、ワンマンで行くかも迷ってたりもしたし。でも今回、ちょうどいいタイミングで声をかけてもらったんで、じゃぁ、ぜひ、伺わせて下さい!ってことで、行って来たんです。

──反応的にはどうだったの?

零華:それが、めちゃめちゃ良かったんですよ! さすが待っててくれただけのことはあるというか。ほんまにウチら、呼んでもらったとはいえ、まったく未開発の土地やったし、まったく想像がつかなかったんですよ。

マコト:そうそう。きっと日本語も

一生懸命言葉覚えて行ったし、ノセ方もどうしたらいいか、かなり考えてたんですよ。そしたらね、ほとんどの人が日本語で一緒に歌ってくれて、びっくりしたんです! 僕の方がビビりましたもん、その景色に。せっかく台湾語でMCしようとして完璧にしてったのに。

──言ってごらん。

マコト:無理無理無理! もう無理やって(笑)! もうそんなんすっかり忘れたわ(笑)。言ったはなから忘れたわ!っていうかな、せっかく中国語でMCしても、ファンの人に日本語で"頑張って!"って言われるんやもん(笑)。それ、めっちゃ切ないでしょ(笑)。ま、通じてるってことだからいいんですけどね。

零華:僕も調子に乗って、"オマエら日本語解るんやったら下ネタ言ってもええか?"って日本語で言うたら、日本語で"ダメ~"って返され

──あははは。すごいね(笑)。キャパはどれくらいのハコだったの?

マコト:どれくらいやろ? めっちゃ綺麗なとこやったんですけど、アストロホールとかみたいな感じかな?

KEN:めちゃめちゃ奥行きがあったよね。

零華:うん。クアトロとかにもちょっと似た感じというかね。

マコト:かなり集客も良くて、次から日本のツアーにまぎれさせて、普通にツアーの一環として廻ってやろかなって思いましたもん(笑)。そうちょいちょい行ける場所でもないのが残念なんですけどね~。

龍:本当に待ちわびてくれたって感じでしたからね。

ユウ:すごく嬉しかったです。その熱い想いが伝わってきて。

──ドレミ團も台湾の人からしたら外タレだからね!

いVIP待遇だったんですよ! 今回は招待してもらったってのもあったんで、すごい待遇が良かったんやと思うんですけど、何処に行くにも送迎の車がどこからともなくピューってやって来て、ホテルまで乗っけてってくれるんですよ! いろんなところへも連れてってもらったし。

──台湾住んじゃえば?

KEN:あはははは。

マコト:住んだらそういう待遇されなくなっちゃうから、たまに行くのがいいね、やっぱり(笑)。

ユウ:お水飲めないから住むのは大変。

──そっかそっか(笑)。

零華:でも、ウチらが何も考えずに楽しめたのは、通訳さんが居てくれて言葉に不自由がなかったからなんですよ。一瞬、通訳さんが居なくなって、移動してる車の運転手さんとウチらだけになった瞬間があったんで

ですもん。一瞬KARAになった気分でしたよ(笑)。

──あははは。肝心のライヴはどうだったの? 自分たち自身のテンション感とか。納得いくライヴが出来た感じ?

マコト:なんかね、メンバーの知られざる一面が覗けたりするのかも!って楽しみにしてたんですよ。例えば、KENさんやったら日本とは全然違うテンションのKENさんになって、めちゃめちゃ弾けるとか、あるんかな?って思って注意して観察してたんですけど、日本よりもテンション低かったです(笑)。

KEN:あははは。いやいや、低かった訳やないんですよ、自分的にはそんなに普段と変わらんつもりやったんですけど(笑)。マコトくんのMCは通じるのに、僕のMCは通じなかったんですよ(笑)。そこは若干凹みましたね(笑)。

単純に発音の問題なんかな? マコっちゃんのMCにはみんな日本語で返してきたりしてたのに、KENさんのMCにはキョトンとして首かしげてたもんね。

KEN:あれは結構凹みましたね(笑)。

零華:龍さんのMCは、いちいちウケけてましたよ。

──なんて言ったの?

龍:"ショウロンポウ!"って。

──ベタすぎ。外タレが"すし~!"って言うのと同じだよ、それ…。

零華:いいじゃないっすか! 俺、好きな外タレが"すし~!"って言うたら、"おぉ~っ! すしって言うた!"って嬉しいですよ!

マコト:わかるわかる!

──わかるんだ(笑)。あははは。セットリストは?

マコト:せっかく海外やし、激しく選曲を変えてみようと思ったんですけど、向こうのスタッフの人に、日本のまんまの方が絶対喜ぶって言われたんで、ここ最近やってる感じのセットリストにしましたね。ライヴ終ってから握手会があったんで若干短めなセットリストでしたけどね。衣裳もせっかくやから特別ヴァージョンにしてみよかなって思ったんですよ。

零華:チマチョゴリ着てみるとかね。

ユウ:それ国が違いますよ(きっぱり)。

零華:あ……。それとか、羽織袴にしてみよかとか、日本の国旗をあしらった衣裳にして日本アピールしてみよかとか、いろいろ考えてたら、"いつものままがいいです"って言われて(笑)。

──あははは。そういうサービスは必要ないと(笑)。

龍:そうですね(笑)。みんなネットとか雑誌とか見て、今のドレミ團を知ってるから、そのままを見たいって思うみたいで。お客さんにキョロキョロ見られるというより、こっちが物珍しくてキョロキョロしちゃいましたからね(笑)。とにかく、日本語も上手やし、ノリもいいし、何処で覚えてるんやろ?って思いましたね。本当にライヴもすごく盛り上がったんで、すげぇ~って思いました。

ユウ:僕は何が衝撃だったかと言う

【セットリスト】1.タイムマシン　2.夢幻洋灯　3.ザ・ファウスト　4.ハーメルン　5.ド・ヲ・ル　6.蝶　7.ガアルハント　8.黒イ華美トー縷ノ望ミ　9.傘月　10.彼岸花　11.壊想サアカス　12.ナミダ雲　13.雨のプラットホーム　14.別離唄　15.Paraphrenia　16.スロウモーション　17.ダウンバイロウ　18.懸想遊戯　EN1.あおぞらジェネレイション

系のランジェリーがすごく安い値段でいっぱい売られていたことでしたね。それと、個人的に初海外だったんで、すごいドキドキしました。

―あれ？ ドレミ團って初海外だったんだっけ？

マコト：初だったんですよ！

零華：海外言うたら、北海道と四国と九州しか行ったことないですからね。

ユウ：それ海外じゃないですよ（きっぱり）。

零華：え!? そうなん!?

―………。

龍：僕、飛行機初めて乗りましたもん。

零華：だから怖い怖いって言ってたんで、どんな顔すんのかな？ と思って見てたら、めっちゃ熟睡してるんすよ～。めっちゃおもんない（おもしろくない）と思って、離陸の時、〝龍さん！ 飛行機飛ぶで！ 飛ぶで！〟って言ったんですけど、全然起きないんですもん。

龍：めっちゃ寝れたんですよね（笑）。あ、すいません、話それちゃいました。

ユウ：あははは。でも、本当にライヴ自体はすごく盛り上がってくれてました。歓声がすごかったんですよ。日本みたいに名前を呼ぶとかじゃなくて、ゴォ～っていう固まりみたいな歓声で、ゾクゾクしました。本当に全身で楽しもうとしてくれてる感じが伝わってきて本当に嬉しくなりました。

零華：ノリの話なんですけどね、ヤツら（台湾のファンの子たち）は自分を絶対に曲げないですよ（笑）。みんなで同じ方向に揺れる曲とかあるじゃないですか。そういうとき、自分が他の人と逆の動きしてても、合わせようとしないんですよ！ 絶対に曲げない。俺が方向を合わせそうとしても、自[illegible]始めた方がルールなんです[illegible]絶対に合わせませんからね[illegible]れとか、1番が逆だったみたいだから、2番では合わせようとす[illegible]と思って見てても、絶対に曲[illegible]んですよ。ずっとズレたまま1曲[illegible]ますからね。さすがですよ、あの真っ直ぐな精神は（笑）。

マコト：純粋に楽[illegible]ですね。今年もいろいろと楽[illegible]企画を考えているので、楽しみにしていて下さい！

(問) 〒150-0002東京都渋谷区渋谷3-26-15日通渋谷ビル3F「青空倶楽部」
TEL：03-5485-5678　http://www.doremidan.com/

蝴蝶网 hudie.com

Passion&コイガオカ
Dacco

2005年の7月。Daccoは、LidaとYURAサマの目が合ったことをきっかけに結成された。そ、そんなことで!? そう。人生とは案外そんなもんである。2人がDaccoとして歌い始めて丸5年。平均、1年に1枚というゆっくりペースで音源をリリースし、マイペースにさまざまな見せ方のコンサートにチャレンジし、唯一無二な世界を作り上げてきている彼ら。そんな彼らから新しい音源が届いた。

Interview:NAOKO TAKEICHI

蝴蝶网
hudie.com

——随分とご無沙汰なので、いつぶりの音源リリースなのか忘れましたよ。

YURAサマ：あははは。ほんまですよね（笑）。僕らも忘れかけてますもん（笑）。っていうか、そもそもDaccoは、1年に1枚のペースでリリースして、その1枚をその1年のテーマとして活動するというスタンスなんですよ。ということで、2010年のテーマは、【フレッシュ＆エナジー】やった訳です。んで、そこからの、今年2011年は、まさに新たな音源でもある【Passion】こそが、今期のテーマとなる訳です。

——迸る感じね、2011年。同時にリリースされる「コイガオカ」の方は？

YURAサマ：「コイガオカ」の方は既存曲をバンドアレンジに変えて、新たにレコーディングしたモノなんです。僕ら、2010年に一度バンドスタイルでコンサートをやったんですよ。そのときの流れを引き継いで、今回バンドアレンジで既存曲をレコーディングし直して音源として残そうじゃないか！　ということで、今回「コイガオカ」「掌〜たなごころ〜」「あの日のまま」をバンドアレンジにして1枚にまとめてみたんです。「コイガオカ」とかをバンドアレンジ曲に選んだのは、やっぱ最初の方の曲ということもあり、Daccoの原点という、いわば、Daccoの代表曲的なモノをアレンジしてみたっていう感じなんですよ。なので、純粋に2011年度のテーマはというところで言うならば、【Passion】なんです。

Lida：この【Passion】というテーマ自体が浮かんだのは、去年の年末くらいやったと思うんですよ。

——【Passion】というワードが浮かんだきっかけみたいなのってあったの？

Lida：いや。なんとなく。

——全然【Passion】が漲ってない……。

Lida：今はね（笑）。ちゃんと本番になったら漲るんですよ！　自然な流れの中から自然に浮かび上がった言葉やったんです。前回『フレッシュ＆エナジー』というテーマを掲げて1年やってみて、Daccoのコンサートの在り方っていうものが少しずつ変わっていったんですよ。どう変わったかというと、人間誰しもが歳を取るじゃないですか。ということは、若い頃よりもだんだん元気が無くなっていくということでもある訳で。そうならないように、若いときよりも、より頑張らないといけないんですよ。つまり、年齢を重ねると同時に、反比例して元気にならないと思ったんです。今まで以上に積極的に攻めていくことが必要になってくるんですよ。生き方もライヴも同じで、より出していかないといけないと。その最たるものが情熱、つまり【Passion】なんじゃないかと。そこから2011年のテーマに【Passion】を掲げていこうということになったんです。

YURAサマ：最近ほんまにリーダー（Lida）のコンサートでの様子がおかしいんですよ。むちゃくちゃしおるんです。よりアグレッシブになったという言い方しときましょかね（笑）。しかし、今の話を聞けば、そこはちゃんと先に繋がる【Passion】やったんやと思ってもらえると思います。

2011年のテーマは【Passion】です!!

蝴蝶网
hudie.com

——表題曲の「Passion」こそ、バンドサウンドでアレンジしたヴァージョンを聴いてみたいと思ったよ。

Lida：まあ、そこはまたゆくゆく（笑）。まずはアコギと2人の唄っていうスタイルがDaccoな訳ですから。

——まずはそこからね。「Passion」は、勢いのあるロックだよね。少し和風なテイストもふくまれている意図は？

Lida：そうなんです。今回ね、衣裳のテーマも【Passion】なんですが、そこからも感じてもらえるように、ちょっと無国籍なんですよ。その無国籍な感じを楽曲の中でも表現したくて、和風なテイストを入れてみたんです。楽曲と衣裳のリンク具合も面白いんじゃないかな。

YURAサマ：今までとはちょっと違う世界観の1曲になったんじゃないかなと思ってますね。

Lida：和のテイストを用いたことで、奥深い情熱を感じてもらえる1曲になったんじゃないかと思いますね。歌詞も叫んでますね。やっぱせっかく【Passion】っていうテーマがあるので、そこを一生懸命叫んでいこうかと。

YURAサマ：一生懸命、Passionと情熱って叫んでくれているんで良かったなと（笑）。2曲目の「ダッコデ・アミーゴ」は僕が作詞作曲した楽曲なんですけど、そっちもテーマは【Passion】だったんで、歌詞の中にPassionとか情熱っていうワードを入れるべきかどうかすごく悩んだんですよ。でも、きっとリーダーが入れてくるだろうと思い、自分の歌詞には敢えてそのワードは使うのやめたんですよ。

正解でしたね（笑）。

——Lidaさん曲に対して、YURAサマ曲の「ダッコデ・アミーゴ」は、手放しの情熱を感じるよね。

YURAサマ：ですよね（笑）。もうね、僕の中で情熱、Passionときたら、【アミーゴ】だったんです（笑）。解りやすいでしょ（笑）。

Lida：サンバやろ（笑）。

YURAサマ：まぁ、サンバになってないですけど（笑）、とにかくアミーゴなノリで攻めてます。歌詞は歌詞でアミーゴアミーゴ言うてますからね（笑）。とりあえず、アミーゴって言うとけばいっか。みたいな（笑）。そんなノリだけで書きましたね。

Lida：なんともまぁ、取材のしがいが無いというかね（笑）。

——でも、こういう手放しな曲を説明させる方がナンセンスだからね（笑）。

YURAサマ：そうそう（笑）。でもね、いろいろと調べたんですよ。アミーゴってどういう意味なんやろ？って調べてみたんです。スペイン語で友達なんですよ、アミーゴって。〝ヘイ！兄弟！〟っていう感じのノリの言葉なんですよ。さらに、サンバってなんだ？と思って調べたら、ブラジルの方の音楽らしんです。その昔、奴隷の人が楽器の無い中で打楽器だけで生み出した音楽がサンバらしいんですよ。なるほどなるほどと思った訳です。そこで、〝ん？　ほんなら「マッケンサンバ」ってなんやねん？〟ってとこに行き着き、日本におけるサンバの在り方を調べたんですよ。

——随分と深く調べ込んだんだね（笑）。

YURAサマ：そうなんですよ（笑）。結果、止まらなくなっちゃって（笑）。日本におけるサンバは、もう本来の意味とは違う、お祭り的なノリの音楽としての認識になっているんですよね。なので、より祭り感を出すには、タイトルを「ダッコデ・サンバ」にしようと思ったんですが、アミーゴっていうワードから生まれた曲でもあったし、そこは原点を尊重しようと思い、「ダッコデ・アミーゴ」にしたんです。で、その多国籍という面に関しても、一応この曲も多国籍な一面もちゃんと含んでいるんですよ。アミーゴはスペイン語なんですが、歌詞の中に出て来る〝セラヴィ〟はフランス語ですから（笑）。いろんな国の言葉を入れてみたんです。間奏で何語か解らない言葉を呟いてるんですけど、そこは、いろんな国の言葉で〝1・2・3・4・5〟って数えているんです。案外深いでしょ（笑）。

——たしかに、私たちって1〜10くらいまではバイリンガルだもんね（笑）。

YURAサマ：そうです、そうです（笑）。

——ここまで人によって【Passion】の表現の仕方が違ってくるって面白いよね。

YURAサマ：ですね。リーダーはよく恋愛の歌詞書くんですけど、僕は苦手やったりしますからね。そこまで経験豊富じゃないんで、書くこともあんまりないというか。あんまりリアルに自分の恋愛を歌詞には出来なくないです？

——Lidaさんの恋愛の歌詞は、経験豊富だからというより、妄想だからいろんなパターンが書けるんでしょ？

Lida：何もそんなにハッキリ言わなくてもいいじゃないですか（笑）！　まぁ、そのとおりですけども……（笑）。

YURAサマ：あははは。そんなすみ分けも出来て来てるんで、そこも面白さのひとつなんじゃないかと思いますね。

——ところで、3曲目の「花唄」もテーマは【Passion】だったりするの？

YURAサマ：そうです。3曲合わせて【Passion】ですから。この曲でのリーダーは情熱情熱って言ってますからね（笑）。

——「Passion」な熱さとはまた違うね。ほっこりする楽曲でもあるから、ある意味この曲が1番Daccoの王道かも。

Lida：まさにど真ん中ですね。曲調も違うし、情熱っていう言葉が被ってても問題ないかなと。歌詞は珍しく3番まであるんですが、そこまで暑苦しくないというか。

YURAサマ：これ以上シンプルな曲はないんじゃないかと。AメロとサビのみでK構成されてますからね。でも、そのシンプルさが魅力の曲なんじゃないかと思います。コンサートでみんなで歌ってほしいですね。4月末からはツアーも始まりますんで、ぜひ遊びに来て下さい！

(問)(株)ソニー・ミュージックアーティスツ　〒150-8518東京都渋谷区神宮前3-1-30　コンセプト青山4F　TEL:03-5414-7351　http://www.dacco-dacco.net/
●Daccoの番組がUSTREAMにて配信決定!!『DaccoラSHOW』3/30(水)22:00〜22:30(無料配信)　http://www.ustream.tv/channel/daccolashow

Versailles
Philharmonic Quintet

いた人に、1つ力を加えられたら

より約5ヶ月ぶりとなるニュー・シングル『Philia』を3月16日にリリースした
ailles。これは、彼らにとっても初の試みであるテレビ番組『おねがいかなえてヴェ
イユ』のテーマソングとして起用されていたので、耳にした方も多いのではないだ
か。意外なまでに体当たりでぶつかっていく姿を見せた番組と同じく(!?)、バンド
って新たなチャレンジを散りばめたという新作について5人に訊いた。

Interview:RINGO AOMORI

——今回の「Philia」は、初のTV番組『おねがいかなえてヴェルサイユ』のテーマソングとして起用されることが決まっている上での制作だったんですか？

HIZAKI：原曲があった時にはそういうことは決まってなかったんですけど、ヴェルサイユの今のイチオシの部分が出せたシングルかなと。

KAMIJO：作詞をする時もそれほど番組とのリンクは考えなかったのですが、番組のポジティヴな内容とリンク出来てよかったですね。

——HIZAKIくんとしては、どんな意味合いで作ったんでしょう？

HIZAKI：今回は、メロディが攻撃的なものを作りたいというところからまず始まってるんです。今までも攻撃的な部分はたくさんあったんですけど、メロディはあくまで綺麗なものとして捉えてたところがあって。

YUKI：ウチらしい綺麗なメロディとスピード感というのが凄く良いバランスで、高いレベルで再現できた楽曲に仕上がったと思いましたね。テンポ的なところで言えば、他にも速い曲はあるんです

うと、他の曲に比べて凄くありますね。

MASASHI：でも、曲を作っていく段階で他の音がけっこう多かったんで、これはどこにベースを入れよう…？というのに物凄く悩みましたけど、結果として、ギターが抜けてるところにベースが出て来て、綺麗にバランスがハマりましたね。ベースはずっと刻んでてシンドいんですけど（苦笑）。

HIZAKI：速さと言うより、緊張感がずっと続くっていうのがいちばんシンプルなところかなと。

TERU：ギターとしても、ツイン・リードがあったり速弾きがあったり速い刻みがあったり、聴きどころたくさんで緊張感が続いてます！

——今回はギターのアンサンブルがいつも以上に前面に出てきているなと。

HIZAKI：全員がガッツリ出ているものを作りたいなと思って、やれるだけやりました。

TERU：初めてデモを聴いた時は、〝うわっ、音の洪水だ！〟って思って（笑）。ウチもここまで来たか！って（笑）。

HIZAKI：今回、レコーディング・

先端の技術とかも教えてくれて。その人にやってもらったら、ギターだけじゃなくて全てが良くて。〝ヴェルサイユの音〟というものが仕上がったかなと。

KAMIJO：それでいて、ヴォーカルの音量もかつてないほど大きいんですよ。それだけ、アレンジやミックスが高められて凄く良かったなと。歌詞としても、聴いてくれたみなさんが信じてるものとか好きなものが確信に変わるというような内容になってるので、聴いた人に何か1つ力を加えられたらなと思いますね。

——2曲目の「Judicial Noir」は、楽曲もさることながら、歌詞にもHIZAKIくんらしさを感じたんですよね。

HIZAKI：ニュースを見ていて今の裁判とか、人が神になろうとしていってるのか？っていう疑問があって。目に見えるものだけ信じて、見えない精神的な部分を大事にしていないんじゃないかという想いがあったんですね。そこを大事にしないと神には近づけないっていう想いを、分かりやすい言い方でKAMIJOさんに伝えたんです。

KAMIJO：いちばん始めにHIZA

て。それは裁判員制度のことで、人が人を裁くことはどうかと思うんですよ、と（笑）。それを僕なりの受け止め方で書いていったら、結果、人間として持てるいちばん強い力って何だろう？というところに辿り着いたんです。

——曲作りの段階から、そういう想いも持っていたんですか？

HIZAKI：原曲は、モーツァルトの「怒りの日」という曲をモチーフにしてましたね。結果、ホントに似てるのか⁉っていうレベルにはなってます（笑）。今までのヴェルサイユは、感情を動かすことを大事にしてたんですけど、それだけじゃなくて、その上で自然と身体も動かすというのをやりたくて。

KAMIJO：僕、あまりやらないんですけど、歌詞でも歌ってて楽しい韻を踏むというか、〝身体を動かす〟というのは意識しましたね。

——譜割りも、今までのKAMIJOくんの歌詞とは違いますよね？

KAMIJO：今回、だいぶチャレンジしてますね。今までの自分だけじゃつまらないなって、最近ちょっと思ってて。

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

信じているものが確信に変わるように…

ましたね。KAMI-JOさんの持ってるメロディの譜割りって、独特のKAMI-JOワールドがあるじゃないですか。僕のメロディも多少近いところがあるんで、じゃあ変えるなら僕のところで変えてみようと思って。多少音が詰まってたり、"何か違う"というところを出したくて。

KAMI-JO：今までの僕だったら、"息継ぎが大変だから言葉数減らすね"ってやってたと思うんですけど、逆に増やしましたね。

YUKI：今回の3曲は、ライヴで盛り上がる感じが凄く見えるんで、レコーディングの時もノリを意識して録っていきましたね。

――今回は特に、リズム隊としてのグルーヴが出ているなと感じたんですよね。

MASASHI：この2曲は、スタジオで入念にアンサンブルの確認はしましたね。

YUKI：あとは、今回のエンジニアさんが、録ってる時にこっちのテンションも操作してくれるんですよ。だから凄く良いテンションでやれたよね？

MASASHI：うん。この曲は「Philia」と違って、ベースは思うようにやったというか。何も考えずに最初に降りて来たフレーズをバッと付けて。疾走感もありつつ、ライヴが想像できるような。且つヘヴィで、でも5弦の音のツブが立ってて。その辺は気に入ってますね。「Philia」が刀とか鋭いイメージなんですけど、この曲は斧とか重たいイメージはあります（笑）。

TERU：原曲を聴いた時に、良い意味で"ダサカッコいいな"って思ったんですよね。このテンポ感でシンコペーションっていう、そのダサカッコ良さに凄く燃えました（笑）。弾いててどんどんアガっていくっていう。あとは凄く壁になってるツイン・ギターと、それでいてちょいちょいお互いの個性も出ていて。分析すると面白いと思います。

HIZAKI：数年前まで、世界的にもダサカッコいいギターっていうのが禁じられてた感じで、僕もTERUも避けてたところもあるんですけど、そういうものも開き直って最近は求めるようになって。カッコいいものはカッコいい、時代を関係なくやれればいいなと思って。

――ヴェルサイユでそろそろこういうことをやってもいいんじゃないかという気持ちもあったんでしょうか。

HIZAKI：そうですね。時代ばっかり見てるんじゃなくて、遡ったり、未来に行ってみたりという余裕が生まれて来たなって。

――そして3曲目のインスト曲「Desert Apple」は、昨年9月4日のライヴからすでに披露されていますよね。

HIZAKI：ノリで3人で作ろうかって、ライヴの2週間ぐらい前に突然言い出して。今回の初回盤Aにもその映像は入ってるんですけど、それとは全然違ってて、今聴くともう恥ずかしいという（笑）。一時、ダンス系のものにハマってた時があって、リズム主体のイメージで最初は作ってて。で、リズム隊が大地を這うような雰囲気を作ってくれたんで、ギターはアップル的な…（笑）。

――アップル的なギターって？（笑）

HIZAKI：リズム隊二人が怖いんで、僕は甘いギターを弾きました（笑）。

YUKI：最初から、ループを絡ませてデジタル的なサウンドに持っていくというのがあったんで、土台はシンプルなリズムで、その敢えてのシンプルさが大地！なのかも（笑）。

MASASHI：これは客観的に、自分が10代の時に聴きたかったベースというか。いろんな奏法だったりフレーズだったり、リズム・パターンがあるんで、ベースをやってる人にはチャレンジしてほしいなと思います。

――さて、3月21日からはツアーがスタートしますね。

KAMI-JO：小さなツアーではあるんですけども、新生ヴェルサイユとして初めて東京以外の街で出来るので、凄く楽しみですね。

――"新生ヴェルサイユ"という言葉に相当な違和感があるんですけど、実際そうなんですよね？

MASASHI：加入してからは意外に4本ぐらいしかやってないんです（笑）。やっとメンバーとして地方とかでも思い切って出来るというのが楽しみですね。

――今までと違う意識もある？

KAMI-JO：やっぱり違いますね。

どん前に来てもらうことによって、ステージ上の空気が温かくなったというか。

MASASHI：ありがとうございます。解き放たれます！（笑）

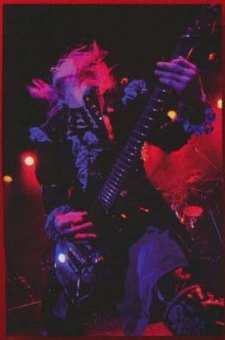
KAMI-JO：シモテのTERUくんとの関係も今まで以上に注目ですね（笑）。

LIVE TOUR 2011 VAMPIRE SAGA
2011.2.20 LIQUIDROOM ebisu

より人間らしく、新たな可能性を見せたツアー・ファイナル

アルバム『VAMPIRE SAGA』を引っ提げ、1月15日からスタートした全国ツアーを、2月20日・恵比寿リキッドルームで締め括ったD。"人間そのもの"を描くというコンセプトを持ったアルバムを表現したツアーに相応しく、ファイナルのステージでの5人は、より人間らしく、新たな表現力を掴んだ様を存分に見せつけた。5～6月にはバンド史上初となる海外公演も決定。新たな経験によって、彼らの可能性はさらに拡がっていくに違いない。

Photography:MASA　Report:RINGO AOMORI



Dが1月12日にリリースしたフル・アルバム『VAMPIRE SAGA』は、バンドの根底に流れる〝ヴァンパイア・ストーリー〟を形にしたものである。ただしそれは、ただホラー的な要素を作品に盛り込むのではなく、人間の不完全さを見つめることで、〝人間そのもの〟を表現した作品であると、アルバム・リリース時の本誌取材でもASAGIが言及していた。そんな『VAMPIRE SAGA』を引っ提げて行なわれた今ツアーは、Dという〝人間〟の持つ表現力を、また新たな形として開花させたものだったのではないだろうか。

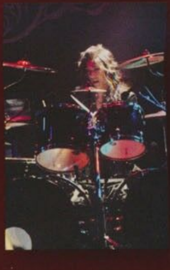
　そんなことをまず感じさせたのが、「Vampire Missa」「太陽を葬る日」というオープニングの流れ。〝ここから全ては始まった〟というASAGIの言葉から続いた「Vampire Missa」は、バンド結成時より演奏されている曲であり、まさに〝ヴァンパイア・ストーリー〟の根幹となった曲でもある。オープニングから躍動感を見せるメンバーは、続く「太陽～」でさらに解き放たれていく。〝ヴァンパイア・ネーム〟をかけたメンバー紹介という、今回のアルバム・コンセプトに沿った試みを挟み、場内はさらに熱を帯びていく。今までのライヴで何度も聴いてきた「弾丸」も、演奏のソリッドさが増していたことで、バンドの輪郭がより露わになった印象だ。

インに絡みつくASAGIのヴォーカルが妖しく彩る「Underground road」、ヘヴィなギター・リフでまくし立てる「Black Swan」、ステージのシャンデリアが灯り厳かに聴かせた「無垢なる薔薇の祈り」、〝お前たちの力と俺たちの力が合わさった時、揺るがぬ絆は生まれるだろう〟というASAGIの言葉に続く「In the name of justice」。アルバム収録曲を続けて披露した中盤は、まさにこのアルバムの真骨頂。〝Justice〟のストーリーを見事にステージで構築してみせたのだ。

　HIROKIのソロ・チューン「太古の牙」に幕を開けた終盤は、[illegible]ム収録曲を中心に展開。中でも[illegible]にリズムの変化する「Quaetet～真夜中の四重奏～」、RuizaとHI[illegible]OUの掛け合い的プレイも聴き応[illegible]「翠緑の翼」など新たな息を吹き[illegible]たちは、これからの成熟具合によって彼らのライヴを大きく変貌を遂げ[illegible]に違いない。

　数日前に誕生日を迎えた[illegible]Ruizaを祝う一幕もあり、「Der König der Dunkelheit」で本編を締め[illegible]ったこの夜は、彼ら新たに掴んだ[illegible]力で[illegible]さらなる可能性を感じさせるものとなった。

　5～6月には欧米でのライ[illegible]も決定している彼ら。結成8年を超えての初のチャレンジは、Dに新たな力をもたらす



【set list】
～OPENING SE～
1.Vampire Missa
2.太陽を葬る日
3.Grand Master
4.弾丸
5.Underground road
6.Black Swan
7.無垢なる薔薇の祈り
8.In the name of justice
～Dr.～
9.Desert Warrior
10.Quartet～真夜中の四重奏～
11.翠緑の翼
12.愛は棺の中に
13.DAY WALKER
14.月と海の誓約
15.闇の声
16.Der König der Dunkelheit
<encore Ⅰ>
17.メテオ～夢寐の刻～
18.闇より暗い慟哭のアカペラと薔薇より赤い情熱のアリア
<encore Ⅱ>
19.Night-ship "D"
20.闇の国のアリス
<encore Ⅲ>
21.Guardian
<encore Ⅳ>
22.Dearest you
23.Pride

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

こからは、より人間が人間らしく

年8月にリリースしたメジャー1stアルバム『欠片』に続く新作と
るシングル『Raise a Flag』を4月6日にリリースするNoGoD。
新しいことを始める人に向けたメッセージ”を
めたというタイトル・チューン は、“より人間らしくいたい”
いう彼ら自身の決意も込められているようだ。
リースと合わせて“単独大布教”もスタート。
まで以上のアツい想い、団長とKyrieに訊く！

NoGoD

究極の自援ソング!?
シングル『Raise a Flag』完成!!

erview : RIE MAKINO

——今作「Raise a Flag」は、メジャー1stアルバム『欠片』以来のシングルになりますが、NoGoDらしいメロディアスかつヘヴィなサウンドに仕上がってますね。

団長：『欠片』でウチらを知った人は、〝メタル・バンドなんだろうな〟っていうイメージを持ってると思うんですね。

——確かに『欠片』はメタル魂が散りばめられた作品でしたね（笑）。ということは、新しい信者にとっては……

団長：そう、特に表題曲の「Raise a Flag」はわりと優しめの曲だから、俺らからしたら冒険みたいなところがあるんですよね。

——それが今回のコンセプトですか？

団長：いや、リリースが4月っていうことで、新生活を迎える人や、新しいフィールドに行く人に対しての応援メッセージソングをやろうっていうコンセプトが先にあったんですよ。そこで、ヘヴィなメタルっぽい曲で〝頑張れよ！〟って言うのはしんどいなって思って。それで今回は、こういうベクトルの曲になったんですよね。

——伝えたいメッセージありきの曲作りって珍しいですねえ？

団長：そうですね、いつもその曲のイメージで歌詞を書くことが多くて、季節感とか無視でしたからね（笑）。実は、『欠片』ツアーのファイナル、キネマ倶楽部の2日目に披露した時の形はボツにして、またアレンジして録り直したんですよ。

——そうなんですか!?

Kyrie：すでに録音は済んでたんですけど、〝本当にこれでいいのかな？〟っていうのがあったんですよね。

団長：布教（ライヴ）でやったら、そういうモヤモヤした気持ちが取れるかなって思ったんですけど……NoGoDのメジャー2ndシングルとして冠をはることに、ちょっと疑問が出てきてしまって。もちろんその時は100％の力でやりましたけど、なんか納得できなくて。このまま出したら俺、取材とかでも〝正直ね……〟って言っちゃいそうな自分がいて。ウソはつきたくなかったんですよね、信者にも自分にも。

Kyrie(Gt)

団長(Vo)

Shinno(Gt)

華凛(Ba)

K(Dr)

蝴蝶网
hudie.com

ターンを作ってる中で、団長が作ってきたサビの歌メロ……今の形のものなんですけど、冒頭の〝描いてた夢と 今が重ならず 朝も夜も嘆く君よ〟を聴いた時に、すごくいいなと思って。それを活かして全部アレンジし直したんですよ。引っかかってたのは、バンドでやった時にある伸び代が感じられなかったところなんですよね。たまたまShinnoくんと話をしてた時に、〝普段だったらあるはずの、デモから昇華された感覚が得られない。サポート・ミュージシャンがやっても変わらないんじゃねぇの？〟みたいな話になって。

団長：要は、デモの良さのままで、それ以上、良くなんなかったんですよね。

Kyrie：消化し切れなかったっていう。それが〝NoGoDの作品〟として刻まれてしまう以上、中途半端では許さ

ばどこまでも貪欲に、いい音といいメッセージをやれるかだけを追求していくべきだなと改めて思いましたね。

——歌詞も書き直したんですか？

団長：ちょっとだけベクトル変えました。〝夢を諦めるな〟とか、おそらく幾度となく誰かが言ってきたメッセージだと思うんですよ。それをいかにありきたりじゃないニュアンスで伝えるかに重点を置きましたね。ありきたりなメッセージで、ありきたりなことを言うのは、他の人がやってるんで。

——そこで重要になったのが視点と言葉選びですか？

団長：そうですね。この歌詞、冒頭から否定的な言葉で入ってるんですけど。まず、〝夢が叶わない〟って思ってる人って、〝夢が叶わない〟って思ってること自体が夢なんですよ。逆に、〝夢が叶う〟って思っ

続けてるんですよね。夢って最終的に行き着くんですよ！ すぐ隣にいるぐらいの、すごく現実的なものなんです。それで〝夢が叶わない……〟って卑屈になられてもねぇっていう。結局、夢を追い続けて、それに対して何か修めることが大事なんだよっていうことがどうしても伝えたくて！ 最近、諦めが早くて、そして何かのせいにしたがる人が多いなって思うんですよ！

——あのー、歌詞についてこれだけ団長が熱く語るのって初めてじゃないですか？ だっていつも恥ずかしがってあまり話さないでしょ（笑）。

団長：他の歌詞に関しては恥ずかしいッス！ でも「Raise a Flag」は、恥ずかしくないんですよ、不思議と。

——でもカップリングの曲たちも、社会風刺的なところを含んでますよね。今そういう心境なのかなって。

団長：まさにそうだと思います。今の音楽業界を嘆いてるって言ったら、何様だ？って話なんですけど。ずっと釈然としないんですよ、今のこの風潮に。〝会いたかった〟〝寂しかった〟〝そばにいたい〟って歌ってるR&Bが売れる時代、他の国の方たちが闊歩してる時代に。メイド イン ジャパンをナメんなよと。俺らは島国としての自信と自由があって、俺は日本人の二十代の視点をもっと知ってもらいたい。自分たちのメッセージをより痛烈に伝えるために、音楽っていうものを使って布教活動をしてるわけで。今回の作品、全曲通してものすごく人間臭いです。し

——個人的には

すごくいい曲だなと。サビ頭の3回繰り返す英語の部分、かなりキテます！

団長：やっぱそうなんだ!? 業界人から大絶賛です！（笑）でも、シングルにはならないと思いません？ 俺が清春さんみたいにセクシーに歌えたら迷わずシングルになったと思うけど。

——息遣い感じる生々しい歌声ですよ？

団長：生まれ持っての才能なんですかねぇ？ どう聴いたってセクシーの〝セ〟の字もないじゃないですか。

——でも、団長の顔を見ずに声だけ聴いたら……なんて（笑）。

団長：えっ、本当ですか!?（笑）

Kyrie：こういうスローテンポでヘヴィなものってあまりやってなくて。

団長：それは、俺の声が安くなるっていう理由があったんですよ。

Kyrie：でも、みんなから〝この曲はいいね。歌を乗っけたらそれっぽくなるんじゃないの？〟っていう意見が出て、じゃあやってみようかって。

——新しい面もありながら、NoGoDらしさもある曲になってます。

団長：布教でやったんですけど、ものすごいウケがよくて。自分たちの固定概念がちょっとほぐれたなって思いますね。たがが外れたというか。

——じゃあ今作は、自分たちでも発見の多い制作でしたか？

Kyrie：すごく葛藤の多い制作だったなと。それこそ「Raise a Flag」を作り直したこともそうですけど。歌詞に関

てるじゃないですか。と同時に、自分たちにも言えるし、団長自身にも向けて言ってますよね。

団長：究極の自援ソングですね（笑）。正直、去年の暮れくらいから結構悩んでて。こういう世知辛い時代に、自分たちのエンターテイメントは果たして受け入れられるのだろうかって。

——へぇ！ そこからどうやって気持ちを切り替えたんですか？

団長：やっぱり信者の声ですかね。布教をやる度に、〝なんだ、求められてんじゃん〟って。批評とか気にしすぎてたのかもしれない。よりナチュラルに伝えたいメッセージを書こうって。〝人間臭い〟っていうのはそこなんですよ。作り込んだSFXは『欠片』で終わり。もっと自分の感情を露骨に吐き出そうっていうのが今期のテーマですね。

——4月には〝神無単独大布教-全国行脚2011-〟も行われますね。

団長：今、布教活動がすごい楽しいんですよ！ 今までも面白かったはずなんですけどね、今年に入ってからものすごく楽しい。このテンションのままツアーを廻りたいですね。ウチらは所詮ライヴ・バンドなんで。生でしかウチらの本当の良さはわからないと思うので、是非とも足を運んでいただいて、各地ソールドにできたらなと。だから、ものすごくライヴに行きたくなるような記事にしていただいたら、その時は俺、こっそりココ（頬）に〝SHOXX〟って書きますから！（笑）

へ所詮戯レ言サレド純粋無垢ナ音楽

ケミカル・ピクチャーズ

現在（イマ）のCPSを…

Interview:NAOKO TAKEICHI
Accessory Coordinator MAXX TRANSCORE

——今作を作る上でのコンセプトは何かあったの？

Joe：今回1曲目の「Praparat」と「Black Box」の2曲のPVを作ったんですが、「Praparat」の方は今までのケミカルピクチャーズの感じで、ヴィジュアル面もメイクが濃かったりするんです。途中に白衣を着て実験室に居るシーンも出て来るんですが、そこは、ケミカルピクチャーズの〝ケミカル〟な部分を表現していて、あらゆる実験を試み、化学反応を起こしながらみんなで音楽を作っているという場面なんです。Praparatっていうタイトルも、実験に用いる道具なので、そこにも繋がっています。一方「Black Box」の方は、メイクも薄めでもっと先を見据えたケミカルピクチャーズの形を表現してみたんです。いわゆる二面性的なところですね（笑）。

——その二面性というところは、アルバム全体のコンセプトでもあるの？

平：いや、PVの見せ方的なところだけですが、よりメッセージを深く伝えるために選んだ2曲なので、そういう面ではコンセプトと言えるのかなと。今回のアルバムには5曲が収録されるんですけど、最後の「sPeakEr」っていう曲以外は、結構古い曲だったりするんです。

子雲：「Praparat」と「Reincarnation」は、俺が入る前からあった曲で、一度音源化もされている曲でもあって、今回再録したんです。

Joe：そのあたりの曲は、本当に結成当初からある曲ですからね。でも、今回メンバー・チェンジもあったし、心機一転という意味もあり、ライヴでもずっとやってる曲を改めて音源化したんです。

——結成初期からこんな完成度高い曲やってたんだ、ケミカルって！

子雲：ですよね。びっくりするでしょ。俺も正直、最初、平から音聴かしてもらったときは衝撃が走りましたからね。

——ギターもJoeくんとruiくんの個性が出てるね。透明感のあるアルペジオをドロッとしたギターが共存してて。

rui：ドロッとした方はJoeくんです。すごく個性出てますよね。やっぱりツインギターでもあるんで、そこはもっと出していけたらいいなと思いますね。

Joe：ギターの割り振りに関しては、既存曲ということもあって、今回は今まで自分が弾いてたところを弾いたんですが、欲を言えば、もっとお互いに個性を

——「Black Box」「I wannA GEtAway」ともに既存曲？

Joe：ですね。最初のライヴからやってる曲たちなんです。

——「Black Box」なんて、楽器のアンサンブレーションが素晴しいね。呼吸を感じる。

子雲：たしかに大人な色を感じてもらえるんじゃないかな？っていう迷いがあったんですけど、自分たちは気に入って収録したんで、気に入ってもらえて嬉しいです。

——「I wannA GEtAway」のイントロとかも超いいよね。

平：カッコイイけど、シブ過ぎるんじゃ

——2番のBメロも最高。ハードロックっぽさと泥臭さが、ケミカルピクチャーズ独特の個性となってるというか。

rui：まさにそこの部分、俺的には見せ場だったりするんです！ そこで実は、ドラムに張り合ってみようと思って、タッピングしてみたんです。そこはかなりガッツガッツしてます（笑）。今回、そういう空気感というかグルーヴ感は出せたと思いますね。そういうところはもっと強化していきたい部分だなと思いましたね。

平：今回、唄を大事にしてメッセージをちゃんと伝えようっていうところを第一のテーマにしたので、もっともっと強化出来るところってあったと思うんですよ。このメンバーで一緒にアルバムを作ってみて、やっとスタート地点に立てたって思うんです。すごく視野が広がったなって思いますね。今までライヴでもやってたけど、今回音源化するにあたって全部アレンジし直してたんで、今後このヴァージョンでライヴをするのが楽しみなんですよ、今。曲によってはサビが増えてたり歌詞も多少変わってますからね。

——「sPeakEr」はシンプルだけど、他は構成が複雑だったりしてるもんね。

平：そうですね。そこも悩んだんですよ。複雑になればなるほど唄が聴き取り辛くなっちゃうんで。シンプルはシンプルですごく難しいんですよね。でも、今回やってみて自分たちの個性に気付けたし。今回の曲たちって、連続リリースしてきた中にはなかった世界観なんですよね。「Praparat」なんて、まさに原点なんですよ。Joeさんに〝こういうバンドがやりたいんだ〟って最初に聴かせた曲でもありましたからね。この頃から伝えたいことってそんなに変わってないんですけど、弱い自分を認めろよってとこ

蝴蝶网
hudie.com

拝啓……詐欺的道化師音楽愛腐女子様

ですよ。生かされている自分を知ることで、自分の小ささを知るというか。俺たち人間は、いろんなことで悩んだり落ち込んだりするけど、それは、顕微鏡を覗いたときプレパラートの上に広がる小さな世界の中で生きてるようなモノなんじゃないかなって。そんなことを歌ってるんです。

拓：「Praparat」は、音源化されていたこともあって、それを聴いて、とてもカッコイイ曲だなって思っていたので、今回自分がレコーディング出来るのがすごく嬉しかったんです。自分がプレイしたことで見えてた部分がたくさんあったし。昔よりも切なさが増しましたね。歌詞もすごく深いし、「Praparat」はケミカルピクチャーズにとってすごく大切な曲なんだなって改めて感じましたね。

子雲：ドラム的には、もともとあったフレーズをまたアレンジしなおしているんで、ちょっと大変でしたね。リ・スタートというか。この曲と「Reincarnation」は特にドラムアレンジが難しかったです。

——リズム隊としては、まだ一緒に音を重ねることになって間がない訳だけど、そのあたりはどうだった？

子雲：打ち合わせの時間も充分に取れた訳ではなかったんで大変でした。それに、今回アレンジャーさんが付いてくれたってのも、なかなか新鮮で。自分のドラムの必要な部分と必要ない部分っていうのが見えた気がしましたね。

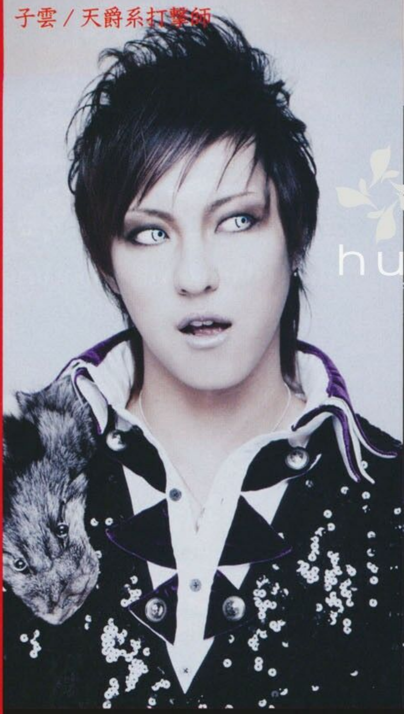
拓：曲を新たに覚えることも大変ではあったので、正直もう少し合わせる時間が欲しかったかなっていうのはありますけど、だからこそ、この先、ライヴでどう育っていくのかが楽しみですね。

rui：ギター的にも相当苦労しましたからね。「Praparat」と「Reincarnation」とかは特に大変でした。「Praparat」って、実はかなりギタリスト泣かせのフレーズなんですよ。ド頭のアルペジオがめちゃめちゃ難しんです。空気感も大事にしなくちゃいけないからそこも難しくて。本当難しいんですよ、平くんの持って来るギターフレーズって。すごく感覚的な部分も強いし。

子雲：ギタリストが作るギターフレーズじゃないから難しいっていうのもあるよね。平のギターは感覚的だから。

——でもすごく解る。平くんの曲って、感性がそのまま音になってるみたいだもんね。歌詞も人間性を感じるし。「Reincarnation」はJoe曲だけど、また平くんの作る楽曲とは印象が違うね。

Joe：この曲はケミカルピクチャーズの前にやっていた女の子ヴォーカルのバ



子雲／天爵系打撃師

拓／龍攘系遊戯師

蝴蝶网
hudie.com

ここ数ヶ月で2人のメンバー・チェンジがあったケミカルピクチャーズ。意欲的な活動を進める中でのメンバー・チェンジはバンドにとって大きなダメージとなった。しかし、彼らはそんな大きな環境の変化にも屈することなく、平一洋(Vo)、rui(Gt)、Joe(Gt)、拓(Ba)、子雲(Dr)という現メンバーでは初となるミニ・アルバムをリリースする。現メンバーになって半年も経っていないとは思えないほどのグルーヴは、きっと聴き手を必ず虜にすることだろう。

(問)http://chemical-pictures.net/

ンドで、その子と一緒に作った曲なんです。以前レコーディングしたときに、ケミカルピクチャーズの色に変えてみたんです。ヴィジュアル系のカテゴリーでやっていた曲ではないし、女の子ヴォーカルだったこともあり、平くんの歌えるメロディーに作り変えたり、前メンバーでやってたときからもアレンジを変えてるので、僕としてはだんだん我が子が育っていく感覚なんです（笑）。

平：この曲は俺がどうしてもやりたいってJoeさんにお願いしてやらせてもらうことになったんです。ケミカルピクチャーズの1枚目の音源に入っているので、バンドにとってはすごく大切な曲ですね。その頃って、ギターがチャカチャカ言ってる感じの曲が好きで、そこまで激しさだけを押出した曲をやりたいと思っていなかったこともあって。そこもケミカルピクチャーズの原点だったりしますね。

——歌詞もメッセージ性が特に強いね

平：ですね。言いたいことって変わってないんですけど、深いこと歌ってますね。

——新たに書き下ろされた「sPeakEr」は、曲も歌詞もすごくストレートだよね。

平：はい。ここまでストレートな歌詞は書いたことなかったかも。俺が俺がっていう歌詞にはなっていないと思うんです。どうしてもうもれがちになってしまうこういう曲って、やはり歌詞が重要だと思うんですよね。そんな中で、満足いく歌詞が書けたと思ってます。

Joe：メッセージをいかに伝えるかというのを考えながら弾いた楽曲でした。

rui：シンプルさが活きた1曲だと思うので、じっくり聴いてほしいですね。

拓：こういう曲がバンドとして出来て、アルバムをこういう曲で締めくくれたのも、すごくいい経験になったと思います。ぜひ、ここから知ってもらえる人が増えてくれたらいいなと思います。

蝴蝶网
hudie.com

Iさんの曲らしい美しさと激しさがある曲ですね。

KISAKI：「Silent To My Pain」は、美しさと激しさの共存をすごく大事にしました。ピアノの旋律から入って、その後に攻撃的なフレーズもあるんですけど、その中にも美しさが見え隠れするところは、音色的にこだわったところですね。

――各々が、美しさと激しさの共存で意識したのは？

KANATA：ギターにしてもシンセにしても、綺麗なところが見え隠れしつつも、しっかりと歌を聴かせるように、引くところ引いて出るところは出ていますね。

MIZUKI：あえて同じフレーズなんですけど、バックサウンドが変わることで綺麗になったり激しくなったりするセクションがあるので、ギターを弾いているときの気持ちを一番注意しました。

――その中で、ドラムは激しさを出した印象ですが。

REIYA：ドラムは美しさじゃなくて、激しさ担当ですね。音作りにもこだわりました。タイトな音は必要ないと思って、ざらっとした感じのスネアになっているんです。音でも荒さを出すように。

――それぐらい激しさも出したいと。

KISAKI：それは、歌詞とか感情面に通じるんですけど、内に秘めた攻撃性みたいなのを大事にしたかったんです。だから、ベースもかなりノリ一発みたいなところがあるし。でも、ウワモノはすごく丁寧に作っているし、ヴォーカル録りは一番うるさく言いました。

――ヴォーカルはどういう風にしたかったんですか。

KISAKI：サビは美しく耳に残るように、でもAメロBメロはちょっと狂人じみた感じを出してほしくて。かと言って、ただ狂ってますみたいなのではなくて。なかなかニュアンスを伝えるのが難しかったです。

RIKU：なかなか意思疎通が上手くいかなくて、イライラさせたと思うんですけど、本当にやりがいはありました。

――サビではタイトルを繰り返すんですけど、同じように来ないところはポイントですよね。

RIKU：デモでもらったメロをちょっとような感じで歌うようにしたんです。[illegible]最後のところとか、たぶん他の楽器は全部食ってるところなんですけど、そこをあえて食わずにとか、そういう感じで表情を出すやり方も取ったりして。本当に時間かけさせてもらいました（苦笑）。

――KISAKIさんのイメージがなかなかつかめなかったと。

KISAKI：それはRIKUだけじゃないですね。プロデューサーもエンジニアもわかってくれなくて。本気でムカついたこともあったし（苦笑）。ギターソロにしても、もっと荒々しくと言っても、いろんな捉え方ができると思うし。KANATAにはアドリブに近いノリでやってくれと言ったんですけど、彼はかっちり考えてくるタイプなので。

KANATA：これはレコーディングの最後に入れたんですけど、とりあえずやれることをがんがんぶつけようっていう感じでやりましたね。

――他の方は何をリクエストされました？

REIYA：自分の中で荒くやっているつもりなんだけど、録ったものを聴いてみると勢いがないんですよ。それを繰り返して感覚がつかめましたね。スティックの当て方ひとつですごく変わるなって。新しい自分を見つけ出した曲ですね。

MIZUKI：僕も荒くする部分とかのメリハリですね。メリハリを出しているつもりでも出ていない部分が多々あったので、メリハリのつけ方のコツみたいなのを学べて、それがレコーディングが終わってからのライヴに活きていますね。

――ここまでこだわったのは、確固たる表現したいものがあったからですか。

KISAKI：曲は[illegible]ることが多いんですけど、そう[illegible]とあまり明るい方向にはいかない[illegible]ですね。だから、誰もが傷とか痛み[illegible]ながら、孤独の中で闘っている[illegible]ってというところを歌詞にしました。

――闘っているというのが激しさにつながっている？

KISAKI：自分が[illegible]大切に思っているモノでも、それを打ち壊さないと進化できない部分があると思うし。最終的には、自分自身が全てなんですよというのが

最終的には自分自身が全てなんですよ

6月の結成一周年を目指して、連続リリースを行う凛。その第一弾となる『Silent To My Pain』が3月30日にリリースされる。これは、彼らららしい激しさと美しさを兼ね備えた作品に仕上がっている。5月25日には第二弾『Flowers Bloom』をリリース。そして6月18日に大阪BIG CATで1st Anniversary Festival「an epidemic of "OVERTURE"」を敢行。ここから、凛はさらに加速していく。

Interview：MIYUKI MURAYAMA

すけど、人間なんて家族でもない限り絶対いつかは裏切るものじゃないかって。だから、自分ひとりでも生きていけるような強さを持ちたいし、友達でも心の奥まで理解してもらえるのは無理だと思うし。そういう俺の一匹狼的なひねくれた部分の感情を吐き出していますね。

――そうして言葉で説明するとすごく荒んだイメージですけど、それを表現すると美しさも混ざってくるんですね。

KISAKI：そういうことを考えると、良い思い出とかが間違いなくよみがえってくると思うんです。それを振り払って、歩く人間の精神的な強さと儚さを音に乗せました。

――そういうKISAKIさんのイメージを皆さんで形にした曲なわけですね。

KISAKI：ありがとうございます。

KANATA：いえいえ。

一同：（笑）

――そして、カップリングが「Call Back」ですね。

KISAKI：これは、結成当時にレコーディングしていた曲なんです。初ライヴでやるんじゃないかなって思うぐらい前からあった曲ですね。でも、それ以上に曲が出来てきて、なぜか出せず仕舞いだったんですけど。この曲に関しては細かいことは考えずに、RIKUがパフォーマンスしている部分を想像して、凛のライヴが楽しくなるようにと考えながら制作しました。

RIKU：全体的にノリやすいイメージで、ライヴでの僕らしさが出しやすい曲だと思います。

――レコーディングでも、RIKUさんなりに自由に歌ったんですか。

KISAKI：これは自由でしたね。「Silent To My Pain」とは真逆な感じです。生き生きしていましたね。

RIKU：（苦笑）

一同：（笑）

――結成当初に作ったとなると、まだ凛というバンドに対する手探り感が出ていたりするんでしょうか。

KISAKI：そうですね。だから、ミックスが終わった後に、ドラムだけ録り直しました。

――それはそれだけ変わったから？

KISAKI：たったこれだけの期間でREIYA：[illegible]まるまる録り直しました。

――皆さん、録った当時の頃を振り返るといかがですか。

KANATA：僕が録ったときは、自分がこういうギタリストだぞっていうギターを入れていました。見せ付けたい気持ちがすごく大きくて。ただ、今はシンセとの絡みを考えていますね。シンセとギターって同じ周波数帯で、どっちかが出ちゃうとどっちかが下がっちゃうので、そこを気をつけていますね。

KISAKI：よく言うな。

REIYA：口だけは達者やな。

RIKU：いつも全然抑えないで、めちゃめちゃ弾くんですよ。弾きたがりなんです。同期も結構入ったりするし、ぶつかっているわけじゃないんですけど、うるさいので、もうちょっとそこを考えてくれたらいいんですけどね。

KANATA：わかりました（苦笑）。

――そういうギタリストと一緒に弾くとなると、MIZUKI君としてはどうしようと思ったんですか。

MIZUKI：（KANATAが）ギター弾きたがりなんだなって思ったので、そのままを受け入れていましたね。（結成当時は）すごく緊張していたし。

KISAKI：言えなかったんだな。

MIZUKI：最近は少しずつ言う感じに。でも聞いてはもらえないんです。

一同：（笑）

KISAKI：でも、「Call Back」は、ギターソロだけじゃなくて、その前に各々のソロが入っているので、そこはライヴで見せ場になると思います。

――なるほど。ライヴに関しては、6月にはBIG CATで一周年記念となるライヴも控えていますね。

KISAKI：今、僕の気持ちは全てそこに向けています。1年間の集大成を2時間でどう表現するか、めっちゃ考えています。最近は、お客さんもメンバーも含めて一体感をすごく感じるし、そろそろ爆発させる場所がほしかったので、あえてBIG CATっていうハコを選んだんですね。この日の結果次第で今後の活動プランを立てていこうと思っているので、何が何でも成功させたいですね。

蝴蝶
hudie.com

HERO

KNOCK OUT

ive at shibuya O-WEST 2011.2.14

月12日にリリースされたNEW ALBUM『Life』を引っさげ、2月11日大阪USEを皮切りにスタートした、HEROのONEMAN TOUR『KNOCK UT』も、残すは4月29日赤坂BLITZのみ。今回は、いつもと趣向を代えて、2月日に渋谷O-WESTで行われた公演を、メンバーの視点で、彼らの言葉でレートして貰いました！　ここに、4人の生の声をお届けします!!

xt:HERO

やぁ、ショックスをご覧の皆様(^O^)俺だよ俺(^O^)。え？　違う違う俺だってば(^O^)。うんそう俺だよ(^O^)、俺(^O^)。高橋尽！　今回は赤坂ブリッツワンマンの前哨戦である、2月14日のO-WESTライヴの日の事を書くよ(^O^)！　でも普通にライヴレポートだとつまんないからブログのノリで書くね(^O^)。

その日はゼンモールって会社の衣装を着てコラボライヴをしたよ。

連日の名古屋と大阪でのワンマン&インストアでクタクタになり、その上渋滞で家に帰れなくなり急遽ホテルをとってもらって挑んだウエスト(^O^)。ホテルに着いたら速攻寝たから調子は悪くない！　問題は、集合時間11時!?　起床時間11時!!　はい終了♪　とりあえず急ぎで向かい、衣装の打ち合わせ！　足の短さにビビりつつも必死に衣装を合わせてくれるゼンモールさん！

“尽君はやんちゃなイメージだから、たまには王子様チックな衣装もギャップがでてカッコイイよ！”

なるほど、考えてくれてるなぁ…と感動し同意する。

そして、SEに合わせてステージに登場、客！大爆笑(^ з ^)-☆Chu!!　いやいや、俺はいい。ゼンモール様に謝れ！　その上、動き過ぎて二曲目で衣装が壊れる！　見れない見れないよ…関係者席が見れないよ…でもゼンモールの方々も凄く楽しんでくれてたから本当に良かったよ(^O^)。

ライヴ全体を通して、基本的にテンションが上がりすぎて覚えてないんだけど、やっぱり「ロン」や「人間定義」は会場の皆が肩を組んで一体感が生まれて良いね。

赤坂ブリッツでもやるんだぜ(^O^)。だから、4月29日の赤坂ブリッツに皆で来てね(^O^)。勧誘よろ(^ з ^)-☆Chu!!

尽

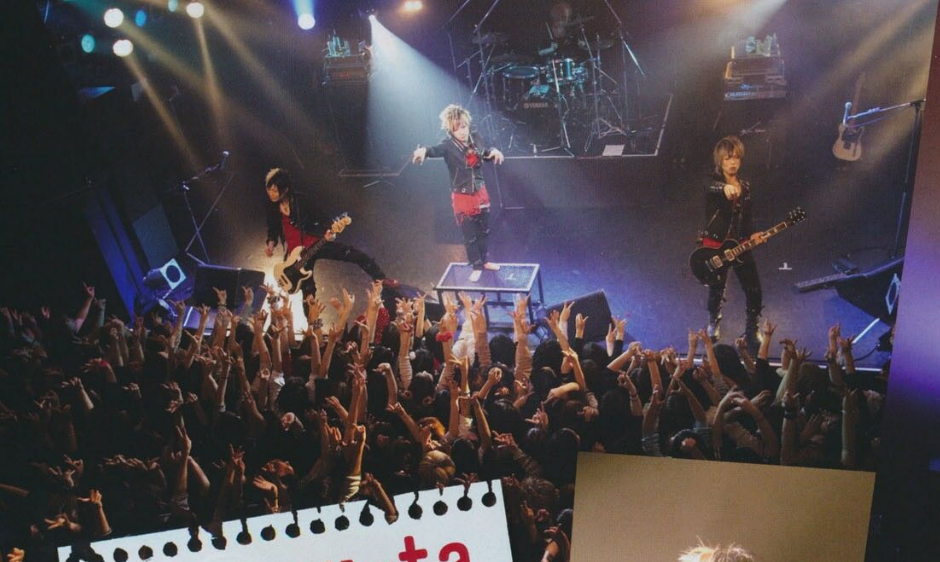
SARSHI

HEROワンマン・ツアー『KNOCK OUT』。大阪MUSE、名古屋ell.FITS ALLに続き渋谷O-WEST！この日限定の衣装を着たファッションショー・ライヴやったので、登場の仕方がいつもと違ったの気付いてくれたかな?

NEWアルバム『Life』の曲はライヴで初めて聞く人も多かったと思うけど、そんなことは想像できないほどの盛り上がりでした。近くの人はもちろん、一番後ろの人の表情もよく見えて、どんどん笑顔になっていくのが嬉しかった！

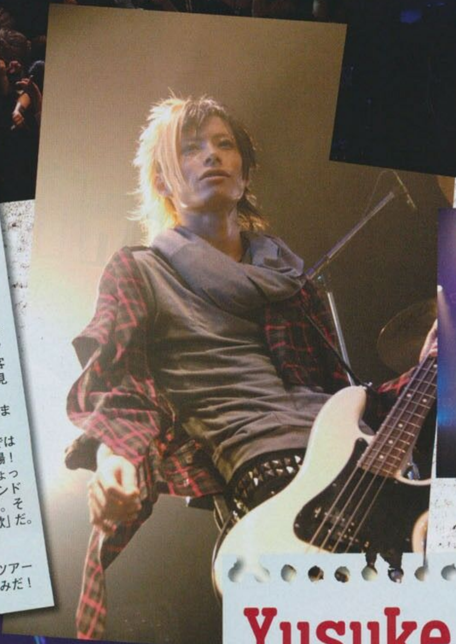
個人的には「カゾエウタ。」ではファンのみんなへの感謝の気持ちを自分なりに届け、「Life」では生きていることを実感し、HEROが送り出す「人間定義」で会場全体がひとつになって、楽しさや嬉しさを共有できたように思えて感動した！　そして、バンドとしても、4人がひとつの方向をむいてライヴができたと思う。

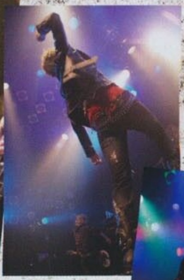
開演時には雨やったのに、終演時には電車が遅れるほどの大雪…。空も一緒に暴れさせちゃうライヴやったんか!?　今後のHEROは、果たして何を巻き起こすのか？　4月のツアーファイナルもお楽しみに!!



yu-ta

生憎な天気にも拘らず渋谷のピンクな裏路地にはたくさんの人だかり！
この日は渋谷O-WESTで、ワンマンツアー『KNOCK OUT』の東京公演が行われていた。様々な想いを持ってオーウエストに入るオーウエスタン達。
10分ほど遅れてスタートしたこの日、いつもとは違うゼンモールの衣装を纏ってメンバーが登場。フロアは一曲目の「ピリオド」から波がたっていて、その凄まじさにビックリだ。HEROのライヴはいつもお客さんもメンバーも楽しそうなのが見ていて気持ちがいい…と思う。
ライヴ後半になってもさらに凄まじい曲のオンパレード！
そして本編が終わりアンコールではメンバー4人同じ衣装で仲良く登場！「カゾエウタ。」を丁寧に演奏し、ちょっとしっとりな雰囲気に…。このバンドの持味はノリやすいだけではなく聴かせれることにもあると…僕は思う。そしてアンコールも終わり、ダブルアンコール！　最後の曲は「超過激愛歌」だ。お客さんも待ってましたと言わんばかりのハシャギっぷり。
無事にライヴが終わりこの日はさらにハグ会も開催。
今回のツアーでバンドとしてもまた一つ成長したように感じる。ツアーファイナルの赤坂ブリッツでは、また一段と成長した４人の姿が楽しみだ！





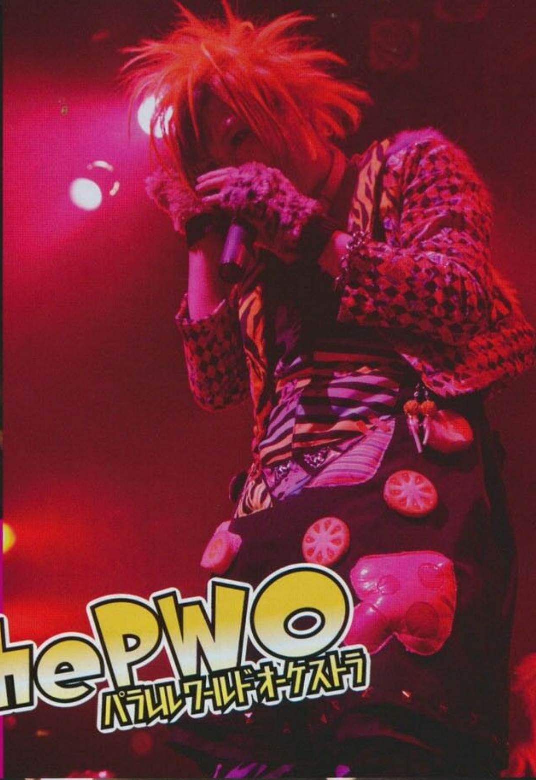
Yusuke

今回の渋谷O-WESTでのワンマン・ツアー『KNOCK OUT』は、ゼンモー
んから衣装提供をしていただいてのライヴということもあって、いつもとは違
形でのライヴになりました！　衣装が変化すると自分の気持ちも変わるもので、
いテンションでライヴに挑めました！
この日一曲目は「ピリオド」からスタート！　同期が鳴り、楽器がオールイ
るとこで、もうすでにテンション上がりまくり（笑）。そこから「Days.」「Parad
「Oh My Darli'n」と前半からぶっ飛ばしていきましたよー！
次のセクションでの「罪と罰」「言の葉」は会場の皆も激しかったし、めっ
気持ちよかった!!!　新曲の「Love you song」は音のすき間が割とあるし、ギ
やベースのプレイも繊細で、ドラムの音も目立
で、楽しい雰囲気が出せるように演奏
した♪　久しぶりの「めっちゃ好き」と「
コ悪ぃ歌」もやっぱりめっちゃ盛り上が
ね！　僕的にも全力で叩きましたよ。「
手に残る僕」は、ゆっくりとした曲調だ
ノリがすごくあるので大好きです！あと
全体が一つになれたのでとても嬉しかっ
すね。MC後の「カゾエウタ。」は、みん
届くようにとにかく気持ちを込めて演奏
した！
その後のラストスパート「Life」「Oh
God」「Not Found」では全力でテンショ
ＡＸでやりぬき、アンコールの「テーマソン
懐かしい曲「プレゼント」でも、楽しく、
でヒロインみんなと一体感が感じられて
でした！「人間定義」も会場にいる全員が
とへとになるまで、暴れまくったね！
そして今日最後の曲「超過激愛歌」は、
なでハッピーになって声を出して楽しめた
本当に最高のバレンタインプレゼントでし
みんなありがとう。これからもよろしく！

【セットリスト】1.「ピリオド」 2.Days. 3.Paradox 4.Oh My Darli'n 5.罪と罰 6.言の葉 7.ロン 8 .Love you song 9.めっちゃ好き 10.カッコ悪ぃ歌 11.その手に残る僕 12.カゾエウタ。 13.「Life」 14.Oh My GOD 15.「Not Found」 EN1.テーマソング EN2.プレゼント EN3.人間定義 EN4.超過激愛歌 ～Super Ultra Lovesong～

（問）http://hero-izm.com/

蝴蝶网
hudie.com



DOG inThePWO
パラレルワールドオーケストラ

蝴蝶网
hudie.com

犬交パーティー」

2011.3.4 SHIBUYA O-WEST

、『ONE』をリリースしたばかりのDOG inTheパラレルワールドオーケストラが、東名阪ワンマン・ツアー「犬交パーティー」を敢行。そのファイナルとして初の渋谷O-WEST公演を行なっアルバムで見せた多彩さを、ステージで増幅させて表現してみせたライヴは、彼らのさらなる可能性を感じさせるものでもあった。6月1日のシングル・リリースと、6月26日・渋谷O-EAST催ライヴ『犬小屋#5』の開催も発表。勢いを増す彼らの、一つの記念日ともなった夜をレポート。さらに、アルバム発売を記念して行なわれた、原宿騒然のイベントの模様も併せてお届けする。

Photography:EMI NAITO　Report:TAKAYUKI MURAKAMI

バリエーションに富んだ曲調と、楽曲クオリティの高さを兼ね備えた1stアルバム『ONE』で、バンドが持つポテンシャルの高さを見せつけたDOG inTheパラレルワールドオーケストラ（以下、DOG）。アルバム・リリースに伴って行なわれた東名阪ワンマン・ツアー〝犬交パーティー〟が早々に全ヶ所ソールドアウトになったことからも、彼らが飛躍の時期を迎えていることが伝わってくる。いい波に乗っているバンドにふさわしく、ツアー・ファイナルを飾った渋谷O-WESTのライヴも観応えがあって楽しめた。

暗転した場内にオープニングSEが流れ、ステージ前面に降ろされた薄い幕にメンバー達のシルエットが浮かび上がる。客席から熱い歓声が湧きあがり、ライヴはアップ・テンポの「ONE」から始まった。ハードなステージングを展開しながらパワフルなサウンドを叩きつけてくるDOGに応えてオーディエンスのボルテージも一気に高まり、ライヴは上々の滑り出しとなった。

その後も「ハルシオンキャンディ」や「参千世界-夜と音-」といったアッパーなナンバーが相次いで演奏された。ビリビリした緊迫感を漂わせながら、瞬発力に満ちた歌声を聴かせる春。アグレッシヴなパフォーマンスと、テクニカルなプレイの取り合わせが光る準々。爽やかさを振りまきつつ、エッジの効いたギター・サウンドを響かせるミズキ。眩いオーラを放って、粘りのある重低音を紡いでいくメイ。4つの異なる個性が一つになってDOGの世界を創りあげる様子からは、彼らのバンド感がより強固なものになったことが感じられた。

〝今日は、大騒ぎしていこうぜー！〟という春のMCを挟んだ後は、サイバーな「POCKET ROCKET」や、セクシィな味わいの「スパイシーミルク」、躍動感に溢れた「絶頂highスピーカー」といったハード・チューンを相次いでプレイ。勢いを保ったまま突き進んでいく流れは本当に心地好かったし、スピーディな展開をしっかり聴かせる上質なプレイの数々にも目と耳を奪われた。

ロマンティックな味わいの「世界再構成魔法-リライト-」に続くライヴ中盤では、スリリングなサウンドと、ア

蝴蝶网
hudie.com

原宿騒然!!

『原宿チョコっとアドベンチャー ～バレンタインに待ってるワン～』

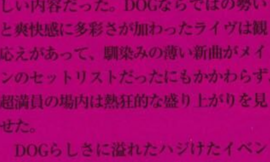
2011.2.13

昨年9月、原宿駅周辺に潜んだメンバー4人を探し出すスタンプラリー“「青空かくれんぼ」DOG逃走中なう！～原宿を封鎖せよ！～”というユニークなイベントを行なったDOG。“また、やって欲しい!”というファンの強いリクエストもあり、1stアルバム『ONE』のリリースを記念して、第二弾となる「原宿チョコっとアドベンチャー　～バレンタインに待ってるワン～」が、2月13日（日）に開催された。

当日はイベント日和の快晴で、DOG仕様のカラフルなバスが渋谷～原宿付近を走行してイベントに華やかさを加える中、第2チェックポイントとなった原宿神宮橋には予想を上回る大勢のファンが集結。警察が出動するほどの事態に、中止になってしまう寸前だったものの、急遽場所を変更し事なきをえたようだ。そして、当初シークレットだった「逆バレンタイン無料ワンマン」の会場前にてスタンプラリーは無事終了。

渋谷BOXXで行なわれた無料ワンマンは、『ONE』を曲順どおりに再現していくという、プレミアム・ライヴにふさわしい内容だった。DOGならではの勢いと爽快感に多彩さが加わったライヴは観応えがあって、馴染みの薄い新曲がメインのセットリストだったにもかかわらず、超満員の場内は熱狂的な盛り上がりを見せた。

DOGらしさに溢れたハジけたイベントだけに、今後もぜひ継続してほしいと思う。



これからへの起爆剤
東名阪ツアー・ファイナル

go-RouNd」　メロ… トを配した「コラン-新約：聖典-」などを披露。場内の熱気を下げることなく多彩さを発揮したこともさすがと言える。

『DOGは、今日で初ライヴから丸二年経ちました。その頃にみんなで、2年くらいで渋谷O-WESTを満杯にしたいよねと言っていたんです。それが叶いました！』春の言葉に客席からは温かい拍手と歓声が起こり、続けてスロー・チューンの「Dear My」が演奏された。ここまでとは一味違ったウォームなヴォーカルを聴かせる春。ダイナミクスを活かしたギター・プレイで楽曲を彩る準々とミズキ。シンフォニックなベース・プレイを展開するメイ。アッパーなライヴの中で、こういうしっとりした曲をストイックに聴かせる辺りも実に見事。エモーショナルなサウンドと、ステージに桜吹雪が舞うロマンチックな演出が相まって、強く胸に残る1曲となっていた。

爽やかな味わいの「アルトラ。」で幕を開けたライヴ後半では、ハイ・テン

…ション」を怒濤の勢いでプレイ。爽快感に満ちたサウンドとフィジカルなパフォーマンスで場内を華やかに染め上げて、メンバーはステージから去っていった。

アンコールは「SHINING TODAY～輝いちゃって今日～」からスタート。メンバー4人でマイクを持って、ダンスしながら歌うパフォーマンスで場内を湧かせた後、ステージの空気は再び一転してアグレッシヴな「電脳花壇」が演奏された。メンバー全員が客席に熱く煽りを入れ、オーディエンスが熱狂的なリアクションを見せる中、春は2回も客席へのダイヴを敢行。渋谷O-WESTの場内は、ツアー・ファイナルにふさわしい圧巻の盛り上がりを見せた。

〝犬交パーティー〟で、今の勢いが本物であることを証明したDOG。今回のツアーは、今後に向けた大きな起爆剤となったに違いない。彼らの次の展開にも大きな期待を寄せずにいられない。

蝴蝶网
hudie.com

常盤『LIMIT』が発売になるんですよね。

みつ：新たに加えた2曲（「エコー」、「ゴmy secret...」）は、今のライヴでも武器になっている大事な意味を持つ曲なので、それも知ってほしいなって。もともとこの2曲が出来たのは、カップリングとオムニバスのためなんですけど、シングルみたいに、前に出してもいい曲だってメンバー内で話していたんです。いつかカップリングとかじゃなく世に出せる機会があったらいいなって。ファンのおかげで（初回盤が）完売して、通常盤を出せるので、すごくいい機会だと思います。

——新たに加わった2曲はちょっと特別？

ヒィロ：特別ですね。今でもこの2曲はやっているし、初回盤プラスこの2曲が、今のニューの主軸になっているので、もっとたくさんの人に聴いてほしいですね。

——さらにリミックスが2曲入りますね。

みつ：ただ単に2ndプレスっていうだけじゃなくて、何か遊び心があるといいなと思ったので。もともと『LIMIT』を作ったときに限界まで詰め込んだので、出し惜しみしないほうがいいし、好きなことやったらいいっていう感じで、ボーナストラックとしてリミックスを入れました。

——リミックスするのに、「壊れた夜、並べた嘘」と「PULSE」を選んだ理由は？

ヒィロ：どれをリミックスしたら面白いかを考えて、候補曲の中から2曲が絞られました。「壊れた夜～」は激しいので、曲自体のイメージが違ったと思うんですよ。そこから、〝バンド〟を抜いた状態だとどうなるかを聴かせています。「PULSE」はもともとテクノっぽかったのをもっとお洒落な感じにして、コード感も変えて、振り幅が広がりましたね。

——さて、ここで改めてこのアルバムの聴き所を教えていただけますか。

みつ：音源って、ライヴでやって成長していくものでもあると思うんですけど、このときの曲を今聴いても、すごいものが出来たなって思うんです。今、この形は出来ないなって。それは超えられないという悪い意味じゃなくて、このときでしかないものが録れたということなんです。

ヒィロ：全曲そうだよね。テクニックもアレンジ能力も作曲能力も絶対今のほうがあるんですけど、僕ら5人がどういう来た基盤が全部詰め込まれているときに出今、同じものはもう作れないし、同じように弾けって言われても弾けないです。バンドの初期衝動が全部詰まっているから、これがなかったら今の僕らはいないですね。

華遊：僕は『LIMIT』を実家の親に渡したんです。今までいろいろバンドをやってきたんですけど、音源とか渡したことがなくて。でも、これは聴かせられるかなと思って。それぐらい自信がありました。

ヒィロ：その反応は？

華遊：みつ君の声いいね、とか。反応はいいですね。

タクミ：全体的に中毒性があると思うんですね。例えるならスルメタイプと言うか(笑)。負ける気がしない1枚だし、もっともっと聴きこんでもらえれば、いろんな面が見えると思います。

Яeー：自分で言うのも恥ずかしいんですけど、このドラムはやばいです。

一同：(笑)

Яeー：この音、今出せるかなって正直思いますし。このとき、やってやろうっ、自分の限界を超えてやろうっていう闘争本能がすごくあって。それが本当に詰まった作品になりました。『LIMIT』の音を聴くたびに今だに鳥肌が立ちますからね。

——これからも、まず[illegible]入り口にニューを知ってもらえ[illegible]ですね。

Яeー：本当に今でも聴いていて、どれも色あせていない曲ば[illegible]、そこに4曲プラスして、もっといろんな人に聴いてもらいたいと思います。

——そして、4月3日には渋谷クラブクアトロ・ワンマンが控え[illegible]ヴの構想はもうあり[illegible]か。

ヒィロ：1年前にクアトロでやるって決めていたので、『LIMIT』とか、今ある楽曲をどこまで消化できているかを、その日に見せたいですね。アストロ・ワンマンでやった楽曲と同じでも、伝え方が全然違うと思うんですね。意思表示がもっと出来てきているので、俺らがやるという意思をもっと明確に伝えられると思います。

——具体的にセットリストとかはどうなりそうですか。

『LIMIT』通常盤リリース。クアトロ単独公演直前、緊急インタビュー

アルバム『LIMIT』の初回盤完売を受けて、3月30日に通常盤『LIMIT』をリリースするν[NEU]。新たに4曲（そのうち2曲はリミックス）を加えた全17曲はボリュームたっぷりで、彼らの魅力を存分に味わうことができる。4月3日には、渋谷CLUB QUATTROでのワンマン・ライヴも決定。重大発表もあるというこの日。「絶対何かがある」というメンバーの言葉に期待が高まるが、その全貌はぜひ足を運んで直接確かめてほしい。

Interview: MIYUKI MURAYAMA

これまでのワンマンに[illegible]部分があって、テッパンと言うか、安心できる流れだったんですけど、クアトロに関してはちょっと違うものを考えています。

みつ：予想をつけられるのがすごくイヤになって。活動を続けてきて、ライヴは盛り上がるし、見てくれる人も増えたけど、そうじゃないなと。ライヴのラスト前にこれやって、ラストにこれやったらもう成功でしょ、っていうんじゃなくて、やっぱりライヴに来て、〝え？ これなの？〟みたいな、そういうのを求めて活動してきたので、新しく新鮮な気持ちで、いつまでも攻めていくのが大事だと思うんです。クアトロに向けて成長しているのを今感じているし、そこをワンマンで見せられたらいいなと思っています。

——ライヴを重ねることによって、成長を感じているのはどういうところですか。

Яeー：これまでのワンマンでは、〝自信あります、絶対できます〟って、自分達に対して言っている感じだったんです。でも、最近はそういう意味じゃなくて、ちょっと心にゆとりもできて、一瞬一瞬に賭けるメンバーの集中力がすごく高まってきたので、たぶんクアトロは、これまでのワンマンと全く別のものになると思います。

タクミ：僕はずっとワンマンで100パーセントでやっていたつもりなんですけど、今考えると100パーセントじゃないなと思うんです。そのときの100であって、今で言う50とかで、甘かったと思うので、今なら、フルに100パーセント表現できると思います。

華遊：確実に成長しているし、クアトロの日も何か新しいものが始まるんだろうなっていうワクワク感がありますね。

——緊張したり気負ったりするんじゃなく。

華遊：自由だっていう感じです。

ヒィロ：わかる。

みつ：振り返ると気負っていたかなって思うので。あのときは、盛り上げよう、いいライヴをしよう、100点を取ろうって思っていたんですけど、今はそういうことじゃなくて、クアトロで伝えたいことを伝えようっていう感じですね。

ヒィロ：バンドに対する価値観がすごく[illegible]ニューのことを考えて、時間とお金を使って見に来てくれる人にどうやって伝えるかを考えています。ワンマンに賭ける想いはすごくあるんですけど、それはイベントライヴでも変わらないし、どのライヴでも、一本一本に対して全力を傾けているんです。

——新曲も聴けたりします？

みつ：新曲がどうとかは秘密にしておきます。でも、とりあえず絶対何かがあります。重大発表があるのもそうなんですけど、あとはその日に来てくれた子たちに最初に伝えたいですね。

ヒィロ：具体的に新曲をやるとかドラムソロをやるとか、そういうんじゃなくて、何かがありますと。

——ドラムソロとかわかりやすい形ではないかもしれないけど、何かがあると。

みつ：でも、ある意味何よりもわかりやすい形だと思っています。あとは秘密です。

一同：(笑)

みつ：この日に来た人達に一番に伝えます。何をやるかは秘密なんです、だけど絶対来てほしい、来たほうがいいっていうものがあります。予想されることが好きじゃなくて、そうやって2年間やってきたんですけど、その中でも一番そう思わせるようなことをやるつもりです。

——予測できないぐらいの何かがあるんですね。

みつ：これ以上は言えないです(笑)。その日にしか味わえないものなので、次の日にライヴがあろうが、来年、再来年ライヴをやっていても、この2011年4月3日でしか見られないものをやります。だから絶対に来て下さい。

ヒィロ：クアトロは、僕らがニューって名前に改名した会場なんです。ニューが生まれた場所が渋谷クラブクアトロなので、そこでまた新しい何かを生みだしたいです。

華遊：4月3日にヴィジュアル界に影響を与えたいと思います！

一同：(笑)

——ニューのファンだけにとどまらないんですね。

華遊：はい。全世界の人達にニューを届けたいですね！

蝴蝶网 hudie.com

hudie.com

TOON-FACTORY

Photography:MASAKAZU KOBAYASH（SHOXX）
Text:NAOKO TAKEICHI
Hair&Meka-up:NAZU

揺れる、想い。

悔いのないように…

いつもとにかく楽しそうで、キラキラしていて、怖いものなんて無いんだろうな――。彼らと接すると、いつもそんな気持ちにさせられた。バンドが楽しくてしかたないというのが、ひたすら伝わってきたひかる・夢叶・雫・レガ・ゆーぃち。5人で歩んでいるTOON-FACTORYという人生は、この先どういう運命を辿ることになるのだろう？　と、楽しみでしかたなかった…………。

この仕事をし始めて、いくつものバンドと出逢い、誕生と旅立ちと、別れに立ち合ってきた。

出逢う方はいい。が、しかし。出逢いがあれば必ず別れがある。別れはどんな形にせよ切ないモノである。

10年を越える付き合いのバンドが多くなっている中で、TOON-FACTORYとの出逢いは、久々に初々しさを目の当たりにした、私の中で少し忘れかけていた感覚だった。

〝この子たちと刻んでいくことになる時間は、いったいどんなモノになるんだろう？　この子たちとはいつ、どんな形で別れることになるのだろう――？〟

出逢ったばかりなのに、別れの時を想うなんて気が早いと思うかもしれないが、いやいや、それくらい時間が過ぎ去るのは早いもので、あっという間に3年、5年、そして10年が過ぎ去っている世界なのだ。

第三者である私たちは、客観的に見ることが出来る立場であるがゆえ、〝あ、今、こんな感じなんだ……〟とか、〝なるほど。そういう時期に差し掛かったんだ……〟などと、言葉なくとも伺い知れるようになっていたりもする。当の本人たちは、自分たちのことゆえ、近すぎて見えなくなっていたり、バランスを崩しかけていたり、〝そんなことで!?〟と驚くほどちっぽけなことにつまづいていたり……。助言を求められ、あくまでも一つの参考意見として言葉をかける場合もあるが、その言葉が決定打になることはないと思うのだ。まったく無駄なことではないと思うが、決めるのは自分たち。他の誰でもないのだ。

この日、取材現場に独りで現れたレガの面持ちは明るいモノではなかった。

「すいません。本当に――。何から話したらいいのか、自分自身まったく解っていなくて……。いや。何から話すというより、正直、何が起こっちゃったのか解らないって言った方が正しいのかも。自分たちのことなのに、ちゃんと話せるかどうか不安だし、まだ現実を受けとめられない自分が居るんです……。4月6日に、フルアルバム『COLORS』のリリースも控えているし、5月13日からは、名古屋・大阪・仙台・そしてツアー・ファイナルが高田馬場AREAとまわるツアーも控えているんです。なのに……もう……TOON-FACTORYは……無くなってしまうんです……」

この取材は、TOON-FACTORYが解散を発表した3月4日のイベントライヴよりも一足早く行なわれたモノだった。前号では、〝やっとバンドが本気で楽しくなってきたんです！〟と声を弾ませていた夢叶に至っては、自分に過度な試練を与え、クリア出来ることに快感を覚えるのだと、日に日にギター小僧度が増し、ギタリ

ストとしてのスキルもアップし、ここからが彼らの本当の勝負の時だと感じていた矢先だった。
　2008年の5月結成に結成したばかりのTOON-FACTORY。結成からわずか2年半。あまりにも早過ぎる選択である。
「結成して2年半。本当にライヴはとにかく楽しくて、俺、毎日がTOON-FACTORY一色だったんです。TOON-FACTORYさえあれば、他に何も要らないくらい大切なモノだったんです。もちろん、他の4人もTOON-FACTORYを大切に想う気持ちは同じだと思うんです。けど、やっぱり、まだ2年半ですけど、それぞれいろいろと想うことがあったみたいで、ある日のスタジオ終わりで、誰からという訳ではなく、ふとそういう話になったんです。そんな中で、もう音楽から離れたいというメンバーも居て……。TOON-FACTORYとして、この先、一緒に歩んでいくことは無理っていう結論に至ってしまったんです……」
　まだ2年半ととらえるか、もう2年半ととらえるか。そこに実際立たされている者の感覚は、人それぞれだろう。
　私から言わせてもらうのなら、確実に〝まだ2年半〟である。結論を出すには早過ぎる。いろいろと迷い、悩む時期だと思うが、さすがに、わずか2年で終止符を打つまでの決心を固めてしまうとは、生き急ぎ過ぎだ。
　リーダーであるレガ自身の気持ちを聞いてみることにした。
「俺は……。俺は……。俺個人の意見としては……辞めたくないんです。解散なんて……考えられないんです……」
　ならば何故?
　彼は想像もしなかった言葉を発した。
「怖いんです……」
　怖い? 何が怖いと言うのだ? それほどまでに大事なモノならば、それが無くなること以上の怖さなど無いはずだ。
「………」
　レガは少しの間、考えていたのか、俯いて言葉を発しなくなった。
「そうなんですよね……。本当は、俺、自分独りになっても、TOON-FACTORYを続けるからって、みんなに言いたかったんです。最初は……そう言ったんです。でも……俺だけが残って、1人でTOON-FACTORYを続けたとしても、それはTOON-FACTORYじゃないし……。でも、このままTOON-FACTORYが無くなっちゃうのは絶対嫌で……。俺、18歳で東京に独りで出て来て、2年半、ずっとTOON-FACTORYだけだったんです。ここまで続いたのって、他に無いんです。何やっても中途半端で。でも、TOON-FACTORYだけは、辞めたいって思ったこと……俺は一回だってなかったし。でも、俺、リーダーっていう立場でありながら、メンバーがいろんなことで悩んでるのに気がつかなかったんです。それって最低じゃないですか? バンドって、一緒に音楽を作っていくメンバーであるけど、それ以上に1番気持ちが通じ合ってる仲間じゃないといけないと思うんですよ。俺は、すごくいい仲間だと思ってたし、友達だとも思ってたんです」
　誤解の無いように言葉を挟むが、今回の解散の原因は不仲では決して無い。
　音楽性の不一致。体裁的なことを優先する場合、大抵この言葉を選ぶ。しかし、ミュージシャンである以上、それは正当な理由でもある。TOON-FACTORYの場合、そこに理由がないとは言い切れない。
　今現在、メンバーもそれぞれ自分のこれからの生き方を悩んでいると言う。
　全員一致で解散という道を選んだだとしていたが、彼らの周りに居るスタッフの話を聞くと、どうやら迷いがあるのでは? と感じる。
　現にこのインタビューの前日、彼らの担当編集者の元に、雫からこんなメールがあったと言う。
〝明日の取材、よろしくお願いします〟と──。
　担当編集者は、最初、そのメールを勘違いメールかと思ったと言った。
　この日は初めから、レガのパーソナルで行なうと決まっていたからだ。雫が集合インタビューだと勘違いして送ってきたメールだと思ったらしい。しかし、担当編集者は、そのメールをもう一度読み返し、そこに込められた意味の深さに気付いたと言うのだ。
　そう。その雫の言葉に〝レガ〟という言葉を加えると、その言葉は一気に深みを増す。
〝明日のレガの取材、よろしくお願いします〟
　雫がそこに書きたかった言葉だ。きっと敢えて書かなかったのだろう。〝レガ=TOON-FACTORY〟という意味なのだ。
　まだ雫は迷っているのだと思った。レガは、そのメッセージの話を聞き、ふと込み上げる想いを押さえ込んだ。
「怖いとか……言ってちゃダメなんでしょうね、俺。今、独りでもTOON-FACTORYを続けるって言える強さを持てば、TOON-FACTORYは無くならない。そうなんですよね……」
　私もそう思う。せっかく音楽性も高く、しっかりと自分たちの色を掴みつつある今、もう一度考えるべきだと思う。
　そして。そこで出した答えが、再び〝解散〟であったとしても、そこに後悔が残らないようにしなければ……。
「解散するって言ってみたり、揺らいでみたり、最低だと思います。でも、今、隠さずに自分の思っていることを言葉にするならば、今日話したことがすべてなんです。俺、TOON-FACTORYだけが俺の人生のすべてだったとか言いながら、ちゃんと向き合ってなかったのかもしれないなって、今話してて思いました。結局、逃げてたのかもしれない。5月27日の高田馬場AREAのことは、今、正直まったく考えてないです。5月13日から始まるツアーのことだって、どういう顔してみんなに会いに行ったらいいのか解らないんです……。ツアーしてみんなの顔みたら、またハッキリと自分の気持ちにケジメが付くかもしれないし……。悔いの無いように頑張って生きようと思います」
　4月6日にリリースされるフルアルバム『COLORS』には、今のTOON-FACTORYが詰め込まれている。
　5月27日高田馬場AREA。彼らが出す本当の答えを、もう少し待つとしよう──。

※

　後日、レガから担当編集者の元に、一通のメールが届いた。そこには、彼のTOON-FACTORYに対する熱い想いが詰まった新曲のデモ音源と、〝腹くくりました〟と言う、決意の言葉が添えられていたのだった…。

(問)〒160 … http://www.toonfactory.jp/
●4月6日NEW ALBUM『COLORS』リリース

蝴蝶网
hudie.com

Ap(r)il 3ヶ月連続リリース決定!!
第一弾 2011.4.27 Release『Heart 8eat!!』
1.P(r)ism 2.Heart 8eat!! 3.MAXXBUG 3songs/Y1,575-(tax-in)/S.D.R-222
第二弾 2011.5.25 Release『CRACKER$』
3songs/Y1,575-(tax-in)/S.D.R-223
第三弾 2011.6.22 Release『FUZZ GRAPHIX』
3songs/Y1,575-(tax-in)/S.D.R-224
http://www.ap(r)il-web.net/
ツーマンライブ開催決定!!
シングル発売記念主催公演開催決定!
蝴蝶園 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
2nd MINI ALBUM
自由化スタイル
2011.4.20 RELEASE
リルト
【初回盤】SCL-086/087 (CD+DVD) ¥2,730 (tax in)
[CD] 1. DeaR 2. 炸裂フリーダム 3. キミイロ 4. ツンデレラマジック
[DVD] 炸裂フリーダム -Music Clip-
【通常盤】SCL-088 (CD) ¥2,100 (tax in)
1. DeaR 2. 炸裂フリーダム 3. キミイロ 4. ツンデレラマジック
先行発売東名阪主催イベント『第2次リルト大「宣」』
★全会場入場者全員にリルトより配布あり★
4月1日(金) 心斎橋CLAPPER
OPEN 18:00 / START 18:30 ★チケット無料★
※チケットは3月16日(水)心斎橋FANJ twiceのイベントより配布いたします。
4月7日(木) HOLIDAY NAGOYA
OPEN 17:00 / START 17:30
ADV ¥2,800 DAY ¥3,300 (D代別)
先行発売:3月17日(木)名古屋ell.SIZE物販にて先行発売
一般発売:3月20日(日)よりチケットぴあにて発売
4月10日(日) 池袋CYBER
OPEN 17:00 / START 17:30
ADV ¥2,800 DAY ¥3,300 (D代別)
先行発売:3月19日(土)HOLIDAY SHINJUKU物販Vにて先行発売
一般発売:3月20日(日)よりローソンチケットにて発売
特典1:東京盤特典DVD
☆★【EVENT LIVE】☆★☆★
3月19日(土) HOLIDAY SHINJUKU
(問)HOLIDAY SHINJUKU 03-5292-0591
4月28日(木) 高田馬場AREA
(問)高田馬場AREA 03-3361-1069
5月6日(金) 目黒鹿鳴館
(問)目黒鹿鳴館 03-3494-1801
6月19日(日) 岐阜Club G
(問)岐阜Club G 058-262-2737
6月23日(木) 新潟Black stage
(問)新潟Black stage 025-201-9981
6月26日(日) 池袋Black Hole
(問)池袋Black Hole 03-5955-7396
7月22日(金) 新宿RUIDO K4
(問)新宿RUIDO K4 03-5292-5125
7月19日(火) 心斎橋FANJ twice
(問)心斎橋FANJ twice 06-6484-3880
7月21日(木) 静岡Sunash
(問)静岡Sunash 054-288-0880

花少年
BADDIES
Mini Album
『BONJOUR』／花少年バディーズ
■Type-A HMCH-1031 ¥2,415(税込) 収録曲：1. Bonjour 2. カーネーション 3. カーテン 4. 槍が降る 5. スイートピー 6. ブランコ 7. アタリハズレマン
■Type-B HMCH-1032 ¥2,415(税込) 収録曲：1. Bonjour 2. カーネーション 3. カーテン 4. 槍が降る 5. スイートピー 6. ブランコ 7. テューズデー-怪物は幸福に満ちた-(不良品種Edit)
発売元：Happinet／販売元：Happinet
Blooming Now!!
花少年バディーズ単独公演 −ONLY−
TOUR2011
BOYS SAY "BONJOUR"
ーただいまおかえりカー
Ticket 4月3日(日)発売開始!!
05/01(日) 宇都宮HelloDolly
05/07(土) 長野LiveHouse J
05/08(日) 高崎Sunburst
05/27(金) 大阪Ruido
05/28(土) 名古屋Holiday
【問い合わせ】enter brain／http://www.enter-brain.jp
再会の準備をしよう。
baddies.jp
蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com
NEW MINI ALBUM
[TRIGGER]
2011.5.4[wed] Release!
■A-TYPE EAR-018A ¥2,730-(tax in)【CD(6曲)+DVD(1曲)】■B-TYPE EAR-018B ¥2,415-(tax in)【CD(7曲)】
※初回出荷特典：AGENTバトルカードNo.31～No.36をCD対1にてランダム
CD info:ONG DISTRIBUTION(TEL:03-5784-9662)
十三年上半期「激撃」任務発令!!
市単独公演巡業任務
of TRIGGER-Tour
日（土）郡山#9
日（日）仙台HOOK
残少!!
（金）博多DRUM S
残少!!
（日）心斎橋CLUB D
残少!!
日（土）名古屋ell FITS A
残少!!
日（土）新宿BLAZE
K（TEL:03-5784-9666/通販可）
】3月26日（土）各プレイガイドにて
TRIC AGENT本部をご覧ください。
携帯ファンクラブ会員限定LIVE!!
「AGENT VIP ROOM'2011
～庵怒羅射舞集会～美怖流宇夢～～」
3月26日(土)渋谷屋
SOLD OUT!!
アンド携帯ファンクラブ
「AGENT VIP ROOM」
着うたダウンロードや着ボイス、
フラッシュ待ち受け画像や
期間限定コンテンツ、チケットの
優先予約、会員限定グッズ通販など
盛りだくさんの携帯ファンクラブ!!
ライブスケジュール
3/25 渋谷O-EAST
4/2 宇都宮HEAVEN'S ROCK VJ-2
4/3 高崎CLUB FREEZE
4/10 水戸ライトハウス
4/13 仙台darwin
4/15 札幌KRAPS HALL
4/18 長野JUNK BOX
4/19 新潟GOLDEN PIGS RED ROOM
4/20 金沢Az
4/22 京都FANJ
4/23 岡山Crazy Mama Kingdom
4/25 鹿児島CAPARVO
4/26 博多Be-1
4/28 大阪BIG CAT
4/29 名古屋E.L.L
5/3 渋谷O-EAST
ECCENTRIC AGENT本部
http://and-eccentricagent.com/

V-last.

第4テロ命令

2011年4月13日(水) PV付 NEW SINGLE

L-GAME

A-TYPE ¥1,890(tax-in)
VRT-005A

【CD収録曲】
1.L-GAME
2.ジェットコースターLife

【DVD収録曲】
1.L-GAME PV

B-TYPE ¥1,575(tax-in)
VRT-005B

【CD収録曲】
1.L-GAME
2.ジェットコースターLife
3.終わらない恋

「L-GAME」4月6日(水)よりmusic.jpにて着うた独占先行配信開始!!

<INSTORE EVENT>

「L-GAME」発売記念
新宿～渋谷間多発スタンプラリーテロ
4月13日(水)
PART1 16:00～16:30 新宿自主盤倶楽部 (問)03-3371-3851
PART2 17:00～18:00 新宿ZEAL LINK (問)03-5379-7155
PART3 19:00～20:00 渋谷ZEAL LINK (問)03-5784-9666

「L-GAME」発売記念インストアイベント
4月29日(金・祝)池袋ブランドエックス (問)03-3980-6780
5月3日(日)新宿ZEAL LINK (問)03-5379-7155
5月6日(金)大阪ZEAL LINK (問)06-6251-1231
5月8日(日)名古屋HMV栄 (問)052-243-6366
6月5日(日)渋谷ZEAL LINK (問)03-5784-9666

<LIVE SCHEDULE>

3月22日(火)名古屋ell.FITSALL
3月25日(金)渋谷O-EAST
4月3日(日)高崎CLUB FLEEZ
4月8日(金)高田馬場AREA
4月17日(日)高田馬場AREA
5月7日(土)江坂MUSE
5月8日(日)名古屋HEART LAND
5月11日(水)高田馬場AREA
5月21日(土)渋谷BOXX

「V-last.2011年8大テロ

第1テロ命令 テロ完了
第2テロ命令 テロ完了
第3テロ命令 テロ完了
第5テロ命令
5月29日(日)池袋RUIDO
VRT大大大大大大感謝
第6テロ命令
テロリストVS??????
第7テロ命令
7月13日(水)
PV付 NEW SINGLE 第

第8テロ命令
V-last.2011年8大テロFINA

単独テロ公演
8月21日(日)渋谷O-W

「King of the terror

OPEN16:30/START17:00
前売¥3,150(D別)/当日¥3,675(

前売りチケット購入者に無料配布有り
※詳しくはofficial web siteをご覧ください※

V-last. official web site http://v-last.com

蝴蝶网 hudie.com

銀座よろず屋本店 仮想店舗『柿ノ元』

■オリジナルミラー
¥1,000【ULI-12】

■ポラロイドファイル
¥2,500
【ULI-13】

■最新アーティスト写真 A ¥1,500【ULI-14】

■最新アーティスト写真 B ¥1,500【ULI-15】

凛 -the end of corruption world-

■オリジナルストラップ ¥1,000【ULI-9】

■サイン入りチェキ
2枚組（ランダム封入）
¥1,000【ULI-16】

朱

■写真セット ¥1,000【USU-01】

UNDER CODE PRODUCTION NEW BAND 朱

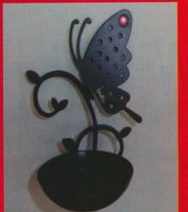
朱 正式初ライブ
朱主催イベント
開催決定!!
「朱宴 - 襲 -」
2011.4.26（火）
OSAKA MUSE

FIRST MAXI-SINGLE
「曲ガル睡蓮｀堰ケル [11ul]」
2011.5.18
2TYPE Release!!

朱 CD 発売記念
主催イベント「朱宴 - 宵 -」
2011.6.19（日）
ESAKA MUSE
2011.6.25（土）
池袋 CYBER

追加スケジュールは、OFFICIAL HP をチェック !! http://www.under-code.jp/

Dolly



■ Dolly
アクセサリースタンド
¥1,500【FDO-3】

...lly
...携帯ストラップ
...00【FDO-4】

■ Dolly
リボンポーチ
¥2,300【FDO-5】

3月2日（水）
配信スタート
オリジナル...gle
...hooting S...
...ing...
...イトディ...
...2] ¥2,415...in)

【CD】全3曲収録
【DVD】ムーンライトディスコ
(MUSIC CLIP)

◇ 3/9(wed) 大阪 MUSE
◆ 3/11(fri) 名古屋 ell.FITSALL
◇ 3/17(thu) 仙台 JUNK BOX
...R FINAL
... 4/9(sat) 渋谷 WOMB
...詳細は Dolly Official Site
...ください。
http://www.dolly-web.com/

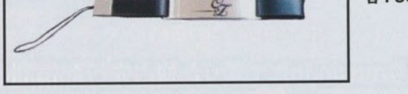
...ji Production Inc.
...e Creative Office

蝴蝶网
hudie.com

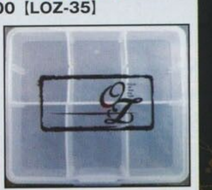
OZ
Natsuki Aki Tama Nao Zukki

■シュシュ
¥1,000
【LOZ-34】

■コインケース（黒／紫）
各¥500【LOZ-35】



■ストラップ ¥1,500【LOZ-37】



■ピルケース
¥1,000【LOZ-36】

■タオル
¥2,000【LOZ-33】

Loop Ash RECORDS 【INFORMATION】〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-18-3 目黒第一花谷ビル 602 号室
（有）ループアッシュ -OZ- web saite ⇒ http://www.territory-oz.com/

R 指定

マスク ¥500【SRS-16】

チェキホルダー
¥1,500
【SRS-18】

写真 3-A ¥1,500【SRS-19】

Ap(r)il

メンバー全員入
チェキ (4 人)
¥1,600
【SAP-20】

ストラップ
¥1,500【SA

写真 10-B ¥800【SAP-21】

NightingeiL

コンパクトミラー
¥1,000
【SNI-12】

写真 2-A ¥800【SNI-14】

写真 3-A ¥800【SNI-15】

xTRiPx

ミニタオル ¥1,000【STR-1】

パスケース
(ブラック × ピンク)
¥1,500
【STR-2】

ミラー ¥1,500【STR-3】

Speed-disk

※注意事項
*バックナンバーの受け付けは終了となりました。
*今月号のグッズの締めきりは 4/21 到着分までとさせていただきます。
● SPEEDDISK のイベント
★ SPEED DISK PRESENTS ～『桜華乱舞』
・4/7(木) 高田馬場 AREA
OPEN 16:30/START 17:00
前売り ¥3,000/¥3,500(税込)
Cast: ギャロ /Vanish/POPCORE/lam./Re:dis /RED universe 他

・4/8(金) 高田馬場 AREA
OPEN 16:30/START 17:00
前売り ¥3,000/¥3,500(税込)
Cast: キッド /spiv states/ ダウナー /V-last. / LOST ASH/ ワン★スター 他

★ SPEED DISK PRESENTS ～『森羅万象 tour'11#1』
24/13(水) 仙台 darwin
4/15(金) 札幌 KRAPSHALL
4/18(月) 長野 CLUB JUNKBOX
4/19(火) 新潟 Live Hall GOLDEN PIGS
4/20(水) 金沢 AZ
4/22(金) 京都 FANJ
4/23(土) 岡山 CRAZY MAMA KINGDOM
4/25(月) 鹿児島 CAPARVO HALL
4/26(火) 博多 DRUM Be-1
4/28(木) 大阪 BIGCAT
4/29(金・祝) 名古屋 E.L.L
5/3(火・祝) 渋谷 O-EAST

OPEN 16:30/START 17:00 (4/18 長野公演のみ 17:00/17:30)
前売り ¥4,000/¥4,500(税込)
Cast：R 指定 /xTRiPx/Moran
Guest：AYABIE/ アンド / ケミカルピクチャーズ / DuelJewel/BORN
※各会場ごとで出演者が異なりますので
容は各バンドの HP か SPEEDDISK の
下さい。

SPEEDDISK のイベント詳細は
ご覧下さい。
http://www.xxxrecords.jp/speed

aicle 愛狂います。

■チェキ【えみる ルビ さらん 玲音】
(メンバー選択可)
¥500【NAI-36】

■【ルビデザイン】
エンジェルビリンゴ
ストラップ (15mm)
¥1,000
【NAI-34】

■新衣装アーティスト
写真 B 2L(サイン入)
¥1,000【NAI-37】

■アルク T シャツ
黒 (サイズ S・M)
¥2,500
【NAI-38】

■アルクストラップ
(20mm)
¥1,000【NAI-39】

TOON-FACTOR

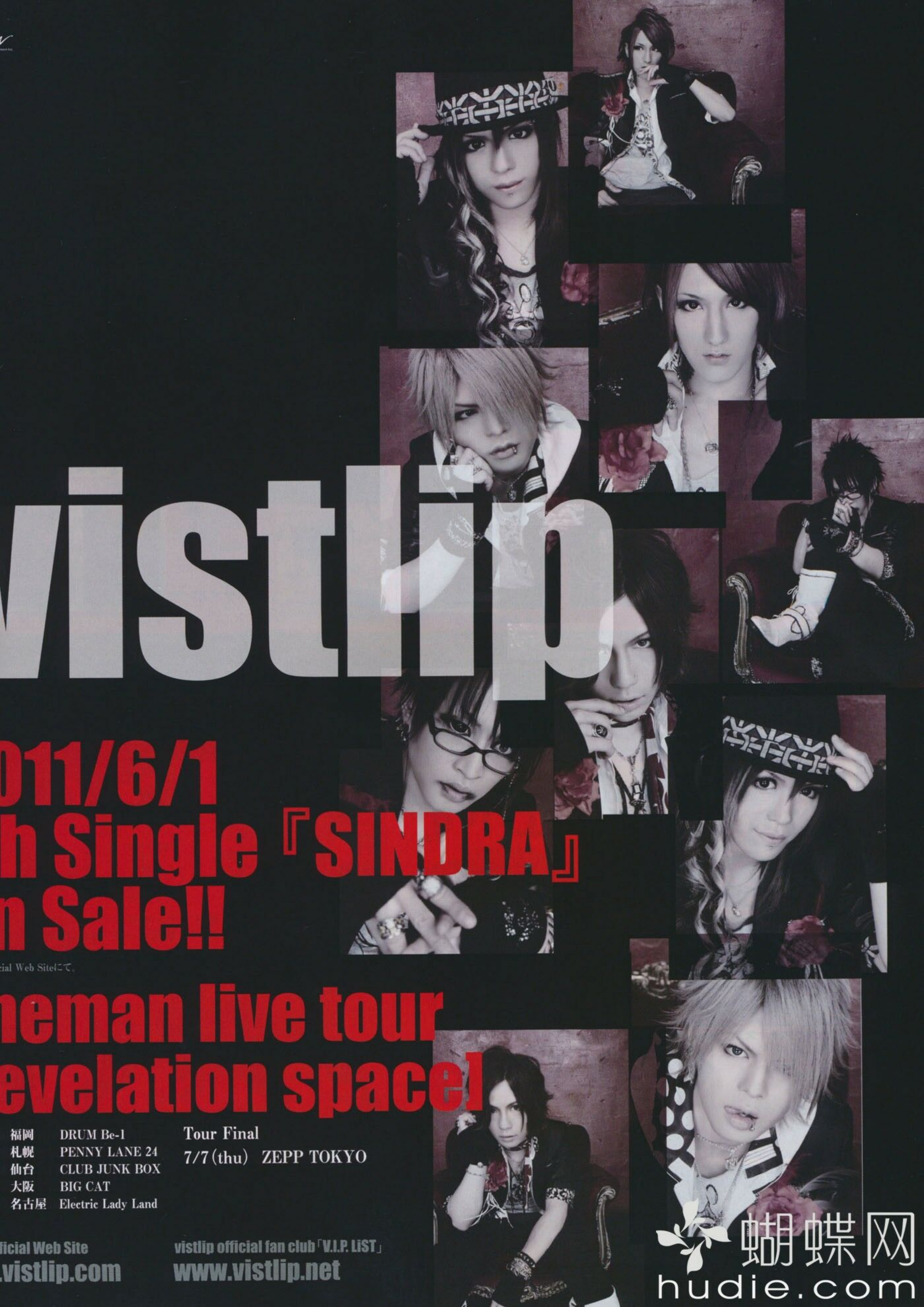
■マフラータオル
2010 限定ピンク ver.
¥1,500【WSG-6】

■アーティスト写真 ¥1,000[WSG-9]

■申し込み方法
商品をお申し込みの方は、郵便局に備え付けの振り込み用紙にて、定価＋送料 700 円を下記口座までお振り込みください。なお、通信欄には下記事項をお間違いないようご記入ください。
■郵便振替番号　00180-9-603494
■金額欄　定価に送料を加えた金額をご記入ください。(複数種お申し込みの方は定価の合計金額＋送料 700 円をご記入ください)
■加入者名　株式会社　音楽専科社
■通信欄　柿ノ元・希望商品名・商品番号・各商品の数量
■振込人住所氏名欄
あなたの住所、氏名、電話番号を丁寧にご記入ください。
【お問い合わせ先】
株式会社　音楽専科社『柿ノ元』
〒104-8228　東京都中央区銀座 6-2-3
ダヴィンチ Daiwa 銀座アネックス 5F
TEL03-3574-0203　FAX03-3574-8548

銀座よろず屋
仮想店舗
『柿ノ元

蝴蝶网
hudie.com


vistlip
011/6/1
h Single『SINDRA』
n Sale!!
cial Web Siteにて。
neman live tour
evelation space]
福岡 DRUM Be-1
札幌 PENNY LANE 24
仙台 CLUB JUNK BOX
大阪 BIG CAT
名古屋 Electric Lady Land
Tour Final
7/7(thu) ZEPP TOKYO
ficial Web Site
.vistlip.com
vistlip official fan club「V.I.P. LiST」
www.vistlip.net
蝴蝶网
hudie.com

closet child

ヴィジュアル系 貴重盤CD
アーティストグッズ
ゴシックロリータブランド古着
クローゼットチャイルド

新宿店

◆closet child 新宿店
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12 YSビル1F
(TEL 03-3365-6316)
＜OPEN :11:00~20:00＞

原宿店

◆closet child 原宿店
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-7-6 COXY176ビル101
(TEL 03-3403-4108)
＜OPEN :11:00~20:00＞

池袋店

◆closet child 池袋店
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-5 七福久ビル3F
(TEL 03-3983-5322)
＜OPEN :12:00~21:00＞

横浜店

◆closet child横浜店 220-0005
〒220-0005 横浜市西区南幸2-16-11 二幸ビル302
(TEL 045-316-2166)
＜OPEN:12:00-21:00＞

相模大野店

◆closet child 相模大野店
〒228-0803 神奈川県相模原市 3-15NKビル2F
(TEL 0427-47-1840)
＜OPEN :12:00 - 21:00＞

買取大強化中

期間限定買取査定額大幅アップ 4.1-4.30
キャンペーン 20%UP

対象アーティストのアイテムは査定額20%UP

BORN ギルガメッシュ Versailles アヲイ 人格ラヂオ
9GOATS BLACK OUT DEATHGAZE ゴールデンボンバー 摩天楼オペラ lynch.

ツアーグッズ・ファンクラブ
物販写真・ツアーTシ
コラボアクセサリー・写真

アーティスト
グッズ
買取大強化中

ガゼット・シド
PlasticTree
ナイトメア・DIR EN G
Gackt雅等大歓迎!

貴重盤超高価買取中!! 更に詳しい買取表はウェブで!!

ゴールデンボンバー
ザ・ゴールデンベスト
-Brassiere-（初回限定A）
3600円

DELUHI
Surveillance
6000円

- ●R指定 裏映像盤。PV集 DVD ¥2,000
- ●ViViD Take-off CD ¥3,000
- ●X-JAPAN PERFECT BEST 3CD ¥2,600
- ●ガゼット 鬼畜教師(32才独身)の悩殺講座 CD ¥7,500
- ●ゴールデンボンバー ゴールデンアワー～上半期ベスト2010～[初回限定盤A&B] CD+DVD ¥3,000
- ●SHULA (シドVo.マオ在籍) Shu-la-tic CD ¥12,000
- ●SINCREA ATLAS CD ¥2,000
- ●ダウト 御礼参り EXPO'10 2DVD ¥3,000
- ●新興宗教楽団NoGoD INDIES BEST SELECTION2005-2009 2CD ¥3
- ●有村 竜太朗 あおむしドロップ(帯付) GOODS ¥4,000
- ●摩天楼オペラ INDIES BEST COLLECTION CD+DVD ¥2,160
- ●Moi dix Mois Invite to Immorality (限定盤) 2DVD ¥4,500
- ●lynch. greedy dead souls CD ¥3,600

Versailles
JUBILEE (初回生産限定盤)
2160円

SuG
BL⇔Rock Party MonstAr
7000円

ViViD
Take-off
3000円

愛狂います。
アルク (初回限定盤)
2000円

NoGoD
INDIES BEST SELECTION 2005-2009
3500円

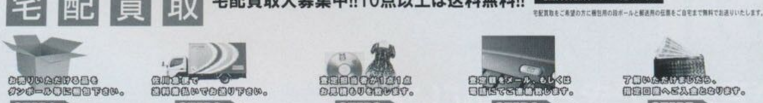
メガマソ
Loveless,more Loveless (初回盤)
2000円

lynch.
greedy dead souls
3600円

宅配買取

宅配買取大募集中!!10点以上は送料無料!!

宅配買取用段ボールご用意致します
宅配買取をご希望の方に梱包用の段ボールと郵送用の伝票をご自宅まで無料でお送りいたします。



梱包用ダンボールお届けいたします!!買取/対象ブランドの詳細はWEBで!!

ご不要なCD/DVD/アーティストグッズ/お洋服等お買取させていた

買取対象ブランドは下記HPをご覧下さい。
遠方/数量の多いお客様には宅配での買取をお勧めしております。mホール等に梱包し、必要事項（氏名・住所・電話番号、メールアドレス・
支店名・口座番号・口座名義人名（フリガナ・雑誌名）を記入した用紙と身分証のコピーを同封し、下記住所までご郵送下さい。
※宅配買取システムの詳細は弊社HPを必ず参照下さい。
※必ず佐川急便をご利用下さい。送料無料!!

宅配買取受付窓口・お問合せ先
160-0023 東京都新宿区西新宿7-16-12YSビル1F
クローゼットチャイルド TEL 03-3365-6316 webtakuhai@closet-child.com

高価買取一覧表はHPでご確認いただけます!! 毎月2万点以上のヴィジュアル系の商品買取実

ヴィジュアル系オンラインショップ

総アイテム8000点以上日本一の取り扱い量!

クローゼットチャイルドのCD/レア盤
グッズ等が携帯電話&PC&スマートフォンにて
購入いただけます!!

http://www.closetchild-cd.jp/

ゴシックロリータブランド古着オンラインショップ

h.NAOTO / Moi-meme-Moitie / alice auaa / BPN / ALGONQUINS / Angeli
BABY,THE STARS SHINE BRIGHT / Emily Temple cute / MILK

人気ゴシック・ロリータブランドのユーズドオンラインショップ!!
入手困難な予約完売品/今期物
定番物までを随時800アイテム取り揃えたゴスロリ専門オンラインショップ!!

http://closetchild.ocnk.net

お兄系/109-2古着オンラインショップ

FUGA BUFFALO BOBS JACKROSE Roen TORNADO MART
VANQUISH Xfrm Diavlo

毎週約200点出品!! お兄系/109-2系ブランド古着専門オンラインショップ!!

http://m-closetchild.ocnk.net

Vivienne Westwood 専門オンラインショップ

80年代の貴重なヴィンテージアイテム 入手困難なオープライター等のレア物
人気のアクセサリー等の定番アイテムのリーズナブルなユーズドアイテム、
更に市場価格より最大7割引きの財布などの新作新品等を随時300点以上出品中!!

http://www.rakuten.co.jp/ainahaina/

DuelJewel

蝴蝶网
hudie.com

Vamp Ash

純粋に自分たちがやりたい音楽をできる環境にいる

ングルとしては約3年ぶりとなる『Vamp Ash』をリリースしたDuelJewel。
血鬼を主人公にした世界観を、彼らなりの解釈と表現で表した仕上がりからは、あくまでロックバンドと
てのカッコよさを追求する彼らの姿勢が強く感じられた。現在は全国ツアーの真っ最中。
らに7月には東名阪ワンマンが決定しているので、ぜひとも彼らの音楽を直接肌で感じてみてほしい。

view: MIYUKI MURAYAMA

―シングルはかなり久しぶりですけど、やっぱりシングルとなると、選曲のポイントも変わってきたりしましたか。

ばる：今は純粋に自分達がやりたいことをやれる環境なので、あんまりねらいすぎないようにという意識は最初皆で話し合いましたね。別にカッコよければ何でもいいんじゃない？っていう感じでした。

―そこから、「Vamp Ash」は、すんなり決まったんでしょうか。

Natsuki：1回目の選曲会のとき、とりあえずもう1回作り直そうか、ってなりました（苦笑）。曲は出たんですけど、満場一致でこれっていうのがなくて。

Shun：2回目の会議で2曲候補が出て、さんざん悩むことになりました。

―「Vamp Ash」ともう1曲あったと。

ばる：両極端な2曲だったので意見が割れたんです。「Vamp Ash」はダークと言うか暗い系なんですけど、もう1曲は明るい感じだったので、最後まで悩んで悩んで。

Shun：でも、衣装とかも全部見据えた結果、今回押し出す世界観はこれだろうということで決まりました。

隼人：曲から感じたイメージとか、歌詞とか衣装とかジャケットとかPVとか、全部一貫したものをやりたくて。1曲でわかりやすいもののほうが、初めて聴く人にもやりたいことが伝わると思ったんです。

―ただ、もっと世界観を作り込むこともできそうな曲ですよね。それをしないのがデュエルジュエルなのかな、という気がしたんですが。

ばる：そこまでがっつり寄りたくないというのはありましたね。ジャケットのデザインにしろ、アー写のイメージにしろ、そこまで行き過ぎないで、一歩手前ぐらいの感じにしようというのは、皆共通してありましたね。

Shun：結局僕らはロックバンドなんです。たくさんいい音楽届けたいという中での、あくまでひとつのアプローチなので、あまり偏らせず。だから、ばる君から原曲をもらったときに、特にロック色の強いアレンジにしようとか、いろいろイメージしたことがあって。各々の個性が必ず光るアレンジだったり、フレー

ばる：この曲は俺っぽい曲じゃないと思うんですよね。どうですか？

Shun：メロディーの付け方は、すごくばる君っぽいけど。

Natsuki：うん。サビの後半とか。ばる君節がある。

Shun：AかBで絶対リフレイン的なメロディーを持ってきたがるとかね。ばる君はメロディーに特徴が出ますね。

ばる：そうなんですかね。

——そこにつけたドラムは？

ばる：自分の作る曲に関してはすごくシンプルになっちゃいますね。ドラムで前に出ようと思わないので。今回もドラムはシンプルです。

——ベースで個性が出せたところは？

Natsuki：自分の曲じゃないときは、動きたくなるんですよ。今回は、大きく動くのと細かく動くフレーズを組み合わせてみました。ベースでも色をちょっとつけられたらいいなと思って。

祐弥：ギターは、最近の『ZERO』とかの楽曲に比べたら、歪みの量を増やしているんです。どっちもがっつり歪ませて、ギターの音が太く録れていますね。スピード感よりもどっしりビート感を出しています。

Shun：歪みを増やしたと言うより、トーンを沈めたと言うほうが正しいね。

祐弥：すごく歪んでいる感が出ているんじゃないかと思います。

——そうしたのは、世界観云々ではなくて、曲調にそういう音が合ってるから？

Shun：そうですね。この曲は、デモの時点で、久々にいなたいギターを弾きたいなと思ったんです。メインフレーズがそうなんですけど、80年代を匂わせるような音の作り方にして、そういうアプローチに合うバッキングの音という風に煮詰めていきましたね。

——歌詞は吸血鬼の物語ですが、吸血鬼というワード自体が、デュエルジュエルからすると意外な気もしたんですけど、これは曲のイメージから？

隼人：ずっと気になっている映画があったんですよね。それがこの曲に合うなと思って、ばると相談して書くことにしたんです。でも、やっぱりそっちの世界観

てています。人間の世界でも、許されない恋と言うか、お互いが想い合っていても叶わないものってあると思うんですよ。叶わなかったり、叶ったとしてもものすごく短い時間だったり、そういう限られたものほど美しいし、そういう面を書いています。

——歌うときは、その主人公のように？

隼人：声優みたいな気持ちですかね。これは完全なストーリーなので、その主役が歌っているものをやりたかったんです。すごく色気のある曲だと思うので、そこを意識して歌いました。

——これだけ曲に世界観や物語性があると、PVもそれを反映したものになっているんでしょうか。

隼人：今回のPVは本当にすごいです。

ばる：この世界観がばっちりですね。

隼人：スタッフと打ち合わせしていたときに、僕がインスピレーションを受けた映画とはまた別のヴァンパイア系の映画を題材に持ってきてくれて。そのイメージがばっちり合っていたんですよ、そのおかげでイメージどおりのPVになったなと思います。ただ寒かったですね。

——ロケだったんですね。

隼人：真冬の富士の麓で。マイナス6度とかでした。やばかったですね。

ばる：前回の「朧月」のPVはかなりCGを使ったんですけど、今回は全部生の映像なので、その対比が面白いと思います。CGっぽく見えるところもあるんですけど一切使わず、煙もちゃんとおこして、素材を全て撮りました。そのメイキングが、Bタイプのライヴ映像に加えて入ります。どれだけ寒そうなのかも伝わると思うし、また面白いんですよ（笑）。

——両方見てほしいと。カップリングの「The Greed」がShunさんの曲ですね。

Shun：やらかしました（笑）。半分ネタで持っていったら、意外に反応よくて。祐ちゃんも聴いたとき、これはねえなって思ったらしいので。

祐弥：Shunちゃんが作ってくる曲はメタル要素が強いんですけど、それが色濃く出ていて。ギター的にはやりすぎているかと思ったんですけど、皆がカッコいいって言って。

いう風に考え方を切り替えて、リズムの仕掛けとかを考えてアレンジしていきました。激しいノリが好きなお客さんは狂喜乱舞するんじゃないかと思うんですけど、演奏している側は辛いです。

——辛いんですか。

ばる：きつかったですね。きついですけど…きついです（苦笑）。きついな、きついなと思いながら録っていたので、時間かかりましたね。派手にしたいと思って、いろいろ足数手数入れたし、ドラムソロが途中にあるし、ド頭もドラムのフレーズですし、極端ですよね。

Natsuki：速弾きまではいかないですけど、音階が並んでいるのを抜けたところに入れてみたんですよ。メタルっぽいかなと思って。それがすげえ時間がかかりました。

——Shunさんはレコーディングはお手のもの？

Shun：最後にふざけて録ったスイープがすごく苦労しました。それ以外はスムーズだったよな？

祐弥：対比を出すために、アンプも変えて音作りをしたので、ユニゾンのフレーズが多いんですけど、埋もれずに全く違う音で広がった感じが出ました。

——歌も、「Vamp Ash」とはまるで違いますね。

隼人：すげえ曲が来たと思ったので、対比をとるような感じで、気持ちも入れ替えて録りました。ライヴっぽい感じを出して激しく。演奏隊がすごく勢いが出ていたので、負けないようにやりました。

——Bタイプに付くDVDは、ライヴ映像なんですよね。

ばる：ライヴ映像をあまり出さないバンドなんでレアだと思います。それを観て、ライヴに来たいと思ってもらえれば嬉しいですね。

——全国ツアー中でもありますね。

ばる：全国の皆さんに聴いて欲しいし、見てもらいたいので全国回ります。イベント・ツアーで全国を回るのは結構久しぶりですね。

隼人：このスケジュールは気合い入れて回らないと。大変だ、頑張りましょう。

一同：（笑）

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

WILL

今回はかなり大股で一歩進んだと思います

2010年に自主レーベル「THAT RECORDS」を立ち上げ、来年2011年の結成20周年へ向けて活動中のPENICILLINが、自主レーベル第一弾ニュー・アルバムとなる『WILL』をリリースした。やりやすい環境の中、やりたいようにやったという今作には、PENICILLINの音楽に対する自由なパワーが詰め込まれている。今作について、ツアー直前の3人に迫った。

Interview: AKEMI OHSHIMA

すが、今までと変わったことってありますか？

千聖：作業工程は、何も変わっていないね。みんなで、楽しく作ればいいってだけ。

HAKUEI：ただリリースのタイミングを、作業の進み具合で変えることができるのはいいと思いましたね。スケジュールがきつくなってきたら、予定を延ばしてじっくり作るとか、制作面を自分たちで考えられるので、ストレスがないのはよかったな。去年、僕は舞台をやっていたので、スケジュール調整がなかなかうまくいかなくて、作業が延び延びになっていたんですけど、それにあわせてプリプロも長めにやらせてもらいました。

O-JIRO：自分たちのやりやすいペースで、やりやすい場所をキープしたことがモチベーションにもつながって、よかったと思います。

千聖：ペニシリンは活動歴が長いけど、根本は何も変わっていないよ。曲もみんなで出し合って、どれがいいかという話し合いをするし、人間的な部分は変わらないよね。それを電話とか携帯のメールで伝えるんじゃなくて、ちゃんと会って楽しくやっているという部分は、結成当初から変わっていないとこだと思う。

——今回、どういうアルバムを作ろうかという話し合いは、ありました？

千聖：それはあまりなかった（笑）。でもそこらへんは、長くやっている強みだね。いちいち会議を開いて机上の話をするよりは、とりあえず作ってみようっていう感じ。自分たちのスタジオっていうか、遊び場みたいな場所を作ったから、そこで自由にいろいろやれてよかったよ。

——前作の時にはその場所の話はなかったから、作ったのは最近？

千聖：去年の春頃。その空間でみんなで集まりながら、曲を作っていったんだよね。

——プリプロができるようなスタジオ？

千聖：スタジオというのは、大袈裟だけど（笑）。みんなが自由に出入りできる場所があるのは、いいなって思う。予約しなくても、“今日入りたいけど、入ろうか”って感じでできるので、楽しかった。

——アルバム・タイトルの「WILL」が一曲目で、PVも撮っていますよね？ かポップな曲は他にもあるのに、この曲をリード曲にしたのはどうしてですか？

HAKUEI：個人的には「WILL」か「南十字星」か迷ったんだけど、「WILL」を作った時のみんなでアレンジをしている空気がよかったんですよ。原曲は僕が持っていったんだけど、リズムを変えてみようっていってみんなでいろんなアイデアを出して、それにあわせてパッとその場で思いついたメロディを歌って。みんなでジャムりながら作る姿勢に、今のペニシリンのパワー感を感じたんです。しっかり前に進む精神力があらわれている気がして、この曲に決めました。

O-JIRO：変わった曲なんですけど、今勢いがあっていいかなと思いました。今のバンドの躍動感が伝わると思うし、アルバムを象徴するような歌詞だったので、リード曲としてわかりやすいと思ったんです。

千聖：このアルバムはインストの「鉄のハインリヒ」と「DEATH DANCE」以外、シングルになるような曲ばかりだと思う。「南十字星」の原曲は俺で、「Are you ready?」はO-JIRO、「WILL」はHAKUEIで、この3曲は見事に全部違う作曲者なんだよね。その中でも一番歌詞のイメージが見えやすかったのと、他にはないメロディだってことが決め手だったかな。

——たしかに、コンビニやパチンコ屋で流れていても、“あ、ペニシリンの曲だ”ってわかりそうな曲ですよね？

千聖：こういうメロディは他（のバンド）ではなかなかないだろうから、パッと聴いただけでわかるよね。“どこかで聴いたことあるよね”って思う曲はミュージシャンとして避けたいと思うし、「WILL」は主張が強かった気がするよ。まぁ、個人的には、ギター・ソロがカッコイイという理由もあったんだけど（笑）。

O-JIRO：どれもカッコいいよ。

千聖：そうなんだけど、アイアン・メイデンみたいだと思ったんだ。自画自賛。

O-JIRO：アイアン・メイデンよりもカッコいいから、大丈夫だって（笑）。

千聖：いい曲っていうのは、いろんなアレンジを思いつくものなんだよ。このアルバムの曲は、みんないいアレンジがで

——じゃ[illegible]

千聖：やりたいように、やったからさ。

O-JIRO：たしかに、ハマった曲はなかったね。

HAKUEI：とりかかる前に、みんなでディスカッションして、こんな風になるといいねということを先に話していた気がする。イメージを話し合ってみんなが“それ、いいね”っていう空気になってから、アレンジをスタートさせてたんですよ。今回は、そういう話し合いをよくしていたと思います。

——「熱体夜」はノリがソウルっぽいのに、すごく音数の少ない曲ですよね？

HAKUEI：うん。ソウルですよね。

O-JIRO：だんだん減っていって、あの形になっているんですよ。

千聖：最初にO-JIROさんが持ってきた時は、もっと普通っぽかったよね。

O-JIRO：プリプロで減って、レコーディングでも減って、ミックスでも減っているんですよ。それで、生き残ったのがバスドラだけ（笑）。スネアとかもちょっと入っていたんだけど、最後はいなくなって超スッキリしました。

千聖：その前に入っている「ENGAGING VICE」は音の洪水みたいな曲なので、よけいにギャップを感じるよね。

——「一秒先に耳を澄まして」はダンス・チューンで、サビがゆっくりになる変わったアプローチの曲ですね？

O-JIRO：僕はもともとあまりファンキーなノリを持っていないんですけど、弦楽器隊がそのノリを作ってくれるんです。そうなっていくと、ドラムは音数が減っていくんですよ。ペニシリンは体感速度が早いので、普通にノろうと思ったらテンポを落とさないとダメなんです。たいていはノりたいからテンポをあげると思うんだけど、逆なんですよね。

千聖：O-JIROさんが持ってきた時点で急にテンポ・チェンジしていて、そこが面白いと思ってアレンジしたら、前半がファンクになっちゃいました。

——「鉄のハインリヒ」は、いかにもギタリスト！っていう感じの曲ですね？

千聖：最初はインストっぽい曲を作りたくて、メタル色を押し出してみたんです。

——どの曲も、メタル色は強いと思うんですけど（笑）。

[illegible]

HAKUEI：そこだけじゃないよ。

千聖：でも、もっと前面に出してみたかったんだ。一応、俺でも、「南十字星」みたいな歌を聴かせる曲は、気をつかうわけよ（笑）。

O-JIRO：ちゃんと聴かせなきゃいけないし。

千聖：全部ツー・バスを踏んでくれとは、言えないからね。でも、この曲は遠慮なくやらせてもらいました。逆に間奏部分で、HAKUEIくんにメロディを歌ってもらったんだ。俺的には、高校生の時に聴いた音楽と大学生の時に聴いた音楽をくっつけて、ミクスチャーなイメージになったと思っているよ。自分の中では斬新だし、こういう曲が好きな人もいると思うからね。

——最近、メタルが好きな人が増えてる気がします。

千聖：多いよね。

HAKUEI：2011年、一周[illegible]もう恥ずかしくないんでしょうね（笑）。

千聖：昔は、どうしてもその癖が[illegible]くて、しようがなくて開き直って[illegible]だけど、また、そんな時代が来る気が[illegible]るね。

——インストかと思いきや、歌が[illegible]ているのが面白いです。

千聖：ジェットコースターみたいな曲が好きなんだけど、歌ものだとそれが[illegible]いんだよね。この曲はインストな[illegible]の展開をしている上で、間奏で[illegible]出てきちゃったんでHAKUEIくん[illegible]歌ってもらうことにしたんだ。

——最後に、読者へのメッセージを。

千聖：来年20周年になるバンドだけど、基本は変わっていない。そのうえで新鮮味があるバンドなので、最近知った人もずっと応援してくれる人も、全員が楽しめるアルバムができたと思うよ。

O-JIRO：ライヴが見えるアルバムなので、みんなもしっかり聴いて、ライヴで一緒に曲を育てていきたいですね。

HAKUEI：常にアルバムを作る時は最高のものを作ろうと思っているけど、今回はかなり大股で一歩進んだと思います。聴いた人を必ず揺さぶる自信があるので、是非聴いて、ライヴにも来てください。

蝴蝶网
hudie.com

一聖 Vo

蝴蝶网
hudie.com

BugLug
バグラグ

http://www.buglug.jp/

ピュア度を増した『絶交悦楽論』リリース!!

BugLugの約8ヶ月ぶりとなる待望のシングル『絶交悦楽論』が4月13日にリリースされる。2010年末に重ねて来た怒濤のライヴの中で、"BugLugの在り方"について模索し、掴んだ結果が詰め込まれた作品に仕上がっていると言う。BugLugの秘めたる可能性が開花した今作、彼らがかける意気込みとはいかに!? 5月1日には渋谷BOXXにてワンマン・ライヴも決定!!

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX)
Hair & Make-up:YOSHIFUMI KUSUYAMA
Interview:TAKAYUKI MURAKAMI

蝴蝶网
hudie.com

一聖：去年の11月から12月にかけて怒濤の勢いでライヴをしていく中で、ライヴが終わるたびに、みんなでBugLugの在り方について話をしていたんですね。そこで得たものを反映しているのが、今のBugLugです。ずっと、ポップにポップに…ということを意識していたんですけど、全てのライヴで自分たちが持っているものを最大限に引き出したいという想いが強くなっていったんです。そういうところからロック・テイストや力強さを増しました。

優：BugLugは、ポップだったり、〝元気で明るい〟みたいなイメージで捉えられていたと思うし、自分たちもちょっとそういうところを意識していたんですけど、ライヴが多くなった時に、〝なんか違くねぇ?〟ってみんなが感じて。そうじゃなくて、自分たちの思うようにガンガンやればいいんじゃないかという話になって。それぞれが、より自分自身にピュアな気持ちで取り組むようになって自然と変わったんです。

一樹：ライヴの本数が多かったので、自分たち的にもテンションがすごく上がっていたんですよね。そういうところから、もっと気持ちいいライヴをしたいという欲求が高まっていったし、カッコいいと感じるものを見つめ直すようになって。そういう部分を見せていけるように、今はシフトしているところです。

燕：攻めの姿勢に入ったという感じかな。ニュー・シングルの「絶交悦楽論」も激しい曲が並んでいますけど、狙ってそういう曲を揃えたわけではなくて。ライヴを意識して曲作りを進めた結果、こういう内容になりました。

──確かに「絶交悦楽論」は、力強さとBugLugならではの華やかさを併せ持った仕上がりが印象的です。

一聖：そう言ってもらえると嬉しいです。リード曲の「絶交悦楽論」は、自分たちに足りないものを考えた時に強力なキラー・チューンが必要だという話になって。それで、今まで自分が持っていたものや、作ってきたもの、プライドといったものを全部捨てて、すごくフラットな気持ちで作った曲です。歌詞は、〝ダメな自分と絶交して理想の自分を目指す〟

ということを歌っているんですけど、何度も書き直しました。僕の中にある前向きなことを歌っていたいという想いと、曲調にマッチした歌詞にしたいという想いを両立させたくていろいろ考えていく中で、"絶交"という負のイメージを抱かせる言葉を、ポップだったり、前向きに聴かせたいというのが出てきて。そういう、ヒネくれ者のアイディアを活かしたのが「絶交悦楽論」です（笑）。

優：この曲はライヴで何度もやっていたので、レコーディングもスムーズでした。今回のシングルは、「MOSHPIT☆LIFE」以外は、常に1テイク目を大事にしようというテーマが自分の中にあって。「絶交悦楽論」も、最初に弾いたテイクが活かされています。

燕：いつもレコーディングではライン録りで音を作るんですけど、今回は普通にアンプで鳴らして録りました。今まで以上にパワー感を出したいなというのがあったし、プレイ的にもライヴ感やアグレッシヴ感を出すことがテーマだったので、難しいことをするのは避けて、サウンドのボトムを支えつつ疾走感のあるベースになっています。録りの時は、ライヴをしているつもりで弾きました。もう妄想の世界で、ガンガン弾いて（笑）。すごく楽しかったです（笑）。

一樹：僕もライヴ感や勢いはもちろん意識しましたけど、個人的にこだわったのは音作りです。太い音でいこうかなとも思ったんですけど、歌詞の強い想いをギターで表すには、噛みつくようなギターが合うなと思って。ガツッ！とした音を作り込みました。

一聖：歌に関しては、今までと全くスタイルの違う曲で、ぶっちゃけシンドかったです（笑）。イメージしている歌にするためには全身を使う必要があって、めっちゃパワーがいりました。「絶交悦楽論」は、新しいところに行きつつ、すごくいいバランスでBugLugに溶け込んだ印象がありますね。

――同感です。カップリングの「マイ・プラネット」と「MOSHPIT☆LIFE」についても話してもらえますか。

一樹：ライヴをたくさんやって感じたのは、もっとライヴでノレる曲が欲しいな

よかったけど、ノリが足りなくて。BugLugの曲は起承転結を活かしたものが多いんですけど、そういうものは取っ払って、本能的にノレる曲にしたいというのが自分の中にあって。それを踏まえてバンドで合わせて、最終的にこの形に落ち着きました。めっちゃカッコよくて気に入ってます（笑）。

一聖：「マイ・プラネット」の歌詞は、「絶交悦楽論」というのがリード曲としてある上で、絶交した目線で見た地球を描いたというか。そういうリンク感が僕の中にあって、"みんなで次の時代に一緒にいこう!"ということがいちばん言いた

といったことをイメージして作りました。「MOSHPIT☆LIFE」と「絶交悦楽論」は、"反骨精神"というのがテーマとしてあって。"このやろう!"という気持ちを、ぶつけたいというのがあったので、BugLugが持っているポップさを持ちつつ、尖った感じを出すことを意識しました。歌詞も"なにくそ精神"を押し出しています。いちばん伝えたいのは、"爪を立てた未来に歯向かう!"という言葉。生きているといろんな困難と出会うけど、絶対に負けねぇゾ…というのが、この曲で言いたいことです。

優：「絶交悦楽論」と「マイ・プラネッ

違いをつけたくて。「マイ・プラネット」はギターの音を完全に変えて、普段は絶対に出さない音を活かしました。プレイ面は、俺もライヴで楽しみたかったので（笑）、極力フレーズを弾くのはやめて、基本的にコードでいけるようにしました。この曲の録りも、めっちゃ早かった（笑）。「MOSHPIT☆LIFE」は、「絶交悦楽論」と「マイ・プラネット」を聴いて、今回の俺のギターはつまらないなと思って（笑）。だからこの曲は、カッコいいフレーズとかも入れていきました。

燕：「マイ・プラネット」は、曲を作っている段階で、"あまり難しくしない"

ライヴで得た"BugLugらしさ"を反映させたシングル

た。「MOSHPIT☆LIFE」は、ベース録りの時に僕とエンジニアの2人しかいなくて、まさに自分ジャッジだったんです。だから、自由に遊ばせてもらいました。Bメロとか最後の大サビでは感情のこもったフレーズを弾けたし、すごく自分らしさを出せた曲ですね。

一樹：「マイ・プラネット」のギターに関しては、BugLug的に新しい、ソリッドなグルーヴ感を出すことを目指しました。「MOSHPIT☆LIFE」は、優と俺が違うことをしながら上手くアンサンブルする形になってて。いいギターが弾けたんじゃないかなと思います。

一聖：歌は「絶交悦楽論」が"疲れた"だとしたら、「マイ・プラネット」は"忙しかった"という感じです（笑）。もちろん自分で作り込んでますけど、歌入れの前に、これは大変だろうなと思いました（笑）。やっちまったな…みたいな（笑）。「MOSHPIT☆LIFE」は、「絶交悦楽論」とはまた別の熱を入れて歌い上げた感じですね。もっとラフでいいかなとも思ったけど、伝えたいメッセージがしっかりあったので。熱を入れながら綺麗に聴こえることも意識して歌っています。

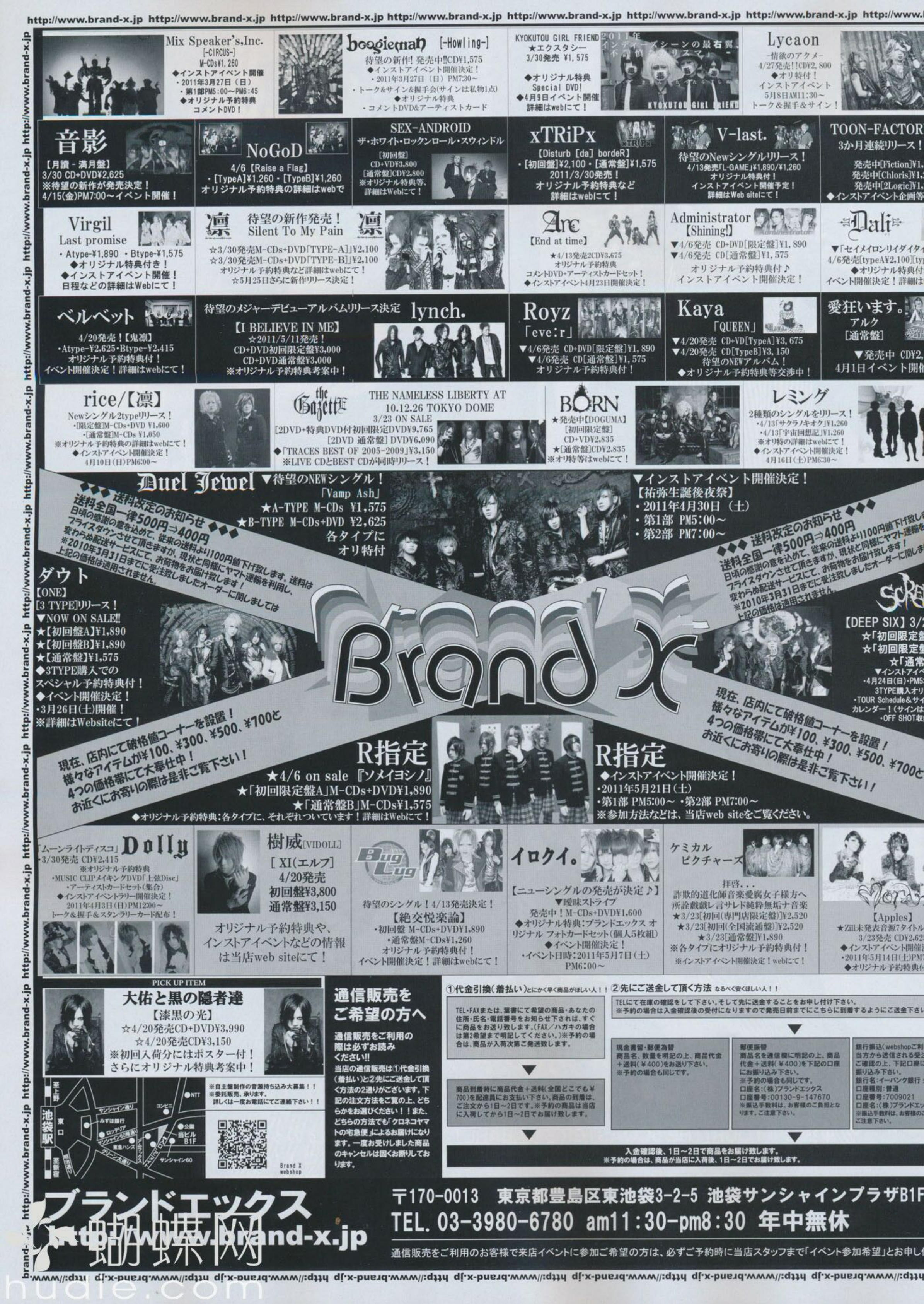
――「絶交悦楽論」は、今のリアルなBugLugを、そのままパッケージしたシングルと言えますね。

一聖：そう。今回のシングルは、"やっと出せる！"という想いが強くて。早く、みんなに聴いてほしいです。

燕：今までだったら「MOSHPIT☆LIFE」を表題曲に選んでいたと思いますけど、今回は敢えて「絶交悦楽論」にしたんですよね。そういうところからもBugLugの変化だったり、音楽的な拡がりを感じてもらえると思います。

優：変わったというより、拡がったという感覚のほうが強いかな。さっきも言ったように、明るくて可愛い感じのバンドというイメージがあると思うけど、今までもライヴではそんなことはなかったので。だから今回のシングルを聴けば、それが分かってもらえると思います。

一樹：今のBugLugを表現できたシングルになってよかったです。これを作ったことで、次が見えた部分もあるし。


http://www.brand-x.jp
Mix Speaker's,Inc.
[-CIRCUS-]
M-CDs¥1,260
◆インストアイベント開催
・2011年3月27日（日）
・第1部PM5:00〜PM6:45
◆オリジナル予約特典
コメントDVD！
boogieman [-Howling-]
待望の新作！発売中!!CD¥1,575
◆インストアイベント開催決定！
・2011年3月27日（日）PM7:30〜
・トーク&サイン&握手会（サインは私物1点）
◆オリジナル特典
・コメントDVD&アーティストカード
KYOKUTOU GIRL FRIEND
★エクスタシー
3/30発売 ¥1,575
◆オリジナル特典
Special DVD!
◆4月9日イベント開催
詳細はwebにて！
Lycaon
-情欲のアクメ-
4/27発売!!CD¥2,800
◆オリ特付！
インストアイベント
5月8日AM11:30〜
トーク&握手&サイン！
音影
【月讀 - 満月盤】
3/30 CD+DVD¥2,625
※待望の新作が発売決定！
4/15(金)PM7:00〜イベント開催！
NoGoD
4/6【Raise a Flag】
・[TypeA]¥1,260・[TypeB]¥1,260
オリジナル予約特典の詳細はwebで
SEX-ANDROID
ザ・ホワイト・ロックンロール・スウィンドル
[初回盤]
CD+VD¥3,800
[通常盤]CD¥2,800
※オリジナル特典等、
詳細はWebにて！
xTRiPx
【Disturb [da] bordeR】
・[初回盤]¥2,100・[通常盤]¥1,575
2011/3/30発売！
オリジナル予約特典など
詳細はwebにて！
V-last.
待望のNewシングルリリース！
4/13発売「L-GAME」¥1,890/¥1,260
オリジナル特典付！
インストアイベント開催予定！
詳細はWeb siteにて！
TOON-FACTOR
3か月連続リリース！
Virgil
Last promise
・Atype-¥1,890 ・Btype-¥1,575
◆オリジナル特典付き！
◆インストアイベント開催！
日程などの詳細はWebにて！
凛
待望の新作発売！
Silent To My Pain
☆3/30発売M-CDs+DVD「TYPE-A」¥2,100
☆3/30発売M-CDs+DVD「TYPE-B」¥2,100
オリジナル予約特典など詳細はwebにて！
☆5月25日さらに新作リリース決定！
Arc
[End at time]
★4/13発売2CD¥3,675
オリジナル予約特典
コメントDVD+アーティストカードセット！
◆インストアイベント4月23日開催決定！
Administrator
【Shining!】
▼4/6発売 CD+DVD[限定盤]¥1,890
▼4/6発売 CD[通常盤]¥1,575
オリジナル予約特典付♪
インストアイベント開催決定！
Dali
ベルベット
4/20発売！【鬼凛】
・Atype-¥2,625・Btype-¥2,415
オリジナル予約特典付！
イベント開催決定！詳細はwebにて！
待望のメジャーデビューアルバムリリース決定 lynch.
【I BELIEVE IN ME】
★2011/5/11発売！
CD+DVD初回限定盤¥3,000
CD+DVD通常盤¥3,000
※オリジナル予約特典考案中！
Royz
「eve:r」
▼4/6発売 CD+DVD[限定盤]¥1,890
▼4/6発売 CD[通常盤]¥1,575
オリジナル予約特典付！
Kaya
「QUEEN」
▼4/20発売 CD+VD[TypeA]¥3,675
▼4/20発売 CD[TypeB]¥3,150
待望のNEWアルバム！
◆オリジナル予約特典等交渉中！
愛狂います。
アルク
[通常盤]
rice/【凛】
Newシングル2typeリリース！
・[限定盤]M-CDs+DVD ¥1,600
・[通常盤]M-CDs ¥1,050
※オリジナル特典の詳細はwebにて！
◆インストアイベント開催決定！
4月10日(日)PM6:00〜
the GazettE
THE NAMELESS LIBERTY AT
10.12.26 TOKYO DOME
3/23 ON SALE
[2DVD+特典DVD付初回限定]DVD¥9,765
[2DVD 通常盤]DVD¥6,090
◆「TRACES BEST OF 2005-2009」¥3,150
※LIVE CDとBEST CDが同時リリース！
BORN
★発売中[DOGUMA]
[初回限定盤]
CD+VD¥2,835
★[通常盤]CD¥2,835
※オリ特等はwebにて！
レミング
2種類のシングルをリリース！
・4/13「サクラノキオク」¥1,260
・4/13「宇宙回想記」¥1,260
※オリ特の詳細はwebにて！
◆インストアイベント開催決定！
4月16日(土)PM6:30〜
Duel Jewel
▼待望のNEWシングル！
「Vamp Ash」
★A-TYPE M-CDs ¥1,575
★B-TYPE M-CDs+DVD ¥2,625
各タイプに
オリ特付
▼インストアイベント開催決定！
【祐弥生誕後夜祭】
・2011年4月30日（土）
・第1部 PM5:00〜
・第2部 PM7:00〜
送料改定のお知らせ
送料全国一律500円⇒400円
ダウト
【ONE】
[3 TYPE]リリース！
▼NOW ON SALE!!
★【初回盤A】¥1,890
★【初回盤B】¥1,890
★【通常盤】¥1,575
◆3TYPE購入での
スペシャル予約特典付！
◆イベント開催決定！
・3月26日(土)開催！
※詳細はWebsiteにて！
Brand X
【DEEP SIX】
現在、店内にて破格値コーナーを設置！
様々なアイテムが¥100、¥300、¥500、¥700と
4つの価格帯にて大奉仕中！
お近くにお寄りの際は是非ご覧下さい！
R指定
★4/6 on sale『ソメイヨシノ』
★「初回限定盤A」M-CDs+DVD¥1,890
★「通常盤B」M-CDs¥1,575
◆オリジナル予約特典：各タイプに、それぞれついています！詳細はWebにて！
R指定
◆インストアイベント開催決定！
・2011年5月21日(土)
・第1部 PM5:00〜 ・第2部 PM7:00〜
※参加方法などは、当店web siteをご覧ください。
「ムーンライトディスコ」Dolly
・3/30発売 CD¥2,415
※オリジナル予約特典
・MUSIC CLIPメイキングDVD「上弦Disc」
・アーティストカードセット(集合)
◆インストアイベントラリー開催決定！
2011年4月3日(日)PM12:00〜
トーク&握手&スタンラリーカード配布！
樹威[VIDOLL]
[XI(エルフ)]
4/20発売
初回盤¥3,800
通常盤¥3,150
オリジナル予約特典や、
インストアイベントなどの情報
は当店web siteにて！
BugLug
待望のシングル！4/13発売決定！
【絶交悦楽論】
・初回盤 M-CDs+DVD¥1,890
・通常盤M-CDs¥1,260
オリジナル予約特典付！
イベント開催決定！詳細はwebにて！
イロクイ。
【ニューシングルの発売が決定♪】
▼曖昧ストライプ
発売中！M-CDs+DVD¥1,600
◆オリジナル特典：ブランドエックス オリジナル フォトカードセット（個人5枚組）
◆イベント開催決定！
・イベント日時：2011年5月7日(土)
PM6:00〜
ケミカルピクチャーズ
拝啓...
詐欺的道化師音楽愛腐女子様方へ
所詮戯戯言サレド純粋無垢ナ音楽
★3/23[初回(専門店限定盤)]¥2,520
★3/23[初回(全国流通盤)]¥2,520
★3/23[通常盤]¥1,890
※各タイプにオリジナル予約特典付！
※インストアイベント開催決定！webにて！
【Apples】
PICK UP ITEM
大佑と黒の隠者達
【漆黒の光】
☆4/20発売CD+DVD¥3,990
☆4/20発売CD¥3,150
※初回入荷分にはポスター付！
さらにオリジナル特典考案中！
通信販売を
ご希望の方へ
通信販売をご利用の際は必ずお読みください!!
当店の通信販売は①代金引換（着払い）と②先にご送金して頂く方法の2通りがございます。下記の注文方法をご覧の上、どちらかをお選びください！また、どちらの方法でも「クロネコヤマトの宅急便」によるお届けになります。一度お受けしました商品のキャンセルは固くお断りします。
①代金引換（着払い）とにかく早く商品がほしい人！！
②先にご送金して頂く方法 なるべく安くほしい人！！
入金確認後、1日〜2日で商品をお届け致します。
※予約の場合は、商品が当店に入荷後、1日〜2日でお届け致します。
池袋駅
Brand X
webshop
ブランドエックス
http://www.brand-x.jp
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-2-5 池袋サンシャインプラザB1F
TEL. 03-3980-6780 am11:30-pm8:30 年中無休
通信販売をご利用のお客様で来店イベントに参加ご希望の方は、必ずご予約時に当店スタッフまで「イベント参加希望」とお申し
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

Dolly

ムーンライトディスコ

ミラーボール、水の中、月夜の人魚——
面白い世界観創りができたなと思っています。

単独公演TOUR[THE 5COASTER'S CABARET]もファイナルを残すのみとなったDolly。
3月30日に久しぶりのパッケージ・マキシ・シングル『ムーンライトディスコ』をリリースする。
近作に見られるエレクトロな要素と"生"のバンド感を絶妙に融合させている。
3月2日には『ムーンライトディスコ』に先駆けて、配信限定シングル『流星群-Shooting Star-』を配信。
"星"と"月"をテーマにしたこの2作に込めた想いを訊いた。

Photography : MASAKAZU KOBAYASHI (SHOXX)
Hair & Make-up : SATOSHI GANAHA　Interview : TAKAYUKI MURAKAMI

蝴蝶网
hudie.com

グル「流星群 -Shooting Star-」がリリースされました。

蜜：配信を使うと、全世界に一斉配信できるという利点があるんですよね。今回もそれは活かしたいというのもありつつ、久しぶりにパッケージ・シングルを制作したいという気持ちも以前から強かったので、シングルの骨格が見えてきた時点で、配信曲はパッケージ・シングルに入らないタイプの曲にすることに決めました。それを踏まえて作ったのが「流星群 -Shooting Star-」です。耳触りのいい、ストレートな曲で、今までのＤｏｌｌｙにはあまりないタイプの曲なので新鮮だと思います。歌詞も僕の歌詞にしては、すごく前向きというか（笑）。最後の〝瞳を揺らいで、溢れた流星〟という一言は、すごく前向きな涙というか。そういう意識で書きました。言葉が楽曲に乗ることと、自分の歌い方などで、悲しいという感情だけでは終わらない、ずっと心の中で輝き続ける光みたいなものを表現できたと思います。

亜樹：ドラムに関しては、結構キャッチーな曲なので、細かいことはしないでストレートにいくべきだなと思って。基本的に、疾走感を出すことを意識して叩きました。あとは、メリハリですね。イントロやサビ・パートはカッチリいってるんですけど、それに対してＢメロとかギター・ソロのバックは人間味のあるビートを出しています。

はち：僕は、性格が悪そうなベースを弾くほうだと思うんですよ（笑）。フレーズにしても、音色にしても、ちょっとねじ曲がっているというか（笑）。ずっと、そういうスタイルでやってきたので、こういう素直な曲が出てきて、どうしようかなと迷いました。いろんなパターンを試した結果、基本的にボトムを支えつつ、ところどころハイポジに駆け上がって歌う場所もある形に纏めました。見えるところを、おいしく頂ければいいんじゃないかということで（笑）。

聖：この曲は、結構ハイ・ポジションとロー・ポジションを行ったり来たりするので、〝ああ、左手が流星のようだ〟と思いました（笑）。ギター・ソロは、曲調を踏まえて、ちょっとルーズに弾いたくて。自分なりのタイム感やニュアンスを活かしたソロを弾いています。

——Ｄｏｌｌｙにはあまりない曲を、うまく仕上げましたね。続いて、『ムーンライトディスコ』の話をしましょう。

蜜：今回は制作の進め方が、普段とちょっと違っていました。いつもは僕が筋書きをイメージして、そのコンセプトの中で表現できるものを、各メンバーに曲として持ってきてもらうんですけど。今回は、〝ダンス〟とか〝クラブから連想するイメージ〟といったザックリとした言葉だけを伝えて、みんながそれに応えて曲を作ってきてくれた感じで。その中から聖が持ってきた曲を選んだんですけど、〝ムーンライトディスコ〟というタイトルや水槽の中でたゆたうようなイメージは、楽曲からインスピレーションを受けて出てきたものなんです。つまり、いつもとは、逆だったんですよね。歌詞も僕の詩の中では、珍しいタイプというか。この曲はストーリーを過度につけたくなくて、曲を聴いたときに僕の中で、開いた箱の中にあったものだけを言葉として羅列しています。原曲を聴いたときに、ミラーボールにいろんなカラーのライトがあたって、それが壁に反射して光の斑点が同じ軌跡でずっと廻っている情景が浮かんできて。次にそれが、水の中で粒状に渦を巻いているようなイメージに繋がって。そこから月夜で泡になる人魚みたいなものが出てきて…という感じでした。今回は、面白い世界観創りができたなと思っています。

聖：「ムーンライトディスコ」は、セクションごとに場面転換がある曲なので、ギターもそこは大事にしました。それに、ミラーボールとかを意識して作ったので、いろんな色が混じっている感じを表現したいなというのがあって。イントロとＡメロで同じフレーズを弾いているんですけど、ちょっとニュアンスを変えて弾いたりとか。そういうところを楽しみながら録っていきました。

——楽曲に、熱さをプラスしているホットなギター・ソロも要チェックです。

聖：ソロのところだけ、ドラムも8ビートでキックを踏んだりしていて。そこは、もうバンドで〝ガツン！〟といこうというロを弾いています。

亜樹：曲作りの段階で〝クラブ〟や〝ミラーボール〟といった言葉が出ていたのでドラムもイメージしやすかったんですけど、そのまま叩いたらバンドでやる意味がないなと思って。この曲は、打ち込みのキックが、生のキックと一緒に鳴っているんですよ。そういうところでもディスコっぽい感じは出るので、他の部分ではロックな部分も出していいだろうと思って。それで、ギター・ソロの部分とかは、ロックにいくことにしました。

はち：この曲のベースはとても気に入っています。亜樹も言ったように、打ち込みのカチッとしたグルーヴがあることを踏まえてラフに弾いたことが、いい結果に繋がった気がしますね。ダンス乗りの曲なので、ループっぽいフレーズも弾いていますけど、Ｂメロとかサビ・パートといったシーンに合わせて、一気にテンションを変えて音色の表情を変えました。

蜜：歌に関しては、艶を出して歌うことを意識しました。「流星群-Shooting Star-」を、結構素直な感じで歌っているので、〝白と黒〟じゃないですけど、色を分けようと思って。「ムーンライトディスコ」は、ここ最近のＤｏｌｌｙの流れというか、大人っぽく色気のある響きを出して歌っています。

——カップリングは、耽美感のある「エンゼルフィッシュの泪」と、爽快感を押し出した「Music's Cube」です。

亜樹：「エンゼルフィッシュの泪」は、ここ最近自分の中で変拍子がブームになっていて、変なビートの曲を作りたかったんです。でも、ただ変な曲は嫌だったので、しっかりした歌が乗ったものにしたいなというのがあって。そういうところから入っていって形にしました。

蜜：「エンゼルフィッシュの泪」の歌詞は、まず〝泪〟というところにテーマを絞って。そこから拡げていったんですけど、泪というのは、いろんな想いが一緒にこぼれていて、ハジけて消えていくものじゃないですか。それを意識しながら、泪という球体の中に閉じ込めた、いろんな想いや情景を描いていきました。

はち：「エンゼルフィッシュの泪」は、デにガッチリ合わせていたんですけど、すごく気持ち悪くて（笑）。音数が多すぎて、世界観を見せ辛いアレンジだったんです。その後、プリプロを重ねていく中で、この曲は大きくビートを取って、揺らいでいる世界を強調したほうが活きることに気づいて。そこから、世界観を創るベースに持っていきました。

聖：亜樹の曲は、いつも良い意味で変なんですよね（笑）。その〝変さ〟に、どう乗っかるか…というのがあって。「エンゼルフィッシュの泪」のイントロとかは、亜樹のデモのフレーズを、そのまま活かしています。〝これを崩したら、わけが分からなくなる〟と思って。無理やり弾いているんですけど、それはそれでいい味を出しているんじゃないかなと思います（笑）。「Music's Cube」は、もう〝乗り一発〟という感じでした（笑）。

はち：「Music's Cube」は、『CAPSULE』の選曲会の時点からあった曲です。『CAPSULE』のときは、アルバムのカラーに合わないね…ということになったんですけど、蜜が気に入ってくれていて。あの曲をやりたい、あの曲をやりたいと、ずっと言っていたんです（笑）。

蜜：『CAPSULE』には入らなかったのに、『CAPSULE』のツアーでやりたいと言っていましたから（笑）。「Music's Cube」の歌詞に関しては、僕は音楽というものは思考までも変えていく力があると思っているので、そういう想いを、サイコアクティブな感じで書きました。この曲は、早くライヴでやりたいです。

——〝TOUR THE 5COASTER'S CABARET Vol.2〟も楽しみです。

蜜：前回の〝THE 5COASTER'S CABARET〟はファイナルが東京キネマ倶楽部で、特徴のあるハコを活かした面白い見せ方ができたので、今回のＶｏｌ．２も期待して欲しいです。もう、「ムーンライトディスコ」のために、ファイナルを渋谷ＷＯＭＢにしたと言っても過言ではないので。細かいことは言えないですけど、いつもとは違うライヴを見せることになるので、楽しみにしていてください。皆さんを、普段の日常生活では味わえない世界に連れていこうと思っています。

蝴蝶网
hudie.com

BREAKERZ

BREAKERZから届いた新世界

――「月夜の悪戯の魔法」の方はかなり和な色の強い楽曲だね。そこは初めから狙いでもあったの？

DAIGO：『名探偵コナン』のエンディングテーマ曲を作ろうという軸があった中で選曲会を設けたんですよ。その中に出てきた1曲だったんです。そこでこの和っぽい色が際立っていたというか。あ、こういうのをBREAKERZのシングル曲としてもってくるのも面白いのかもねって思ったのと、純粋にエンディングというテーマにも合うんじゃないかなってことで、選ばれたんです。

――AKIHIDEくん作曲だけど、なぜ和テイストな楽曲を？

AKIHIDE：最初『名探偵コナン』のエンディングテーマを作ろうというところから始まったので、エンディングだし、しっとりとした曲がいいかなぁって思ったのと、アニメが推理していく内容なのもあり、ちょっとミステリアスな曲に出来たらいいなと思って作ったので、こういう感じになったんです。イントロの琴のフレーズがまず思い浮かび、そこから広げていったんです。昔、メンバーで話し合ったとき、おもいっきり和テイストな楽曲もいつかやってみたいなって言っていたこともあったので、それが頭の片隅に残っていたっていうのもあったと思うんです。

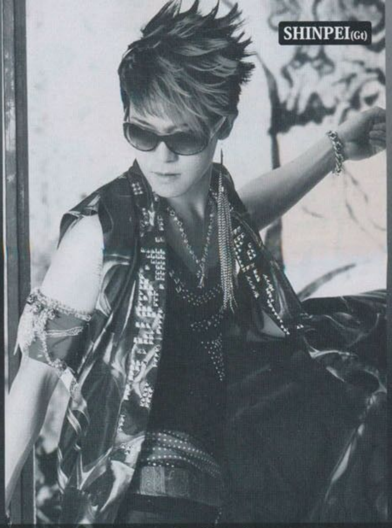
――笛の音も入っているよね。

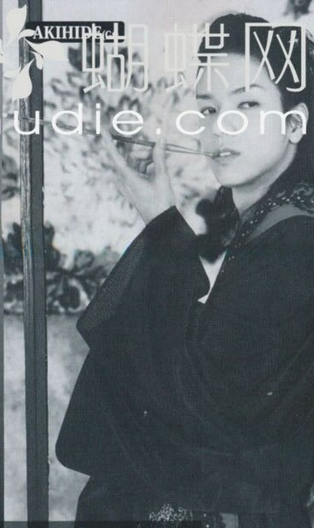
AKIHIDE：そうなんですよ。打込みなんですけど、尺八ですね。どうせやるならやりきりたいなと思って、とことん和な音色を重ねてみたんです。

――琴や尺八の打込みも全部AKIHIDEくんがやったの？

AKIHIDE：そうです。頭に浮かんでいる旋律を音で拾って並べていったんです。フレーズも打込みで目で見ながら作っていった部分が大きかったので、そういういつもと違う作曲方法も楽しかったです。

SHINPEI：音色は和が前面に押し出されているんですけど、サウンドとしてはすごくロックで重いので、そこがカッコイイなって思いましたね。和とロックの割合が絶妙だなと思ったし、エンディングとしてもピッタリとイメージがハマっていたし、自分的にもこういう曲をやるのは初だったのですごく新鮮でした。





蝴蝶网 hudie.com

おもいっきり和テイストな楽曲もいつかやってみたいなって

前シングル「BUNNY LOVE/REAL LOVE 2010」は、"本気モードなセクシー3部作を1枚にまとめた【セクシングル】"であり、PVではBUNNY 姿と濃厚な絡み見せたBREAKERZの世界観がまたひとつ開花した意欲作だった。そして2011年。彼らが記念すべき10枚目のシングルとして放つ今作は、またしても新たな試みとなる。「月夜の悪戯の魔法/CLIMBER×CLIMBER」という両A面シングルで、彼らはどんなBREAKERZを見せてくれるのだろう?

Interview: NAOKO TAKEICHI

することで、起伏を感じるというか。

AKIHIDE：ですね。メリハリのある曲が好きなので、そこはすごく意識した部分でもありましたね。感情が揺れ動く感じというか。アニメとかサントラっぽいイメージが強かったのかもって思います。

――歌詞もアニメの内容を意識して書かれたモノなの?

DAIGO：それだけじゃないんですけど、蘭ちゃん（毛利蘭）のコナンくんへの想いが込められた歌詞にもなっていますね。でも、聴いてくれる人の受け止め方で遠距離恋愛の話にもなるんですよ。遠く離れていても近くに感じられたりとか、近くに居るのに心が見えないもどかしさだったりとか、そんなことも重ねて書いた歌詞でしたね。毎回タイアップって、コラボ作品だと思っているので、今回も両方の良さが引き出し合えたすごくいいコラボが完成したなって思っているんです。

――なるほど。でも、後半部分の〝花鳥風月〃が歌われている部分では、言葉選びがすごく古風で綺麗だよね。純粋に、この和メロによって引き出された言葉なんだろうなって感じた。叙情的というか。

DAIGO：まさにそうですね。風情があるというか。日本語だからこその表現というか、日本語にしか出せない美しさっていうモノを出したかったんです。せっかく曲がこういう曲なので、歌詞もこの曲でしか出せない魅力が出せたらいいなと思って。ちなみに、今回ヴィジュアル面にも相当こだわりましたからね。PVは音と同様、とことん和に振り切ってみたりもしましたからね。見ました?

――見せてもらったけど、私の中ですごく配役が出来ちゃって（笑）。

DAIGO：配役（笑）?

――そう。DAIGOは花魁的な存在で、そこを仕切っている総支配人的な親分がSHINPEIで、AKIHIDEはご贔屓にして頂いてる若旦那。的な?

一同：あはははは（大爆笑）。

SHINPEI：俺、結構権力者ですね（笑）。

DAIGO：俺は歌舞伎的な（笑）?

――女形（おやま）にはなっていないかなね。でも、似合いそうだけどね（笑）。

DAIGO：AKIHIDEさんは煙管

いるんだよね。遊び人のね（笑）。

AKIHIDE：遊び人のね（笑）。

――そして。もう1曲はSHINPEIの曲の「CLIMBER × CLIMBER」ですが。この曲はイントロを聴いたとき、バラードなのかと思ったの。

SHINPEI：あぁ～なるほど（笑）。イントロの頭の部分がそうですよね、一瞬バラードっぽい臭いがするというか。この曲の原曲は少し前にあったんですけど、『カードファイト!! ヴァンガード』の公式イメージソングでもあったので、そこに合う曲というのを選曲していく中で浮上した1曲でもあったんです。イントロはちょっとバラードっぽいんですが、曲がいざ始まると躍動感があるし、曲自体にも背中を押すような力があるというか。そんな応援歌っぽいイメージがテーマ的にピッタリとハマったので、そこから煮詰めて作り上げていったんです。

DAIGO：みんなで叫べるブリッジもありますからね。あそこ熱いですよね。

――間奏のギターバトルも熱いしね。

SHINPEI：ライヴでもギターバトルはお決まりだったりするので、楽曲の中にも入れていけたらいいなと思って、最初にこの曲を作ったときから、そこは頭の中にあった部分だったので、ガッツリとギターバトルさせてもらっていますね（笑）。

――そこはPVでも見れるよね。

DAIGO：ですね。これはファンの方たちと一緒にライヴ形式で撮ったんですけど、カードも出てきたりするので、アニメの実写版的なイメージもある映像になっています。

SHINPEI：ギターのバトル感も『カードファイト!! ヴァンガード』と重なっていて面白いんじゃないかなと。

AKIHIDE：対戦ゲームのテーマソングなんだから、ウチらもガッツリ対戦しようよ!ってことになって、レコーディングでもアンプを横に並べて、リアルにギターバトルしたんですよ（笑）。本当に対戦している感じで録音したんですよ。一発録りで。お互いのテンションを引き継いで演奏を重ねていくのでテンション感が上がっていくのも出ていると思いますね。

SHINPEI：大変だったんです。どっちかがミスすると初めからなんで

た!〃って思ったときに限ってSHINPEIがミスったりして（笑）。自分がミスったときはかなり気まずいっていうね（笑）。でも、何回もやったけど、結果1番最初に録ったテイクが1番勢いがあって良かったのでそれを使っていますね。

SHINPEI：普段はギターソロって別々にレコーディングするんですけど、今回は生のままパッケージした感じでしたね。

――歌詞は今回曲が出来上がったときに、新たに書き下ろしたの?

DAIGO：ですね。『カードファイト!! ヴァンガード』を原作とした漫画を読んでイメージを膨らませて書きましたね。そこから〝一歩踏み出す勇気〃をテーマにして歌詞を書こうと思い立って書いていったんです。スタートをすることを畏れないこと。常に向上心を持ってやり続けるという大切さを描いていますね。〝CLIMBER〃って登るっていう意味があるので、壁は登らないと越えられないんだっていうことを歌えたらなと。

――そういえばこの前、珍しくテレビを付けたらDAIGOくんが壁登ってたわ。

DAIGO：『天才!志村どうぶつ園』でね（笑）。あれはロッククライミングですから!　まぁ、たしかにあれも壁ですからね（笑）。

――カップリングの「ありがとう ～Beautiful day～」は、7月22日の武道館で鳴り響くのが見えるね。

SHINPEI：武道館も今回で3回目ですからね。ファンのみなさんが支えてきてくれたからこそなので、今〝ありがとう〃を伝えたいという想いからこの曲をここに入れることにしたんです。

AKIHIDE：シンプルだけど、伝えたいことが断固としてあるというか。その熱さが気に入っていますね。この曲では一カ所、SHINPEIも僕も歌っているので、新鮮だと思います。

DAIGO：やっぱり、普段は僕1人が歌っていますけど、この曲では3人の声で〝ありがとう〃が届けられたらいいなと思って。10枚目のシングルということもあって、ありが〝とう＝10〃に繋げてあるんです。これからも、美しい日々をみんなで描き続けていけたらいいなと思っているので、ぜひ、7月22日は武道館に遊びに来て下さい!

hudie.com

R指定

――新作は、前作「波瀾万丈、椿唄」とはまるで異なるタイプの作品になりましたね。

マモ：自分たちにとっての挑戦ですね。何せ、表題曲「ソメイヨシノ」はR指定初のバラード曲ですから。何ていうか、普通の流れでいきたくなかったというか。

Z：予想どおりでいきたくなかったんですよ。前作が好評だっただけに、その流れを考慮して、今回もノリノリの曲でくるんだろうって思われていたかもしれないけど、それをそのままやってしまったら面白くないし。だから、良い裏切りを見せてくれたマモはさすがだなって思いましたね。

七星：俺としても、よっしゃーって。単純に、バラードが好きっていうのもあるんですけど、このタイミングでバラードが出せるのって最高だなって。でも、バラードをやろうって思ったのも、流れありきなんですよね。今だからこそ出せるものなのではないかなと。

楓：俺、最初はびっくりしましたけどね。てっきり、前作で見せたような流れでいくだろうなと思っていたんで（笑）。でも、バラードでいくって決まってからは、もっと気持ちを引き締めていかないといけないって思ったんです。

――確かに、バラード曲ともなると、ごまかしが効きませんし。

楓：そうなんです。だから、良い意味でのプレッシャーって言うんですかね、それもあって頑張ろうって。

宏崇：俺としては抵抗なかったんですよ。やっと、このときがきたかってぐらいで。

マモ：とりあえず、バンドとして、大きな一歩がほしかったんだと思います。

――なるほど。「ソメイヨシノ」はそうしたテーマの元、生まれたのですね。

マモ：それと、春という季節を意識して作っていきました。

――R指定って、変化球が好きなバンドだと思うんです。でも、この曲はすごく直球で攻めてきていて。

マモ：メロとコードをメンバーに渡してアレンジしていってもらったんですけど、俺からは特にこうしてくれっていう指示は出さなかったんですよ。その割には、納得できるものが返ってきたので良かったなと。

宏崇：どんな感じにしていこうかっていうのは前々から考えていたので、ドラムのフレーズに関しては一晩でできあがっ

ソメイヨシノ

自分たちにとっての挑戦

昨年リリースされた「波瀾万丈、椿唄」はR指定の持つ勢いが爆発していた作品だっただけに、好評をはくした。しかし、それに甘えることなく、新作「ソメイヨシノ」では、バラードに挑戦。彼らは今、大きな一歩を踏み出そうとしている。自分たちが今できるすべてを詰め込んだだけに、聴きごたえは充分だ。春には単独公演ツアーもあるので、ぜひ足を運んでほしい。成長が感じられることだろう。

Interview:ERI MIZUTANI

うと、演奏の本質というか。やっぱり、こうしたバラードってバンドの実力が問われると思うんです。なので、そこを考えつつ演奏していきましたね。

―迷いなく叩けている感じがします。

宏崇：そこは、曲の方向が見えていたからなんです。

七星：俺も、デモを聴いた時点で完成が見えていたので、どう攻めていくか早くに決めることができましたね。

―バラードではベースの音が鍵になってくると言われます。そこで、七星さんが心がけたことというと何だったのでしょう？

七星：いつもより前に出ていかないとなって。あとは、曲の雰囲気を大事にしたかったので、そこは潰さないよう心がけていきましたけど。

―曲を充分に理解した上で自分の個性を乗せるというのは、大変な作業でもあります。

七星：確かに。でも、そういう部分で俺の音を感じてもらえたらなと。

楓：これはほんと、感情を大事にしていかないといけない曲だと思うんですよ。けど、俺は意外にもすんなりといって。

―気持ちを引き締めて臨んだからこそ、すんなりといったのでしょうね。

楓：そうかもしれません。だから、過去最高にスムーズだったのかも。

Z：楓が色付けをしてくれたので、俺は下を支えるしかないなって。こだわったのはそこだけですね。

―バラードだからといって抑え気味にしていないところが、R指定らしいなと。こうした楽器陣の音を聴いて、マモさんは自身の個性をどう出していこうと考えられました？

マモ：声質を変えていこうっていう意識はなかったんですけど、いつもより優しく聴こえるかもしれません。

―穏やかで聴きやすいです。これもR指定の代表曲になりそうですね。

マモ：そういった気持ちで作っていったので、今後、代表するものになっていったら良いですね。

―ふと思ったのですが、この曲をライヴの1曲目に持ってきたら相当かっこいいのでは？

マモ：それ、ありだと思います。

Z：気付いたら、どっかの会場でやってるかもしれません（笑）。

―続いての曲は「本日ハ晴天ナリ」。これは、どういった感じで作っていったのです？

楓：ネタを持っていったのは俺なんですけど、みんなの意見を混ぜながら完成していった感じですね。まぁ、元々はライヴで楽しめればいいなと思って作ったので、R指定らしさはそのままに、俺の色が出ればいいなって。

―楓さんとしては、最初にどのようなライヴの絵が見えていました？

楓：モッシュだったり、逆ダイだったり、激しめの光景ですかね。俺たちはもちろん、お客さんも一緒になって楽しめるっていうのを意識しました。

マモ：そのイメージを聞いて歌詞を書いていったんですけど、割りとすんなりできましたね。俺としては、東京は厳しいぞっていうメッセージを込めてみたんですけど。

―前の曲では、地元博多のことがよく書かれていましたが、上京してからは東京を中心に書かれることが多くなってきましたね。

マモ：いやー、東京が嫌いってわけじゃないんですけど、いつも本音で書くことが多いのでそうなってしまうんですよね。でも、東京って冷たいなぁって（笑）。

宏崇：ははは（笑）。俺、この曲は好き勝手やっていったんですよね。それで尺が伸びたところもあるし。手数を詰め込んだ分、他のドラマーが聴いたら、あれ？って思われる仕上りになっていると思います。

Z：遊び心が爆発していると思いますね。スタジオで合わせた回数も多かったし、面白くできましたよ。

七星：したい感じっていうのは見えていたしね。それは、自分の引き出しが増えたっていうのもあるんだろうけど、俺は前と比べても、ベースを弾くのが楽しくなってきました。

楓：できあがってみると、良い曲になったなって思います。

―「学級崩壊」は、やり切った感が満載ですよね。

マモ：あははは（笑）。R指定の[illegible]ところって、バランス良く曲を入れて[illegible]ところだと思うんです。そこで、[illegible]曲を入れないとなって。

―きっと、ライヴでは、七星さんが暴れてくれることでしょう（笑）。

七星：でも、レコーディング中は、暴れることなんて想定して弾いてないんですけどね（笑）。

宏崇：俺も、録っているときは考えていませんでした。テンポが早すぎて、ごちゃごちゃになるかもって心配だったんですけど、意外ときれいにまとまりましたね。ほんと、これは変なことしなくて良かったです。

Z：それにしても、マモワールド全開な曲だなぁって。すごくわかりやすいじゃないですか。だから、今までどおりにやればいいかなと。まぁ、その中にも、ちょこちょこ自分の好きな音を入れていって。

―そこは、ライヴでの見せ方を意識して？

Z：それはありますね。一応、想像しつつ広げていっているので。まだ実際にやってはいないんですけど、やりやすい曲だと思います。

楓：録りは今までどおりなんですけど、デモはすごいことになっていたんですよ。展開の面で。けど、いつものR指定を出していけばいいんだなと思ってからは早かったですね。録りながら面白いフレーズを考えていったりしたので、良い感じになりました。

―そうそう、歌詞を見ていて気付いたんですけど、ここにも東京にちなんだ言葉が出てきますね。

マモ：ここでは、〝山手線〟というワードが出てきます。

Z：東京に染まってきた証拠ですよ。

マモ：染まってないです！（笑）。

―さて、こうしてできあがった新作ですが、何と、記念すべき10枚目の作品になります。ですが、ここで満足することなく、これからも良い作品を作り上げていってもらいたいなと。

Z：ここからが踏ん張りどころなので、これからも気を抜かずにやっていきたいと思います。

(問)〒169-0075　東京都新宿区高田馬場3-3-8-609
http://www.r-shitei.net/

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

がりですね。

「僕もやれば出来るんです」

——（笑）自分的にはそういう感じ？

「昔は、わざと狙ってヘンなのを作ってたような感じがしたので」

——今回は素直に作ってみたらこうなったということですか。

「何が"素直"か分からないんですけど、ヘンな曲はよりヘンな風に、歌モノ風な曲はより歌モノ風に心がけて作りました」

——ヘンな風に持っていった曲と言うと？

「通常盤にしか入ってない「She is a liar 2」は、そうですね。これは、"2"なんですけど、いちばん最初にアダプタ。でCDを出した時に入ってた曲なんです。最初の時期に作った曲なんで、頭から最後まで平坦な感じだし、メジャーだかマイナーだかよく分からない感じになってるんで、ちょっとヘンですよね。あと、「未来-kaze-」もオールボコーダーなので、あんまり歌モノっぽくないですね。ノリも平坦で、流れを意識してない感じで作ってます」

——「未来-kaze-」は、タイトルから分かるように前向きな歌ですよね。

「前向きですね。基本的にはたいがい前向きなんで」

——そういう内容をオールボコーダーで聴かせるのは意外な気もしますが。

「ボコーダーで歌うのが前提の曲だと、ただカタカナを並べただけのめちゃくちゃ英語にしたこともあるんですけど、基本的に僕は歌も楽器だっていう気持ちでやってるので、どれがボコーダーになってもいい感じもあるんです（笑）」

——そんなにこだわりはないんですか。

「と言うか、打ち込みのほうにこだわりが強すぎちゃって。全部ボコーダーでも構わないんだけど、それだと売れそうにないので、1曲ぐらいは出そうと思った結果ですね」

——未来の歌詞がちゃんと聴こえると、イメージが全然違ってきそうですよね。

「そうだと思います。でもね、未来を"kaze"と呼ばせるタイトルからしてすでにこっ恥ずかしい。内容的にもこっ恥ずかしいんじゃないかと思うんで、ボコーダーでちょっと聴こえないぐらいがちょうど

ADAPTER。

"素直"に遊んだアルバム『音遊戯。』完成

何が出てくるのか毎回分からない。そうしたほうが楽しい。

3月23日にADAPTER。が発売するアルバム『音遊戯。』は、いろいろな発見と意外性の詰まった作品だ。綿密に練って作り込まれたたくさんの音も、その中で意外なくらいポップで耳に残る歌も、限定盤と通常盤で曲の流れを大きく変えた構成も、福助。が音で遊んだ結果。そしてそれが聴き手をおおいに楽しませてくれる。ワンマン・ツアーでも、毎回絶対違うことをしたいという彼の気持ちどおり、予測できない驚きがたくさんあるだろう。

Interview:MIYUKI MURAYAMA

そういう気持ちがあって、これを選んだのかもしれないです」

——なるほど。「Question」は最初ボコーダーが出てきますけど、バンドの色が強いですよね。

「この10曲の中で、いちばん気に入ってるボコーダーの音が、"Question"と言ってる音なんですよ」

——音、ですか（笑）。でも、「Question」にはギター・ソロも入ってますね。

「唯一のギター・ソロですね。「Please Please You」だけ唯一のベース・ソロが入ってるんで、2曲目3曲目でソロは終わっちゃうんです。早いなって（笑）。これも最初は、イントロとかもギターで弾いてたんです。でも、これはヤだなと思ってシンセに変えて、真ん中ぐらいは弾かなきゃマズいかなと思って、弾いたらソロになったんです。10曲もあったら1曲ぐらいソロを弾かなきゃいけないんじゃないかと（笑）。そのほうが飽きることなく聴けるとも思いますし」

——「完璧1人ぼっち」は、サビが印象的な歌モノですね。

「これはタイトルがいちばん気に入ってる曲ですね。僕がいちばん大嫌いな状況なんですけど。一人なんてもってのほかです」

——このタイトルが気に入ってるのは、孤独感を強調するイメージがよく出せているから？

「組み合わせがいいと言うかそんな感じです。"1人"を"独り"にしようかと思ったんですけど、そっちにするとより寂しくなるんでやめました。後で見るとイヤになるじゃないですか。"ああ、一人ってイヤだな"って」

——この歌詞は失恋がテーマ？

「アダプタ。は基本的に男女の愛を歌ってるんで、そうですね」

——「Conviction」はゆったりと聴かせるので、通常盤の最後をしっかり締めくくる感じになりますね。

「こういうオーケストラ調に作ったのは初めてで珍しいので、自分の中ではちょっとチャレンジな部分ですね。最初に作った時にオーケストラの音ばっかり入れてって、後でピコピコしたのを付け加えた感じの作り方ですね。他の「完璧1人

コピコしたのから始まる曲は、それから作り始めてますね。曲の方向性で作っていく順番が決まっていくんです」

——「前向き志向学」はすごくバンド感がありますけど、何から作ったんですか。

「ギターのリフから作りました。作り方は曲によってバラバラですね。その代わりメロディから作るのが少ないんです」

——「前向き志向学」も、サビはすごくキャッチーですよね。

「これは曲としていちばん気に入ってる曲ですね。サビが終わった後に、"バーカ"って毎回歪んだ声で入るんですね。すごい前向きな歌詞を歌っているのに、最後に"バーカ"って言うのがいいなって。いい歌だと思います」

——それも、そういう内容が恥ずかしいからなんですか。

「これはですね、歌詞の内容に沿ってます。"考え方で未来は変わっていく"っていう歌詞が最後にあるんですけど、僕は基本的にこう思ってるんですよ。それでそういう内容の歌詞にしてるんですけど、見る人によってはあいつバカだなって思ってるんだろうなという第三者の声をサビの後に入れたんです。だから僕が言われてるんです」

——自分の思ってることだけを歌にするんじゃなくて、第三者が思うことまで曲にしたのは、バカだと思われると分かっているということを言いたいから？

「そうです。僕は一人で生きてるなんてこれっぽっちも思ってないし、みんながみんな違う考え方をして、だけどみんながいないと僕も生きていけないんだとよく分かっているので、自分の考えだけを押し付けるような真似はしません。人類みな平等ですから、仲良く仲良く、と（笑）。そういう考えが強く出てるんです」

——アーティスト的な自己顕示欲とは真逆ですね。

「それこそバカだと思うんで」

——なるほど（苦笑）。そうじゃないというのを示すための、"バーカ"だと。

「そうでございます。なので、ライヴの時も、"バーカ"って自分では言わないんですよ。打ち込みのほうに入ってるんです。自分が言われなきゃいけないんです」

——なるほど。「スタートライン」は、サ

蝴蝶网 hudie.com

ウンド的にはピコピコした、上モノの打ち込み感が強く出た曲ですね。

「この曲は、そのピコピコのループがいちばん気に入ってる曲ですね」

——曲ごとにどこをどう出したいかを[illegible]考えて作っているんですね。

「そういうのが一個ずつにありますね。だけど、「スタートライン」と「Question」の楽器は、わざと似た感じに作ってあるんです。元々は、曲が始まった時にどっちが始まったか分からないようにしたかったんですよ。リフだけすごく似てて、上モノで全然違う歌にしたかったんですけど、何となく似てるぐらいにしかならなくて、ちょっと悔しい想いをしました。だけど、ライヴで楽器のリフからやったら分かんないと思います。そういうのをやりたかったんです」

——次に始まるのが何か分からないというのは、大切な要素なんですね。

「ライヴって、そういうもんじゃないですか。ライヴですよ、何が起こるか分からないのがライヴですよ」

——確かに。ただ、予定調和的なものを好むアーティストもいますよね。

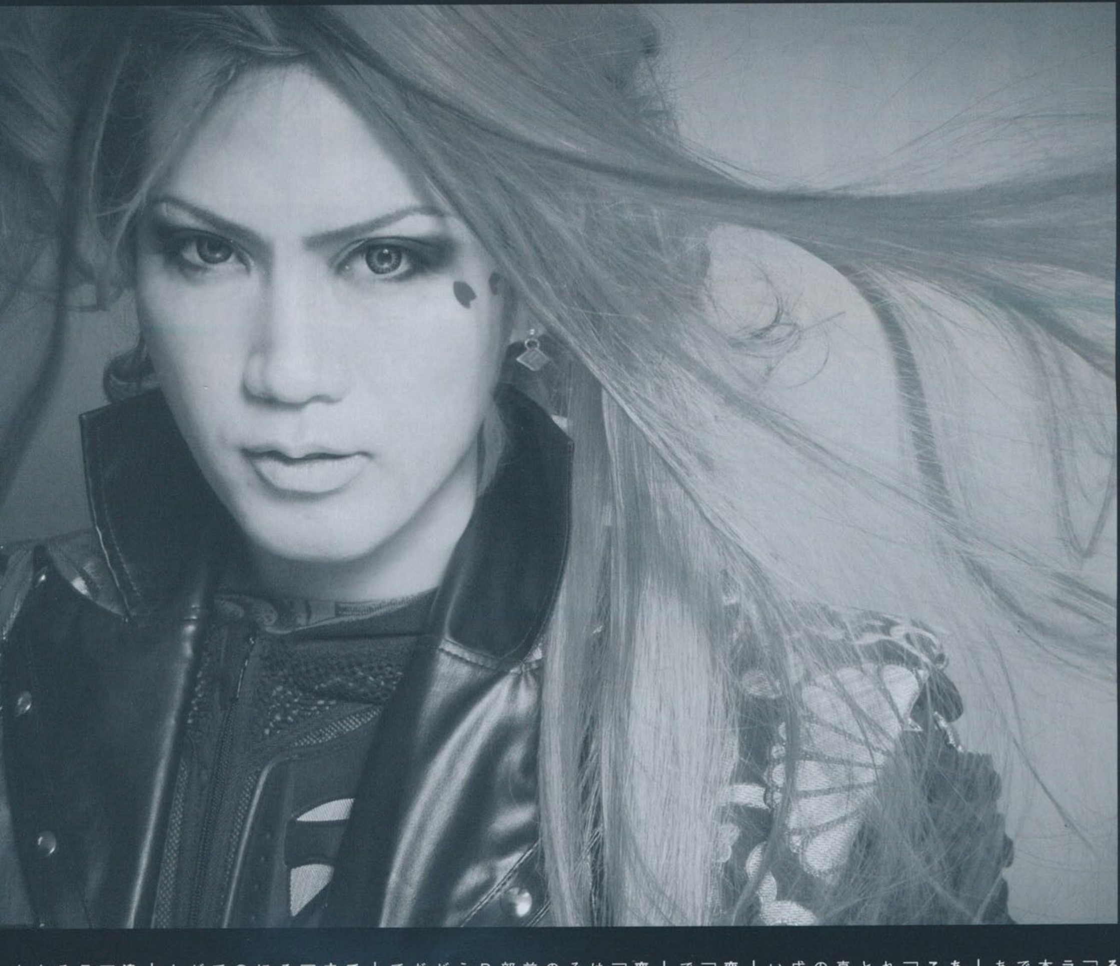
「それはポイントポイントであれば。ずっと同じじゃつまんないと思いますね。しかも、打ち込みをすごく使うんで、変えたくても変わんないじゃないですか。なので、曲の構成にしても曲順にしても、次に何がくるのか余計に分からないようにしたいのかもしれないです」

——これだけ打ち込みが入ってると、聴けば聴くほどいろんな音が入ってるのが分かるのは楽しいですよね。

「そうなんです。聴こえないぐらいの音量でも入ってるんで、それを探すと楽しいと思います。ヘッドホンで聴くのと、外して聴くのと違う聴こえ方がするんです。1曲の中に入ってる音の数がすごく多くて、そういうのが変わってくるのがいいなと自分でも思ってるんで、こういう感じの曲にしたんです」

——曲順についてですが、歌詞の内容で並べ方を決めていたりします？

「基本的には、曲の全体の流れを考えてやってます。アルバムぐらいになると、こうでもいけるし、こうでもいけるっていう雰囲気があるんで、初回盤と通常盤で変えてます」



るくなるような印象を受けたんですよ。

「確かに前向きな曲が後ろに並びましたね。ライヴの曲順を考えるような感じで、1本の作品としての流れを考えて決めるので、前向きなのを最後に置きたい感覚があるのかもしれないです」

——限定盤だと「Conviction」が真ん中あたりに来ますけど、通常盤だと最後で、これでかなり印象が変わりますよね。

「これだけ音がワチャワチャ鳴ってると疲れるんで、真ん中で休めるのがいいかなと思って、限定盤では「Conviction」が真ん中に来てます。限定盤の最後の「僕のLIFE」は『音遊戯。』ヴァージョンで構成が違ってて、ライヴでやってるのに近い形になってますね」

——限定盤と通常盤で、これだけ曲順を変えるのは珍しいかなと思いました。

「マスタリングするのも倍の時間かかるんで、やめたほうがいいですよ（笑）」

——でも、やっぱり聴いた印象がかなり変わる面白さはありますよね。

「好きなバンドのアルバムって、次の曲はこれだって覚えちゃうじゃないですか。その曲が次に来てほしい反面、何が来るのか分からないのも楽しいかなと思って。前からそうなんですけど、ツアーでも全部曲順を変えるんです。だから、違うCDなのに同じ曲順だとつまらないだろうって。毎回何が来るか分からない状況が楽しいし、それはやってるほうもそうだし。それだけは頑なに拒否しようと思ってます」

——アルバム発売後のワンマン・ツアーでは、4ヶ所で違うものが見られるんですか。

「全く違います。全ヶ所アルバムに入ってる曲は全部やると思いますけど、基本的に僕はCDに入ってるのをそのままやるのはつまらないと思うので、ものによっては構成とかも結構変えるし、始まり方が違ったりとか、そういうところを楽しんでもらえたらなと思います」

——アルバムを聴いた上で来れば、その違いが楽しめますね。

「そうですね。ファイナルの新宿BLAZEは綺麗な会場で、見やすいし演奏してるほうもやりやすいんです。しかもビックリするぐらい広いんです。なので、みんな来て下さい（笑）」

PURE SOUND

ヴィジュアル系専門店 販売・買取 ピュアサウンド

蝴蝶网 hudie.com

西日本最大のヴィジュアル系中古SHOP。品揃えは西日本一！1フロアに5万点の品揃え
只今、ゴシック＆ロリータ古着コーナー拡大中！大阪と言えばピュアサウンドです。

■商品ラインナップ■CD/DVD/VHS/テープ/FC会報/ツアーパンフ/ヴィジュアル系雑誌・書籍/アーティストグッズ/ゴシック&ロリータ古着

アメリカ村店・ホームページも同時開催！ピュアサウンド西新宿店 2周年記念SALE

第一弾 3/12（土）～4/3（日）
第二弾 4/23（土）～5/8（日）

中古商品全品 20%OFF!!（※一部SALE商品対象外）

★西新宿店だけの特別企画★

西新宿店ではグッズ・書籍の買取も大歓迎!! 独自の買取リストもぜひご覧下さい！ もちろんCD/DVDもお待ちしております!! 詳しくは下記アドレスをご覧下さい。▼▼▼

ピュアサウンド西新宿店 東京都新宿区西新宿7-16-14 ミクラビル1F 03-6304-0360

http://www.visualkaitori.net/visual/index1.html

■CD（邦楽・洋楽etc）■DVD（ミュージック・映画・アニメetc）■音楽雑誌■ツアーグッズ各種■FC会報■ゴスロリ服（その他V系古着）

郵送買取なら絶対ピュアサウンド!!

1枚からでも**無料!**着払いでお送り下さい。送料代金は、**当店が負担します!**

買取方法

①商品の送付
・お売り頂く商品
・身分証明書のコピー（運転免許書・保険証・パスポートのいずれか1点）
・買取依頼書
・親権者同意書（18歳未満の方のみ）
を必ず同封の上お送り下さい。

②査定
当店到着後すぐに専門スタッフが1点ずつ丁寧に査定。

③結果
査定結果をメール or 電話にてお知らせします。
査定にご納得頂けない商品はキャンセル可能です。

④お支払い
お客様からの承諾を頂き次第ご指定の口座にお振込♪
お振込の際には、査定金額より送金手数料400円を引かせて頂きます。

店頭にて持ち込みでの買取も行っております。
その場で専門スタッフが査定。即現金にてお支払い★
※身分証明書をご持参下さい。
※18歳未満の方は親権同意書が必要となります。

詳しくはこちら▶

【買取依頼書について】ピュアサウンドホームページにてプリントアウト出来ます。手書きの依頼書でも結構です。以下の点を記載した用紙を同封して下さい。［振込先の金融機関情報、氏名、住所、連絡先、メールアドレス］【親権者同意書について】18歳未満の方のみ。ピュアサウンドホームページにてプリントアウト出来ます。手書きの同意書でも結構です。「CD・DVDを売ることに同意します。」と、ご家族の方にご記入頂き、親権者氏名、本人氏名、住所、連絡先を記載した用紙を同封して下さい。
【査定後不成立の商品返送について】即日ご返送させて頂きます。その際の送料はお客様のご負担となります。ご了承下さいませ。

ゴスロリ専門サ

~maiden clothin

http://www.maidenclothi

モバイル版遂にOPEN!! ▶▶▶

ゴスロリ古着専門 OPEN SA 開催!

店内全品 30%～50% OFF!

場所：旧ピュアサウンドアメリカ

メンズブランド高価買取中!

下記の商品1点以上で全体査定金額が20%UP!!

◆BAFFALO BOBS◆NO ID.◆Justin Davis◆FUGA◆DEAL DESIGN◆Roen◆VANQUISH◆discord◆BACK BONE◆h.naoto Sixh.◆GLAD NEWS◆Vice FAIRY◆monomania◆ROYAL ORDER

買取の極意!

①CDなどの帯は捨てたらアカン!!
②美品・完品（付属品が完備）が一番!!
③リストにないようなレア商品を売る際は、補足説明を書いたメモがあればGOOD!!

西新宿店でも高価買

ゴシック&ロリータ古着取り扱いブランド

◆ATELIER-PIERROT◆ATELIER BOZ◆alice auaa◆ALGONQUINS◆Angelic Pretty◆Innocent World◆Victorian Maiden◆VISIBLE◆Vivienne Westwood◆A+Lidel◆h.NAOTO◆EXCENTRIQUE◆DEORA◆Emily Temple Cute◆Ozz On◆CANDY STRIPPER◆Qutie Frash◆Cornet◆Jane Marple◆ZT+PUN◆Jean Paul GAULTIER◆Juliette et Justine◆SUPER LOVERS◆SEX POT ReVeNGe◆SEXY DYNA◆Dangerous nude◆no future◆Heart.E◆BANANA FISH◆HIDE ROCK design◆HYSTERIC GLAMOU◆PEACE NOW◆BLACK PEACE NOW◆BLACK PEACE NOW（FOR MEN）◆PUTUMAYO◆HELL CAT◆BABY, THE STARS SHINE BRIGHT◆BABY, THE STARS SHINE BRIGHT ALICE and the PIRATES◆MAD PUNKS◆MAXICIMAM(MA)◆MAM◆MIHO MATSUDA◆MILKBOY◆Mary Magdalene◆LAPIN◆metamorphose◆Moi-meme-Moitie◆LISTEN FLAVOR◆ROMANTIC NEUROSIS◆WORLD WIDE LO

高価買取ブランド
◆QutieFrash◆Moi-meme-Moitie◆Q-pot◆MALKOMALKA◆alice auaa◆Ozz On◆Vivienne Westwood◆GADGET GROW◆monomania

メンズ高価買取ブランド
◆BAFFALO BOBS◆NO ID.◆Diavlo◆Justin Davis◆DEAL DESIGN◆Roen◆VANQUISH◆Xfrm◆discord◆BACK BONE◆h.naoto Sixh.◆GLAD NEWS◆FUGA◆VICE FAIRY◆ROYALORDER◆Moonage Devilment

買取強化アーティスト

秋葉原少年団電脳ロメオ/ADAPTER。/emmuree/amber gris
exist†trace/ヴァルナ/ViViD/vistlip/OCTOPUS CULT
Kozi/己龍/キャサリン/cocklobin/THE.GOLDEN SPIDER
ゴールデンボンバー/砂月/Jessica/Jeniva/地獄絵
SINCREA/Scar./大佑と黒の隠者達/DELUHI
DENTAKU/「東京指定」
DOG in The PWO/フィオーレ
FEST VAINQUEUR/ベルベット/VELGREED
BORN/Merry Go Round/Lycaon
v[NEW]/R 指定

シルバー高価買取ブラ

◆Artemis Classic◆Justin Dav◆DEAL DESIGN◆F.A.L◆Bloody◆bizarre◆ROYAL ORDER◆かすう工房◆春銀

買取強化キャンペー

期間 3/21▶5/20

下記の買取強化アーティス・メンズ高価買取ブランド・高価買取ブランドの商品1点以 全体の査定金額が20%UP!
（※状態が悪いものは対象外となりま

Pure Sound Amerikamura ピュアサウンド

〒542-0086
大阪市中央区西心斎橋2-10-34 サンエースビル5F
☎06-6214-2549
▲こちらの宛先まで「佐川急便着払い」にてお送り下さい!!▲

■詳しい買い取り価格などはピュアサウンドホームページへ■ http://www.puresound.co.jp 携帯版 http://psound.jp

蝴蝶网
hudie.com

SHOCK WAVE アポロ Vol.47

Live at 高田馬場AREA 2011.2.18

毎月18日、高田馬場AREAを舞台に開催中のイベント「SHOCK WAVEアポロ」。2月18日に出演したバンドは、ギャロ/Annie's Black/レミング/ZUCK/DuelJewel/ν〔NEU〕の計6バンド。何時もよりも濃いメンツとステージングが展開された。その模様を、しっかりお伝えしよう。

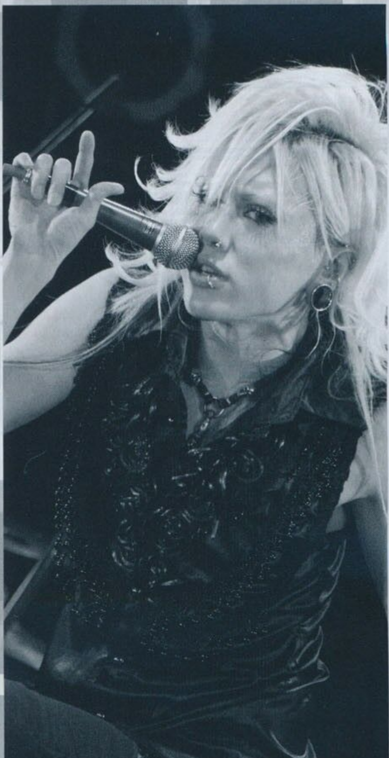
hotography:MASAKAZU KOBAYASHI（SHOXX）
eport:TOMONORI NAGASAWA

.サクラノキオク
.宇宙回想記
.N.S
.ギブス

レミング

Annie's Black

1.Call me
2.赤いヒール
3.Ambition
4.Expand
5.departure

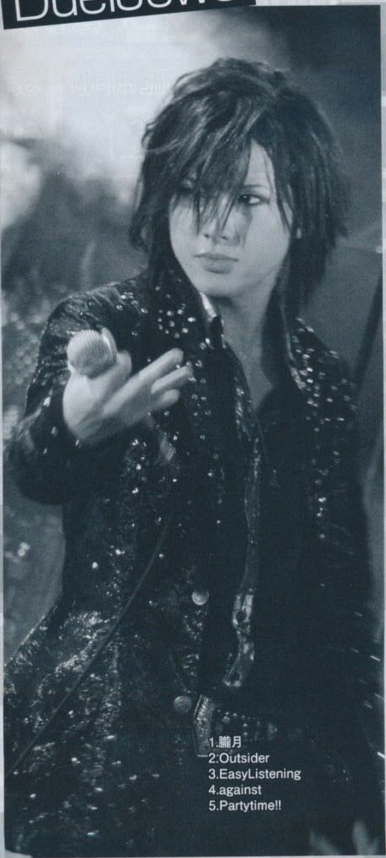


1. ALICE IN DEAD END
2.ALICE IN WORLD' S END
3.BOUTIQUE BEELZEBUB
4.調教師
5.東京シンデレラ

ギャロ

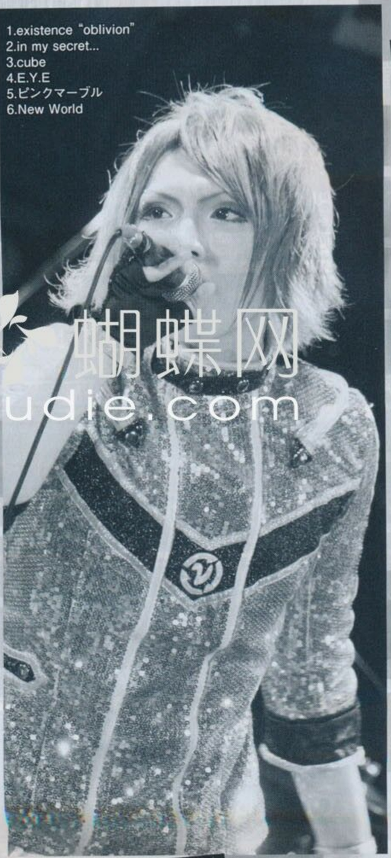
ZUCK

1.東京センチメンタル
2.ミカヅキ
3.乱世ハイソサエティ
4.ONE,sSTORY



DuelJewel

1.朧月
2.Outsider
3.EasyListening
4.against
5.Partytime!!



V [NEU]

1.existence "oblivion"
2.in my secret...
3.cube
4.E.Y.E
5.ピンクマーブル
6.New World

蝴蝶网
hudie.com

アルに味わっている感覚!? 幻惑的な音楽と語り部の言葉に導かれ、小さなランプを持ったギャロのメンバーが、一人一人舞台上へ姿を表した。なんて怪しく、かつ妖しい様なんだろう。そんな暗鬱なまどろみの光景は、一瞬にして、狂喜渦巻く熱狂の舞台劇に変貌していった。「ALICE IN DEAD END」を通した熱いロックな宴。続く「ALICE IN WORLD'S END」では、そこへ華麗さと疾走感が加わっていった。MC時には、お馴染み人形のビビとの会話も登場。後半部でもヒステリックな演奏をぶつけながら、観客たちを飛び跳ね続けさせたギャロ。熱いロックなエナジーほとばしる姿に惹きつけられた。

青いサイリウム振りかざしながら舞台上へ姿を表したAnnie's Blanck。冒頭を飾った「Call me」で炸裂したのは、デジタルな要素を内包した感情を熱く掻き立てるメロディアスな高揚系ナンバー。楽曲の持つ世界観と表現力は、メジャーという舞台が似合いそうなクオリティだ。横ノリながらも、観客たちをしっかり揺らしていった「赤いヒール」。中には、ブラストビート炸裂した煽り導く盛り上げ曲や、サイリム振りながら一つに溶け合った歌物もあるが。どんな楽曲だろうと、言葉とメロディーを明瞭に心へ響かせてゆく表現力を、バンド自体が認識したうえで演奏している。その〝ぶれない軸〟の魅力を感じるほどに、彼らの存在が気になっていく。

胸にジワジワっと染み込んでゆくミディアムバラート曲「サクラノキヲク」から、物語を綴り始めたレミング。冒頭を、心に響かせたい歌で構成してきた面に、まずは心が惹かれた。出演バンドの多いイベントで、どう自分たちをアピールするか。【歌を届ける姿勢】を全面に出している時点で、他の煽り好きバンドたちとは異なる魅力を発している中、さらにひとひねりを加えてきたレミング。「宇宙回想記」「N.S」と、演奏が進むごとに上がってゆく躍動性。でも、つねに楽曲の中心軸にあるのは【歌を届ける】という姿勢だ。最後に暴れ曲「ギブス」も用意してたとはいえ、終始、歌心を持った曲たちを味わえたステージだった。

しいギター・サウンドと、腰をシェイクさせるダンサブルな横ノリビートがシンクロしながら、舞台上から【興奮】という塊となって襲いかかってきた。「東京センチメンタル」へ触れた瞬間から、ZUCKの描き出した極上のロックナンバーに、嬉しい恍惚の洗礼を受けた気分。一転、バラード歌「ミカヅキ」では、今にも壊れそうな儚い感情を描き出していった。タオル振りまわし、会場中へ熱狂の台風を巻き起こした「乱世ハイソサエティ」。胸くすぐるキャッチーな歌物作「ONE,sSTORY」と、短い時間の中で変幻多彩な表情を組み込みながら、派手なお祭り騒ぎを導いていったのだった。

トリ前の舞台を彩ったのが、まさかまさかのDuelJewel。重量感を持ちながらも妖艶な魅力振りまいた「朧月」を奏でた時点で、圧倒的な音の迫力と存在感に、目が釘付けになっていた。ずっしりと身体に染み渡るヘヴィなグルーヴは、「Outsider」や「EasyListening」を通し、ますます大きなウネリを描いてゆく。そう、巨大な興奮の渦の中へ笑顔で堕ちてゆくように…。イベントという短い時間枠の中だからこそ、身体つんざくヘヴィ&ドライブ感あふれる楽曲を軸に攻めてきた彼ら。会場中がヘドバンの嵐に包まれた、豪圧歌物作「against」。ラストの「Partytime!!」まで、誰もが無我夢中で熱狂し続けていった。

きらびやかでサイバーなデジタルワールドの幕開けだ。v［NEU］が「existence "oblivion"」を通し観客たちを連れて行ったのは、ウキウキ弾む心抑えきれなくなる、笑顔あふれるマジカルなワンダーランド。疾走感満載なデジタルビートが一気にブースト！「in my secret...」の流れる会場。興奮のレベルゲージは、グングン赤く上昇していく。v［NEU］の強みは、高揚性あふれた生身の熱い感情を、デジタルなグルーヴの中へ生きた血（情熱）として注入してゆくところにある。デジタル・ロックンロールの洗礼浴びせた「E.Y.E」。「New World」で完全リミッターぶっ飛んだ会場には、熱狂という新しい世界が出現していた。

SEX-ANDROID

lbum「ザ・ホワイト・ロックンロール・スウィンドル」
イカエジソン通販限定ver.発売中！
ィシャルグッズ「シュシュ」付きスペシャルパッケージ盤！

SEX-ANDROID 1年振りとなるニューアルバム「ザ・ホワイト・ロックンロール・スウィンドル」にSEX-ANDROIDとライカエジソンがコラボしたオフィシャルグッズ「シュシュ」が付属したスペシャルパッケージ盤が登場！！ライカエジソン通信販売でしか購入出来ない激レアセット！！限定商品のため完売の際は発売前でも受付を終了いたしますのでご了承ください。

ライカエジソン通信のみの受付となります
電話受付(03-3369-3119)
ライカエジソンWEBサイト(http://www.like-an-edison.com/)
ライカエジソン携帯サイト

ライカエジソン携帯サイト

ELSCOPE — gle ¥1,200 閃光rough ride

LM.C — Maxi Single 3/30 SUPER DUPER GALAXY 初回盤A・B ¥1,700／通常盤 ¥1,000 ★封入特典：(初回盤B)LM.C宝くじカード、(通常盤)チェンジングジャケット

KYOKUTOU GIRL FRIEND — Maxi Single 3/30 エクスタシー ¥1,575 ★オリジナル特典：スペシャルDVD

Sadie — Full Album 3/30 COLD BLOOD 初回限定盤 ¥3,990／通常盤 ¥3,360 ★オリジナル特典：(初回限定盤)コメントDVD&B3ポスター (通常盤)アーティストフォト6枚組

D'ESPAIRSRAY — 3/30 BEST ALBUM タイトル未定 ¥4,500 CLIP DVD ¥4,800 "Human-clad Monsters" FINAL

RiPx — disturb[...]border A type ¥2,100／B type ¥1,575

Dolly — 3/30 ムーンライトディスコ ¥2,415 ★オリジナル特典：MUSIC CLIPメイキングDVD or B3ポスター

ν[NEU] — 初回盤完売につき通常盤発売！ Full Album 3/30 LIMIT(通常盤) ¥3,150 ★オリジナル特典：サイン入りB2ポスター

Re:dis — Mini Album ¥2,500 3/30 Can you hear it?

凛 — 3/30 Maxi Single TYPE A・B ¥2,100 Silent To My Pain 5/25 Maxi Single TYPE A・B ¥2,100 Flowerd Bloom ★オリジナル特典：(A TYPE)サイン入オフショット写真&メッセージDVD (B TYPE)サイン入オフショット写真セット／封入特典：トレカ&プレゼント応募券

★スター — gle ¥1,500 AGLE TEXTURE

R指定 — Maxi Single 4/6 ソメイヨシノ 初回限定盤 ¥1,890／通常盤 ¥1,575 ★オリジナル特典：(初回)スペシャルコメントDVD+フォト、(通常)5枚組フォト

Administrator — NO IMAGE Maxi Single 4/6 Shining! 初回盤 ¥1,890 通常盤 ¥1,575 ★オリジナル特典：(初回盤)コメントDVD (通常盤)ポストカード

ZUCK — 4/6 Maxi Single【WO：LF】 初回限定盤 ¥1,575／通常盤 ¥1,050

Dacco — Maxi Single 2枚同時発売 4/6 Passion ¥1,575 コイガオカ ¥1,575

jonWAPPPPPPER — gle ONE's LIFE 回限定盤 ¥1,890／通常盤 ¥1,575 封入特典：無料ワンマン招待券

NoGoD — Maxi Single Type-A・B ¥1,260 4/6 Raise a Flag

MoNoLith — 4/6 Maxi Single 白夜 ¥1,575 5/11 Maxi Single Gravy Sauce ¥1,575 ★オリジナル特典：Music Clip オフショットDVD三部作

Royz — Maxi Single 4/6 タイトル未定 TYPE A ¥1,890／TYPE B ¥1,575 ★オリジナル特典：(初回限定盤)メッセージDVD&集合フォト (通常盤)直筆サイン入りフォト5枚組／封入特典：トレカ

Plastic Tree — Full Album 4/6 ammonite 初回限定盤 ¥3,675／通常盤 ¥3,150

c — ST DVD 道のカケラ ¥3,360 est Album nd at time ¥3,675 特典：「道のカケラ」未発表LIVE映像DVD メモリアルメッセージ&未発表LIVE映像DVD／封入特典：応募券

Tu[ism] — Maxi Single ¥2,100 4/13 Starting Over

BugLug — Maxi Single 4/13 絶交悦楽論 初回盤 ¥1,890／通常盤 ¥1,260 ★オリジナル特典：(初回)コメントDVD+フォト、(通常)4枚組フォト

Kaya — 4/20 Full Album QUEEN type A ¥3,675／type B ¥3,150

己龍 — DVD 2タイトルリリース 4/20 己龍 全国単独巡業「狂瀾怒涛」～千秋楽～ 2010年12月3日 渋谷O-EAST LIVE DVD ¥4,980 ～ドキュメントDVD～ ¥3,675

戚 — um XI 初回盤 ¥3,800 通常盤 ¥3,150

VII-Sense — NO IMAGE Mini Album ¥2,415 4/20 The Reminiscence of War

大佑と黒の隠者達 — NO IMAGE 4/20 Full Album 漆黒の光 初回限定盤 ¥3,990／通常盤 ¥3,150

Fang — Maxi Single 4/20 牙流 ¥1,575

boogieman — Maxi Single ¥1,575 4/20 monopolize ★メーカー特典：ポストカード

ルベット — um 鬼凛～キリン～ A ¥2,625／通常盤B ¥2,415 購入特典応募券、(初回A)「GANG PEPPAR Vol.3」引換券

リルト — Mini Album 4/20 自由化スタイル 初回盤 ¥2,730／通常盤 ¥2,100 ★メーカー特典：ポストカード

EAT YOU ALIVE — Maxi Single ¥1,500 4/27 Dark in the night

SOMATIC GUARDIAN — Mini Album 4/27 宣戦布告 限定盤 ¥2,940 通常盤 ¥2,625

D — LIVE DVD ¥5,000 4/27 D LIVE TOUR2010「In the name of justice」FINAL(仮)

gil — gle Last promise 回盤A ¥1,890／通常盤B ¥1,575 カー特典：W購入特典用応募券

PIECElang — Mini Album 4/27 PLACE ¥2,625

Lycaon — Mini Album ¥2,800 4/27 情欲のアクメ ★オリジナル特典：非売品フォト4枚組&SPECIAL DVD(Lycaonが名古屋、大須を紹介する映像)

lynch. — Full Album 5/11 I BERIEVE IN ME 初回限定盤・通常盤 ¥3,000

DecoLa Hopping — Maxi Single 連続リリース 5/18 ライカ限定発売 WANTED! 6/22 海賊たちのwonder adventure! 7/27 七つの海の宝物☆ (各)¥525 ★封入特典：トレカ

エジソンドットコム ラフォーレ原宿店 イベント情報

～ お遊戯会か魔女窟×[PaRADEiS] 1時間店員

3/26 PM2:00～ boogieman トーク&握手&サイン会

～ Called≠Plan 1時間店員

3/27 PM5:00～ ケミカルピクチャーズ トーク&握手&6ショット撮影会

～ LM.C 握手会

4/23 PM4:00～ Administrator (NO IMAGE) トーク&握手&5ショット撮影会

～ リルト 1時間店員

4/29 PM5:00～ BugLug トーク&コスプレ2ショットチェキ撮影会(さらにW購入で5ショットチェキ)

ライカエジソン WEBショップ Like an Edison.com

ライカエジソン通販改革！ さらに便利になりました！

ライカエジソンのWEBショップがオープンしました！
これまでの電話受付、携帯サイト受付に加えパソコンからのご注文も出来るようになりました！
どんどん便利になっていくライカエジソン通販を是非ご利用下さい！詳しくは「ライカエジソン」で検索！！

PC>http://www.like-an-edison.com/

通信販売専用ダイヤル
0120-624-999
もしくはライカエジソン東京店(03-3369-3119)まで！

お問合せは お電話で！ 全国一律 送料400円！！
*代金引換の場合は手数料が別途300円です。

通信販売をご利用で、名古屋／大阪のイベントへご参加希望のお客様へ
通信販売でもイベント参加可能です(但し枚数制限がございます) ※一部対象外のイベントがございます。詳しくは通販センターまでお問合せください。
通信販売は東京店で受付しております(名古屋店／大阪店では通信販売を行っておりません)
尚、イベント参加希望のお客様の通信販売の受付は現金書留のみとなります。

ライカエジソン東京店
〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-15-14 坂本ビル1F／2F
☎(1F)03-3369-3119／(2F)03-3369-3708

ライカエジソン名古屋店
〒460-0011
愛知県名古屋市中区大須2-1-15 伏見ヨックスビル2F
☎052-229-8211

ライカエジソン大阪店
〒542-0086
大阪府大阪市中央区西心斎橋1-6-8 トムズハウスビルディング2F
☎06-6252-6262

Like an Edison.com ラフォーレ原宿店
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前1-11-6 ラフォーレ原宿B1F
☎03-3746-6002

Like an Edison Release Information

ライカエジソンのブログ オープンしました！

★東京店、原宿店、名古屋店、大阪店の日常や情報が満載の「スタッフブログ」▶ http://ameblo.jp/like-an-edison-blog/
★全スタッフより音源の聴き所などをお伝えする「ヴィジュアル・ソムリエ」▶ http://ameblo.jp/like-an-edison-sommelier

■ライカエジソンディストリビューション 今月のおすすめ

※価格はすべて税込

Dolly

イベントあり
Maxi Single ¥2,415
3/30 ムーンライトディスコ
★オリジナル特典：MUSIC CLIPメイキングDVD「下弦Disc」もしくはB3ポスター

ν[NEU]

初回盤完売につき通常盤発売！

Full Album
3/30 LIMIT（通常盤） ¥3,150
★オリジナル特典：サイン入りB2ポスター

Dacco

イベントあり
Maxi Single 2枚同時発売
4/6 Passion ¥1,575
コイガオカ ¥1,575

Lycaon

イベントあり
Mini Album ¥2,800
4/27 情欲のアクメ
★オリジナル特典：非売品フォト4枚組&SPECIAL DVD【Lycaonが名古屋、大須を紹介する映像】

MoNoLith

Maxi Single
4/6 白夜 ¥1,575
Maxi Single
5/11 Gravy Sauce ¥1,575
★オリジナル特典：Music Clip オフショットDVD三部作

ワン★スター

イベントあり
Maxi Single ¥1,500
3/30 EAGLE TEXTURE

Re:dis

イベントあり
Mini Album ¥2,500
3/30 Can you hear it?

EAT YOU ALIVE

Maxi Single ¥1,500
4/27 Dark in the night

BAELSCOPE

Maxi Single ¥1,200
3/23 閃光rough ride
イベントあり

PIECElang

Mini Album
4/27 PLACE ¥2,625

Fang

Maxi Single
4/20 牙流 ¥1,575

Tu[ism]

イベントあり
Maxi Single ¥2,100
4/13 Starting Over

★東京店イベント情報（♣：カメラタイム有り）

お遊戯しが魔々団×【PaRADEiS】	3/23(水)	PM4:00～	1時間店員
FEST VAINQUEUR	3/26(土)	PM6:30～	トーク&握手&5ショット撮影会
ケミカルピクチャーズ	3/26(土)	PM2:00～	トーク&握手&6ショット撮影会(2タイプ購入で2ショット撮影会)
イロクイ。	3/26(土)	PM5:00～	コスプレシリーズ『入社編』&トーク&6ショット撮影会
boogieman	3/26(土)	PM7:00～	トーク&握手&サイン会
己龍	3/27(日)	PM2:00～	九条武政プレゼンツ トーク&握手&サイン会
Megaromania	3/27(日)	PM4:00～	トーク&6ショット撮影会(W購入で2ショット撮影会)
MoNoLith	3/27(日)	PM6:00～	卒業証書授与式Tour～inライカエジソン東京店～
SEX-ANDROID	4/ 2(土)	PM4:00～	ちさいマイクのミス小野寺と爆笑トーク&握手&サイン会+α
Moran	4/ 2(土)	PM6:00～	トーク&握手&サイン会
Dolly	4/ 3(日)	PM3:00～	サイン会
rice	4/ 9(水)	PM1:00～	アコースティックライブ&トーク&握手会
xTRiPx	4/ 9(水)	PM6:00～	トーク&握手&サイン会(ちょびプロデュース企画あり)
R指定	4/10(木)	PM4:00～	トーク&握手&6ショット撮影会
Royz	4/15([illegible])	PM6:[illegible]～	トーク&握手&サイン会
Sadie	4/16([illegible])	PM3:00～	トーク&握手会(イベント当日にサイン色紙プレゼント)
愛狂います。	4/1[illegible]	[illegible]	トーク&[illegible]会(メンバーと[illegible])
Re:dis	4/2[illegible]	PM12:00～	トーク&握手&サイン会 ※トークのみワン★スターと合同
ワン★スター	4/2[illegible]	PM12:00～	トーク&握手&サイン会 ※トークのみRe:disと合同
Arc	4/2[illegible]	PM3:00～	トーク&[illegible]ショット撮影会♣
Tu[ism]	4/24([illegible])	PM[illegible]:00～	トーク&サイン&握手&撮影会
BugLug	4/29([illegible])	PM[illegible]:00～	トーク&[illegible]物プレゼント抽選会(W購入で5ショットチェキ撮影会)
リルト	4/29(金)	[illegible]	1時間店員
ベルベット	4/30(日)	PM2:00～	「ベルベット 暴動クイズ大会！～金鬼編～」&トーク&サイン会
Dacco	5/ 5(木)	PM3:00～	トーク&握手会(W購入でサイン会)
ZUCK	5/ 5(木)	PM[illegible]～	[落書き[illegible]]トーク&[illegible](W購入で動画撮影会)
Lycaon	5/[illegible](土)	[illegible]～	アコースティックライブ&トーク&サイン会

★名古屋店イベント情報（♣：カメラタイム有り）

boogieman	3/21(月)	PM12:00～	トーク&握手&サイン会
yuina	3/21(月)	PM5:00～	トーク&握手&サイン会
Called≠Plan	3/23(水)	PM6:00～	1時間店員
花少年バディーズ	3/26(土)	時間未定	「花少年バディーズの名古屋にいたらいいじゃん。DAY」
お遊戯しが魔々団×【PaRADEiS】	3/27(日)	PM3:00～	1時間店員
MoNoLith	3/28(月)	PM2:00～	「卒業証書授与式Tour～inライカエジソン名古屋店～」
BugLug	3/28(月)	PM3:00～	トーク&握手&サイン会(さらにW購入で5ショットチェキ撮影会)
xTRiPx	3/29(火)	PM3:00～	1時間店員
Re:dis	3/30(水)	PM1:00～	1時間店員 ※ワン★スターと合同
ワン★スター	3/30(水)	PM1:00～	1時間店員 ※Re:disと合同
PENICILLIN	4/ 1(金)	PM5:30～	握手会
イロクイ。	4/ 2(土)	PM4:00～	コスプレシリーズ『卒業編』&トーク&6ショット撮影会
DuelJewel	4/ 3(日)	PM2:00～	トーク&サイン会
Megaromania	4/ 5(火)	PM6:00～	トーク&6ショット撮影会(さらにW購入で2ショット撮影会)
[illegible]	4/ 7(木)	PM6:30～	トーク&サイン&握手&7ショット撮影会
heidi.	4/ 9(土)	PM1:00～	サイン会
Royz	4/ 9(土)	PM6:00～	トーク&握手&6ショット撮影会
rice	4/16(土)	PM3:00～	アコースティックライブ&トーク&握手会
BAELSCOPE	4/16(土)	PM5:00～	握手&サイン会
Arc	4/16(土)	PM6:00～	トーク&5ショット撮影会♣
FEST VAINQUEUR	4/17(日)	PM1:30～	トーク&握手&5ショット撮影会
Administrator	4/17(日)	PM3:00～	1時間店員
ワン★スター	4/17(日)	PM5:00～	トーク&握手&サイン会
Re:dis	4/17(日)	PM6:30～	トーク&握手&サイン会
Lycaon	4/27(水)	PM4:00～	1時間店員
ZUCK	4/29(金)	PM3:00～	【サプライズパーティ】トーク&握手会 ※★プレゼント有！？(W購入でチェキ撮影会)
ケミカルピクチャーズ	4/30(土)	PM1:00～	トーク&握手&6ショット撮影会
Moran	4/30(土)	PM3:00～	トーク&握手&サイン会
R指定	4/30(土)	PM6:00～	トーク&握手&サイン会
リルト	5/ 1(日)	PM12:00～	1時間店員
ベルベット	5/ 1(日)	PM2:00～	「四都鬼殺し名古屋前日！名古屋でごきげんようサイコロ発動！」&トーク&握手会
Lycaon	5/ 4(水)	PM2:30～	アコースティックライブ&トーク&サイン会
Sadie	5/ 4(水)	PM5:00～	トーク&握手会(イベント当日にサイン色紙プレゼント)
Dacco	5/ 5(木)	PM3:00～	トーク&握手会(さらにW購入でサイン会)

★大阪店イベント情報（♣：カメラタイム有り）

Called≠Plan	3/22(火)	PM5:00～	1時間店員
愛狂います。	3/26(土)	PM3:00～	トーク&5ショット撮影会
お遊戯しが魔々団×【PaRADEiS】	3/26(土)	PM5:00～	1時間店員
ワン★スター	3/27(日)	PM2:00～	サイン&握手会
花少年バディーズ	3/27(日)	PM6:00～	『ビストロバディーズ』&手形会
MoNoLith	3/29(火)	PM6:00～	「卒業証書授与式Tour～inライカエジソン大阪店～」
FEST VAINQUEUR	4/ 1(金)	PM6:00～	トーク&握手&5ショット撮影会
BugLug	4/ 2(土)	PM12:00～	トーク&握手&サイン会(さらにW購入で5ショットチェキ撮影会)
DuelJewel	4/ 2(土)	PM2:00～	トーク&サイン会
Megaromania	4/ 3(日)	PM3:00～	トーク&6ショット撮影会(さらにW購入で2ショット撮影会)
Sadie	4/ 7(月)	PM6:00～	トーク&握手会(イベント当日にサイン色紙プレゼント)
heidi.	4/10(日)	PM12:00～	サイン会
Royz	4/10(日)	PM2:00～	トーク&握手&6ショット撮影会
Called≠Plan	4/16(土)	時間未定	トーク&握手&サイン会
rice	4/17(日)	PM1:00～	アコースティックライブ&トーク&握手会
PENICILLIN	4/17(日)	PM6:00～	握手会
Re:dis	4/20(水)	PM6:00～	トーク&握手&サイン会 ※トークのみワン★スターと合同
ワン★スター	4/20(水)	PM6:00～	トーク&握手&サイン会 ※トークのみRe:disと合同
ケミカルピクチャーズ	4/22(金)	PM6:00～	トーク&握手&6ショット撮影会
R指定	4/27(水)	PM4:00～	トーク&握手&サイン会
Moran	4/27(水)	PM7:00～	トーク&握手&サイン会
Arc	4/29(金)	PM4:00～	トーク&5ショット撮影会♣
リルト	4/30(土)	PM4:00～	1時間店員
Lycaon	5/ 1(日)	PM2:00～	1時間店員
Dacco	5/ 2(月)	PM6:00～	トーク&握手会(さらにW購入でサイン会)
ベルベット	5/ 3(火)	PM2:00～	「四都鬼殺し大阪前日！ベルベット対抗いいとも選手権！～水鬼編～」&トーク&握
Lycaon	5/15(日)	PM1:00～	トーク&握手&サイン会

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

SHOXX VOICE!!

xTRiPx

"フリースタイルミクスチャー"をバンドコンセプトに掲げ、活動を展開しているxTRiPx。3月30日にリリースされるニューマキシシングル「Disturb[da]bordeR」では、ヴィジュアル系という枠にとらわれることなく、自由な音楽性を打ち出している。そこで注目してもらいたいのはYo-shiT歌声。ここで、いかに彼らの音楽が自由であるかということが感じ取れるはずだ。

Interview:ERI MIZUTANI

——何だか、ここにきてさらに音楽性が幅広くなりましたね。

Yo-shiT：個人的なテーマとしては、1曲1曲を違う感じで聴かせようっていうのを意識したんです。バラバラっていうわけではないんだけど、作品全体を通して聴いたときに、印象を変えたかったというか。

ena：全曲、Yo-shiTが作っているんですけど、そのデモがやたらクオリティの高い状態で上がってきたんですね。最初、これはできないだろうって思ったんですけど、バンド全体のレベルアップを考えているんだなというのが見えたので、これは頑張っていかないといけないなって。それに、去年ぐらいから、ドラマーとして一皮むけたいなと思っていたので、これはちょうどいい機会だなと。

——enaさんがそう思われたのは、何かしらのきっかけがあってのことだったのですか？

ena：何ていうか、自分を追い詰めたかったんですよね。できないことなんてあったらプロとしてダメだって。

Yo-shiT：俺は、彼のそういう考えをわかっていたし、信頼しているからこそ、クオリティの高いデモを持っていったっていうのはありますね。

ena：それもあって、音楽により真剣に向き合えるようになりました。だからこそ、リズム隊でも話し合ったし。ちょびは後から入った分、こまめに話しをしていくことが大事だと思ったんです。なので、俺の意見はズバズバと言っていきましたね。

ちょび：もうちょっとこうした方がいいよって、細かく指摘してくれるんで、自分の悪い癖とかも客観的に見ることができたし、それが向上に繋がってくるんだなって実感してます。

ena：そういうときって、俺はドラマーとしてではなく、バンド全体を見て言っている部分が大きいんですよ。1人でも意識がずれていたら良い作品なんて絶対にできないし。

——それは、昔から大事にしていることでもありますね。

ena：はい。でも、ちょびは柔軟性があるので、俺が言ったこともどんどん吸収してくれて。

Yo-shiT：俺は、とにかく歌ってってくれと言いましたね。ベースで歌ってって。やっぱり、ただ弾くだけだと面白く聴こえないんですよ。でも、歌に寄りそう感じで弾くと、ベースとしての音が際立つと思ったので。もちろん、そこはギター陣にも言いました。熱さが伝わってくるやつを弾いてくれって。

——なるほど。弦楽器陣に求められたのは、感情面の豊かさだったと。

Yo-shiT：うちのバンドは打ち込みが多い分、機械的な音を持ってこられるとつまらないんですよ。やっぱり、生の音を加えていくからには、感情面が1番大事になってくるかな。

ちょび：それだけに、弾き方は色々と考えていきましたね。実際に、体を動かしながら表現していきましたし。

将吾：ギターはとりあえずお任せって感じだったので、Kと2人で打ち合わせをしていったんですよ。そうしたら何通りもフレーズが出てきて。逆に、その中で最も適したものを選ぶのが大変でしたね。

K：なので、今回は特に、足し算と引き算にこだわっていって。録った後に、ここはいらないなって考えて引いていき。

Yo-shiT：こういうやり取りがあったから、制作がスムーズに進行していったと思うんです。そこが、前と比べて大きく変わったところですね。

——それにしても、本作はヴィジュアル系という枠を超えていると思いますよ。さすが、フリースタイルミクスチャーをコンセプトに掲げるだけあって。

Yo-shiT：「Disturb [da] bordeR」というタイトルからもわかるように、何かとカテゴライズしたがる世の中に対して、くだらない境界線なんてとっぱらっちまえよという想いを込め、この作品を向けたんです。

——そうして、オープニングに用意されたのが「Disturbed bordeR」ですね。

Yo-shiT：あれ、30分でできたんですよ（笑）。オルタナティヴなところを出しつつ、デジタル要素を加え、うちららしいかっこいいSEに仕上ったと思います。

——「trust」は、SEありきの曲かなと思ったのですが。

Yo・shiT：そうです。そこから考え、ガラッと世界が変わるような感じにしていきました。突き抜けるような爽やかさとスピード感、そこが曲の聴きどころであり、メッセージ性の強い歌詞にも注目してもらえたらなと。ここには自分の感情が露骨すぎるぐらい詰め込まれているので。これを読んで前向きになってくれる人が1人でもいたら嬉しいかな。

ena：ちょうどこのとき、プレイヤーとして変わりたいという気持ちが強かったので、ドラムはメッセージ性にそったプレイをすることを心がけましたね。

ちょび：これ、弾いていてすごく楽しかったです。自分の知らなかったものも吸収できたし、勉強になりました。

将吾：ギターはデモからそこまで変えてないんですよね。良かった部分はそのままに、自分の音を乗せていって。

K：同じく。これに関しては、サクッと録り終わりました。

——「Milky way」は、歌がとても引き立っている1曲で。

ena：それもあって、俺、叩くつもりなかったんですよ、この曲。普通に、打ち込みの方が曲に合うだろうって思ったんです。けど、何か叩きたくなって。なので、イメージしたことというと、打ち込みと合わさって気持ちの良いドラムってことでしたね。

——確かに、打ち込みを多用してしまうと、バンドとしての良さが半減してしまいますからね。

ena：そうなんです。なので、そこには気をつけて自分らしさを出していきました。

ちょび：僕は、ここで初めてベースシンセサイザーを使ってみたんです。難しかったけど、やってみて良かったと思います。

将吾：これこそ、ギターは引き算に悩んだ曲なんですよ。バンドとしての良さを出すためにはどうしたらいいかっていうのを、Kと朝6時まで話し合ってましたから（笑）。

Disturb〔da〕bordeR

ena：言うならば、ギターは焼きそ
にかかっている青のりみたいな？
将吾：そんな感じかも。ないとダメっていう（笑）。
Yo-shiT：そこで、紅しょうがになっているのがギターソロですよ。
K：録りの当日まで悩みに悩んだ、渾身のギターソロです（笑）。
——良いアクセントになっています。
Yo-shiT：こうしてみんなの色が加わると、曲の表情って変わってきますね。思っていた以上の曲になりました。
——「yours only」は、リード曲になってもおかしくないぐらいのクオリティですね。
Yo-shiT：R&Bとバラードの融合なので、AメロとBメロでは楽器陣は出てこないんですけど、そうしたセクション分けをすることで、曲にメリハリが付いたかなと。
ena：これね、歌詞が良いんですよ。
——もしや実体験？　と、気になってしまいました。
Yo-shiT：まぁ、こういうのもいいかなって（笑）。でも、メンバーもこういう気持ちわかるでしょ？
ちょび：共感できる部分はありますね。
将吾：うんうん。10代の頃にこういうことあったなぁって。
K：こういう淡い恋もあったなぁって。
——歌詞を読んでいると、男の人って意外と繊細なんだなって思いますね。
Yo-shiT：そうなんですよ。男って実は弱い生き物なんです（笑）。
——そして、ラストの「geT Ready」は前の3曲とはガラッと変わって、バンドの勢いが炸裂。これはライヴで映えそうですね。
ena：久しぶりの煽り曲ですからね。きっと、ライヴではアドレナリン大放出になると思います。
Yo-shiT：これはもう、人の上を転がってステージにまで上がってこい！っていう荒々しい気持ちで作っていきました。だからこそ、この曲でフロアを盛り上げたいって思っているし、俺たちにしかできないノリを見せられる自信があります。
——今後もライヴの予定が盛りだくさんですし、その光景が見られることは間違いないでしょう。
Yo-shiT：みんなから、xTRiPxいいよ！って言ってもらえるライヴになるよう、頑張りたいと思います。

(問) 〒169-0075　東京都新宿区高田馬場3-3-8-609　http://www.xtripx.com/

東京ミカエル。

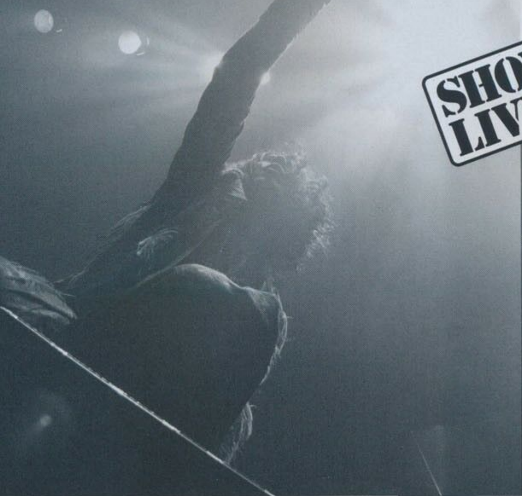
LAST ONEMAN LIVE『僕から君に贈る唄』

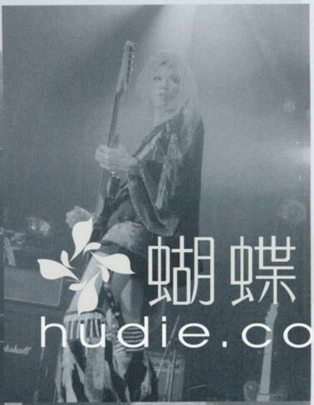
Live at SHIBUYA O-WEST　2011.2.28

Photography:MASAKAZU KOBAYASHI(SHOXX)
Report:ERI MIZUTANI

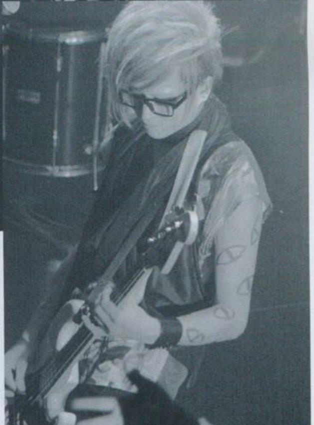
2月28日、渋谷O-WESTにて、東京ミカエル。のラスト・ワンマンライヴ『僕から君に贈る唄』が行なわれた。10年間の活動にピリオドを打ったこの日、外は泣き出しそうな雨雲で覆われており、会場を埋めつくしたたくさんのファンは声が枯れるまでメンバーの名前を呼び続けた。その中で彼らが見つけた答えとは。ラスト・ワンマンを通して見えたこと、その様子をレポートする。

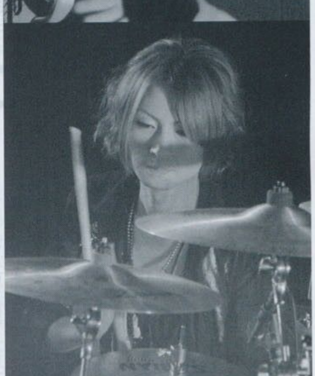
SHOXX LIVE!!





蝴蝶网
hudie.com





私が東京ミカエル。と出会ってすぐに感じたのは、なんて人間らしいバンドなのだろうということだった。曲の中に散りばめられた、これでもかというぐらいの喜怒哀楽。それは、大人になるにつれ忘れてしまうような純粋なものばかり。だからこそ、どの曲も共感できるものばかりであり、素直に良いなと感じられた。

そういえば、彼らは常に、〝東京ミカエル。とは?〟ということを考えながら音楽を作っていた。その答えを出すのはいつも延ばし延ばしにされていたけど、実際には確固たる想いがあったに違いない。その答えが出たと思えたのは、活動10年目にして2枚目のフル・アルバム『LOVE.』が完成した時のことであった。ここには、人間に最も必要な〝愛〟が提示されていた。それは、痛いぐらいに純粋だった。あまりに純粋すぎて、聴き終わった後に心がヒリヒリとした。人間らしさ＝愛。彼らはついに答えを見つけてしまった。あれだけ知りたかった〝東京ミカエル。とは?〟の答えに辿り着いたのに、答えが分かった瞬間、寂しくなった。それは、東京ミカエル。の完結を予感させたからでもある。皮肉なことに、イヤな予感は的中した。そして、彼らの口から解散を告げられた時、多くのファンが涙した。誰もが、彼らに解散なんてありえないと思っていた。東京ミカエル。は永久に不滅だと思っていたから。

そして発表から数ヶ月。彼らは今、ラスト・ライヴのステージに立っている。10年の想いを吐き出すかのように全力で演奏する姿は、過去最高に輝いていた。

でのカオス具合、感情むき出しに歌う眞田一航のセンスは抜群で、ヴォーカリストとして成長したところを見せつけてくれた。また、「ルポルタージュ」では、楽器陣の息の合った様子が十二分に出ていたように思う。中盤で見せたドラム・ソロでは、一ノ瀬緩菜の繊細さと力強さが炸裂。前に出てきて会場を盛り上げていたのも、実に彼らしい演出だ。そうかと思えば、雛形ゆえと南条カナタによる見せ場もあり。この2人のことだ、特に打ち合わせもなく楽しい雰囲気を作り出したに違いない。それも、あうんの呼吸があってこそ。付き合いが長いだけあって、時にはぶつかることもあっただろう。でも、お互いの良いところはお互いがいちばんよく分かっているはずだ。そんな素敵な関係性を観客も感じ取っているのか、フロアからは自然と笑みがこぼれる。こうなったら、あとは楽しむしかない。激しい曲、切ない曲、ハッピーな曲…彼らは次々に演奏していく。それに応えるように、観客はメンバーの名前を呼んでいったのだった。

『10年間、本当に、本当に、ありがとうございました。これだけは忘れないで下さい。僕たち4人は、東京ミカエル。は永久に不滅です!』

最後、ステージから一航は晴れやかな顔で叫んだ。心の中は涙でいっぱいだったかもしれない。けれど、それ以上の充実感が彼を満たしていたはずだ。〝東京ミカエル。〟がこれだけ多くの人に愛されていたこと、それは、彼らという〝人間〟が認められた証でもあるのだから。

蝴蝶网
hudie.com

Dali

セイメイロンリイダイタイアイタイ

SHOXX VOICE!!

4月6日にマキシ・シングル『セイメイロンリイダイタイアイタイ』をリリースするDali。一見不思議なこのタイトルが象徴するように、興味をそそる内容を提示しつつも、そのサウンドにはキャッチーな一面も見られる。もっともっと奥が深そうな彼らだけに、まずはここから足を踏み入れて、その魅力をさぐってほしい。主催イベント・ツアーも控えているので、ぜひその目と耳で、彼らの"変態"で"繊細"な個性を感じてみては？

Interview: MIYUKI MURAYAMA

活動休止してた時期もあったんですよね。そこで何か変化はありましたか。

荼：活動休止するときに、僕の中で一回ダリはなくなったと言うか、見直そうと思ったんです。結成当初はアート性みたいなのを考えていたんですけど、これでは周りのバンドと変わらないと思って。それでもっと新しい色を出していこうと思って、活動を再開してまず出した作品が、前作の『トリコロール』だったんです。それは、ライヴを意識するより、曲から景色が見えるものにしたいと思って作った作品でした。

ケエト：激しさだけじゃなく、もっと色をつけていきたいと思ったんです。

――今回の『セイメイロンリイダイタイアイタイ』では、そこからどうしようと？

荼：今回はその方向性で、もっとライヴを意識したものにしようと思いました。

――今はまだ制作中ということですが、1曲目の「マイン」は、すごくストレートなロックという印象を受けましたが。

ケエト：印象的にストレートなところは出したかったし、キャッチーでわかりやすい、今のダリっぽいところが出ていますね。

旬奈：録っている段階から、ロックっぽさを意識して叩きました。

ユウ：ライヴで皆と一体になって楽しくなればいいなと思って、そういうイメージで作ったので、あまり音を詰めすぎないようにして、歌をメインに聴かせるようにしました。

――そういうサウンドにどんな歌が乗ってくるんですか。

荼：メロディーがキャッチーなので、それをあえてねじ伏せるような歌にしたいですね。できるだけキャッチーじゃなくしたい、みたいな。

――そのバランスがダリらしいわけですね。「繊維に閉じ込めた春」は、さらに勢いのある曲ですね。

ケエト：ちょっと激しめの曲がほしいなと思って。でも、ただ激しいだけじゃなくて、お客さんも楽しめるような曲を目指して、ライヴをイメージして作りました。こういう曲で、お客さんとライヴを作り上げていけたらいいなという曲です。

――激しいだけじゃないみたいなところ

旬奈：一音一音を大切にしたと言うか。やっぱり勢いだけじゃなくて、フレーズにしても、皆の邪魔をしないで活かしていけるようにしていますね。

ユウ：ちゃんとメロディーが出るように、そこは意識しました。

ケエト：ただ激しいだけではなく、いろんな色の面をギターでかぶせたり、いらない部分を排除してシンプルに仕上げています。

――そこで歌はどう歌うつもりですか。

荼：僕は特に歌を意識するんじゃなくて、全部がひとつになったときの印象を大事にしたいんですね。"繊細と変態"というのが今のダリのひとつのキーワードなんですけど、曲を聴いたときに赤い印象を受けたので、すごく変態な感じにできたらいいなと思っています。でも、繊細さはあるのでこういうタイトルになっているんですね。歌はちょっとコミカルな感じで歌って、変態さと繊細さ、両方持っている怖い部分を出したいですね。

――「ソラ0・8mg」はじっくり聴かせるタイプの切ない曲ですね。

ケエト：やっぱり激しいだけじゃないところを出したいので。

旬奈：「マイン」で結構詰め込んだので、これはおとなしめにシンプルにしてます。

ユウ：僕は、歌と曲が一体となったところをイメージして、歌詞とかメロディー、演奏がひとつにまとまって、曲の雰囲気を出せるように弾いています。

――この歌詞では、曲の切ないイメージを出しているんですか。

荼：でも、僕は一筋縄でいくのが好きじゃないので、皆が皆わかる歌詞じゃなくて、タイトルも言葉を2つ掛けていて、そういうところにこだわっています。

――発売後、主催イベントがあるんですよね。ライヴを意識した作品を作って、ライヴも変わっていきそうですか。

旬奈：前作より幅が広がったので、その進化版になると思います。

ケエト：お客さんと一体感を出していきたいですね。自分達だけじゃなくて、ダリに興味のないお客さんも巻き込める魅力をどんどん出していきたいです。『セイメイロンリイダイタイアイタイ』を聴き込んで、一緒に盛り上がって下さい。

Administrator

生み落とされたアドミニの核心。ヘヴィネスとポップネスが融合した『Shining!』

SHOXX VOICE!!

Administrator、2011年第1弾となるシングルは、彼らの得意とするところが満載となっている。「Shining!」は必聴！　ロックサウンドながらも爽やかさが漂う1曲となった。さらなる進化、そして、彼らのセンスをこの作品で感じ取ってもらいたい。また、5月6日には、待望のファースト・ワンマンが行われる。満を持してというだけあり、期待以上のライヴが観られることは間違いなさそうだ。

Interview: ERI MIZUTANI

――『Shining!』は今年初めてのリリースとなりますが。

公佑：去年までやってきたもの、培ってきたものを土台に、さらなる飛躍を目指したいと思い、今作を作りあげていったんです。うちらは常にライヴバンドでいたいっていう思いがあるので、以前にも増してライヴを意識した曲作りをしてきましたね。

芥：で、うちらに必要なものは何かって考えたとき、残ったのがこの4曲で。

公佑：リード曲の「Shining!」は、完全にライヴを想定して。アドミニストレーターの良いところである、歌の部分を押し出しつつ、バックのサウンドも引き立っている曲になっていると思います。

――すごく爽やか。それにしても、広い会場に似合いそうな曲だね。

公佑：20万人の観客をイメージして作りましたから！

龍：大きく出たねぇ(笑)。でも、俺も、もっとたくさんの人にアドミニの曲を聴いてもらいたいと思っているので、その気持ちは共感できます。

卓也：俺はこの曲を聴いたとき、うちらにありそうでなかった曲だなって思ったんですよ。ロックなんだけど優しくて。それだけに、戦力になるんじゃないかなって。

――歌詞も共感できるポイントが多くて。これはどういったイメージで書いていったの？

芥：僕、けっこうへこみやすい性格なんですけど、ライヴを通してお客さんから力をもらうことが多いんですね。そんなとき、1人で生きているんじゃないんだなっていうのを実感して。それで、みんなと出会えた奇跡っていうのを歌詞に書いていきました。

――全体を通して、一体感っていうのがひしひしと伝わってきましたよ。「ism...」は「Shining!」と似た空気感を持つ曲だけど、新しい部分もあり。

公佑：シャッフルがほしいなってずっと思っていたんです。でも、そこでジャズっぽくなるのも面白くないので、ロックよりにしていって。これは確実に、リズム隊が肝になっている曲だと思います。

卓也：俺、シャッフルをやったことがなかったので、最初はどうなることかとビビっていたんですけど、実際に演奏したらそんなこともなく(笑)。

龍：やってみたら、意外と面白い曲でしたね。

――初回盤に収録される「ハザ[illegible]ラウンド」はミディアムテンポの楽曲なだけに、歌がすごく引き立っていてこれ、ブレスのタイミングが最高。

芥：またマニアックな(笑)。歌はこの曲に限らず、どれも楽しく歌うことができたんですよ。それこそ、陶酔して周りの音が聴こえなくなるぐらい。本当に、自分の歌と向き合っていることがすごく楽しかったですね。

――対照的なのが「テクノブレイク」だね。

公佑：これは通常盤のみに収録されるんですけど、みんなでスタジオに入って作り上げていった曲なんです。全員の気持ちがライヴに向いていたこともあり、バンドっぽさがすごく出ていると思います。

芥：それぞれがやりたいって思ったことが入っているので、お客さんにもすごく伝わる曲なんじゃないかな。

公佑：今までの考えだったら、CDに収録しないでライヴだけの曲にしようってなっていたと思うんですけど、バンドの状態を考えるとこれは出すべきかなって。そこで、他の曲とのバランスを味わってもらいたかったんですよね。

――ライヴをテーマにして作っていったからこそ、4曲とも聴きごたえのあるものに仕上ったのかもね。

公佑：どれかひとつが掛け離れているってことがないですからね。

芥：異なるタイプの曲でも違和感なく聴けるのは、僕らの強みでもあるのかなと。

公佑：その部分は、これからもっと突き詰めていきたいところです。

――そして、5月6日には、高田馬場AREAでファースト・ワンマン・ライヴが行なわれます。

芥：今まで、〝何でワンマンやらないの？〟って訊かれたこともあるんですけど、やっとやることになりました。「Shining!」という核ができたからこそ、やるべきなんじゃないかなと。

卓也：次のステップに向かうきっかけとして、このワンマンを成功させたいと思います。

hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

FEST VAINQUEUR

全曲リミックス、リマスタリングし、よりバランスを追求しました

SHOXX VOICE!!

昨年10月、期待のバンドが産声をあげた。その名もFEST VAINQUEUR。高い演奏力と豊かな歌声が特徴的であり、12月にリリースされたファースト・ミニ・アルバム『FEST VAINQUEUR』は、1111枚の限定発売だったために、手に入れられず涙した人もいたほど。だが、この度、通常盤という形で再リリースが決定。ぜひ、この機会に彼らの熱い音楽に触れてみてほしい。

Interview: ERI MIZUTANI

ンライヴが行われました。

KAZI：自分たちとしても、大阪でワンマンすることを決めてからバンドを動かしたってところもあったので、すごく気合いが入りましたね。

TOMO：勢いで決めた分、頑張らないとって（笑）。でも、絶対に成功させなくては！っていう思いがあったからこそ、お客さんにも伝わるライヴができたのかなと。そして、大阪での反省を活かして次に臨んだんですけど、そうしたおかげで、東京のワンマンも成功したんだと思いますね。

――今思うと、やって良かったですね、この2本のワンマン。

HIRO：そうですね、早い段階でやっておいて。

HAL：改めて、ワンマンで〝ただいま〟ということが言えて良かったです。

――そして、3月23日にはファースト・ミニ・アルバム『FEST VAINQUEUR』の通常盤が発売されます。これは、昨年限定発売された作品ですが、ここでまた出す意図とは？

KAZI：限定盤を出したとき、お客さんから手に入れられなかったという声をもらって。

HIRO：ライヴを観て曲が聴きたくなったけど、音源はもう売ってないんですね、残念ですって。

KAZI：そうそう（苦笑）。それで通常盤を出すことを決めたんです。ただ、そのまま変わりなく出すのも面白くないと思ったので、全曲リミックス、リマスタリングし、よりバランスよく聴こえるように追求していきました。

――激しさはもちろんのこと、綺麗さが際立っていますよね。

KAZI：まさにそのとおりで。迫力の差を感じてもらえると思います。

HIRO：こうして通常盤を出すことで、まだ僕らのライヴを観たことない人にも体感してもらえたらと。

――何とここには、「UNLIMITED」のミュージック・クリップが付いているんですよね。

HIRO：あの映像は、記念すべき一発目のライヴでして。色々な想いを抱いてステージに立っただけに、みんなに見て

URってこんなバンドなんですっていうのが、ここには表れているんじゃないかなと思います。

TOMO：ソロでは僕の手元もアップされているので、よーく見てもらいたいですね。

KAZI：何なら一時停止して（笑）。

――ありですね、その楽しみ方（笑）。

TOMO：でも、ほんと、音の面に関しては、自己満足なんじゃないかっていうぐらいこだわっていったんです。それって気付きにくいことかもしれないけど、こだわってこそバンドの成長に繋がるものだと思っているので、妥協せずにやっていきましたね。

――それにより、曲に対しての見方も変わってきたのでは？

HAL：それはありますね。FEST VAINQUEURらしさっていうのを最初に見せられたと思うので、もっと良く聴かせるためにはどうしたらいいんだろうって考えましたし。感覚で受け取ってもらいたいという気持ちがあったので、歌モノはしっかりと綺麗に、より高いクオリティで歌っていきました。

KAZI：バンドの変化って、ヴォーカルを見れば明らかだと思うんです。それだけに、HALは今回、いちばん色んなことに挑戦していったんですよ。それを傍で見ていてすごいなと思ったし、次を考えているなって思いましたね。

――目線は常に先、と。

KAZI：だからこそ、この作品を聴いてもらいたいんですよね。収録曲は同じだけど、内容を変えた意味っていうのがここでわかると思うので。

――確実に、同じではないと感じてもらえると思います。さて、こうなると期待してしまうのが新作で。

KAZI：そこは楽しみにしていてもらいたいです。今、色々と構想を練っている段階なので。

HIRO：がっちりですよね。

TOMO：もちろん！

――楽しみです。

HAL：ワンマンの前に死ぬほど曲を作ったので、そこからさらに練っていった曲たちを、次でガッツリと見せていこうと思います。

SHOXX INFO!!

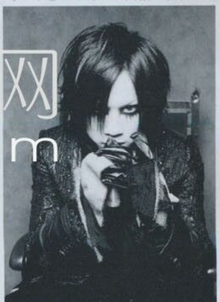
大佑

奇跡のニュー・アルバム、全貌発表!!

昨年7月に急逝した、シーンのカリスマ・大佑。彼が亡くなる直前までレコーディングしていたヴォーカルや楽曲が、彼を愛した多くのアーティストの協力によってかたちになり、アルバム『漆黒の光』として4月20日にリリースされることが決定した!!

大佑のヴォーカルによる未発表曲「悲愴」や、元々ドラマーだった彼自身のドラム・レコーディングによる「独裁者の涙」を始め、全12曲が収録されているこの作品。参加ミュージシャンについては、すでにオフィシャルサイトで発表されているとおりだが…大佑が在籍した蜉蝣やthe studsのメンバーが集結して制作された楽曲や、彼が残したメロディ／歌詞を盟友である宮脇渉（12012）・ガラ（MERRY）・達瑯（ムック）が歌った新曲たち、さらに詩怜（kannivalism）とのツイン・ヴォーカルで完成に至った「ヒカリ」などなど、今なお生きる大佑の感情や息吹きを感じさせる作品に仕上がっている。

また、ブックレットには未公開写真がふんだんに使用されているとのこと。



hudie.com

大佑が生前思い描いていたコンセプトを忠実に再現したこの作品、ぜひ触れてみてほしい。

http://daisuke-official.com

コトバで見るヴィジュアル系 ～SHOXX Artist Boxの巻～

V系の文豪達(!?)のスペシャルトーク・ショーが決定!!

SHOXXの名物コーナー「アーティストボックス」のコラムニストが集結。新宿ロフトプラスワンにてトークイベントを行うぞ！ 4人のアーティストが"コトバ"を切り口に、歌詞に於ける"コトバ"の力。文章を書く苦しみ、喜び。またより伝わりやすい文章の書き方など、など、アーティストの企業秘密ともいえる、コトバで表現するための秘密を公開しちゃいます。

【タイトル】：SHOXX presents コトバで見るヴィジュアル系 ~SHOXX Artist Boxの巻
【会場】：新宿ロフトプラスワン
【日時】：2011年04月27日（水）open18:30/start19:30
【出演】：葵／マコト（ドレミ團）/seek（Mix Speaker's,Inc.）/一志（GUEST）
【司会】：ぼっくん（前SHOXX編集長）/武市尚子（ライター）
【料金】：前売り￥2500/当日￥3000（共に）飲食別
【プレイガイド】：ローソンチケット03/26発売開始（Lコード：38020）

Sixh.

渋谷パルコ店・三宮ビブレ店OPEN!!

怒濤の快進撃を続けるSixh.。原宿に続き「渋谷パルコ・パート3」B1Fにニュー・ショップがオープンした。5,250円以上の買い物をすると、Sixh.アルバム『サトル3部作＆あさってもジョオー・CD』のリバイバル盤が1枚もらえるキャンペーンが開催中だ。さらに3月12日にオープンしたばかりの三宮ビブレ6F・Sixh.三宮店では、5,250円以上の買い物をした人限定で、オープン記念の記念バッジが貰えるとのこと！ 限定数なので欲しい人はお早めに！ 追加情報は決まり次第順次HPにて告知されるようなので、こちらも要チェック！

［問］Sixh.渋谷パルコ店（☎03-3461-7373）／
Sixh.三宮ビブレ店（☎078-393-8506）
[HP] www.s-inc.com

hide

アルバム・リリースにROCKミュージカル、hide最新情報

3月8日から上演中の、hideの楽曲のみで構成されたROCKミュージカル『ピンクスパイダー』。このミュージカルの演出を軸に展開される斬新な曲順で構成されたアルバム『Musical Number >>ROCKミュージカル ピンクスパイダー >>』が3月2日にリリースされた。そのミュージカルは3月27日まで上演中なので興味のある人は急げ!! その他嬉しいニュースも続々到着!!

■『Musical Number >>ROCKミュージカル ピンクスパイダー >>』
NOW ON SALE
UPCH-1830/1 ¥3,000（tax in）※CD 2枚組
I.N.A.が今作品のために新たにMIXした楽曲『DOUBT'97（MIX LEMONed JELLY MIX Ver.4）』を収録

■3/8～27@東京グローブ座
ROCKミュージカル『ピンクスパイダー』上演中
hideの幻想世界をモチーフに、彼の楽曲だけを使った「オリジナルROCKミュージカル」。そしてhideを慕ったミュージシャン達の演劇の融合！ hideベストチューンがROCKミュージカルで炸裂!!
公演日：2011年3月27日（日）まで
会場：東京グローブ座
4月より地方公演決定！（名古屋/新潟/神戸/仙台/札幌）
CAST：
武田真治／渡部豪太（Wキャスト）
南沢奈央／高橋瞳（Wキャスト）
TAKA（defspiral）J（友情出演）etc...
音楽監督：iNA
演奏：defspiral
アトリエ・ダンカン／バックステージプロジェクト プロデュース
企画協力：ヘッドワックスオーガナイゼーション
ミュージカル・オフィシャルweb
http://ピンクスパイダー.com/

■3月3日 新宿マルイワン内に『LEMONed SHOP 新宿店』オープン！
■3月29日 1/8サイズの究極オフィシャル・ギターフィギュア『hide Guitar Collection -The Guitar Legend-』全国コンビニエンスストア 他で発売決定！
http://www.hideguitars.com/
hide オフィシャルウェブサイト
[PC] http://www.hide-city.com
[mobile] http://hide-city.jp

シリアル⇔NUMBER

メンバーオーディション開催決定!!

この度シリアル⇔NUMBERは［NEXT STAGE］へ進むために、新たなメンバー（夢人～ゆめんちゅ～）を公開募集したいと思います。シリアル⇔NUMBERでバンドがやりたい！ という方はぜひこの機会にご応募下さい。

●募集条件は下記の通り
(1) 18歳以上の男性
(2) 楽器が演奏できる方
(3) バンド活動中心で生活できる方

以上の条件を踏まえた上で下記の項目を明記の上、必ず「プロフィール写真」「演奏している動画（mov, avi）」を添えて（※作曲デモ音源等あれば尚良し）、こちらまでお送り下さい。
→ yumenchu@serial-no.com

●必要項目はこちら
・お名前（フリガナ）・生年月日
・出身地 ・住所 ・電話番号
・携帯メールアドレス ・ご職業
・身長 ・体重 ・血液型 ・担当楽器
・楽器演奏歴 ・他、演奏できる楽器
・長所 ・短所 ・趣味 ・特技
・今までのバンド活動歴
・今までの作曲活動歴
・好きなアーティスト
・音楽活動においての目標
・自己PR

尚、今回のオーディション、募集パートに制限はございません。どんな楽器でも応募できます。さぁー！ 君もシリアル⇔NUMBERで「夢人」になろう！」

※募集期間は2011/4/20（水）までとさせて頂きます。
※通過された方のみ、後日メールにてご連絡致します。
※動画のファイル形式は「mov」「avi」どちらかでお送り下さい。
データが重い場合は届かない事がありますので、大容量ファイル転送サービス等をご利用下さい。
※その他ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。
info@serial-no.com

V-last.

EXPECT RUSH
エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

yuina

レクレンズ

Ru:natic

NEOPHILIA

V-last.(ブラスト)

【メンバー】shyena（Vo.） 寛-HIRO-（Gt.） 義-yoshi-（Gt.） ユキハ（Ba.） MAKO（Dr.）
【結成日】2010年1月
【主な活動場所】都内近郊
【アイテム】2010年3月17日Single『A-live』／6月16日Single『Red Rabbit』／9月15日Single『中毒性ガタnoise』／2011年1月26日Single『対象年齢15歳未満』／4月13日Single『L-GAME』
【問い合わせ】〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町4-10宇田川町ビル3階 （株）ONG・V-last.宛 Official Web Site: http://www.v-last.com/

yuina(ユイナ)

【メンバー】yuina（Vo. Gt.）
【結成日】2011年1月
【主な活動場所】全国
【アイテム】2011年3月2日Single『花言葉』／6月Single『hurry-new-world』
【問い合わせ】
Life Style Music.
Official Web Site: http://www.lsm-yuina.com/
E-Mail: info@lsm-yuina.com

レクレンズ

【メンバー】みさき（Vo.） クマ（Gt. Prog.） ユズキ（Ba.） まぁ（Dr.）
【結成日】2010年10月
【主な活動場所】都内近郊
【アイテム】2010年11月13日Single『フィルターメィカー』／2011年3月22日Mini Album『ルルリニア』（ライヴ会場先行発売）
【問い合わせ】
レクレンズOfficial Web Site: http://rec-lens.com/
E-Mail: info@rec-lens.com

Ru:natic(ルナティック)

【メンバー】Kijin（Vo.&Ba.）/Kei（Gt.）/Tokkiy（Gt.）/Nao（Dr.）
【結成日】2008年9月1日
【主な活動場所】大阪
【アイテム】2010年1月19日「血塗ラレタ招待状」/2010年3月24日「導カレ…血爛レタ人体」/2010年6月5日「黒涙デ…終幕ヲ…」
【問い合わせ】http://ru-natic.com/

NEOPHILIA(ネオフィリア)

【メンバー】カオル（Vo.） 奈々（Gt.） KOU（Gt.） マヤ（Dr.）
【結成日】2009年10月
【主な活動場所】都内近郊
【アイテム】
2010年3月31日Single『WHITE & BLACK』／2011年2月23日Mini Album『un chain』
【問い合わせ】
NEOPHILIA Official Web Site: http://neophilia.tv

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网 hudie.com

V-last.

EXPECT RUSH
エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

VISUAL ROCK TERRORIST参上!!

2010年1月より、都内を中心に活動をしているV-last.。バンド・コンセプトが"VISUAL ROCK TERRORIST"というだけあって、ずいぶんと積極的に動いているようだ。勢いを全面に出した音楽性から見てわかるように、これからのシーンを引っ張っていってくれる存在になることは間違いなし。4月にはニュー・シングルのリリースも決定しているとのことで、メンバーを直撃してみた。

Interview: ERI MIZUTANI

——結成のいきさつから教えて下さい。

shyena:はい。まず僕が、何か新しいバンドをやりたいなと思って、みんなを誘ったんです。口説き文句は特になかったんですけど、"一緒に上に進もうぜ!"とは言いましたね。

——それ、充分な口説き文句です(笑)。ちなみに、shyenaさんが描く理想のバンド像とはどのようなもので?

shyena:とりあえず、若手の中でトップになろうっていう。それぐらいの意志を持ってバンドをやりたいなって。で、一卵性の双子である寛-HIRO-と義-yoshi-、そしてMAKOに声をかけ。けど、この段階ではベースがいなくて。どうしようかって悩んでいたときに、全員一致で"そうだ、ユキハがいるじゃないか!"ってことになり(笑)。

——ユキハさんはみんなの共通の友達

ユキハ:そうなんです、地元が一緒で。

義-yoshi-:shyenaを除き、俺たち、小・中学校時代からの腐れ縁なんですよ(笑)。

ユキハ:ちょうど、自分がやっていたバンドが解散したときでもあったので、じゃあやってみるかって。何か、このメンバーとだったら上が目指せるかもしれないなって思ったんです。

——なるほど。ちなみに、ギター隊の相性はいかがでしょう?

寛-HIRO-&義-yoshi-:う〜ん、どうなんですかね?

MAKO:それは言うまでもなく、ばっちりです!

——ところで、最初にギターを始めたのはどっちが先だったの?

寛-HIRO-:僕ですね。でも、最初はヴォーカルだったんです。それからギター、ヴォーカルになり、気付いたらギターになっていたという。で、義-yoshi-はというと。

義-yoshi-:俺は、家でちょこちょこギターを弾いていたんですね。で、MAKOに声をかけられてバンドを組んだんですけど、そのバンドって、俺が入るまでは寛-HIRO-がメンバーだったんですよ。まぁ、今思うと、変わってもわからないかなって(笑)。

shyena:それにしても、寛-HIRO-と義-yoshi-の区別が最近つかなくなってきて。ライヴ中、同時に動いてこられると、本気でどっちがどっちだかわからなくなる。

寛-HIRO-:そこも含め、双子ならではのパフォーマンスに注目してもらいたいですね(笑)。

——リズム隊のお二人も、学生時代から同じバンドを組んでいただけあって、呼吸はばっちりなのでは?

ユキハ:MAKOは最高のドラマーです。だって、中3の頃から一緒にやっているんですよ。

MAKO:その割には…っていう。

ユキハ:あはは。何てことを(笑)。僕ら、性格がまるで違うように見えますけど、意外と似ている部分もあって。僕は、MAKOの面白いところが好きだし、プレイヤーとしてもすごいなと思っています。アドリブにもさらっと対処してくれるし。

MAKO:俺は、ユキハの繊細なところが好きですね。この細さから繰り出す繊細なベースがたまらない。

shyena:こんな楽器陣に囲まれている僕は楽しくて仕方がないです。でも、みんなの個性が強い分、こっちも頑張って目立たないとなって(笑)。

——ですよね(笑)。これからも、"VISUAL ROCK TERRORIST"の名に相応しい活動を期待していますよ。

shyena:自分たちの活動を"テロ"と銘打っているんですけど、今年は、8大テロ発令!と称し、リリースやライヴを積極的にやっていきたいと思います。まずは、4月13日にリリースされるニュー・シングル『L-GAME』を聴いてもらえたらなと。

MAKO:リード曲の「L-GAME」は叩いていて気持ちの良い曲なので、聴いてくれる人も一緒に気持ち良くなってもらえたら嬉しいですね。

shyena:あとは「ジェットコースター Life」と「終わらない恋」という曲が入るんですけど、どちらもV-lastらしさが出ているので、楽しんでもらえると思います。結成して1年、これからも勢い重視で攻めていきますので、よろしくお願いします。というわけで、SHOXXさん初インタビュー、テロ完了!

——おつかれさまでした(笑)。

shyena(Vo)

義-yoshi-(Gt)

寛-HIRO-(Gt)

MAKO(Dr)

ユキハ(Ba)

EXPECT RUSH
エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

今までとこれからの自分、聴いてくれる人へのメッセージ

自分の言葉で伝えたい――。2009年11月にDollyを脱退したゆいな。脱退後、音楽活動を再開することは、ファンを裏切る行為ではと悩み、一度は音楽を続けるという選択を捨てていたという。しかし、Dollyのゆいなとしてではなく、ソロ・アーティストyuinaとして伝えられるものがあると、再びシーンに帰ってきた。彼は何を想い音楽を続ける決心をしたのだろうか。空白の時間を埋める初登場インタビュー。

yuina

Interview:MOTOKO SHIMIZU

――一昨年11月にDollyを脱退して以降、どんな毎日を過ごされていました?

「とにかく自分自身をリセットしたくて、すぐ愛媛の実家に帰りました。そしたら毎日3食出てくる生活で、8キロくらい太ったんですけど(笑)。でも、正直な話、最初は"音楽"っていう選択肢は無かったんです。ここで音楽活動を再開したらファンを裏切ってしまうことになる……っていう想いが、すごく強くて」

――では、なぜソロ始動することに?

「脱退したとき、友達だと思っていたミュージシャンや関係者が、たくさん離れていって……ホントに"孤独やなぁ"って思ったんです。結局チヤホヤされてたのはDollyっていう看板があったからで、僕自身の存在価値なんて無いんやなって。そう思ったときに、"自分の言葉で伝えたい"って気持ちが沸いてきたんですよ。自分で詞を書いて、好きな音楽に乗せて"自分で歌いたい"。そうして"Dollyのゆいな"じゃなく、ただの"yuina"として振り向いてもらえたら、やっと今まで音楽をやってきたことの意味を見出せるんじゃないかなって。もちろん悩みましたよ。でも一度きりの人生、音楽を諦めたら、一生後悔しそうな気がして。バンドを辞めても変わらず支えてくれた数少ない人たちや、Dollyのメンバー……蜜くんとかにも相談に乗ってもらって、去年の秋にソロ始動を決断しました」

――ソロ・デビュー作の「花言葉」を聴かせていただいても、伝えたいことがあふれていますもんね。まさに"やべぇぞ収拾つかねー、言いたいコトが尽きねーんだ"という歌詞そのもの。

「そうなんです。今までとこれからの自分、それから聴いてくれる人へのメッセージを全部詰め込んだので、まだまだ書き足りない(笑)。そのメッセージを花言葉に託して届けようと、"恋のメッセージ"とか"小さな愛"いう花言葉を持つアイリスとセントポーリアを歌詞中に使っていて、ただ、その意味合いだって自分で変えて構わない。他人の言葉に惑わされる必要はないっていうメッセージも、最後のパートでは伝えているんです。生きていれば悩むこともあるだろうけど、悩んでも仕方ないのが現実だし。僕自身、悩んでいるときに曲を聴いて、悩みが軽くなった経験もあるから、そういう位置の曲になってくれればなぁ……って」

――ちなみに、初めてのヴォーカル・レコーディングは、いかがでしたか?

「楽しかったです! 僕、カラオケがメッチャ好きで、週3で行ったりするんですよ。詞もすぐに書けた反面、作曲のほうは二転三転して、結果、懐かしさを感じるロックになりましたね。DIEさんのセンスがすごく好きで、今回、プロデュースをDIEさんにお願いしたんですよ。まぁ、曲を聴かせた人は、みんな"ヴィジュアル系っぽくない"って言っていましたけど(笑)」

――ヴィジュアル系っぽい激しさがあるのは、Aタイプのカップリング「猫被りなO型女の本音の唄」のほうですよね。対照的に、Bタイプ収録の「セミセラ、セミセラ、ソプラン」は、ラテンのニュアンスもある軽やかなポップ。

「その色分けを作りたいがために選んだ2曲なんですよ。「猫被り~」は"全血液型の特徴を書いた曲を作ろう"企画の第一弾ですね。「セミセラ~」は中高生が大好きそうなおまじないらしく、片想いだと思っていたら両想いだったっていう歌詞内容に合わせて探した言葉なんです。3月発売なのに、実はウィンター・ソングなんですけどね(笑)。6月には2ndシングル「hurry-new-world」のリリースも決まっていて、こちらは今回と真逆のコンセプチュアルな物語形式の作品になりそうですね。それに合わせてツアーもやりたいなと。あとは4月15日まで、オフィシャルHPで未発表曲&グッズの通販限定セットも受付中です(笑)」

――ところで今、ギター・ヴォーカルとしてステージに立っているご感想は?

「好きなギターと歌の両方が出来て、すっげぇ面白いです! ずっとパフォーマンス命でやってきたから、他のアーティストには出来ない前代未聞なステージを提供できるまで頑張りたいですね。今は僕のソロ活動に対して複雑な人もいるかもしれないけど、曲や詞やライヴでは絶対に裏切らないので。今後、yuinaという一人のアーティストとして認めてもらえるように、真摯にメッセージを伝えていきたいと思っています」

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

EXPECT RUSH
エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

レクレンズ

もっとフィルターの度数を変えれば、見方は変わるよ

メンバー全員がゴーグルを着用し、〈視覚〉に注目したパフォーマンスを展開する、エレクトロビジュアルロック集団・レクレンズが本誌初登場。4人の視線の先にあるものは何か。4月11日に発売される1stミニ・アルバム『ルルリニア』に焦点を当て、レクレンズの求める音楽を探った。

Interview: MIDORI SAITOH

クマ(Gt,Prog)

みさき(Vo)

まぁ(Dr)

ユズキ(Ba)

—クマさんとまぁさんは前のバンドが同じだったんですよね。

クマ：はい。以前から、まぁとは〝音楽を見ている目線が似ているな〟っていうのを感じていたこともあり、バンドが解散した後〝また一緒にやらない？〟と声をかけたら、即決してくれたんです。

まぁ：私もくまちょの作る曲が好きだったから、〝よっしゃー！〟って、ね！（笑）

—ユズキさんも即決したんですか？

ユズキ：いえ。僕は、前にやっていたバンドとは全くカラーが違ったので、葛藤や不安から、最初は断っちゃったんです。でも、以前からよく対バンしていて、2人のセンスの良さは認めていたし、一緒にセッションをやったのをきっかけに、僕の方から〝一緒にやりたい〟と誘い直して加入しました。

募集ページで〈ギターとベースとドラムは決定済み。やりたいコンセプトも決まっていて、華のある個性的なボーカルを募集中。ただし、経験等は一切問いません〉という書き込みを見つけたのがきっかけで。僕にとっては初めてのバンドで、頼りがいのあるメンバーとやりたいと思っていたので、すごくしっかりとした対応をしてくれたことに安心感を感じて加入を希望しました。やっぱり他のメンバーとのバンド経験の差を感じることもありますけど、今はみんなに追いつきたい一心で進んでいますね。

—なるほど。みさきさん自身も、初インタビューとは思えないほど、しっかりしていますよね。

クマ：…と見せかけ、実は天然で（笑）。

みさき：ライヴを終えてステージを降り

—（笑）。ちなみに、各自のライヴ中のキャラクターはどんな感じなんですか？

ユズキ：僕は特に意識せずともスッとキャラに入っているみたいで、後々ライヴ映像を見て〝ライヴ中、こんな顔してるのか〜〟って思うことが多いんですけど。結構男らしく煽っているタイプですね。

まぁ：私は、「オリジナリティウォーカー」のようなラウドな楽曲でも、絶対笑顔!っていうのを意識して叩いています。

—ドラムから見て、1番面白いパフォーマンスをしているのは？

まぁ：くまちょですかね。普段はしっかり者でリーダーらしいんですけど、ライヴ中はすごく面白い（笑）。

クマ：キャラに入り込みすぎて、白目をむいちゃう時もあれば、ロボットダンスをしている時もあります。

いという想いが強いんでしょうか？

ユズキ：はい。ただ、僕らは〝人間はみんな独自のフィルターを通して物事を見ていて、自分に見えやすいように物事を解釈している〟というコンセプトを軸に活動しているので、〝これが僕らのレンズだよ〟という意味も含んだ上で、ゴーグルを装着していますね。

—コンセプトに合わせて、楽曲の世界観も統一されているのを感じます。

クマ：歌詞も僕らなりのフィルター（価値観）を通して出てきた言葉を綴っているわけだから、〝僕はこういう考えだけど、君はどうなの？〟っていう形で投げかける曲も多いし、今後も〝もっとフィルター（レンズ）の度数を変えれば、見方は変わるよ〟ということを伝えられるような歌詞を書きたいって思っていて。今作『ル

マの曲が自然と集まってきたり…、〈視覚〉という1本の筋が通っているのは自分達でも感じているところです。

—『ルルリニア』が完成した手ごたえはいかがですか？

まぁ：ライヴでやっている曲達でもありますし、CDとして形にしたことで〝短期間でこれだけ成長出来たんだ！〟っていうのが自分達でも確認できたのはすごく良かったですね。

みさき：うん。僕も、前作は初レコーディングということもあり、表現しきれなかった点があったんですけど、今回は曲ごとに合った声色や歌い方を考えて、より成長した姿を形にできたと思います。

ユズキ：今作『ルルリニア』は、同期色が強い中でも、各自の個性もしっかりと生かせた1枚になりました。これを機に、

蝴蝶网 hudie.com

Ru:natic

生命ノ青イ糸ガ…

大阪をベースに活動中のRu：natic。彼らが、3月23日に1stマキシ・シングル「生命ノ青イ糸ガ…」をリリース。同時に、初の全国ツアーを、同レーベルのVa-lquar-ワルキューレーと一緒に行う。ファイナルは、4月8日・アメリカ村クラッパーでの、2マン・ライヴ。メンバーのKijjn・Kei・Tokkiyは、中学時代から遊び仲間。そこへNaoという個性が加わり、現在のRu：naticへ。その魅力を、さっそくお伝えしよう。

Interview:TOMONORI NAGASAWA

——バンド名通り、【狂気性満載】な歌世界を描き出した姿は、衝撃的でした。

Kijjn：確かに、歌詞の中には【狂気的な自分】がいますけど。普段は、常人と言うか。むしろ、創作のスイッチが入ると、性格が変わってしまいます。

——歌詞に出てくる人物は、ときに【狂人】的な行為を魅せていきます。その発想や心情は、Kijjnさんの心の中へ潜んでいる想いなのでしょうか？

Kijjn：Ru：naticがコンセプトに掲げているのは、【夢みる情景や感情】なんです。つまり、夢の中で観た情景を、いろんな言葉使い用いた歌詞を通して表現。だから、狂気的なように見えて、その中には、優しさだったりなど、いろんな感情を詰め込んでいます。

Tokkiy：俺は、よくKijjnの創作現場へ立ち会ってるんですけど、辞書で調べないとわからないような表現を持ってきたりして、そのセンスには、他には無い独特な個性を感じています。

Kei：Ru：naticのメンバーは、【他の人らとは違う考え方や表現力、楽曲の世界観を持っているKijjnに惚れ込み】ついて来ている仲間ばかり。今でも、〝俺についてくれれば失敗はない〟という言葉を信じながらやってると言うか。彼は、普通の人とは考え方があきからに違う。そんな彼に〝俺に失敗はない〟と言われたら、信じたくなりますよ。

Nao：自分は加入して半年なんだけど、彼らは今まで経験したことのない音楽を表現しているので、すごい刺激的です。

——自分たちで捉えているRu：naticの魅力って、何だと思います？

Tokkiy：やっぱり、今のビジュアル・シーンにはない音楽性を表現したバンドであること。

Kijjn：Tokkiyなんかは、ステージ上で暴れまくり、楽器を破壊してしまうように、Ru：naticのライヴは、【狂気的な歌詞や曲世界】とシンクロした激しさを全面に押し出しているんで。

Nao：このバンド、確かにダークでハードな曲が多いです。俺的に、ここまで激しい世界観を表現したことはなかったから、むしろ嬉しい刺激になっています。

——これまでに3枚のデモCDを発売。3月23日に出る「生命ノ青イ糸ガ…」が、正式な最初の音源になります

Kijjn：昨年作った3枚目のデモCD「黒涙デ…終幕デ…」は、激しさと狂気さ、そして、物語性を強く押し出していたので。「生命ノ青イ糸ガ…」では、より現実的な視点を楽曲へ投影していきました。

——いきなり、語り口調の「生命ノ青イ糸ガ…」から始まるのも、衝撃的でした。

Kijjn：タイトルにも付けた「生命ノ青イ糸ガ…」では、【お互いの生命線を結ぶ青い糸】を表現。語りを通し、物語の概要を指し示したうえで、続く2曲目は【物語の中へ描きたかった想い】を具体的に表現していきました。

Kei：バンドのコンセプトである【幻想的な面】を活かしつつ、その中へ【現実性という新しい要素】を注入。また、ひとつ進化した作品になりました。

Nao：1曲ごと伝えたい想いを、しっかり形にもしていけたからね。

——収録した3曲の魅力も、簡潔に語っていただいて良いですか!?

Kijjn：「生命ノ青イ糸ガ…」は、先にも言ったように、物語の粗筋を描いた、語り口調で始まるプロローグ作品。2曲目の「4月29日」を、簡単に表すなら【中絶】の歌。そこには悲しい物語が綴られています。タイトルの日時の持つ意味も重ねて聞くと、そのデンジャラスな想いも理解して貰えると思います。最後の「PalaPsycho」には、女性が持つ【二つの乙女心】を描きました。女性が求めている行為を、男性側がどう受けとめていくのか!? どの歌もブラックな視点で書いてるけど、根底にはピュアな想いを詰め込んでいるので…。

——その作品を手に、3月からは、レーベルメイトのワルキューレと一緒に全国ツアーをスタートしますが。

Kijjn：このツアーを通し、みんなに、僕の持つカリスマ性に気づかせたいですね。むしろ、うちらの魅力がわからないと言われることのほうが不思議なくらいなんで。

Tokkiy：うちら、好きな人はとことんのめり込むけど、受け付けない人はサーッと引いちゃうバンドだけどね（笑）。

Kijjn：Ru：naticの魅力がわからない人が奇怪しいのか、俺ら自信が奇怪しい存在なのか（笑）。

EXPECT RUSH
エクスペクト・ラッシュ
期待の注目バンドをピックアップ!

NEOPHILIA

自分たち以外には絶対に出せない作品を作れた

「カオルのクリアで独特な声と重厚なサウンドの中に混ざり合う繊細で卓越されたメロディーライン」。この言葉が、今のNEOPHILIAの音楽性を如実に表していると言えようか。2月に、メジャー第1弾ミニ・アルバム『un chain』をリリースしたばかりのNEOPHILIA。まだ結成から1年強という期間ながら、アッと言う間にシーンと駆け上がってきた。今後、気になる存在になっていきそうだ。

Interview: TOMONORI NAGASAWA

——まずは、メンバーの結びつきから教えてください。

奈々：一時期、僕とカオルは、別々にやっていたこともあったのですが、高校時代からともに活動を続けてきた音楽仲間なんです。そのカオルと、09年秋に〝また一緒にバンドをやろう〟と手を組んでNEOPHILIAがスタートしました。その頃から決めていたのが、〝激しさの中にも綺麗なメロディーを持ったバンドをやろう〟ということだったんです。そのコンセプトのもと、最初に目を付けたメンバーがドラムのマヤでした。

マヤ：奈々から連絡をもらったその日に会って、その場で加入を決められたけどね。

奈々：マヤくんは、〝千年に一人の天才〟。彼の作曲センスは、誰にも渡したくなかったので、一気に口説き落としました。それは、ギターのKOUくんも一緒です。

KOU：自分は、〝入ります〟と正式な返事をしていないのに、気がついたら衣装の打ち合わせや、リハーサルやらといろんなことが決まっていた状態で。じつは、いまだに〝入ります〟とは言っていないんですよ（笑）。

奈々：〝この人は絶対に欲しい〟という人が他のバンドさんに取られることほど、悔しいことはないんです。それに〝考えさせてください〟という人ほど逃げてしまうというか。恋愛だって、本当に好きであれば、その場ですぐにOKするんですよ。そこで躊躇されるくらいなら、強引にでも入れてしまえという考えなので。

KOU：追突事故みたいな感じでしたね。結果的には、良かったんですけど（笑）。

——NEOPHILIAの楽曲を聴いて一番印象に残ったのが、カオルさんの澄み渡った、でも、しっかり言葉を伝えてゆく存在感あふれる歌声の魅力でした。

奈々：カオルの歌声は、綺麗なメロディーにすごく映えるんです。でも、激しすぎると、そこは色を陰らせてしまう。だから、一番良いバランス性を見い出すまでには、けっこう試行錯誤をしてきました。

KOU：〝たとえ激しくても、こういうリフならカオルさんの声質は活かされる〟とか、そこは1年間の活動をしっかりやってきたからこそつかめた成果だね。

——2月に発売になった1stミニ・アルバム『un chain』には、〝激しさの中にも綺麗なメロディーを持っている〟というスタイルが、どの曲にもしっかり活かされている印象を覚えました。

奈々：何度もプリプロとライヴを繰り返し、そのたびにブラッシュアップさせながら、〝NEOPHILIAらしさ〟として納得いくレベルへ上げるまでに、半年は費やしましたからね。

KOU：収録した4曲とも、全部違う表情なんですよ。でも同時に…。

マヤ：どの楽曲にも、共通した1本の芯が貫かれているんです。『un chain』とは、〝開放される〟という意味をもつ言葉で、まさに、その言葉通りの体験をそれぞれが積み重ねてきたと言うか。

カオル：3人で煮詰めた楽曲の上に僕の歌声が乗るたびに、新しい道が一つ一つ開けてゆく嬉しい衝撃を受け続けてきたし、その表情をより深く煮詰めるたびに、さらに新しい道が生まれてきました。

奈々：メジャー第1弾作というように、まだまだ未熟な面はあるんだけど、でも同時に、〝自分たち以外には絶対に出せない作品を作れた〟という自信とプライドを持つことが出来たのも間違いないよね。

KOU：確かに『un chain』は現状の自分たちのベストを詰め込んだ最高の作品に仕上がりました。でも同時に、まだまだ芽吹き始めたばかりというか。これから何度も収穫期を迎えるうちの、最初の収穫時期に生まれた、みずみずしさの強い作品なんですよ。それをこれからの活動を通して、もっともっと熟成させていくつもりです。

カオル：この記事を目にする頃には、発売記念の全国ツアーや、結成一周年記念したワンマン・ライヴも終えている時期なんですけど、各地でライヴをするたびに、〝俺たちの想いが伝わっている〟と、たくさん実感することが出来るんです。そうやって、お客さんたちと一緒に成長し、道を築き上げてゆく過程が、今は本当に楽しいんですよ。

——今のNEOPHILIAは、自分たちらしさをしっかりつかんだうえで、まだまだ成長の道を歩んでいる感じだ。

KOU：『un chain』という作品が、また新しい種になり、ここからどんな花を芽吹かせていくのか、その成長を、自分たちも楽しんでいくつもりです。

蝴蝶网
hudie.com

ARTIST'S BOX

ミュージシャンが作るページ

第60回 葵 ヒナタごっこ

3月も後半戦。今年も季節は春に向かっています。

出逢いと別れの季節。新生活を迎える方もいらっしゃるかと思います。そんな新生活を迎える方にまったく参考にならないであろう僕の上京物語のお話を今回は書かせて戴こうと思います。

高校を卒業してからアメリカに一年間渡米し、その後日本に帰国してから、埼玉県でいくつかの会社にて仕事をしていました。運送業や飲食業等。その傍ら趣味程度にバンドに興味を持っていてメンボでメンバーを探しながら、なんとなく「ライヴ活動とかしてみたいな」と言う曖昧な夢はありました。

そんなある日、何を思い立ったか突如「音楽をやるにはやっぱり東京に行かなきゃだめだ！」と行く宛てのないまま東京に行くことにしました。埼玉と東京だとそれほど距離も遠くなく大冒険と言う訳でもないのですがやはり地方人からすると大都会東京は怖いところ。「夢追うものが集い、夢に破れたものは離れていく闘いの場所」みたいな変なイメージがありました。東京の人って「歩く速度超早いし、オシャレだし、みんなお金持ってるし、クールだし」って言う考え、本当偏見の塊でした。だから都心ではなく少し離れた東久留米市と言うところで東京生活をスタートさせました。もちろん生活費は自分でかせがないといけないから、まずはバイト探し。新聞を頼むお金も求人情報誌を買うお金もなかったから地元から持って来た自転車に乗って、飲食店やスーパー等色んな店頭に貼ってある求人張り紙を探して廻りました。

最初に就いたバイトはカラオケボックス。こう見えて、何事にも結構頑張っちゃうタイプだとして週6でバイトに入っていました。どうしたらお客さんが増えるのか考えたり、外観を変えてみたり、内装にまで目を配り、頑張り過ぎてしまった結果、社員に誘われそれがなんか自分的にしっくりこなくてそのバイトを辞め。そこからスーパーの店員やショップの店員や飲食業の店員等、どの職業に就いてもどうも頑張り過ぎてしまい気に入られて、それが重荷になってしまう変なサイクルの繰り返しでした。

その中で一番自分にしっくり来たのが広告代理店でした。そこでは様々な企業の広告チラシのポスティングのバイトからスタートしたのですが、やはり社員に誘われて。その時もうバンド活動を始めていたので

「髪の色も派手になるし、休みも不定期に必要になるし、難しいのでは」

と伝えたらそれでもいいと言って下さって。それから昼は広告代理店の社員、夜はバンド活動と言う2つの顔を持つ（?）毎日になりました。収入もそれなりに安定して来たし、好きなバンド活動もできてるし。ある意味充実した毎日。なんだけど、やはり両立は難しい。睡眠時間も一日三時間くらいで酷い時には二、三日寝れずにお風呂でシャワーを浴びながら寝てしまい倒れたこともありました（苦笑）。バンドもちょっとずつ忙しくなってきて、そろそろどちらかにしないと身体が持たないと言う時が来ました。正直迷ったんです。バンドって華やかに見えるけど、見えない裏側ではとっても大変だし不安定だし。その点その当時していた仕事は自分の地位も安定していたしそのまま続けていればきっと不自由ない生活が待っている。俗に云う「夢と現実を天秤にかける」というやつ。でも、僕は迷わず「夢」をとりました。僕はどうやら先が見えてしまうと興味がなくなってしまう性格のようで、バンドを辞めていたらきっとその仕事も飽きてしまってたかもしれない。その仕事が充実してたのはバンドありきだからだったんだと気が付きました。その頃から今までずっとそう。僕の真ん中には音楽があるのです。

正直ここ数年、何度も音楽を諦めようと思ったことが何回もあります。音楽の世界というのはとっても夢が溢れているけれど、その分辛くて大変なこともたくさんあります。だからこそ素敵なものなのかもしれないけれど。でも、僕から音楽を取った生活って想像できないんです。僕の全てが音楽の中にいる自分なんだと思います。

新生活を迎える皆さん。みんなにも自分が熱心になれる何かを発見して欲しいって思うんです。それは探そうとして見つかるものではないのかもしれないけれど、そこに辿り着くまでたくさん辛かったり悲しかったり迷うこともあるだろうけど、結局最後に正しいのは自分の想いだと思うんです。だから誰に何を言われても自分が思ったこと、感じたことを信じて欲しいと思います。

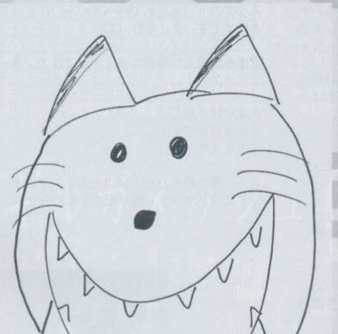
これまた余談ですが、新生活と言えば、僕がお金がまったくないとき、もやし生活をしていたことがありました。もやしは万能。サラダでもよし。炒めてもよし。茹でてもよしお腹を満たしてくれます。あと僕は、マ●ドナルドのハンバーガーが60円くらいだった当時、ハンバーガーをたくさん買い込んで、そのパンとお肉を別けてパンだけで食べたりそのお肉ともやしを炒めたり、色んなアレンジをして食べたりしました。あとは、栄養のために豆腐や納豆のような安くて身体に良さげなものも食べてました。お腹が減っても希望が溢れていれば意外とお腹は我慢してくれるものです。

どうぞ、皆さんも素敵な新生活を。そして学業を卒業される皆さん、おめでとう。素敵な春を迎えられることを祈っています。

あおい

ムック ミヤの 魔よけ

お題2：ス○イッチ



著者近影

［編集部解説］
先月号からスタートした連載、ムック・ミヤの「魔よけ」‼
第2回目の今回は、ムックの某後輩バンドのメンバーが大好きなキャラクターをミヤ画伯に描いていただきました。
描き終えた画伯曰く…"パンチが足りないな…"とのことでした（笑）。

夢のぐるぐる大回転 第36

アーティストがつなぐ、リレー連載

masato（SuG）『ツアー』➡ 鬼龍院翔（ゴールデンボンバー）

SuGのmasatoです！　前回、ギルガメッシュの弐君からの指名を頂きまして、今回は僕が「ツアー」について語りたいと思います！

ツアーといえばやはり普段行けない全国各地のみんなと会える事がすごく嬉しいし、各地のノリも違うのでそういう常に違う楽しみがたくさんあります！

他にツアーの楽しい事といえば、各地の食べ物もすごく美味しいし、たまに観光したりそういう楽しみもありますね！

ちなみに密かに僕は全国のお城巡りと、タミヤさんの模型屋さん巡りをしています！　ツアーに行かなければ出来ない事ですから！

皆さんもツアーにいらっしゃる場合はそういう楽しみも探してみてはいかがでしょうか？

そして、現在発売されている『Thrill Ride Pirates』という僕らのアルバムがあるんですが、そのツアーも目前！

今回のアルバムが最強な仕上がりだけにツアーがとても楽しみです！　また新しい思い出がたくさん出来るんだなぁと思うと早くツアーに行きたくなります！

意外と激しい曲も多いし、SuGのライヴってかなりいろんな要素があるので、まだ体験した事のない方はぜひ一度SuGを見に来てくださいね！

今まで来てくれてる子も各地思いっきり楽しんじゃいましょう！

あ、そうそうSuGのライヴって、ツアーは「ライヴ」ファイナル東京は「ショー」という位置付けをしてるので、ツアーとファイナルで違った角度でライブを楽しめるのでそこも要注目です！

アルバムツアーをお楽しみに！

さて次回は僕のタミヤ友達のゴールデンボンバーのキリショーこと鬼龍院 翔君にバトンタッチしたいと思います！

お題はこちら！

「タイの野球チームについて」です！

完全に無茶ぶりです（笑）。彼がどのように語るのか!?　次回をお楽しみに！

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

第十回 BAN

ーロリヰタ-23区

THEコラム

行にある紙飛行機」

は真面目なお話をしてみるのも良いか
回はちゃんとしたコラムを書いてみよ
います。

、ロリヰタのワンマンツアーで地方
あった時、成長した私の姿を見てもら
と思い、その場所に住んでいた昔のバ
ンバーをLIVEへ招待しました。

い距離でも、車でLIVEへ駆け付けてく
々の再開と彼の柔らかい物腰。そして
うな姿を見てとても安心しました。

、少ししか喋る事は出来なかったけど、
イスや世間話などしてくれました。

ら「面白くて優しいお兄さん」な、彼
一面は変わることなくそこにあったん
。

別れ際に

でみんなと美味しい物でも食べなさい」

行機の形に折られた一万円札を私に渡
ました。

ですよ〜」

ましたが彼は強引に渡してくるので私
取りました。
思い浮かんだんですよね。

この紙飛行機に折られた一万円札をそのまま、次に彼と会うまで取っておこうと

なので私のお財布の中には、何年も前から紙飛行機に折られた一万円札が入っています。

その紙飛行機に何度も勇気付けられています。

次に会う時に、さりげなくこの紙飛行機を返すのが私の一つの目標です。

だから、彼の地元の大きな会場で、ロリヰタのステージを見せる事が出来るようにならないとですね。

そしてその時に言う言葉はもう決まっています

「この一万円札ありがとうございました！
気持ちは沢山受け取ったのでこれお返しします！　……だから次会う時は2万円下さいね(笑)」

そして、また紙飛行機をもらえる大きなLIVEが出来るように頑張ろうと思います。

たまには真面目でもいいよね…。

実はシャイボーイなのでお恥ずかしい話をしてしまいました（照）。

それではまた次回！

ぱ

heidi.『ハイジのアルプス日記』

第23回：コースケ

こんにちはコースケです。

また今年も花粉症の季節がやってきましたね。

しかも今年はものすごい量が飛ぶらしいですね!!

毎年言ってる気もしないでもないけどさ（笑）

でもでも花粉症のみなさんにとっては本当憂鬱な季節でしょう、アーティストさんでも多いと思うし。

俺も同じ気持ちです!!

ちなみに俺は小学生から花粉症やってるんで、すっかりベテランなんですが（笑）

そしてこれは毎年いろんな人に言われるんですが
「花粉症になった事がないからその辛さが分からない!!」

言われた事ありますよね、言った事ありますよね（笑）
簡単に言うと目が痒くて鼻水とクシャミが止まらなくなりダルくなり集中力が極端に落ちます!!

何にもいい事ないです（笑）
そしてこれもよく言われますね、
「最近鼻水とクシャミが止まらないんだけど、もしかしたら花粉症になったかなぁ？」

俺は長年花粉症やっててこれは花粉症にしかない症状というのを見つけました！

ズバリ上顎が痒くなるのです！

何て説明したらいいんだろう喉ちんこの手前

上あたりね（笑）

はっ!?っと思ったあなたはズバリ花粉症です(笑)
(￣▽￣)b

いらっしゃいませー♪（笑）

そしてみんなのおかげでheidi.は今年5周年を迎える事ができました!!

アニバーサリーイヤーです!!

そしてその始動の記念日でもある6月3日にアニバーサリーライヴを行いますので是非是非遊びにきてね♪♪

主題歌やらせてもらってる映画、前橋ヴィジュアル系も是非是非劇場でお楽しみください♪

でわまた☆

ヴィドールの
美doll?
散

第九十体目
テロ の巻

す。今回で最後の連載です！

つぶやき」

バンドがしたくて北海道を飛び出し、こ
形でバンドが出来るとは全く思ってな
。

れたいとか有名になりたいとかもなく、
京に出てなんかバンドやろっかな〜〜
軽い気持ちで出てきた。

ール始まる前に東京でロックBANDを
いた事があって、初ライヴは2001年の7月
原宿ロサンゼルスクラブ」??

みたいな名前のライヴハウスで30人弱くらいかな？
まあそんな感じでやっていた。

当時はメタルかロックバンドをやろうかと思っていて、ヴィジュアル系は逆に批判的な印象を持っていたんだけどね。

男が「化粧」「スカート」「厚底」「女装」とか地元にいた時なんてあり得なかった。

まあ気付いたら全部経験しちゃったけど（笑）

そして当時は、何らかの形で渋公でLIVE出来たらもうBANDはいいかな？って感じだったな。

今では気付いたら、色んな雑誌に載ったりレコーディング、全国ツアー、海外でLIVEとかメジャーとか、今でも不思議だなーって思う。

なんか色んな意味で「運」が良かったんかな（笑）

そして…沢山のミュージシャンの方達や色んな業界の人達に会えたり、良いことも悪い事も辛い事も悲しかった事も東京に来て10年、自分にとって良い経験をして、その経験は素晴らしい「財産」になりました。

その中でも初めて「ファンレター」と言う物を頂いて初めてもらった時から今まで沢山頂いたけど、ずっと大切に保管してます。

一番の宝物です！

ファンの皆がいて、メンバー、関係者、スタッフ、友達、家族がいてここまでやって来れたんだなと改めて思います。

ヴィドールと言うBANDも9年経ち、解散した後個人個人バラバラに活動したりして行くと思うし、俺もまだ詳しい活動の内容は未定ですが、またどこかで会えたら宜しくお願いします。

牧場経営はしない（笑）。音楽やり続けるんで。

最後ですが、「全国ツアー」と「海外ツアー」が出来なくて残念だけど、5月7日新木場コースト……ヴィドール最後のLIVEになりますが、今までの経験を生かし悔いが残らないように全力で頑張ります。

今までありがとうございました(=・ω・)/

ドレミ團マコトの♪ 月刊少年マコトピア

第85回 台湾とか、花粉とか、舞台とか… の巻

マコトです。

先日、台湾に行ってきた。意外にも海外公演は初めてで、行くまではどんな風になるのか期待と不安、いや実は不安の方が少し大きかったですが実際、行ってみるとめっちゃ良かった！ ファンのみんなは凄いアツいし、なんか、ずっと待っててくれたってのが伝わってきました。ちゃんと、僕らの音楽はみんなに届いてるねんなって感激したよ。

また、行きたいなぁ。
くわしい台湾の思い出や感想はインタビュー記事をみてねん。

しかし、花粉の季節ですね。今年こそはなんか凄いきがします。いいかげん本気で治療しようかなと思ってきましたよ。

さて、しってる方もいるかもですが、わたくし今月22日から27日まで「華鬼」という舞台に出演致します。

ただいま、絶賛稽古中なんですが、今までもこういう仕事はいくつかやってきたとはいえ、ここまで本格的な舞台は初めてだったりもするのでなかなか大変です。

本番は1日2ステージの日もあったりで、大丈夫かいな俺！って感じですが、きっと千秋楽には達成感やらなんやらで清々しい気持ちになってるはずです。た、多分（笑）今の所（3月アタマ）共演者のみんなとは打ち解けれてませんが（俺、こんな人見知りやったっけって自分でも驚いてます）きっと千秋楽にはみんなのコト、あだ名で呼べるぐらいになってるはずです。た、多分（笑）。

音楽も舞台も、中身は違えど全てはエンターテイメント。

大変やけど楽しい。
そんな日々です。
そんな人生です。

さあ、舞台終ったら、レコーディングにイベントにワンマン！ 盛りだくさんでっせ♪

ほな！

蝴蝶网
hudie.com

Mix Speaker's,Inc.

seekの凡人水族園 第百八

Mix Speaker's,Inc.というバンドも早いもので四周年を迎えた。個性的な六人が四年もの時間を共にするには数多くの紆余曲折があった。AYA、keiji、Sに至ってはもう十数年の付き合いになる。メンバーでも有り友人でもある彼らには数え切れないエピソードがある。

僕らがまだ十代、友人という言葉で繋がっていた姫路という片田舎の町でバンドをやっていた頃の話。その当時「姫路ベータ」で働いていた僕に、店長三四郎さんから仕事の依頼が舞い込んできた。姫路文化センターにて行われる「浜田省吾」通称「ハマショー」の公演にイベンター「夢番地」のバイト君として行ってこいという内容だった。人員として選んだAYA、keiji、Sには当日動き易い服装、人前に出る際のスーツを持ってきてくれという旨を伝えた。結果当日集まった彼らは頭髪を染め上げ、厚底ブーツを履き、衣装と見紛う程の出立ちでやって来た。スーツは持っていないとの事だった。早々にイベンター担当者から呼び出されドヤされた。イベンターという職業は苛酷である。名前すら与えてもらえず「バイト君○名」と呼ばれ大きな機材、それも精密機器を迅速丁寧に運び、何千というチラシを折り込み、ライヴ中も立ったままの状態で客席だけを見つめる。出来るだけ動きたくない、重たいものは持ちたくない、細かい仕事は苦手だ、立ち仕事は面倒だ、という彼らにこの仕事は土台無理な話しだったのかもしれない。その日停電というハプニングも有り「ハマショー」の公演は大幅に押した。終演後には「撤収」というこれまた大きな仕事が残っていた。他のバイト君がせかせかと動き回る中AYA、keiji、Sに呼び出された僕は彼らからこんな事を言われた。「今日22時までって聞いてるんやけど帰ってええかな」愕然としたが厚底ブーツで来ている以上機材運びも侭ならない。仕方なくイベンター担[…]者に彼らを帰して良いかと聞きにいった。[…]の定ドヤされた。散々吠えられた挙句、担[…]者も言う事が無くなったのか最後に「帰れ[…]と呟いた。這々の体で彼らに「帰って良いよ[…]と伝えると今度は「今日の日当トッパラ[…]やって聞いとるんやけど貰えへんの」と言[…]てきやがったのだ。もうヤケクソになった[…]はそのままイベンター担当者に伝えた。言[…]も無くしたイベンターは黙って日当の入った封筒を渡してくれた。

この関係は友人という言葉からメンバー[…]呼ばれる間柄になった今でもなんら変わる[…]は無い。バンドというもの通じて出逢った[…]ら六人は様々な引力を感じながら目標に[…]かって走り続けているのである。

今月はこの辺で。しいくでした。バイバイ

DespairsRay マニアの覗き穴 第103ブレイク TSUKASA 編

こんばんは。
今、とても悲しすぎて、苦しいです。

お笑い芸人の方やバラエティー、タレント等の方々だったら仕事上、たとえ苦しくてもそんな表情はみせません。

でも自分はそんな強さは持っていません。
だからありのままに顔にも、行動にも、文章にも表れてくるかもしれません。

今日3月6日、飼っている2匹の文鳥のうちの白玉が亡くなりました。しかも自分の誕生日にです。亡くなること自体信じられないのに、なんで今日なの?? 俺になにか訴えかけてるんだろうか…。

さかのぼる事去年の年末、実は白玉は卵を産みました。でもその卵の殻がぶよぶよなやわらかい殻で、これは絶対におかしいと思って、卵産んだという話や、白玉が確実にメスだと確定できた事をブログに載せる事も当時は自粛していました。動物病院に電話して聞いてみると、その症状はカルシウムとビタミン不足だということでした。すぐさまボレー粉やビタミン剤を与えて元気な成長を見守ってきましたが、2月中旬くらいから白玉の元気がなくなってきて、病院に連れて行って診てもらいました。バリウムを飲んでレントゲン診断の結果、新たな卵なのか、つぶれた卵なのかわかりませんがとにかく卵詰まりを起こしているということでした。その時は飲み薬をもらって一週間様子を見ましょうという話でした。薬を与えていくうちに白玉も前より少し元気になってきているのがわかりました。

3月5日の夜、メンバーが自分の誕生日を迎えるパーティーを開いてくれるという事なので、普通に出かける準備をしました。2匹を隔離している白玉の方の鳥かごには暖房シートを敷いていて、白玉はそこに座って眠っていました。ぶん太郎はとなりのカゴで元気に鳴いていました。これはいつもの事なのでなにも気にせずに誕生会に向かいました。

めでたく誕生日を迎えてメンバーに盛大に祝ってもらって、プレゼントももらってとても嬉しい気分で帰ってきて、文鳥達の様子を見ようとタオルをめくると、白玉が顔を横にむけ、這いつくばるように倒れていました。一瞬、一体なにが起きたのか理解できませんでしたが、白玉の名前を何度も呼んですぐにかごから取り出しました。白玉は両目を閉じて、くちばしと足の血色をなくして冷たくなっていました。薬も飲んで餌もバクバク食べていたのに、なんで、どうして…。

涙が出ました。涙が止まりませんでした。

しばらくして現実を受け止めたあとに白玉を、コットンを敷き餌を散りばめた小さな箱に入れ、それをベッドの脇の机に置いて一緒に眠りました。

一年前の2月に家に来てから、ヒナの状態から餌付けして大事に育てた白玉。人なつこくて名前を呼ぶと自分の肩や手にとまりました。パソコンをいじってるとキーボードに乗って邪魔されたりしました。自分が口を開けると中に入ってこようとしました。水浴びを沢山しました。写真もいっぱい撮りました。ぶん太郎と一緒に並んでよく手のひらの上で眠りました。でも、もう白玉は帰ってきません。

早すぎる死でした。

目が覚めてすぐに白玉に目をやりましたが、白玉はずっと眠ったままでした。くちばしと足の色が血色の薄いのを通り超えて紫色に変わり果てていました。ぶん太郎の様子をみようとタオルをかごから外すと、ぶん太郎はとなりのかごにいるはずの白玉をキョロキョロ探していました。

それからパソコンでブログの誕生日のお祝いメッセージを見ました。沢山のありがたいメッセージの中でたまに、「以来、白玉さんのご様子はいかがですか?」とかの心配してくれる文章を見ると、勝手に涙が溢れ出てきました。

それから何時間かして、本当は昨日が締め切りだったマニアの覗き穴を思い出して今これを書いています。編集部のみなさん遅れてすいません…。

一生忘れられない誕生日になってしまいましたが、いろいろ白玉について心配してくれたみなさん本当にありがとうございました。突然すぎてまだ信じられませんが、白玉は旅立ちました。どんなにか苦しかったかと思うけど、今はもう楽に眠っているんだと思います。いろいろもっと早く気づいてあげればよかったとか、いろんな事考えて自分を責めました。

助けてあげる事ができなくて本当にごめんね。

たった一年とひと月だったけど、白玉、沢山の思い出をありがとう。ぶん太郎も悲しんでるけど、白玉の分もいっぱい愛するからね。

天国から見守っててください。

最後に白玉を可愛がってくれた方々、本当にありがとうございました。本当に今回こんな内容しか書けなくてごめんなさい。これ以外浮かびませんでした。

引き続いてブログのお祝いメッセージ読みます。

親馬鹿 司。

ギルガメッシュ CRAZY-CHAIN 第10回 ■弐■

こんにちは弐です！

あぁ〜最近は外の気温が暖かかったり、凄く寒かったりで、全然安定しない日々で本当に寒いときはベッドから出れないくらいで…本当にいい加減ポカポカとした気温になってほしい今日この頃です。

そして3月、4月くらいといえば「お花見」という素晴らしいイベントがあるんですよ。

生まれてから「お花見」ってやったことがなくて、一回やってみたいんですよねー。
桜を眺めながらお弁当食べてお酒飲めるなんて絶対に楽しいに決まってるじゃん！
いろいろお花見で食べるお弁当を調べてたら「桜ご飯」っていう初めて聞く料理とかもいろいろあってちょっとテンション上がりました！笑
そしてお花見といったらやっぱり「桜」です。
これもいろいろと調べてたんですが、いやーいろいろな素晴らしい桜の木が全国にはあるもんなんですね！その中でも実際に見たいなって思ったのが、山梨県にある「山高神代桜」って桜の木です！
樹齢約2000年と偉大さを感じましたね。
ちなみ夜桜のライトアップも素晴らしいみたいです。

今年は出来るわからないけど、いつか絶対にやってみたいですね！

Moran Hitomiの「瞳孔反射」

第36回 『Famous or unknown』

…iaのHitomi、FatimaのHitomi、Sanaka、
…a、そしてMoranのHitomi・・・とバン
…という不思議な肩がきに身を置いてか
…くを経験し、それなりに頑張ってきた
…だ。その甲斐あってか、プライベー
…ちろんドスッピン）で街中を闊歩して
…「Hitomiさん」と声をかけてもらうこ
…る。サインや握手を求められたりもす
…見知りの俺にとっても、これは素直に
…嬉しい事である。ステージでどれだけ
…いようと楽しかろうと俺最高と叫んで
…とも、オフではごくごく一般的に生活
…れなりにみみっちいことで葛藤したり

することもあるわけで。そんな時こうやって名前を呼ばれるという行為が、俺がバンドマンであることに自信と確信を与えてくれるのである。

しかしながら、もちろん一般のほとんどの人たちは俺を知らないわけで、ヴィジュアル系バンドの追っかけをやっているような子たちでも俺の存在を知らない人はいるだろう。しかもスッピンなら尚更である。つい最近、まさにそんな状況を目の当たりにする事があった。作詞活動に追われ、一日中寝ぐせも直さないまま上下スウェットでまさに廃人作家か受験目前の浪人生のようになっていたある夜、突然無性にお気に入りのラーメンが食べたくなった。綺麗に身支度をすることに気力を使う事さえも惜しく、廃人作家状態のままふらっとそのラーメン屋に行ったときのこと。カウンターに座り、出てきたラーメンをさぁいざ！というまさにその時、どっからどう見てもTHE バンドギャルズな格好をした女の子二人組が店に入ってきた。運悪く女子たちは俺からひとつ席を挟んだ隣に腰をおろしたため、あまりにもひどい状態で誰にも見られたくなかった俺は顔を不自然な方向に傾げながら必死にラーメンと格闘していた。しかし、すぐ横から次々と耳に飛び込んでくるワードは「サイバー」「Vの流儀」「出待ち」「○○（バンドの固有名詞）」等と更にバンドギャルズ全開なものばかり。もはやラーメンの味など感じない。こんな小汚いところを気付かれたら嫌だなぁと肝を冷やしていたが、金髪メッシュ部分が彼女たちから死角だったのが功を奏したか、どうやら俺に注意を払う様子は一切ないようだった。一人黙々と食事に集中したくとも、彼女たちの会話は次々と飛び込んできてしまう。「今日の○○と□□のライヴどうだった？」「いや～ないない。マジでない。残念極まりないかんじ。」「それは演奏がってこと？」「いや、顔面的な意味も。演奏も高校生かっつーレベルだよ。」「なにそれ超残念～」「「ギャハハハハハ！」」おいおいおいおい、そのバンド、俺も知ってるよ・・・。その後も彼女たちはひたすらバンドやバンドマン（主に容姿等）をボロクソにけなし続け、俺は追われるかのようにその店を出た。バンドマンという幅の広～～～い世界の中で、最も外見に対し高い美意識を持っているであろうヴィジュアル系が、容姿についてボロクソに言われているとは、なんという皮肉・・・。シビアな生の声に、とても人事とは思えない気分だった。

そういえばつい最近も、サインを求められるという嬉しい機会があった。しかも男子。圧倒的に女子のファン率が高い中、稀に男子のファンを見つけたりすると喜びもひとしおである。けれど、その声をかけてくれた男子、俺がかなりの頻度で通っているレンタルビデオ屋の店員だったのだ。あまりに頻繁に行き過ぎて、店員さんの顔はほぼ全員覚えているし、おそらく逆も然りであろう。単純に店に通う頻度だけでなく、一度の来店でものすごく長居したりもするので（ひどい時は４時間くらい、しかも店内をひたすらウロウログルグルしながらＤＶＤを選んでいる）、憶えられていないわけがないのだ。このように俺は、その店にとってちょっと不審だとすら思われていそうな客と化していたのだが、まさかその店員さんの中にバンドキッズがいようとは。今まで何度も接客してくれた彼が、俺を“深夜によく来る変な客”ではなくMoran（もしくはFatima？）のHitomiとして認識していてくれたのを知るのは、嬉しくもあり恥ずかしくもある、なんともいえない気分なのであった。だけど純粋にサインを喜んでくれて、こっちまでほっこりしたなぁ。そして何より、俺、アダルトビデオとか借りる人じゃなくて本当によかった…と自分を褒め称えてやりたいくらいに安堵したのであった。

…OON-FACTORY 雫の …ずまにあ半島～一人旅

第8回

…葉でうまく表現できない人間だから言
…く音楽で人に伝えたいと思い今まで
…した。

…頃に何かのきっかけで洋楽を聞いて、
…葉なんかわかんない。」って思ったけ
…に「何か伝わる‼」って思ったんだよ
…から世界中の音楽を聞いたり、LIVEに
…しました。

…父が洋楽が大好きで、12弦のアコー
…ギターを持っていて、練習したりも

…ターを触ってる時は、自分が悲しい
…とき、落ち込んでるとき

…散?

…ヤがあると弾いていた気がする。

…その気持ちが大きくなって、曲を書い
…た。

…評価されるんじゃなく、自分の為に。
…から先も死ぬまでこの気持ちは変わら
…。

…見てるみんなは知ってると思うけど

…CTORY、5月27日で解散します。

どう言葉にしていいか本当にわからなくて、この文を考えるだけで三日以上かかった…。

こういうときに言葉の能力が必要だと思う。
自分の思っている事を100%言葉で表現できたらなぁと悔しいです。

本当何回も話し合い決まった事なんだ。

オレは後悔はしてません。
こうやって関係者様や、いろんな方々にすごくお世話になり、すごく勉強だらけだったけど、ものすごく充実しました。

残り僅かな時間しかないけど、笑いながら5月27日を迎えたい。

TOON-FACTORY

走り切ります。

なにもかも忘れてその時その時一秒一秒を楽しく刻みたいと思います。

解散を発表して、たくさんのメッセージや、手紙もいただきました。

今は5月27日の事しか考えられないし、何も考えたくないかな。余計な事を考えたらまたマイナス思考な暗いいつもの自分に戻っちゃう。

…あぁやっぱ言葉下手くそだ…泣。

blogや、LIVE、メディア、みんなにまだまだオレ達を発信できる限り伝え続けるよ。

辛いとか悲しいなんて思わないぐらい、たくさんの気持ちや、感情を音にして届けます。

アーティストでいるかぎり弱音なんか言わないし、カッコイイ事だけしか言わないよ?

オレが音楽で感動したように、オレもだれかに同じ気持ちが一人でも伝われば幸せです。

ね？

ほら、空は広いけど離れていても見てる空は同じなんだよ(φuφ´

ばいちゃこきーん(φuφ´)ゞ
5月27日高田馬場AREAさんで待ってるからね。

THE KIDDIE 佑聖 絶頂モンスターハイゲイン

第22回

なんだか最近食に興味が出てきた佑聖です(･。･)

だから最近料理するのが好きなんだ★
その中でもやっぱりだんとつでカレーだね‼ カレーは前からメンバーも大好きで、よくみんなで一緒に食べたりもするんだけどなんか家で本格的っぽいの作れたら良いなーって思って週１くらいでカレーを作ってます。と、同時に嫌いな物も克服できたらいいなーって思って、自分で作ってるのに自分にバレないように（?）こっそりトマトとか入れちゃったりして楽しんでるよ（･。･)

ちなみにトマトはオレの嫌いな物No.1なんだけど、明希さんが作ったスープ飲んでから熱が通ってグジュグジュのトマトは食べれるようになってきたんだ。

んでやっぱりカレーに入れる肉はひき肉が好き★見てると生で食べたくなっちゃうんだ‼ あれって生で食べちゃダメなのか??

あと俺のカレーで大事なのはココナッツミルク‼
しかも粉末状のココナッツミルクっていうのがあるんだね‼ あれ便利★

そんでとうとうナンまで焼いちゃったんだけどね、これはあんまし上手に出来なかったなー。やっぱりナンはお店で食べるのが１番だね。けどカレーのほうはおいしく作れるようになってきました(･。･)
もっとおいしいカレー作れるようにがんばるぜ‼
みんなはどんなカレーが好きなの？ おすすめがあったら教えてね★

そういえば今年も雪が降りましたな。
みなさんは雪好きですかい？ 俺は基本的に季節を感じるのが好きな男なので、雪も好きだ‼

雪と言えば当然男なら黙ってかまくらだと思うけど、ちょっと苦い思い出がある…。小学校の頃ものすごい雪が降って俺はとても興奮していた。近所にそのころよく遊んでいた広めの空き地があったのでそこで友達を集めて遊んでいたんだ。最初はそこら中に無限に溢れている雪という最高のおもちゃを大声ではしゃぎながら友達とぶつけ合っていた。もちのろんろん雪だるまだって作ったさ。一通り雪を堪能した俺は語り出した
「今日この空き地に君たちを集めたのには理由がある。ただ雪にうかれぽんちになってはしゃぎゃーいいなんて大間違いだぜ。男と言えば…かまくらでしょ」。俺らは何か大切なものを思い出したかのような目でかまくら作りに取り組みだした。が、そうは言ったもののぶっちゃけ鎌倉の作り方なんて知らねー…。
だからなんとなーく雪で大きな山を作ってみた。これに穴を空けたらできんじゃね!? って思って無我夢中で穴を掘り進んだ‼ どんどん身体が入ってく‼ いいぞこの調子だ‼ と掘り進んでいたら、横から掘り始めたはずなのに何故か雪山のてっぺんから顔が出たんだ。
「あれ？」
しかも身体が抜けない‼ 動かない‼ そしてすげー寒い‼ 焦る俺、何とも言えない表情で見つめる友人たち。
「だ…誰か大人の人呼んで…」
そう言うと一人の友達が呼びに行ってくれて、しばらくすると友達のお父さんがニコニコとした表情でやってきて俺らの汗と涙の結晶を一瞬で砕き、俺は救出された。

その日からかまくらを作るのをやめたんだ。だから未だに一回もかまくら作ったことないし、入ったこともない（･。･）もし次雪が積もったら誰か一緒にかまくら作りませんか？ そんでもしまた俺がちっさな雪山で遭難したら大人の人を呼んできてください。

さて前回の問題
普段はすごく大きな音がするけど、最後に「と」を付けるととっても静かになるものってなんだ？
答えは「サイレン」でしたー。

今月の問題‼
魚を英語で言うと「Fish」
タコは「Octopus」
クラゲは「Jellyfish」
じゃあ「いくら」は？

じゃらば。

蝴蝶网 hudie.com

うしろの正面
—ただしづら—

第141回
by 長谷川 正
/Plastic Tree

皆さまこんちくわ。3月に入り、プラさん周辺は少し慌ただしくなってきました…ツアーの準備やアルバム発売に向けての準備…何かとやる事満載です。そういえば竜ちゃんのお誕生日もありましたね（おめでとう!）。そんな中、ツアーに先だってファンクラブ限定のライヴを行ったのですが、これが2011年最初のプラのライヴとなりました。去年の11月以来なので[illegible]ヶ月ぶりかあ、もっと長かったような気もするけど…なんて思いながら臨みましたが、SEが鳴ってステージに出たところで、あまりそういった空白を感じる事なくライヴに没頭出来ました…不思議。でも、プラの4人がいて、それを支えてくれるみんながいる限り、この景色をこれからも見続ける事が出来る!ともしみじみ思えたのは、自分にとって本当に大きな糧になりました。この本が出るころには「アンモナイト（小）」が始まって間もなく…といった感じだと思いますが、こういった気持ちを大切にして一ヵ所一ヵ所廻りたいと思ってます。さて…先日「ネオンカラー弦」なるものを手にいれまして、試験的に使ってみたりしてます。コイツは一見、単に色が付いた弦…のように見えますが、ブラックライトに当てるとまるでビームサーベルのように発光するという、実にストレンジな一品です（笑）。さっきのファンクラブ限定ライヴでは、照明スタッフさんがわざわざブラックライトを仕込んでくれてました…この弦を張ったベースの出番は一曲だけだったのですが（笑）。まあ、効果のほどはともかくとして、こうしたアイテムは楽器を違った感じに見せる事が出来て楽しいものです…ツアーで導入するかどうかは分からないけどね（笑）。という事で、この春はなかなか活動的なものになりそうです…とりあえずツアーに足を運んでくれる皆さん、よろしくお願いしますね〜! という事で、まだまだ冬の気配漂うマリモーランドからお届けしました…さよーなり!

麺は固め!!
第154回 by 竹入隆行

ニュージーランドの大地震で沢山の方々がお亡くなりになった…

地震で命を失うなんて、きっと夢にも思わなかっただろう。
誰でももそうだ、そんな事考えていたら、夜もおちおち寝てられない。

でも実際こんな事があると、はっとさせられる。「いつ死ぬかわからない」ほんまにそうや…。「じゃあ1日1日くいないように生きなきゃ」なんて決心するんやけど、でもちょっと経ったら薄れて普通に戻る…。

阪神大震災も経験した。でもあの時の恐怖も今はどこに行ったのやらやったり…
人間は忘れる生き物やからある程度仕方ないし、逆にだから傷ついた心も癒える訳なんやし…。

それでも忘れたくない事ってあるよね…覚えておかなきゃならない事ってあるよね…

なんか「俺は自分に甘いな…」と常々思わされる。

あの事件で亡くなった人がいると聞いて、かわいそうにも、悲しくも、そして悔しくも思った。とてもショックを受けた。

そして、命のはかなさを実感した時に、同時にニュースなんかで聞かされる、私利私欲で人様の命を奪う人間がいるという現実に改めて大ショックを受けた…。
上手く言葉に出来ないのやけど、今までもずっとあった出来事やのに、ずっと感じて来た感情やのに、なんかものすごく改めてショックを受けた…。

「人間はいつ死ぬかわからない」

それやのに何故…

「人間はいつ死ぬかわからない」

これを実感したらもっと人は人に優しくならへんのかな…?

なんて感じました。

やっぱりずっと変わらないんですかね…。

押忍!

SHOCK WAVE アポロ Vol.49
2011年4月18日(月)高田馬場AREA

★★★★★★★★★★★★★★★★出演★★★★★★★★★★★★★★★★

少女-ロリヰタ-23区＊BugLug＊TOON-FACTORY
DOG inTheパラレルワールドオーケストラ
theLEM＊ユナイト

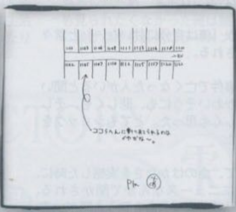
毎月18日は、本誌イベント『SHOCK WAVE アポロ』の日♪
毎回、多彩な顔ぶれのバンドが競演! 4月のアポロもお見逃し無く♪
チケットは、イープラス（http://eplus.jp）ローソンチケット（Lコード予約 http://l-tike.com Lコード:76184）AREA店頭にて、絶賛発売中♪
※バンド予約は一切ありません。

詳細は
音楽専科社 HP [http://www.ongakusenkasha.co.jp/]
携帯サイト:音楽せんか?[http://mobile.ongakusenka.com/]

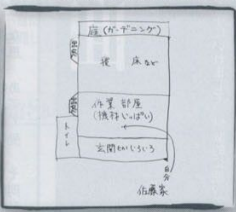
(問)高田馬場AREA ☎03-3361-10

一筆入魂 ザ・ミッション!!

に政治にと、何かと最近話題になるソーシャル・ネットワークですが、皆さんもブログやツイッターなどのSNSは使っていますか？SHOXX編集部もツイッター（@SHOXX_official）を始めて国内外のたくさんの方からフォローしていただいていますが、実際にこういうサービスを使ってみると、改めていろんな読者の方に支えられているんだなぁと実感できます。皆さんの生の声が聞けるというのは大事ですね。さて、今月のテーマは、新生活が始まる時期ということで『住んでみたい家・部屋』です！



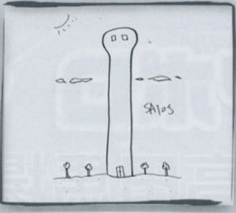
ナカヤマアキラ（Plastic Tree）



佐藤ケンケン（Plastic Tree）

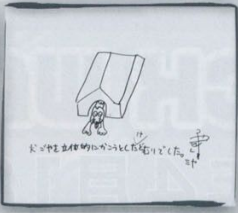
長谷川正（Plastic Tree）

有村竜太朗（Plastic Tree）



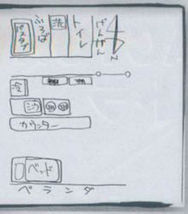
SATOち（ムック）

YUKKE（ムック）

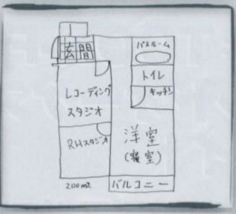


ミヤ（ムック）

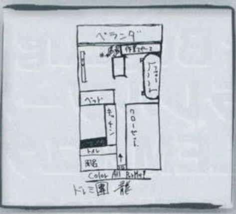
逹瑯（ムック）



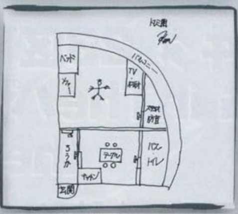
零華（ドレミ團）



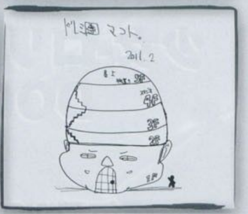
ユウ（ドレミ團）



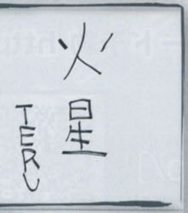
龍（ドレミ團）



KEN（ドレミ團）

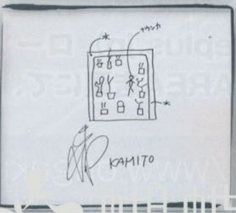


マコト（ドレミ團）

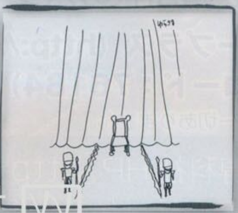


TERU（Versailles）

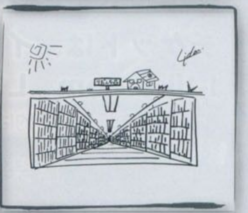
HIZAKI（Versailles）



KAMIJO（Versailles）

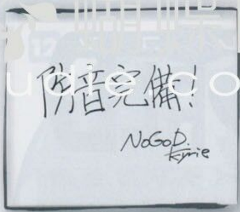


YUKAサマ（Dacco）

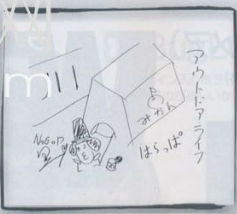


Lida（Dacco）

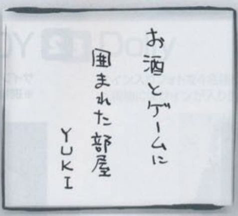
蝴蝶网
hudie.com



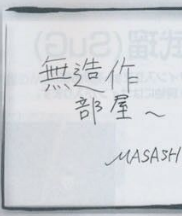
Kyrie（NoGoD）



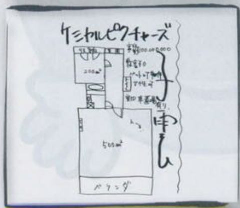
団長（NoGoD）



YUKI（Versailles）

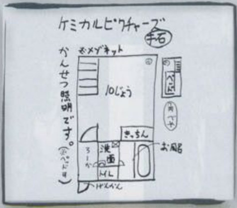


MASASHI（Versailles）



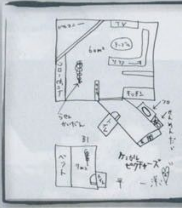
子雲（ケミカルピクチャーズ）

Joe（ケミカルピクチャーズ）



拓（ケミカルピクチャーズ）

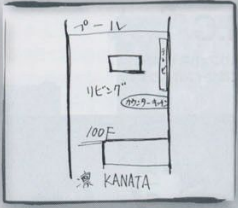
rui（ケミカルピクチャーズ）



平一洋（ケミカルピクチャーズ）

REIYA（凛）

KISAKI（凛）



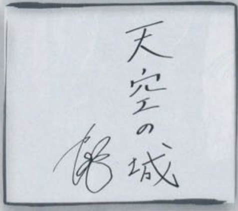
KANATA（凛）

MIZUKI（凛）

RIKU（凛）

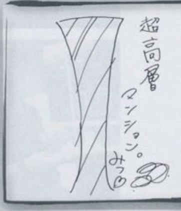
Яel（ν［NEU］）

ヒィロ（ν［NEU］）

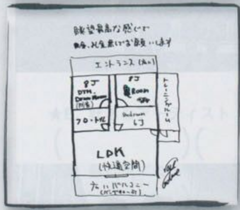


華遊（ν［NEU］）

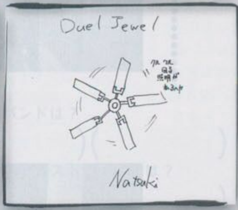
タクミ（ν［NEU］）



みつ（ν［NEU］）

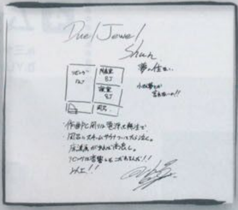


ばる（DuelJewel）

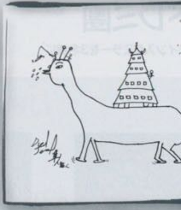


Natsuki（DuelJewel）

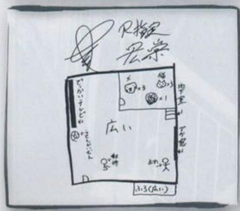
祐弥（DuelJewel）



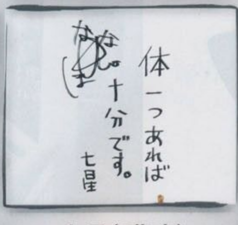
Shun（DuelJewel）



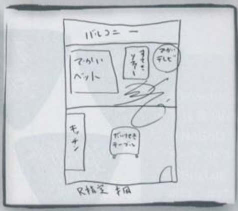
隼人（DuelJewel）



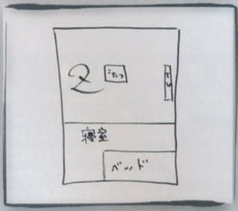
宏崇（R指定）



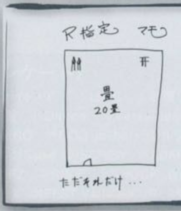
七星（R指定）



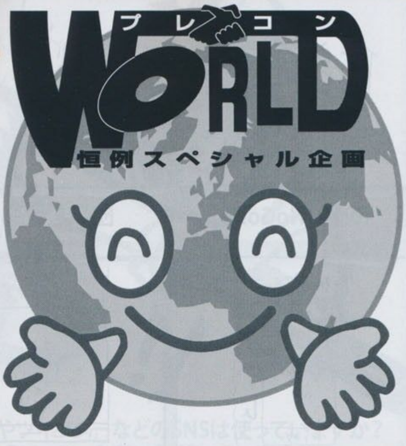
楓（R指定）



Z（R指定）



マモ（R指定）



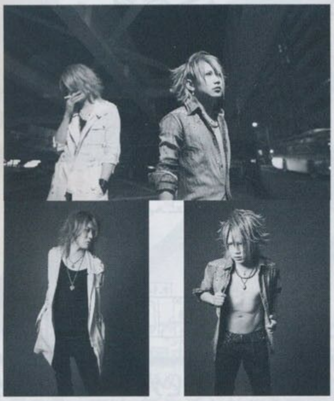
★今春、ご卒業された皆様、おめでとうございます!! 私事ながら、ウチの問題児(?)でもある姪っ子も、なんとか進学を決め中学を卒業しました。いや～、めでたい～♪　卒業式…懐かしいなぁ(遠い目)。当時は、予行練習を何度もさせられたりして、「卒業式なんてめんどくさい!!」なんて思ってたけど、今となれば良い思い出。当時好きだったあの人は、今何しているんだろうなぁ～…なんて(笑)。さて、今月の画伯さんは、ν〔NEU〕のみつ君です★

1 Plastic Tree

サイン入りフォトを2名様に
※現物にはサインが入ります。

2 YOMI&Ni～ya(ナイトメア)

サイン入りフォトを3名様に(どれがが欲しいか書いてネ)
※現物にはサインが入ります。



3 LM.C

サイン入りフォトを1名様に
※現物にはサインが入ります。

4 ムック

a.ミヤのピック11枚セットを3名様
b.YUKKEのピックを3名様に

武瑠(SuG)

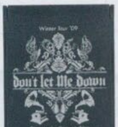
サイン入りフォトを2名様に
※現物にはサインが入ります。

怜我(ViViD)

サイン入りフォトを2名様に
※現物にはサインが入ります。

ドレミ團

サイン入りミラーを3名様に



hudie.com

⑫ Ru:natic

サイン入りポスターを1名様に

⑩ BugLug

サイン入りボラ(楽器隊はピック付)を4名様に
(誰のが欲しいか書いてネ)

⑧ Dolly

サイン入りフォトを4名様に(誰のが欲しいか書いてネ)
※現物にはサインが入ります。

⑪ V-last.

サイン入りチェキを2名様に

⑨ TOON-FACTORY

サイン入りフォトを5名様に(誰のが欲しいか書いてネ)
※現物にはサインが入ります。

プレコンWORLDアンケート用紙 VOL.219

住所	〒 TEL ( )		
氏名	フリガナ	年齢	男・女

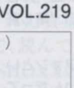
★A. よかった記事の番号を良かった順に3つあげてください。

1 2 3 理由

★B. 好きなアーティスト・バンドは？
( )( )( )

★C. 最近気になっているアーティスト・バンドは？
( )( )( )

★D. 今月号に対する意見・不満・または希望企画を聞かせて下さい。



★E. 希望プレゼントの番号(P142～143) 番

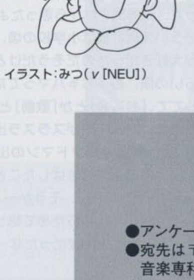


イラスト:みつ(ν[NEU])

アンケートのお願い

●アンケートに答えて、用紙を切り取り、はがきに貼って送ってね。コピー不可
●宛先は〒104-8228 銀座6－2－3 Daiwa銀座アネックス5F
音楽専科社 SHOXX編集部 プレコンWORLD係まで。
●締め切り：2011年4月21日当日消印有効
当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◆今月の記事一覧（アンケート）

①Plastic Tree ②the GazettE ③YOMI&Ni～ya(ナイトメア) ④LM.C ⑤武瑠(S
⑥怜我(ViViD) ⑦Kagrra, ⑧葵 ⑨Kra ⑩ドレミ團 ⑪Dacco ⑫Versailles
⑭NoGoD ⑮ケミカルピクチャーズ ⑯Dolly ⑰凛 ⑱HERO ⑲DOG inTheパラレルワー
オーケストラ ⑳TOON-FACTORY ㉑ν[NEU] ㉒ムック ㉓Sadie ㉔SCREW ㉕ADAPT
㉖BugLug ㉗PENICILLIN ㉘DuelJewel ㉙BREAKERZ ㉚R指定 ㉛SHOCK WA
ボロ ㉜xTRiPx ㉝東京ミカエル。 ㉞Administrator ㉟Dali ㊱FEST VAINQUEUR ㊲V
㊳yuina ㊴レクレンズ ㊵Ru:natic ㊶NEOPHILIA ㊷早耳情報 ㊸アーティストBOX
筆入魂!! ザ・ミッション ㊺ロックンロール日記

イラスト：AKEMI OHSHIMA

大島暁美のロックンロール日記

×月×日

久しぶりに、SCREWの取材。現ラインナップになってから、インタビューをするのは初めてなんだけど、ルイくんのほんわか明るい雰囲気でバンドの空気もとってもいい感じである♪　ジンくんがドラムの話をしてる時、鋲くんが難しいプレイについて「そんなの朝めし前だよね」と言ったの。それで、次にベースの話になった時、ルイくんがすっごい真面目な顔で「朝めしについてですか？」とひとこと。これには、その場にいた全員がずっこけたよ。あまりにも天然すぎるよ、ルイくん。すかさず鋲くんが、「笑いもとれるベーシストです」とフォローしてたけど、ヤンチャな鋲くんが大人に見えた瞬間だった（笑）。

×月×日

むかーし、Xのスタッフをしていたふるーい友達と3人で、鉄板焼きを食べに行く。その店は、KAMIJOくんの家の近くだったので、電話をかけたら彼も来ることになった。でも、ちょうどプリプロの真っ最中だったらしく、最初は「これからスタジオに行くかもしれないから、お酒はやめておこうかな」なんて言ってたのね。だけど、そのお店の看板メニューの「パリパリチーズ」を一口食べて、「美味しい！」と感激した王子。「これは、やっぱり赤ワインを飲まないと」といきなりボトルをオーダーし、パリパリチーズがなくなるたびに「すいません、これをもう一つください」と、間髪入れずに注文。結局、５皿か６皿はオーダーしてたんじゃないかな。パリパリチーズは一皿に８切れ入ってたんだけど、多分、半分以上はKAMIJOくんが食していたと思う。そっか〜、薔薇の末裔はチーズがお好みだったのね。新しい発見だわ。

×月×日

ペニシリンの取材。ニュー・アルバムのリード曲「WILL」について、千聖くんが「アイアン・メイデンみたいでしょ」と言ってたけど、ホントにスリリングなギターが満載のカッコいい曲だよ。取材中はいつもの通り、懐かしい洋楽ミュージシャンの名前がポンポン。「SHOXX読者にわかるかな〜」「注釈だらけになっちゃうから、この話はカットしといてね」なんていいながらも、ついつい洋楽談議に花が咲いてしまう。

その数日前のTwitterで知り合いの人が昔のマイケル・シェンカーの動画を紹介してたので、「彼が長髪をばっさり切った時、ショックだったのを思い出しました」とツイートしたのを千聖くんが読んでたらしく、「マイケル・シェンカーが長髪だった頃って、いつ頃？」と聞くので、「UFOの頃（70年代後半）」と言ったらひっくり返りそうになってた（笑）。読者のみなさん、何のことかわからない人がほとんどだと思うけど、スーパー・ギタリストなので覚えておくと友達に自慢できるかもしれないよ。ちなみにその後、千聖くんからTwitterで「マイケル・シェンカーは短髪ってことで」というツイートが来ていたよ（笑）。

×月×日

HEROのJINくんのパーソナル・インタビュー。JINくんはMASKの頃から知ってるけど、テレビとかじゃないじっくりインタビューは初めてだった。でも、ライヴのMCから予想して「きっとフツーじゃないだろうな」と覚悟してたら、やっぱりメチャメチャ面白かったよ。場所は、サラリーマンの方々が憩う落ち着いた喫茶店。JINくんって声が大きいから取材に答えて話す声が店中に響いていて、新聞を読んでるオジサマの手が笑いをこらえてブルブル震えているのが目の端に入ってくるの。それがまた、超おかしかった〜。

JINくん、風邪をひいてたのか花粉症なのか、3分に1回くらい鼻をかんでたのね。そのうちにティッシュがなくなっちゃって、丸めたティッシュを鼻に突っこんだまま話してるの(笑)。その姿をアップで見ながら取材するのは、ホントに大変だったよ。「JINくん、ヴィジュアル系じゃないの？」と聞いたら、「誰も俺がカッコいいとか思ってないから、何やっても大丈夫なんです。だって、ちょっとカッコつけようとすると、ファンの子に『高橋、うるさい』とか言われるんですよ」だって！　でも、その飾らなすぎる……というか破天荒なキャラが、人気の秘密なんだろうな。JINくんの魅力満開の取材だったよ。

×月×日

ゴールデンボンバー・歌広場淳くんのパーソナル・インタビュー。彼がヴィジュアル系を大好きだということは知ってたんだけど、じっくり話を聞いたらホントに詳しいの。わたしのこともこのロックンロール日記やHOT WAVEで、知っててくれたみたい。嬉し恥ずかし、ありがたいことでございます。

実は、彼、単に男の子のヴィジュアル系ファンというわけではなく、マインドはバンギャに近いんだって。バンギャの気持ちがすごくよくわかるから、逆にバンギャが不快に思うようなことはやらないように気をつけているのだそう。そーいうメンバーが一人いると、バンド活動をしていく上でとっても便利かもしれないなって、話を聞きながら思ったよ。

そういえば、彼は小学校の頃、家の近所にあった宝塚が大好きだったのだそうだけど、実はわたしも中学くらいの頃、めっちゃハマってたのを思い出した。話をしてて、「お茶会」とか「歌劇」とか、もう何十年も使ったことない宝塚用語がスラスラ出てきたのは、自分でも意外だった。「バンドマンの出待ちをしたことはないけど、宝塚の出待ちはしたことあるんだよ」と自分でいっといて、「あー、そうかー。たしかに、そうだったなー」なんて、あらためて思ったりして。なんだかちょっと不思議な感覚だったな〜。

×月×日

冷たい雨が降る三連休の初日。夕方から、SuGの取材である。彼らはその前に、三浦半島の先の方でテレビのロケをやってたんだって！　マネージャーさんにロケ地の写真を見せてもらったんだけど、海の近くで見るからに寒そう。「三浦半島といえばマグロが有名だけど、食べたの？」とメンバーに聞いたら、「えっ、マグロが有名なんて、全然知らなかった！」「僕ら、ふつーのお弁当でしたよ」と、すごく悔しそうだった。また行く機会があったら、是非！

いますぐチェック！
http://v-love.info

×月×日

THE KIDDIEの取材。

毎回、天然ぶりを競うかのようにユニーク発言を連発する佑聖くんと淳くん。今回もそーとー面白かった。なにしろ、編集嬢が原稿を読んで、何度も吹き出してしまったというくらい。他のメンバーがこの二人の発言の時になると、「次はどんなすごい発言をするのだろう」って目をキラキラさせてるとこがまた面白い。この日は、淳くんの一人勝ち。あまりに面白すぎる発言の数々は、現在発売中のアリーナにて。笑ってください（笑）。

×月×日

Acid Black Cherryの取材。

毎度のことながら、タイトな取材時間の中で表紙巻頭特集用の撮影とインタビュー。最初に編集さんから「取材は、40分目安で」と言われたんだけど、気がついたら、ヤチュリン、１時間たっぷり話してくれた。でも、雑談がかなり混じってたので、結果的に使える部分は40分くらいで、「時間どおりじゃん！」とは、本人の弁（笑）。

☆お知らせ

いろんなことが同時進行してて、結構、グルグルな毎日。来月くらいからちゃんとお知らせできるようになっていくと思うんだけど、きっとみんなが楽しんでくれるであろうことをいっぱい企画してるので、楽しみにしててね〜！　手始めに、本誌11ページを見て！　ていうか、このページのイラストも同じなんだけど（笑）。今すぐ、このURLをチェックしてみてね〜！

☆Biju☆Love☆Night#007

４月17日（日）いつものように渋谷SECOにて、開催されるよ！　このDJイベントからも、いろいろ面白いことが発生していきそう！　チェックを忘れずにね！　http://ameblo.jp/vijulovex

hudie.com

次号 Vol.220 予告

4月21日全国一斉発売!

★今月から不定期にて始まりました、ViViDのパーソナル企画。トップを飾ってくれたのはGt.怜我。『もし、ミュージシャンになっていなかったら…』をテーマに行われる今回のパーソナル・シリーズですが、怜我が指定して来た職業は…美容師♪　芸能人も御用達の有名店・ FatsBerryさんの店舗をお借りして撮影しました！　現場に立ち会っていたスタッフからは、口々に“いるいる！　そんな感じの美容師さん!!”と、絶賛（？）の声。その声に照れながらも“マジっすか!!”と、ノリノリの怜我。巧みな話術も炸裂（笑）。こんな美容師さん、いかがですか？（笑）。SuGは、Vo.武瑠のパーソナル。一人二役で、深夜まで頑張ってくれました！　手に巻かれた毛糸が、意外に手に食い込み“うわっ、手が真っ赤になった。でも、この方がリアルな感じする（笑）”と、身を犠牲にして（？）作品を作り上げる彼のアーティスト魂に脱帽で す。(S)

★Plastic Treeの約5年ぶりの表紙巻頭特集。三鷹にある不思議な形の住宅をお借りして撮影しました。現地に着くなり、“よくこういう所、見つけるよねー”と感心しきりのメンバー。写真では“不思議具合”が伝わりづらいですが、表紙カットのメンバーの後ろのスペースは球体状で、中に入っていたナカヤマさんは、斜めになっている床にアキレス腱を伸ばした状態で立っていたのでした（笑）。

LM.Cの撮影をしていただいた外山氏。Aijiくんとは約6年ぶりの再会でしたがmayaくんは初対面。いつもと違うテンションにまさかの人見知りかと思いきや、“(外山氏を）どうイジれるか観察中なんですよ、これ”とAiji先輩の弁（笑）。(A)

★ファンクラブ・ツアーの初日という大忙しの日に、なんとか頼み込んでthe GazettEのRUKIと戒にインタビュー。ギリギリ今月号に間に合いました。レコーディングが終わったばかりの最新シングルや、2011年の構想についても語ってくれた貴重なソロ・インタビュー。何気に今年初インタビューなので、読んでみてください。そして、久々にDollyの撮り下ろし取材。「SHOXXの撮影は何故かいつもダーツがある場所なので嬉しいんですよね〜」と、はち。ダーツが好きなんだとか。聖は、現場にあったCDJで遊んでいました。この様子は携帯サイトで動画配信予定。是非！(T)

来月の表紙&巻頭特集は
SHOXX　Vol.220

ナイトメア

久しぶりに5人揃って登場!!

右記のバックナンバーを希望の方は、定価に送料（1冊＝¥140、2冊＝¥220、3冊以上は全て¥450）を加えて、切手代用または小為替で、〒104-8228 東京都中央区銀座6-2-3　Daiwa銀座アネックスビル5F音楽専科社経理部「SHOXXバックナンバーVol.○」（○の中に号数を入れる）係まで申し込んで下さい（ただし、付録ポスターが付いてない場合もあります。ご了承ください）。
また、近くの書店でVol.220（4月21日発売）を買いそびれないようにするには、書店へ予約しておくと便利です。

バック・ナンバーのご案内

Vol.212
10年10月号 ¥980

■Alice Nine巻頭&表紙14ページ特集■the GazettE■シド■柩&咲人（ナイトメア）■Kagrra,■Lc5■葵 from 彩冷える■LM.C■ヴィドール■SuG■THE KIDDIE■ViViD■ギルガメッシュ■少女-ロリヰタ-23区■heidi.

Vol.207
10年5月号 ¥980

■ナイトメア…紙20ペー…The LEGE…SIX NINE…TERRITO…■カノン（ア…珈琲店-）…Tree■ム…D'espair…Versailles…■MIX Sp…Inc.■ドレミ…ガメッシュ

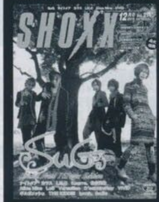
Vol.213
10年11月号 ¥1250

■創刊20周年特別号■the GazettE巻頭&表紙18ページ特集■ムック8ページブックinブック封入■シド■ナイトメア■Alice Nine■Plastic Tree■Kagrra,■Versailles■LM.C■SuG■ViViD■heidi.■ギルガメッシュ■THE KIDDIE

Vol.208
10年6月号 ¥980

■西川貴教…（ナイトメア）…紙18ペー…the Gaze…竜太朗■…Sadie…KIDDIE…(Kagrra,)…ヴィドール…メッシュ…SCREW■…ViViD■…FACTORY…man■人格…

Vol.214
10年12月号 ¥980



■SuG巻頭&表紙16ページ特集■LM.C8ページ Book in Book封入!!■ナイトメア■Alice Nine■イガグリ千葉（仙台貨物）■Kagrra,■Lc5■THE KIDDIE■ヴィドール■Sadie■ViViD■Kanon×Kanon■BREAKERZ■jealkb■D'espairsRay

Vol.209
10年7月号 ¥980

■彩冷える…14ページ特…トメア■ムッ…有村竜太朗…Tree■LM…Nine■Ka…heidi.■…D'espairs…Versailles…■零乃×怜我…■seek

Vol.215
11年1月号 ¥1200

■the GazettE巻頭&表紙18ページ特集■ViViD 8ページBook in Book封入!!■シド■Over The Edgeスペシャルセッション■ナイトメア■ムック■Plastic Tree■Alice Nine■AYABIE■THE KIDDIE■Lc5

Vol.210
10年8月号 ¥980

■ナイトメア…紙20ペー…TRIBAL A…Vol.100L…Kagrra,■K…■THE KID…■長谷川正…■Over the…OSAKA■…boogiem…Speakear'…コト×ユウ…

Vol.218
11年4月号 ¥980

■咲人（ナイトメア）巻頭&表紙16ページ特集■シド■the GazettE■SuG■AYABIE■Kagrra,■ViViD■Over The Edge'10スペシャル対談■ギルガメッシュ■Moran■Mix Speaker's,Inc.■ヴィドール■jealkb■DOG inTheパラレルワールドオーケストラ■ダウト

Vol.217
11年3月号 ¥1200

■Alice Nine巻頭&表紙18ページ特集■the GazettE 8ページBook in Book封入!!■シド■ナイトメア■ミヤ（ムック）■葵from彩冷える■ギルガメッシュ■一志(Kagrra,)■LUNA SEA■Kra■SuG■ViViD■THE KIDDIE■DOG inTheパラレルワールドオーケストラ■Kanon×TOKIO HOTEL■D'espairs Ray■12012■heidi.■Sadie

Vol.216
11年2月号 ¥1200

■ViViD巻頭&表紙16ページ特集■YOMI（ナイトメア）■沙我（Alice Nine）■Plastic Tree■LM.C■D■ギルガメッシュ■D' espairsRay■陰陽座■AYABIE■Mix Speaker' s,Inc.■ゾロ■DaizyStripper■アンド■HERO■Waive■NoGoD■東京ミカエル。

Vol.211
10年9月号 ¥980

■the Ga…&表紙20ペ…YOMI…イトメア）…(ViViD)…Tree■ム…■Kra■D…■マコト(…Sadie■ゾ…メッシュ■…Fatima■…

アリーナ サーティセブン
ARENA37℃ ROCKSTAR
2011年4月号増刊
ワイド判 オールカラー
vol.12

お待ちどうさまでした!

に登場するアリーナ増刊「ロックスター」は今、ミュージックシーンを賑わし、
大盛り上がりとなっている新世代エンターテイナー、ゴールデンボンバー
大特集! バンド、メンバーに深く濃く密着した内容でお届けします!!

表紙巻頭
大特集

ゴールデンボンバー

その他、旬のアーティストが登場します。お楽しみに!

4月9日発売! 定価980円(税込)
http://www.ongakusenkasha.co.jp/

ARENA37℃ SPECIAL vol.80
アリーナ サーティセブン スペシャル
2011年5月号

3月26日発売!
A4ワイド判 オールカラー全84P 定価980円(税込)
URL:http://www.ongakusenkasha.co.jp/

表紙巻頭特集

ナイトメア

緊急決定!
『unexpected LIVE「publish!」』2011.3.11新木場STUDIO COAST!ライブリポート&アフターインタビューにて徹底取材&最新撮りおろし写真満載!

■その他、強力アーティストが目白押し!

通好みの集う店
Flower Record
の広告
03-5380-3505
042-563-7793
apples@flower-record.com

つ、実現できないマニフ
ト!勘違い!菅違い!期
せられ乗せられて、僕ら
処へ流される!! KARA
ERIKAだ、AKBだと、こ
も、やっぱり乗せられて!
変えたきゃ、バンドやろう
幸福になりたきゃ、バンド
うぜ!! 打倒権力、バンド
うぜ!!!
ちゃって!?

FLOWER RECORD
01 東京都中野区中野5-59-1
興産ビル305
5380-3505 fax 042-563-7793
apples@flower-record.com
http://www.flower-record.com

木曜定休
11:30〜2[illegible]:00
出張買取で20:00
に閉める場合も有

東京近郊の配布物・会場限定物取得代行
地方の方でも、配布・会場限定CD、デモ、ビデオ、DVD等が、リーズナブルな値段で手に入ります。お気軽にお申し付けください。

リサーチ
お探しのアイテムをお申し付けください。優しいスタッフがあなたのご要望に親身になってお答えします。Wants List 大歓迎。在庫の無いものも、入荷次第、お知らせします。

通信販売
全国どこへでもお届けします。TEL、ハガキ、封書、FAX、E-メールにてお問い合わせください。在庫確認後、代引、口座振込、現金書留にてお承ります。

ホームページ
まだ未完成ながら、広告誌面では記載できない量の在庫・入荷・高価買取等の情報が見られます。

今月の貴重盤

[プラスティックトゥリー]奇妙な果実(初回CD)、アリスの眠り袋(配布ビデオ)、参考ビデオクリップ集(非売品ビデオ)、パペットショー(プロモオンリー16Pブック)、サイン色紙、パンフ各種、[アルテマ]浮始蝶(CD、デイジーストリッパーの前身)[バクチク]ハリアップモード(オリジナルCD)[カリガリ]再教育(2CD)、走馬燈(ビデオ)、ラロイクドザヴィのデモ[デザイア]D=SIRE(5曲入りデモ)[ディスパーズレイ]裏DVD('09渋谷AX配布)[HIDE]HIDE YOUR FACE(T-シャツ)[ジェッジジョンソン]ガルバディアンストライク(CD)[ジョリーピクルス]クラッシュ(デモ)[かまいたち]独罰主義(デモ)[カイン(kain)]パラダイス. . .、インランド. .(配布DVD)[KAYA+Hora]アナザーセル(限定CD)[リンチ]アンダーニース. .(CD)[マリスミゼル]会報1号、2・3合併号[メリー]配布MD[SHUN]ソロ(デモ、ディルアングレイのメンバー参加!)[シド]吉開学 17歳(限定MD)[スケアクロウ]立春[スラットバンクス]配布DVD[東京ヤンキーズ]T-シャツ[ワルキューレ]デモ2種[X JAPAN]インディーズ時代の配布ビデオ[ジキル]スペシャルビデオコンサート(未発表ビデオ)

ヴィジュアル系アイテム、高価買取させていただきます!!

中古CD, DVD, デモテープ, ビデオ, レコード, アーティストグッズ, 本その他 80年代から現在まで!!!
*特に、業界もの、配布もの、会場限定もの、限定枚数の少ないもの、発禁もの、前身バンドのものは、大歓迎の特別査定!!!! その他、カヴァーポップス、GS、日本のロック・フォーク、日本のジャズ、ニューミュージック、歌謡曲、J-ポップ、J-ロック、日本パンク全般(初期パンク、ハードコア、Oi/スキンズ、ネオモッズ、メロコア、スカコア、クラストコア他)、日本のネオロカ・サイコビリー、日本のヘヴィーメタル、サントラ. . . etc. ロック中心に洋楽も大歓迎!!

買取り強化月間継続!!
あなたの聴かなくなった貴重盤・他をお売りください。プレス枚数が500枚以下のものは、特別査定!! TEL、ハガキ、封書、FAX、E-メールにての大まかな査定もOK!送金は、口座振込み、現金書留にて!

宅配便買取
郵便・宅配便にて、ドシドシ送ってください。1枚からでもOKです!もし、CDアルバム20枚以上、もしくは、当店の高価買取例のアイテムが含まれる場合は、送料着払いOKです。なるたけ早めの査定後、連絡させていただきます。

出張買取
東京近郊(神奈川、埼玉、千葉、山梨 etc.)のまとまった処分と貴重盤放出の場合は、出張費無料でお伺いいたします。お気軽にお問い合わせください。

今月の万単位買取例 * 本気です

[Xジャパン] '85ライヴデモ、配布デモ、配布ビデオ2種、X現る(ビデオ)、直筆サインもの、スタッフオンリーグッズ、インディーズ時代のもの大歓迎!![SUGIZO]ブリリアントデイズ[デランジェ]キッズブルー(プレゼントビデオ)、デモ各種、FC限定DVD、プロモ[ジャンヌダルク]1stデモ、配布ビデオ[シド]吉開学(初回MD)[シュラ]DE L.(ビデオ)[デザイア]プロモビデオ[YUKIYA]ソロデモ[黒夢]サス4・ダブルベッド、ガーネット、レッドカーペットのデモ[ラルクアンシエル]4thアヴェニュー、前身バンドのデモ[ラピュータ]サディストの夢(配布デモ)、パラドキシカル(ビデオ)[ルナシー]デモ各種[マリスミゼル・摩天楼・キャインスフィール]デモ各種、ビデコン用ビデオ [マインカンプ]スピーダー(緑ジャケ7")[メリーゴーランド]毒・夢・月…(デモ)[シャムシェイド]配布CDS[V. A]ヘヴィーメタルギターバトル(CD、帯付)[松川敏也]バーニング(CD、帯付)

今月の高価買取例

[アンド]蜘蛛[BE≒LUNA]音源すべて[ベルリン]ニーザー[カリガリ]第5実験室(CD)、第2実験室(6曲入りデモ)、極秘(FC限定CDS)[フロート]蒼の休日(配布CDS)[C4]ライブDVD2種[カリメロ]ノスタルジー[D]アリス[ダミーチルドレン]ミスタービップ 他[毒殺テロリスト]CD各種[ゴールデンボンバー]恋愛宗教論、ゴールデンベスト、ゴールデンアワー[ガゼット]別れ道、午前0時、14歳、泥だらけ[リンチ]グリーディ. .(CD)[デスゲイズ]29403、ダウナー、配布、会場CD各種[ベリー]白痴、ブラッドプール(CD)[デルヒ(DELUHI)]サヴェイランス[デュエルジュエル]ノア、ラピダリー[電脳オヴラアト]LOVE 2010[イクジットトレイス]レアもの[アンミュレ]配布CD・デモ[ギフト]追想[ギルガメッシュ]無配型円盤[ハイジ]夕焼けと子供[ジェジジョンソン]ミルクミックス他レアもの[犬神サーカス団]デモ、御霊前、詩集[Mix Speaker's,Inc.]シンデレラ(会場CD)[メトロノーム]ヤプー. .(CD)[陰陽座]前身バンド「空想科学病人紙とメモ紙」「ロオレライ」のデモ[PABLO HONEY]彩色蜂蜜パレット[ルドルフシュタイナー]デモ2種[仙台貨物]赤いつなぎ+帽子[SECIR]妄想と夢、Feather、twilight7[シンディケイト]流星[ヴィヴィッド]テイクオフ(CD)[V. A]ホットインディーズベストセレクション(CD)

[アイオン]デモ、BOOTLEG7. 8(ビデオ)、ヒストリー(プレゼントビデオ)、イースター(CD)[アフターイメージ]配布ビデオ各種[ベビーシッター]配布デモ、空しい空の空(2ndプレスCD)[バクチク]FC限定DVD、トゥーサーチ(プレゼントCD)、FULL VOLUME(ミニコミ)[グニュツール]パンフ、配布もの[ティーブ]ライヴビデオ[デザビエ]デモ各種[デュールクォーツ]ラストライヴ(ビデオ+本)[デルスキュエル]麻酔[フェリア]終焉の響(CD)[ガーゴイル]クレイジーサディズム(デモ)、フューチャー. .(完全版)[ルイマリー]デモ[INORAN]FC限定DVD[illegible]マザークライシス(CDR)[かまいたち]デモ各種[黒夢]アンダー(配布ビデオ)[ラレーヌ]1stデモ[ラムール]レプラ[ルイマリー]デモ[マリスミゼル・ガ[illegible]]'95パンフ サイン[illegible]の各種[メリーゴーランド]. . . イズデッド(CD)[MORRIE]薔薇色に染まる(CDS)[マティスグレイル]グッズ他[ミサリナレイ]ラストライヴ(ビデオ)[リボン]特典CD[ロー[illegible]モード]BEAT CORE001[レッドアイ]調教バレリーナ[ソフトバレエ] 限定写真集[シャムシェイド]CDボックス[スケアクロウ]ライヴビデオ[シャムシェイド]CDボックス[スラットバンクス]裏の裏ビデオ(DVD)[ヴァラブチュアス]デモ[ヴァイラス]異民族(デモ)[ヴァサラ]ジェノサイド、覇者凱旋 他(デモ)、アローン[Xジャパン]インディーズFC会報、ポスター、ステッカー、ヴァニシングヴィジョン(CD、3rdプレス)[ZEED]ビデオ[ジキル]ホールド. .(ビデオ)[V. A]GIV創刊準備号(ビデオ)[V. A]1993 VINTAGE 寝屋川ビンテージバープレゼント(CD) *、80年代ジャパニーズメタル・ハードコアパンクのデモテープ大歓迎!!

hudie.com

日本武道館「漏洩」計画!?

ムッ

CHAPTER-1

リハーサル&打ち合わせ編

未来へと向けたパレードが、そろそろ最高潮の
クライマックスを迎えることになる。
来る5月21日に[Chemical Parade FINAL]、
翌22日に[MUCC history GIGS 97~11]と題し
2デイズのライヴを久々の日本武道館にて行なうムッ
彼らは今、これに向けての策を練っているところなの
だという。次の彼らは、どんなやり方で我々を魅了して
くれるのだろう？　2ヶ月連続企画で
"ムックの武道館"を暴く!!

Photography:TAKEHIRO SUGANUMA
Hair & Make-up:DAISUKE"BOB"TANAKA(JET SPEEDeR)
Interview:YUKI SUGIE

――少し前の話にはなりますけれど、厳寒のロシアから始まったという先般の[Chemical Parade in EURO]は、意外にも順調に進んだそうですね。

ミヤ：行く前は、大寒波でヨーロッパの空港が方々閉鎖になってるって聞いてたんですけど、俺たちはそういうのには遭わなかったんで助かりましたね。ただ、個人的にはロシアよりフィンランドのほうが10度ぐらい寒い、っていうのが誤算でした。ロシアの寒ささえ凌げば、あとはラクだって思ってたのに（苦笑）。

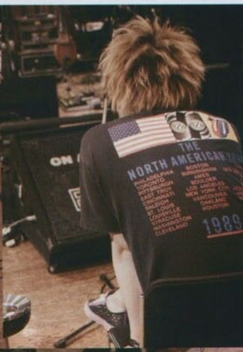
――となると、何度くらいの最低気温を体験したわけです？

ミヤ：ウチらが体感したのは、そのフィンランドのマイナス18度ですね。朝外に出て、実際どんなもんなのか確かめましたよ。なんか、街全体に白いモヤみたいのがかかってました。

――もっとも、そんな厳寒の地でもムックはきっと熱いライヴを繰り広げて来たに違いありません。そうですよね？

SATOち：今回のツアーは、日本とおんなじような感覚でやれましたね。今までは、どうしても海外ってなるとつい必要以上に力が入るというか、身構えてしまうとこがあったんですけど、今回はそれが全然なかったんで良かったです。

蝴蝶网
hudie.com



YUKKE：良い意味で、スタッフも僕らも慣れた中で出来たツアーでしたね。

達瑯：スケジュール的にも、今回は多少ラクチンだったしな。あ、これは今までと比べたらっていう意味ね。

――ちなみに、『カルマ』収録の楽曲たちを向こうで演奏して感じたのはどんな手応えでした？

達瑯：良かったですよ。アルバムを聴いて来てくれてるんだなっていうことがよく分かったし、曲によっては全く日本とノリが違う曲もあったけど、やってて こっちも新鮮で楽しかったです。

――それは何よりでした。ここまでの国内ツアー、海外ツアーで得た経験は、きっと5月の武道館2デイズにも何かしら活かされてゆくことでしょう。

ミヤ：武道館といえば、数日前に初めてリハーサルをやりましたよ。

――ずいぶん準備を始めるのが早いですね。

ミヤ：そうでもないですよ。1日目の［Chemical Parade FINAL］のほうは別として、2日目の［MUCC history GIGS 97～11］のほうのことを考えると、まずは曲の絞り込みをしなくちゃなんないですから。今回数えてみたら、ムックのオリジナル曲ってもう180曲を超えてるんです。だから、まずは最初に〝これは絶対やんないだろう〟っていう曲を挙げていって、そこからどんどん〝切ってく〟ことにしました。

――その際のボーダーライン、もしくはジャッジラインというのは何が基準になっていることが多いのでしょう？

ミヤ：1日目にやる曲は2日目にはやんないとか。

達瑯：せっかくだし、1日目でもちょっと昔の曲をやろうか、ってみんなで言ってるんですよ。

ミヤ：今回の場合、普段の新譜が出た後に比べたら、ツアーでもわりとちょこちょこ昔の曲はやってましたからね。それに、武道館に来る人たちの中には昔のムックの曲はライヴで聴いたことがない、っていう人もたぶんかなりいると思うんですよ。それを考えたら、1日目でも多少昔の曲をやっておこうかなと。

――ムックは今年で結成14年目ですものね。昔を知らない、最近になって知った、という方たちのためにそのような心遣いがあると親切です。

ミヤ：今回の武道館2デイズは、昔からずっと来てくれてる人たちはもちろんですけど、今のムックしか知らないっていう人たちにとっても、分かりやすくて入っていきやすいライヴにしたいと思ってるんです。ただのマニアックなライヴで内輪だけにウケて終わっちゃう、みたいなのは避けたいっすね。

――武道館でやる意味を考えると、そこは大事ですよね。

ミヤ：一応そこを踏まえつつ曲数的には、今の段階で50曲くらいまでに絞り込めたのかな。あとは、ここからリハをやりつつさらに厳選してく感じです。

――となると、その先日のリハでは久し振りに演奏する楽曲が多かったのでは？

ミヤ：クソグダグダでした（苦笑）。

達瑯：しょーがない、そこは（笑）。

――自分たちの曲であって[illegible]そうなってしまうものなんですよ。

SATOち：見事でした。[illegible]ロ叩いて、その次のBメロが完全に出て[illegible]なかった

hudie.com

までには時間もあるし、ここで武道館に向けての姿勢を確認できたっていう意味では、このタイミングから余裕をもってリハとか打ち合わせを始めといて良かったと思います（苦笑）。ここからまたちょっとずつ、当時の空気を思い出したり、改めて身体に覚え込ませていったりしないとダメですねぇ。

SATOち：まぁでも、グダグダはグダグダでしたけど、俺はやっててすっげー楽しかったですけどね。凄まじいまでに覚えてなさすぎて、ほとんど先が分かんないっていう状況が逆に面白かったというか。感覚的には、どっかのバンドが解散して10年後とかに復活とか再結成するってなった時、みんなで久し振りにスタジオ入ったら、最初はきっとこんな感じなんだろうな～って思いました（笑）。

達瑯：なるほどね。再結成したり復活してるバンドって、みんなあんな感じでリハやってたのか（笑）。

――あはは（笑）。

ミヤ：だけど、やってみて思いましたね。ホントに超初期の曲っていうのは、今でもちゃんと覚えてるんですよ。

――それはきっと、当時はまだ少ない曲だけでライヴを日々回していたからでしょうね。徹底的に、叩き込まれている曲たちなんだと思います。

ミヤ：そういうことなんですかね、自分じゃよく分かんないですけど。あとは、それ以外だと覚えてる曲と、覚えてない曲の落差が凄いです。出来た時期に関係なく、中途半端に覚えてるっていうのはあんまないっすよね。

達瑯：アルバムの曲とか、シングルのカップリングの曲なんかだと、あのツアー以来ずっとやってない、みたいな曲も意外とあるからなぁ。

――場合によっては、演者側も聴き手も単なる回顧モードではなく、どこか新鮮な感覚で過去の楽曲たちと向き合えるケース、というのも出て来そうですね。

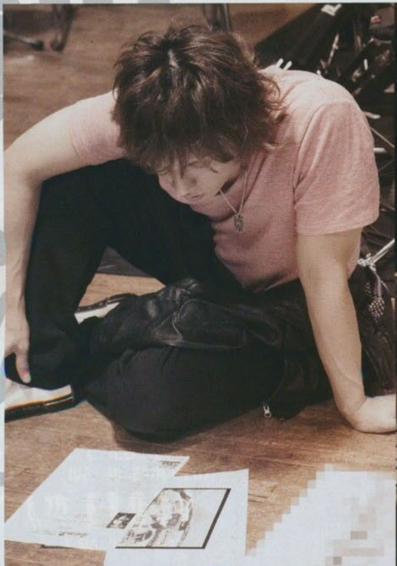
ミヤ：むしろ、俺としてはそういうライヴにしたいんですよね。[Chemical Parade FINAL］のほうが今のムックで、[MUCC history GIGS 97～11］が過去とかじゃなくて、どっちも〝今のムック〟として表現したいんですよ。だから、昔の曲をやるにしても忠実に再現していく、っていうスタンスでは絶対やんないです。今のムックがあの曲をやるとこうなりますよ、っていうかたちをみんなに見せられたらいいなと思ってます。

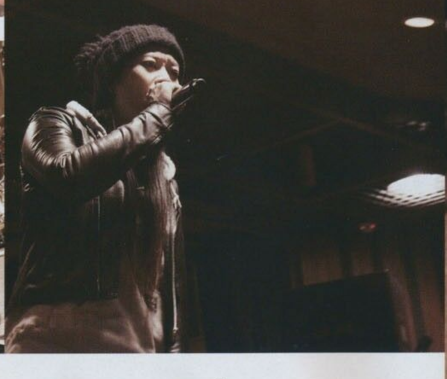
――時を経ての変化は、楽曲たちにどんな表情を加えていくのでしょうね。

ミヤ：まずは、演奏そのものが全っ然違ってきますよ。歌い方にしろ、パフォーマンスのやり方にしろ、当時は出来なかったことをやれないと意味がないですからね。あんま数はいないと思いますけど、当時のライヴを観てた人たちに〝あの時よりカッコ良くなってる〟って思わせたい。

――同時に、1日目の［Chemical Parade FINAL］については、『カルマ』の曲たちをあの武道館という大空間で改めて聴ける、という点もかなり楽しみなんですよ。

達瑯：ツアーの最初に野音でやった時に、野音ならではの聴かせ方っていうのをやったじゃないですか。だから、今度はまた武道館ならではの聴かせ方をすることになるでしょうね。特に、野音以降はライヴハウス・ツアーをやりながら





hudie.com

武道館

〝もっといいとこでやるんなら、こんな風にやれたよね〟っていうアイディアがいろいろ出て来たんで、なるべくそれを実現してく場にしたいっすね。

――なお、武道館公演そのものについては、ムックの場合2009年以来の3度目ということになりますよね。そこで、今回過去2回の事例を思い出しつつ、より良い武道館公演とするための対策をここで練っていきたいのですが。

達瑯：あれ、最初の武道館って［666］の時だっけ？

――そうです。2006年6月6日に行なわれた［666］です。

ミヤ：今思うと、あの武道館も多少ヒストリー・ライヴ的な要素はあった気がします。集大成っぽいライヴだったたんで。

達瑯：今回2デイズでやることを、2部構成でやったような感じだったからね。

ミヤ：そうだ。結局それで3時間コースだったんだ（苦笑）。

――余談ながら、あの最初の武道館については、記憶を辿ると17曲目で「流星」が始まるまでは、各メンバーともプレイや表情が〝硬かった〟ですよね。

SATOち：えっ？ 17曲目って、ほとんど終わり近くじゃないですか（笑）。

YUKKE：本編全22曲なのに（笑）。

達瑯：あれはね、やっと終わりが見えてきてようやくリラックス出来て来た頃だったんですよ。俺、覚えてるもん（笑）。

――その点、2009年3月に行なわれた［球体］の時はこれもアルバムのツアーという要素が強かったですし、さすがに2回目ということもあって、初回とは見違えるほど全編に渡って堂々としたライヴを見せてもらえたんですよ。

達瑯：さーて、今度の3回目はどうなるんですかねぇ!?

――いわゆるステージプランは、もう決まっているのですか？

ミヤ：こっちからのオーダーはもう出してます。今回は、シンプルかつ斬新な感じになるんじゃないですかね。演出の面でも、もちろん今までの武道館では誰もやってないことをやりたいです。

達瑯：ちゃんと聴かせるっていうのは当たり前のこととして、やっぱライヴにはある種の〝びっくり〟って必要だと思うんですよ。帰り道に、友達と〝あの曲のあれ、凄かったね！〟って盛り上がれるようなライヴって良いじゃないですか。思い出にも残るでしょ？ 今度の武道館は、2日ともそんなライヴにしたいです。

ミヤ：俺もね、実はその〝びっくり〟っていう部分についてはちょっと前に考えてたことがあるんだよね。完全に嘘なんだけど、思わせぶりに重大発表がありますみたいなフリで、達瑯がステージ上で〝実は、俺たちムックは今日で…〟みたいなのやったらどうなんのかな？って、一瞬思ったわけ。だけど、冷静に考えるとそこですぐウソピョン！ってやっても、絶対誰も笑ってくんねーんだろうなって思ったから、ソレは諦めました。武道館で全員にサーッってドン引きされた後に、

とないです（苦笑）。

――そういう話は、なかなかデリケートなものですからねぇ。実際に最近本誌を通じても、若干物議を醸してしまったことがあったようですし。

YUKKE：あぁ、一時期ファンのコたちの間で凄い噂になってましたよね。

達瑯：ふーん、何それ？

――1月発売号でミヤくんの単独インタビューをした際に、〝たまには休みたいと思ったりしませんか〟という旨の質問をしたんです。それに対して、〝そんな余裕が欲しいっていうほど、まだ売れてないから（笑）。そのかわり、もうちょっと売れるようになったらムックは活動休止したいっすね。今年は早く活動休止できるように頑張ります（笑）〟とミヤくんが答えてくれたんですよ。そうしたら、これがどうも一部の方に誤解されてしまったらしいんです。すわ活動休止か！と。

SATOち：えー！ そうなんだ？

ミヤ：俺、それはお客さんから直接言われたこともありましたよ。〝あの発言、波紋呼んでますよ〟って。まぁ、そのくらいムックのことを大切に思ってくれるんだろうな、っていうのは分かりましたけどね。でも、話の前後関係とかまるで関係なく、そこだけにいきなり反応しちゃうのかっていうのが驚きでした。

達瑯：そんなねー、活動休止なんて夢のまた夢ですよ（笑）。

ミヤ：最近、活動休止が多いからみんなちょっと敏感になってるんですかね？

達瑯：でも、それと同じくらい復活するバンドも多いよ？（笑）っていうか、元々何の話してたんだっけ??

――今度の武道館についてのお話です。

達瑯：まぁ、武道館までにはアジアでも何本かライヴやるし、バンドとしては凄く良い状態で臨めるんじゃないですか？

――武道館で、新曲を聴ける可能性もあったりします？

達瑯：そんなこと、今の段階では言えませんよ。とはいえ、過去を振り返ってばかりじゃね、っていうところもあるんで未来を感じる何かは提示できるかもしれないです（笑）。いいですか、ムックはみんなと一緒に未来を見たいんですよ。もう、ヘンな噂には惑わされないよう

蝴蝶网 hudie.com

Sadie

COLD BLOOD

Sadieの根底を見つめ直す作品

最近のSadieは貪欲だ。ライヴはもちろんのこと、音源でも常に進化を求めている。その原動力は一体どこから来るのだろう。バンドが結成6年目を迎えた今、彼らは何を求め、どこへ向かおうとしているのか。3月30日にリリースされるニューアルバム『COLD BLOOD』の概要に触れつつ、メンバーの想いを探ってみることにしよう。視線の先にあるもの、そのヒントがここにある。

Interview:ERI MIZUTANI

http://www.sadie-web.com/

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

――この度、Sadieは結成6周年を迎えました。真緒さんとしては、アルバムの制作に入る際、そのことは意識されたのでしょうか？

真緒：個人的には、〝今年で結成6年目に突入〟というよりかは、〝10年目を迎えるにあたっての1年目〟という考えなんですよ。だからこそ、『COLD BLOOD』を作ってSadieを見つめ直したいと思ったのかもしれません。根本的なものを意識することが、6年目のスタートに相応しいのではないかなと。

――そう言い切れるのは、自信があるからですよね？

真緒：何か、メンバー同士の気持ちが固まっているのもあるけど、自分自身、皆のことを信頼しているので、これからもやっていけると思うんです。ほんと、そこを強く言いたかったんですよね、今回のアルバムでは。だからこそ、もう一度地盤を固めて、〝Sadieとはなんぞや〟という作品にしたいなと。

――そういった想いがあったとは…。

剣：とは言え、多かれ少なかれ、各々がアルバムで表現したいことって違ってくると思うんですよ。その中で僕は、シングル3部作で見せたような色とは違うものを提示したくて。実際、シングルには全てタイアップがついていたこともあり、Sadieのようなロックバンドを聴いたことのない人にもすんなりと受け入れてもらうことができたと思うんです。

――ええ、確かに。

剣：でも、そこで、シングルのようなテイストの楽曲をアルバムに入れるのかといったら、それは違う。今まで僕らが求

蝴蝶网
hudie.com

められてきた、スピード感や攻撃性、そして、メロディックなところ、その全てを外すことなく、Sadieらしさを出せるというのは何かというのを考えたんですね。

——そして、出た答えとは？

剣：僕は、お客さんが求めるものを出しつつも、新しいものを提示していきたいと思っていて。基本的には、より良いものを、という考えで作っているので、進化したところを見せられればいいなと。結果的に残ったのは、速めのテンポなんだけどシングルとは全く異なったタイプの曲や、遅めの曲など。こういうのもかっこいいでしょ、というところを見せていきたかったというか。色々な魅力を出せたらなと考えていったので、良い形で完成したらいいなと思っています。

——楽しみです。剣さんは、バンドが6年目を迎えたことは意識されました？

剣：6年経ったからすごいとかは思っていなくて。元々、終わることを考えてバンドを始めたわけでもないし（笑）。なので、僕はこの6年間、当たり前に活動

——そうでしたか。では、美月さん。アルバム制作にあたって考えたことを教えて下さい。

美月：今回、バランスを考えたのはもちろんのこと、1枚目（前作『MASTER OF ROMANCE』）でもっとこうしとけば良かったという部分を出していかないといけないなって。

——具体的に、何をどうしていこうと？

美月：1枚目って、バラエティに富んだアルバムになったと思うんですけど、色んなタイプが入っていただけに、バラエティ豊かすぎたかなって思うところもあって。もちろん、作品を作っているときはそんなこと思わなかったんですけど、今改めて聴くと、まぁ、色んなとこに手つけたなーって（笑）。初めてのアルバムだけに、色んなことを試したかったっていうのはあるんですけど、2枚目では、自分たちが何をしたいのかをきちんとまとめていきたいなと。

——2枚目ともなれば、進化も問われるでしょうしね。

美月：それに、今回のアルバムは、これ

真緒

剣

作ったということもあり、そこを意識した結果がどう出るかというのが楽しみです。

——ライヴバンドと名高いだけに、そこは外せません。ちなみに、バンドが結成6年目を迎えたことは、ご自身にどのような影響を及ぼしています？

美月：6年目を迎えたことで、イチから頑張ろうっていう気になれたんですよ。それだけに、これからも、初心を忘れることなく活動していきたいんですよね。けど、Sadieを始めた当初は、自分が6年も続くなんて思っていなくて。僕、ちゃんとしたバンドってSadieが初めてなんですよ。だから、ここまでやれるなんて想像も付かなくて。でも、実際に6年経ってしまったっていうのは、まさかのまさかです。だって、6年っていったら、生まれた子が小学校に入学してるんですよ（笑）そう考えると、この長い間、よく頑張ってきたなと思いますね。

——もはや、ここまで続けてくると、簡単には放り出せないですよね。

亜季：ほんと、投げ出せないよね。けど、それを惰性や責任感で続けているわけではないんだよ。人から〝6年間もよく続けてこられましたね〟とか言われるけど、

バンドを辞めるなんてこと、俺には絶対にできない。万が一、辞めるという決断をしたとしても、きっと、そのときにオーディエンスの顔が浮かぶと思う。それを考えたら、俺は辞めることなんてできないかな。

——こう言ってはなんですが、亜季さんは、Sadie以外のバンドをやることはできないと思います（笑）。

亜季：ははは。まぁ、散々、好き勝手やらしてもらっているからね（笑）。それを認めてくれるメンバーには感謝しているし、俺がそれに対して返せることは、楽曲やライヴしかないのかなと。だからこそ、アルバムでも色々としたいと考えているんだけど、どうだろう、実際に面白いことはできているかな？

景：亜季くんの個性やキャラがよく出たベースだなというのは感じられますね。

——亜季さん自身、勝負の年に入ったという印象を受けますが、このアルバムを通して何を伝えたいと思っています？

亜季：何っていったらいいかな、〝人間〟っていうこと。

——と、言いますと？

亜季：乱暴な言い方をしてしまうと、俺はアルバムに入る曲なんて何でも良くて。

のは前提にはあるけれど、メンバー個人の人間味が出る作品にしたいっていうのが第一にあって。この5人でやるからかっこいいと思ってもらえるものを出したいと心から願う。これを他の人が演奏しても絶対に俺たちの色は出せないと言える自信はあるから。そのための『COLD BLOOD』だからね。

――アルバムタイトルは、そういった考えからきていたのですね。

亜季：直訳すると〝冷血〟って意味なんだけど、オーディエンスを含め、俺ら5人は血族ではないから、同じ血が流れているわけではないんだけど、血っていうのは全員に流れているもの。そういった意味では、このタイトルはすごく合っているのかなと。血の繋がりを大事にしたいって俺は思っているしね。

――一体感や絆を表すものでもあるし。

亜季：まとめると、そういうこと。

景：今回、僕としては、みんなも言っていたように、5人でひとつのものを作るっていう意識が強いんですよね。真緒くんが言ったように、10周年の1年目として考えたときに、Sadieの新しい一歩を提示したかったので。それに、こうしてアルバムを作ることで、よりメンバーの絆が深まったと思うんです。何ていうか、ひとつのものを通して繋がった気がしますね。

――その新しい一歩を踏み出すためには、今、何が1番必要だと思います？

景：うーん、若さちゃう？

――さすがに、6年目ともなるとフレッて、そうじゃなくて！（笑）。

景：だって、10年目に向かっていくんでしょ。さすがに、若さはなくなるかなって（笑）。でも、いつまでも落ち着きたくないって気持ちはありますね。だからこそ、このアルバムでSadieを見つめ直したいなって。今まで作り上げてきた核をもっと太くして、そこからさらに枝を広げていけたらいいなと思っているんです。それを強化できたとき、Sadieはどうなっているのだろう、というのが、今の僕の楽しみです。

――それにしても、こうして皆さんの発言を聞いていると、絶対に良いものを作ってやろうという力強い意志が感じられます。

真緒：やっぱり、リアリティのないものは作りたくないし。とにかく、自分たちがやりたいことをやってやろうと思っているので、既存曲との絶妙なバランスを感じて聴いてもらえたらなと。

亜季

美月

景

http://www.sadie-web.com/

蝴蝶网
hudie.com

和己 Gt

鋲 Vo

ルイ Ba

人の“本心”があらわになった『DEEP SIX』

3日に、マキシ・シングル『DEEP SIX』をリリースするSCREW。特にコンセプトを設けず制作したと
この作品は、今の彼らの勢いや個性を素直に詰め込んだ内容になっている。この勢いと共に全国
り、4月23日に迎えるツアー・ファイナルには、初となる渋谷O-EASTワンマンも決定。彼ら自身が
REWの未来が決まる日”というだけあって、気合いの入ったパフォーマンスが見られそうだ。

Photography:SAWAE HARA　Interview:MIYUKI MURAYAMA

――「DEEP SIX」をタイトル曲にした理由は？

ジン：デモを聴いた時のみんなの直感と言うか。「Mind Candy」もタイトル曲の候補になったんですけど、ライヴを考えて「DEEP SIX」のほうがいいだろうということになりました。

鋲：俺は「DEEP SIX」を聴いた時に、圧倒されたと言うか。この勢いに飢えてたんだと思うんです。

ルイ：俺はイントロを聴いた時に、キタ！と思いました。

マナブ：各自持って来たのが勢いのある曲が多くて、「DEEP SIX」はまさにそういう曲の中の1曲で、聴いてテンションが上がったし、でも新しさもあるし、これだなって思いましたね。

――和己くんも勢いを意識して作曲したんですか。

和己：選曲会を3回やったんですけど、2回目が終わった時に歌モノが多いと思ったんで、この曲を違う形に作り直そうと思ったんですよ。それで激しめにアレンジして持ってきたら、いいんじゃない？ってなったんです。

――みなさんがアレンジで意識したのはどういうところだったんですか。

マナブ：和己の持ってくる曲はギターの主張が強いと思うんですけど、この曲も想像以上に細かくなって、いろんなことが入って、弾き甲斐がある曲になりました。歌があるところでもギターが主張してるぜって。歌に絡んだり、ユニゾンだったり、その辺はベースが上手く支えてくれてると思います。

ルイ：デモを聴いた時に、歌とギターをガッと出したほうが曲としてカッコいいイメージがあったので、ドラムとベースは下を支えるのみでしたね。

――歌は、サビですごく開けるところが印象的だし、新鮮に聴こえました。

鋲：今までのメロディは、右上がりと言うか、語尾が上がって終わるのがあんまりなかったので、新鮮に聴こえてるのかなと思います。

――そこは、意識的に変えたんですか。

鋲：サビを強化したほうがいいなと思って。そう考えてるうちに（音を）上げたほうがいいんだと思ったんです。時間をかけて出来たメロディですね。

――勢いを出すのは歌ってても意識したところですか。

鋲：『DUALITY』の時より、サビに関して言えば荒々しいと言うか、若干昔の自分（の歌い方）が入ってるかなと思います。曲にも歌にも勢いがあって、自分と上手く噛み合ってると思います。

――歌詞の内容は曲調とは違って切なさが感じられますね。これはラヴソング？

鋲：失恋をテーマに書いたんですけど、タイトル曲で失恋をテーマに書いたのが、たぶん「Death's Door」以来なんで、逆に斬新かなと思って。

――初回限定盤Aにつく PVは、どんな映像になってるんですか。

鋲：PVを2本観てるような感じです。この人たちって？ってなると思います。

ルイ：二度美味しい感じです。

和己：一瞬、ん？ってなるよね（笑）。

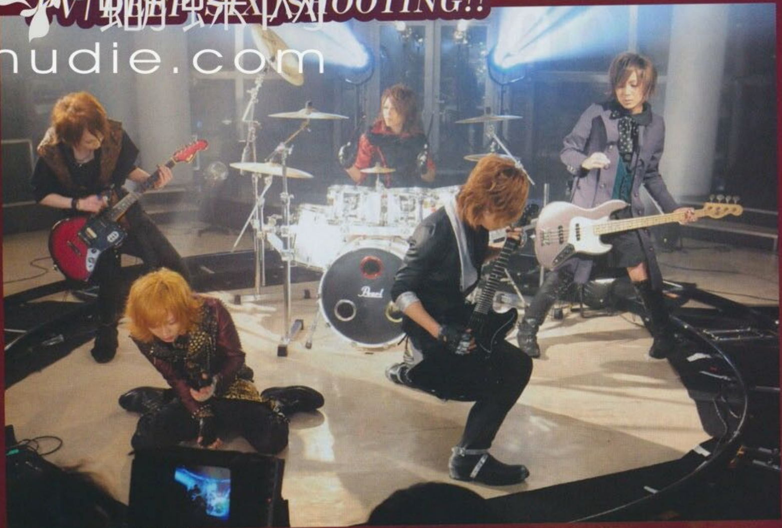
――ちょっと謎めいてますが、それは観てのお楽しみですね。カップリングの「a serial killer」はルイくんの曲で、閉塞感と言うか、あまり居心地のいい感じが漂ってますね。

ルイ：狙いどおりです。気持ち悪い曲にしたかったんです。あんまりそういう曲は作ったことがなかったんで、チャレンジしてみたんですけど、原形を作った時はボツにしようかと思ったぐらいしっくりこなくて。ジンちゃんにアドバイスをもらって、イントロ以外全部作り直して、

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

PV / DEEP SEX / SHOOTING!!



カメラのレールに360°囲まれたセッティング

隙あらば(!?)ジャレ合うメンバー

都内某所に場所を移し、深夜1時過ぎからスタートした撮影。5人や個人での演奏シーンの撮影が繰り返され、光量の強いライトに照らされたメンバーはかなり暑い様子。一度曲を通すたびに、"暑い!"連呼で控室に戻ってくる5人。深夜にもかかわらずハイテンションのまま、撮影が終わったのは早朝5時過ぎ!

持ってってみたら?って言いました。世界観的にもちょっと怪しい雰囲気もあるし、ライヴでのファンの人たちのノリもいろいろ出来そうだし、いいなって思いました。

――そういう世界観を出すように煮詰めていったんですか。

マナブ：気持ち悪さとかを出すのは同期モノなんで、ギターは難しいことをせずにやっていきましたね。

和己：元々、同期がバンバンに入ってたんで、ギターを主張するんじゃなくて、ベースに近いアレンジのギターですね。

――歌詞の内容もその世界観を出す方

鋲：…の歌詞を書いても合わないんで、何か引っかかる歌詞がいいなと思って。曲を何回も聴いてるうちにサビの歌詞とメロディが出てきて、〝シリアルキラー〟ってぴったりかなと。そういう歌詞の主人公になりきって歌いましたね。

――「Mind Candy」はマナブくんの曲です。

マナブ：この曲は弾きたいフレーズを適当に弾いていって、イントロ作って、Aメロ作って、フレーズをどんどんつなぎ合わせて、適当なところから始まった曲ですね。

ジン：マナブらしい曲ですね。ダークさの中にある疾走感、みたいな。彼らしさ

5周年、未来のSCREWへ

和己：マナブっぽいです。若干、少し落ちるフォークボールみたいな。

マナブ：ちゃんとは落ちないんだ（苦笑）。

和己：「a serial killer」がキレのあるスライダーだとするじゃないですか。そしたらこれは、ちょっとだけ落ちるフォークボールみたいな、そんな感じの曲だと思います。違うかな?

ルイ：何か分かる（笑）。

和己：何でフォークに喩えてるのか分からないけど（笑）、普通の変化球じゃなくて、ちょっと違う曲なんですよ。

――鋲くんも、マナブくんらしい曲だと思います?

鋲：マナブって硬派だなぁと思いました。

――そして、通常盤に入るのが「TRANCE」ですね。展開が複雑で、一筋縄ではいかない曲です。

ルイ：ライヴでやることを前提にこの構成にしたんで、音源で聴くとひっちゃかめっちゃかになってると捉えられるかもしれないですけど、ライヴでやったら面白いのかなって。サビはメロディもしっかりあるし、CDで聴いてもらっても面白いなと思います。

マナブ：最初はもうちょっとかわいらしいって言うか、もうちょい軽い感じの曲の気がしたんですけど、それより男らしい感じになって、いい感じの案配になって、やりやすそうな曲だなと思いました。

和己：ベース・ソロ／ギター・ソロ／ギター・ソロ…って続くんで、出来上がってから、どっかでドラム・ソロも入れて、ライヴ・アレンジに出来るし、ライヴでも楽しめる感じになると思いますね。

――でも、CDではドラム・ソロは入ってないんですね。

鋲：これからの（ジンの）態度次第だな。

ジン：（姿勢を正す）

一同：（笑）

――曲の展開の変化に合わせて、歌詞もサビは英語にしたんですか。

鋲：日本語だと、内容的に照れくさい感じだったんです。それに英語のほうが響きがいいし。

――内容的に照れくさいというのは、どうして?

鋲：今までバンドをやってきて、出会った人とかすれ違った人とかいますけど、5周年を目前にして続けられて幸せだなと思うんです。ぶっちゃけファンに向けて書いた詞ですね。みんなありがとうって。

和己：どういたしまして。

一同：（笑）

――発売後、5周年記念のワンマン・ツアーがありますね。もう各地ソールドアウトしているようですが。内容は、5周年らしいものになるんでしょうか。

和己：5周年なんで、祝い的な、めでたい感じなので、懐かしい曲もやっていこうかなと思ってます。

――ファイナルの渋谷O-EASTワンマンへ、意気込みは?

ジン：自分たちも頑張っていかなきゃとも思うし、ファンに対する感謝をツアーで伝えていきたいですね。

ルイ：去年の2月頃は、SCREWに対して、複雑な想いだとか心配とか不安をみなさんが持ってる中で始まったんですけど、それから1年間いろんな人がそれでもついてきてくれて、支えてくれて、その1年分の恩返しをしたいですね。出来ることをやって、次のステップに向けられるツアーにしたいと思います。

鋲：4月23日は、SCREWの未来が決まる日だと思うんで、やれることをやっていこうと思います。悔いを残さないようにやります。勝負の日ですね。

レクレンズ
3日(火) 池袋RUIDO K3 無料ワンマンライブ【テクノレベルズ】
CD『テクノサーカス』無料配布 OPEN 18:00 START 18:30 TICKET FREE (1DRINK¥500)
池袋CYBER
池袋Black Hole
池袋CYBER
池袋Black Hole
5月12日(木) 渋谷STAR LOUNGE
5月30日(月) 渋谷STAR LOUNGE
6月15日(水) 池下UPSET
6月17日(金) 心斎橋SOMA
6月21日(火) 仙台Hook
6月25日(土) 浦和NARCISS
6月26日(日) 池袋Black Hole
1st ミニアルバム
『ルルリニア』
2011年4月11日(月)リリース
¥2,000-(TAX IN) CST-39003 発売元：STIMUSIC
販売元：Castle Records
レクレンズ OFFICIAL SITE
http://rec-lens.com/

蝴蝶网
hudie.com

Somnian★Rabbit

ソムニアンラビット

2011.03.14 [Mon] 1st Major single

『one-Heart』

追加プレス決定!!
初回1000枚が既に予約完売の為!!

全国CDショップにて販売中!! レコチョク、iTunes配信中!!

￥1,575(tax in)/SRST-4511/発売・販売元：STARNITE RECORDS

【CD収録】1.Z-GENESIS/2.PARASITE/3.Dropstar/4.『one-Heart』

Now on Sale

LIVE SCHEDULE!! 3/27(日) 六本木club EDGE!!

little HEARTS. ON LINE STORE !!
little HEARTS. 通信販売受付中★

little HEARTS. の HP からご注文下さい。 http://littlehearts.jp

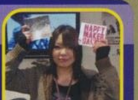
◆掲載の商品は全て通信販売でお買い求め頂けます。
◆インストアイベントの参加チケットや特典もお付け致します。

HE KIDDIE
Nutty Nasty
1.5.25(wed)Release!!

定盤】
VD ¥1,575
y Nasty
ムキャット
Nasty」
C CLIP

【通常盤】
CD ONLY ¥1,260
<CD>
1.Nutty Nasty
2.グリムキャット
3.BRUTUS

教えて!!
ャルちゃん事情
お客様に
ューしちゃいます (^o^)/
るひちゃん



: CD
HAPPY MAKER・LOST ASH : over HORIZON
クした出来事… ウォークマンで何聴いてる!?
ンストアイベント LOST ASH : innerCORE
んおすすめ3バンド
SH・Blu-BiLLioN・我羈道
るひちゃん
ありがとうございました♪
来月号はあなたかもー(｢o｣)

ORE EVENT

18:00	【己龍】 トーク&握手&撮影会	4/12 (火) 18:00	【Moran】 トーク&握手&サイン会
15:00	【お遊戯わが魔々団 × 【PaRADEiS】】 トーク&握手&サイン会	4/14 (木) 16:30	【R 指定】 トーク&握手&6ショット撮影会
18:00	【ケミカルピクチャーズ】 トーク&握手&6ショット撮影会	4/24 (日) 18:00	【Royz】 トーク&握手&6ショット撮影会
13:00	【ダウト】 アコースティックライブ&握手会	4/29 (金) 15:00	【Dacco】 トーク&握手会
15:15	【Administrator】 1時間店員 (サイン)	5/2 (月) 12:30	【SOMATIC GUARDIAN】 1時間店員 (サイン+握手)
17:00	【SCREW】 トーク&握手&サイン会	5/2 (月) 未定	【xTRiPx】 未定
14:00	【ZUCK】 トーク&握手 W購入にて+チェキ撮影会	5/2 (月) 19:00	【Sadie.】 トーク&握手&サイン会
		5/7 (土) 18:00	【ベルベット】 トーク&握手
		5/10 (火) 15:00	【Lycaon】 握手&サイン会

little HEARTS.携帯サイトでもインストアイベント情報やSTAFFブログがご覧頂けます!

アクセス方法■JR仙台駅より徒歩15分■地下鉄広瀬通駅西4出口より徒歩1分

hudie.com

little HEARTS.

ビジュアルミュージック＆ファッション＆コミュニティスペース【リトルハーツ】

http://littlehearts.jp

〒980 8546 宮城県仙台市青葉区一番町3-1
仙台フォーラス7 F
営業時間 OPEN 10:00 / CLOSE 20:30
TEL 022-264-8003 ※年中無休

3/23 Release AYABIE

LIVE DVD『Virgin Snow Color-2nd season-
2011.01.06 Tour Final at 赤坂 BLITZ』¥5,800
コメント DVD

3/30 Release Sadie

イベント
FULL ALBUM『COLD BLOOD』
初回限定盤 ¥3,990（12曲＋LIVE DVD 2曲）
通常盤 ¥3,360（12曲＋unplugged ver. 1曲）
初回限定盤：コメントDVD／通常盤：BSサイズフォト

4/13 Release BugLug

SINGLE『絶交悦楽論』
初回盤 ¥1,890（CD+DVD）　通常盤 ¥1,260（CD ONL
初回盤：コメントDVD／通常盤：アーティストフォト集合
封入特典：初回盤のみアナザージャケット（全4種）/ ランダ

3/23 ADAPTER。

ALBUM『音遊戯。』
限定盤 ¥3,150/ 通常盤 ¥2,730

3/23 Megaromania

オリジナル特典考案中!!
SINGLE『Oath-cross of eternity-』
TYPE-A¥1,365/TYPE-B¥1,365

3/23 お遊戯わが魔々団×【PaRADEiS】

イベント
MINI ALBUM『albare』
A-TYPE¥2,940 ／ B-TYPE¥2,625

3/23 Called≠Pla

SINGLE『アナタン青春わしづかみ★
A-TYPE¥1,575 ／ B-TYPE¥1,575

3/30 ν[NEU]

FULL ALBUM『LiMiT』
通常盤(CD ONLY) 全17曲入 ¥3,150
ボーナストラック：「in my secret…」「エコー」「壊れた夜、並べた嘘」
「PULSE」リミックスバージョンの4曲をプラス

3/30 Dolly

イベント
SINGLE
『ムーンライトディスコ』¥2,415

3/30 xTRiPx

イベント
SINGLE『Disturb[da]borderR』
初回 TYPE-A¥2,100／通常 TYPE-B¥1,575
初回盤TYPE-A:コメントDVD
通常盤TYPE-B:アーティストフォト集合

3/30 凛

オリジナル特典考案中!!
SINGLE
3/30『Silent To My Pain
5/25『Flowers Bloom』
各TYPE-A¥2,100/TYPE-B

4/6 Royz

イベント
オリジナル特典考案中!!
SINGLE『eve:r』
TYPE-A¥1,890/TYPE-B¥1,575

4/6 Dacco

イベント
SINGLE
『Passion』『コイガオカ』各¥1,575

4/6 ZUCK

イベント
SINGLE『WO:LF』
初回限定盤 ¥1,575 ／ 通常盤 ¥1,050

4/13 Arc

各アーティストフォト集合
BEST ALBUM『End at time』¥3,675
BEST DVD『道のカケラ』¥3,360

4/20 boogieman

SINGLE『monopolize』¥1,575

4/20 PERESTROIKA

オリジナル特典考案中!!
MINI ALBUM『PAINZ』
TYPE-A¥3,150/TYPE-B¥2,625

4/20 ベルベット

イベント
オリジナル特典考案中!!
MINI ALBUM『鬼凛』
初回 TYPE-A¥2,625 ／通常 TYPE-B¥2,415

4/20 ViViD

LIVE DVD
『インディーズラスト ViViD ONEMAN LI
「光彩GENESIS」』¥4,515

4/27 Virgil

オリジナル特典考案中!!
SINGLE『Last promise』
初回盤 A¥1,890 ／通常盤 B¥1,575

4/27 SOMATIC GUARDIAN

イベント
MINI ALBUM『宣戦布告』
限定盤 ¥2,940 ／通常盤 ¥2,625

4/29 ミサルカ

SINGLE『-Merrow-』¥1,890

6/15 BLOOD

BLOOD 1st Maxi SINGLE『Bathory』¥
BLOOD

蝴蝶网 hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

ugLug ONEMANSHOW「絶好NO1ZE」

月1日(日) SHIBUYA BOXX

開演 18:00　チケット前売 ¥3,000(ドリンク別)　[チケット一般発売中] 発売プレイガイド：イープラス http://eplus.jp / ローソンチケット 0570-084-003 (Lコード:76621)　(問) フリップサイド 03-3466-1100

高田馬場AREA　3月25日(金) 浜松FORCE　3月28日(月) 名古屋ell.FITS ALL　3月31日(木) 福岡DRUM Be-1　4月2日(土) 心斎橋FANJ-twice　4月10日(日) 池袋CYBER　4月18日(月) 高田馬場AREA

OFFICIAL SITE http://buglug.jp/

絶交悦楽論 3rd SINGLE 2011.4.13 RELEASE

【初回盤】RSCD-033/034 (CD+DVD) ¥1,890 (tax in) 収録曲:1.絶交悦楽論 2.MOSHPIT☆LIFE 【DVD】絶交悦楽論 -Music Clip-
【通常盤】RSCD-035 (CD) ¥1,260 (tax in) 収録曲:1.絶交悦楽論 2.マイ・プラネット 3.MOSHPIT☆LIFE

発売元:Resistar Records

『絶交悦楽論』購入者対象インストアイベント

<イベント参加方法>下記店舗にて4月13日発売『絶交悦楽論』(初回盤・通常盤)いずれか1枚をご購入して頂いた方に整理券を差し上げます。さらに初回盤・通常盤W購入で、メンバー全員と5ショットチェキ撮影いたしま

4月17日(日) 自主盤倶楽部
<時間> 15:00 START <内容> トーク&アコースティックライブ
5ショットチェキ撮影会(W購入者対象) (問)03-3371-3851

4月17日(日) ブランドエックス
<時間> 19:00 START <内容> トーク&握手&サイン会(サインは私物1点)
5ショットチェキ撮影会(W購入者対象) (問)03-3980-6780

4月29日(金・祝) ライカエジソン東京店
<時間> 14:00 START <内容> トーク&総勢40人に当たる私物プレゼント抽選会
5ショットチェキ撮影会(W購入者対象) (問)0120-624-999 / 03-3369-31

4月29日(金・祝) Like an Edison.comラフォーレ
<時間> 17:00 START <内容> トーク&コスプレ2ショットチェキ撮影
5ショットチェキ撮影会(W購入者対象) (問)03-3746-6002

先行インストアイベント

名古屋、大阪にて先行インストアイベント開催決定!! ※詳細はオフィシャルサイトをご覧ください

『絶交悦楽論』発売記念スタンプラリー

4月13日(水) 開催決定!! ⇒ 17:15~17:45 ブランドエックス ⇒ 18:30~19:00 Like an Edison.comラフォーレ原宿 ⇒ 19:30~20:00 ライカエジソン東京店 ⇒ 20:00~ 自主盤 部

※詳細はオフィシャルサイトをご覧ください

蝴蝶网
hudie.com

蝴蝶网
hudie.com

NIGHTMARE TOUR 2011

the time rewind to ZERO

4.15(fri)
戸田市文化会館
OPEN 18:00 / START 18:30
info. ディスクガレージ 03-5436-9600

4.20(wed)
大阪国際会議場メインホール
OPEN 17:30 / START 18:30
info. キョードーインフォメーション 06-7732-8888

4.27(wed)
東京エレクトロンホール宮城
OPEN 18:00 / START 18:30
info. キョードー東北 022-217-7788

5.1(sun)
愛知県芸術劇場大ホール
OPEN 16:00 / START 17:00
info. サンデーフォークプロモーション 052-320-9100

5.3(tue)
広島アステールプラザ大ホール
OPEN 16:30 / START 17:00
info. キャンディープロモーション 082-249-8334

5.4(wed)
福岡国際会議場メインホール
OPEN 16:30 / START 17:00
info. キョードー西日本 092-714-0159

5.8(sun) 東京国際フォーラム ホールA

OPEN 16:30 / START 17:30 info. ディスクガレージ 03-5436-9600
【チケット料金】全席指定：¥5,500(tax in) ※3歳以上有料、3歳未満入場不可【一般発売日】2011年3月12日(土)

ナイトメア
移籍第1弾Single

VERMILION.

2011.5.18 [wed]
RELEASE

Nightmare Official website [http://www.nightmare-web.com/]　Nightmare Official mobilesite [http://m.nightmare-web.com/]

avex group

Printed in Japan
雑誌04537-05
特別定価 1,200円
本体1,143円
株式会社 プロスト
凸版印刷株式会社
4910045370517
01143